

科目名	科目担当代表教員	ページ数
総合教養講座	白戸 力弥	4
日本国憲法	奥谷 知冬	13
生涯スポーツⅠ	小川 満	22
生涯スポーツⅠ	小川 満	31
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	40
情報処理	松岡 審爾	49
数理・データサイエンス・AI入門	稲津 正巳	58
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	65
統計の基礎	武田 裕康	72
EnglishⅠ (Speaking & Listening)	Todd Robert Enslen	81
EnglishⅡ (Reading & Writing)	Walzem Allen George	90
ことばと心理(外国語学習法入門)	釣 晴彦	99
English for Study abroad	Walzem Allen George	108
グローバルチャレンジ(海外留学・ボランティア対策)	石丸 卓	117
中国語入門Ⅰ	巫 靚	126
中国語入門Ⅱ	巫 靚	135
中国語入門Ⅱ	巫 靚	144
日本語Ⅰ	阿部 仁美	153
日本語Ⅱ	今井 史子	162
日本語Ⅲ	今井 史子	171
アカデミックジャパニーズⅠ	阿部 仁美	180
アカデミックジャパニーズⅡ	今井 史子	189
アカデミックジャパニーズⅢ	今井 史子	198
総合中国語Ⅰ	巫 靚	207
総合中国語Ⅱ	巫 靚	216
中国語コミュニケーション	楊 志剛	225
中国語リスニング	胡 耀光	234
総合中国語Ⅲ	云 肖梅	243
総合中国語Ⅳ	胡 慧君	252
朝鮮語Ⅰ	崔 鉉鎭	261
朝鮮語Ⅱ	金 京愛	270
フランス語Ⅰ	Nicolas Jegonday	279
フランス語Ⅱ	Nicolas Jegonday	288
ロシア語Ⅰ	鈴木 理奈	297
ロシア語Ⅱ	鈴木 理奈	306
世界と北海道	中山 大将	315
ニセコ国際研修	青 晴海	324
アウトドア・ツーリズム研修	青 晴海	342
北海道の食文化	藤井 駿吾	360

北海道の社会と文化(多文化共生)	松田 剛史		369
地域連携プロジェクト	青 晴海		378
Academic English Writing	Walzem Allen George		387
Academic English Reading	Walzem Allen George		396
Integrated Academic English I	Walzem Allen George		405
Integrated Academic English II	釣 晴彦		414
国際関係論	渡部 淳		423
経済と社会	宮本 融		432
国際教養入門	宮本 融		441
日本政治経済論	宮本 融		450
国内外事情	青 晴海		459
国際的視野から見るスポーツ医学の発展	當瀬 規嗣		466
国際社会と医療	大森 圭		473
開発援助論	石丸 卓		480
国際経済学(開発と経済成長)	中山 大将		489
比較政治学	宮本 融		498
国際社会学	石丸 卓		507
地球環境論	宮本 融		516
国際政治経済学	渡部 淳		525
国際機構と国際法	片岡 徹		534
国際貿易投資論	宮本 融		543
地方自治論	宮本 融		552
メディア社会論	魯 諍		561
国際関係研究	渡部 淳		570
国際地域文化論	渡部 淳		579
東アジア地域論	巫 靚		588
東南アジア地域論	石丸 卓		597
アフリカ地域論	吉田 勉幸		606
ヨーロッパ地域論	渡部 淳		615
北米地域論	Walzem Allen George		624
中国研究	魯 諍		633
アメリカ研究	Walzem Allen George		642
イギリス研究	渡部 淳		651
中南米研究	石丸 卓		660
EU研究	渡部 淳		669
キャリア入門	青 晴海		678
キャリアデザイン	青 晴海		687
経営マネジメント	芝 香		696
マーケティング論	芝 香		705
インターンシップ	青 晴海		714
ファイナンスプランニング	小西 正人		723
公務員講座 I	高橋 保夫		732

公務員講座Ⅱ	高橋 保夫		741
日本語表現技法Ⅰ（プレゼンテーション）	松本 文治		750
世界の言語と日本語	小西 正人		759
日本語表現技法Ⅱ（文章表現）	松本 文治		768
日本語の表記と語彙	小西 正人		777
日本語コミュニケーション技法	小西 正人		786
日本語学	小西 正人		795
日本語と日本文化	岡本 佐智子		804
日本語ビジネスライティング	佐々木 雅哉		813
現代日本語論	岡本 佐智子		822
日本語教育法Ⅰ	岡本 佐智子		831
日本語教育法Ⅱ	伊藤 寛		840
日本語教育演習	阿部 仁美		849
短期語学研修	青 晴海		858
卒業研究プロジェクトⅠ	青 晴海		867
卒業研究プロジェクトⅠ	石丸 卓		881
卒業研究プロジェクトⅠ	渡部 淳		895
卒業研究プロジェクトⅠ	宮本 融		909
卒業研究プロジェクトⅠ	巫 靚		923
卒業研究プロジェクトⅠ	Walzem Allen George		937
卒業研究プロジェクトⅡ	青 晴海		951
卒業研究プロジェクトⅡ	石丸 卓		965
卒業研究プロジェクトⅡ	渡部 淳		979
卒業研究プロジェクトⅡ	宮本 融		993
卒業研究プロジェクトⅡ	巫 靚		1007
卒業研究プロジェクトⅡ	Walzem Allen George		1021

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員		白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記					

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。

国際教養学科のディプロマ・ポリシー (DP) の「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。【思考・判断・表現】」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。【関心・意欲・態度】」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。【思考・判断・表現】」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。【関心・意欲・態度】」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。【関心・意欲・態度】」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。【関心・意欲・態度】」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。【関心・意欲・態度】」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。【関心・意欲・態度】」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。【関心・意欲・態度】」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。【関心・意欲・態度】」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。【思考・判断・表現】」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、WSDBを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、 蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。 (図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を 読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を 深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。 (90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		

第7回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第8回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通して置く。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べて置く。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べて置く。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べて置く。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	学生支援について 教職センターの取り組み	本学の学生支援、教職センター について調べておく。(90分)	本学の学生支援、教職センター について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第11回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほと んどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社 会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから 、恵庭市の概要、特長について 調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市 の未来に貢献する施策を考える 。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師: 青木さやか 氏	ゲスト講師のこれまでの活動、取 り組みについて、インターネット 等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践 できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	主にモスバーガーの経営、商品開発、現場での体験に基づく組織論や人材育成の経験から、「正解を探すより、自分で選んだ道を正解にする力を身につける」方法について紹介する。 ゲスト講師: 田村茂 氏	ゲスト講師のこれまでの活動、取り組みについて、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修① えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修② えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出(50%)および授業参加の積極性(50%)
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年一恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。14回・15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。研修日程は別途、連絡する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	奥谷 知冬						

授業の位置づけ

人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身に付ける科目である。

授業の概要

日本国憲法が定める基本的人権及び統治の仕組みを概説することにより、憲法の意味、基本的人権の内容・重要性、日本の統治の制度を理解する。その上で、日本の法令や判例の学習を通じて、法令・判例へのアクセス及びその読解方法や、法学的見地を踏まえて社会課題に対する批評を行う能力を習得する。

到達目標

- 憲法の意味内容について説明できる。
- 基本的人権の種類及びその重要性について説明できる。
- 日本の統治の仕組みについて説明できる。
- 以上の能力を活用して、とりわけ法的な社会課題を発見、分析、評価した上で、当該社会課題に対する自身の見解を論じることができる。

授業の方法

- パワーポイントによる資料、教科書、その他適宜配布する資料を用いた、講義形式の授業を実施する。
- Googleフォーム等を利用した確認テストを行う。

ICT活用

授業の資料を事前にGoogleクラスルームにアップロードし、予習・復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要、成績評価の方法について説明を行う。 憲法の歴史や意味について解説する。 日本の法令・判例の調べ方を習得する。	授業資料及び配布資料を読む (60分)。	講義内容及び確認テストを復習 した上で、憲法の条文や配布資 料の中に紹介されている判例に アクセスする(120分)。
担当教員			
第2回	人権享有主体に係る諸論点、とりわけ子どもの人権及び外 国人の人権に係る判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme1 及びTheme2を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習 した上で、講義内容に関連する と思われるニュースを調べ、問 題の所在及びその可否を検討 する(120分)。
担当教員			
第3回	日本国憲法が明示的に規定していない新しい人権、とりわ けプライバシー権及び自己決定権に係る条文及び判例に ついて解説する。	授業資料及び教科書の Theme3、Theme4を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習 した上で、講義内容に関連する と思われるニュースを調べ、問 題の所在及びその可否を検討 する(120分)。
担当教員			

第4回	法の下の平等に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme5、Theme6を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第5回	信教の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme7を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第6回	表現の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme8、Theme9を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第7回	営業の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme10を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第8回	生存権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme11を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第9回	教育権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme12を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第10回	適正手続の保障、とりわけ行政手続・刑事手続・死刑制度に係る条文及び判例について解説する。	授業資料、配布資料(参考文献の70-73ページをコピーしたもの)、教科書のTheme13を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第11回	天皇及び平和主義に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme14、Theme15を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第12回	国会に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme16、Theme17を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第13回	内閣及び憲法改正に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme18、Theme22を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第14回	裁判所に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme19、Theme20を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第15回	地方自治に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme21を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト(75%)及び授業参加度(25%)
その他	0	
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第7版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行著／有斐閣		
参考文献		

図録日本国憲法〔第3版〕／斎藤一久、堀口吾郎編／弘文堂
その他、講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

資料はGoogleクラスルームにアップロードするため、各自用意し持参すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I (1組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小川 満						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	レクリエーション種目(1) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しむ	レクリエーション種目にはどのようなものがあるか調べる(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	レクリエーション種目(2) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しみ理解する	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目に変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		生涯スポーツ I (2組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小川 満						

授業の位置づけ

様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。

授業の概要

体育としてのスポーツ、楽しみ実践するスポーツ、レクリエーションとスポーツ、競技としてのスポーツ等々について概念を明確にする。また、健康的で楽しい生活を送るためのスポーツ活動の意義を理解し、具体的な実技を通して、個々の身体的・精神的な健康レベルを向上させながら、生涯学習とは何か、生涯学習に果たすスポーツの役割について考察し、生涯にわたってスポーツを継続していくための基礎知識を習得する。

到達目標

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	レクリエーション種目(1) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しむ	レクリエーション種目にはどのようなものがあるか調べる(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	レクリエーション種目(2) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しみ理解する	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目に変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる(20分)	基本技術・ルールの確認(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	モルックとはどのような種目なのかを調べる(20分)	基本技術・ルールの確認(25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術を確認する(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性について考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		情報処理				ナンバリング	1158
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目である。また、国際教養学科と国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」と特に関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係があり、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる」とも関係がある科目である。数理・データサイエンス・AI実践につながる科目である。

授業の概要

本科目では、コンピュータを用いて文書作成、表計算、プレゼンテーションを行うために必要な基本操作を学ぶ。また、コンピュータのセキュリティ対策方法、情報モラルにもとづくインターネットの利用について習得する。コンピュータを使うためのスキルを身に付けるだけでなく、コンピュータに関する諸問題についても学ぶ。

到達目標

1. ワードソフトWordを用いて表、図なども挿入されたドキュメント作成を行なうことにより情報のアウトプットができる。
2. 表計算ソフトExcelを用いて基本的な計算や関数の使用、グラフ作成、データベースの操作を行うことができる。
3. ウェブサイトからデータを取得し、Excelを用いて情報の加工や分析ができる。
4. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。
5. コンピュータ等のセキュリティおよび情報モラルを念頭において情報を運用することができる。

授業の方法

Wordを用いたレポート等作成、Powerpointを用いたプレゼンテーション技法、Excelを用いた分析については各人がパソコンを操作して習得する。情報の探索、データの分析法、セキュリティと情報モラルに関する内容はパワーポイントを用いて講義形式で行う。これらのOfficeソフトの操作を理解するために、教科書会社が提供するeラーニングシステム(NESS)により各自が主体的に確認テスト問題を行う(第3回～第7回、第9回、第10回、第13回、第14回)。

ICT活用

教科書に付属してアカウントを得られるeラーニングシステム(NESS)を用いて練習問題を提供し、授業時間外における自主学習を促す。また、教科書会社が提供するOffice2021のリファレンス動画サイトを用いて基本的な操作の自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

eラーニングシステム(NESS)により確認テストの結果がすぐに表示されフィードバックされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として、起動、画面構成、リボンを概観し、文書の新規作成や保存方法を習得する(§2-STEP1のLesson1)。また、文字の変換や記号、特殊文字、読みが不明の漢字の入力方法を再確認する(§2-STEP1のLesson2)。 【セキュリティと情報モラル】コンピュータウィルス感染予防技術についての知識を得る(§5-STEP1のLesson1)。コンピュータウィルス感染予防の心構えとスパイウェアについての知識を得る(§5-STEP1のLesson2)。	シラバスを読み、教科書のp30～p47, p250～p257を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。また、タッチタイピングの練習を行う。セキュリティと情報モラルの内容を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》Wordの基本的操作として文字の修正・範囲指定・変換、文字の変更、文字の移動・複写方法を習得する(§2-STEP1のLesson3)【セキュリティと情報モラル】不正アクセスを防ぐ技術としてのcookie, パスワードの管理を習得する。また、不正アクセス法について学ぶ。ソーシャルエンジニアリングとフィッシング詐欺対策の知識を得る(§5-STEP1のLesson3)。	教科書のp47下～p59,p258～p267を読んでおく。不正アクセス禁止法について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。セキュリティと情報モラルの内容を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として文字書式の設定方法、インデント、タブ設定、均等割り付けを習得する(§2-STEP2のLesson1)【セキュリティと情報モラル】著作権に違反しないための注意点(§5-STEP2のLesson2)および個人情報の漏洩対策を学ぶ(§5-STEP2のLesson3)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp60～p68上半分, p271～p275を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。セキュリティと情報モラルの内容を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、表の作成方法、ワードアートや画像の挿入方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp67下半分～p76を読 んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。 NESSの § 2Word-STEP2-確認 テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第5回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》チラシ作成を例として、図形の挿入、ページ罫線の作成、印刷の方法を習得する(§ 2-STEP2のLesson1)。レポート作成に必要なページ設定、表紙の作成法、ページ番号、Excelグラフ、図表番号の挿入について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp77～p90を読んでおく。 (90分)	本日習った操作を復習しておく。 教科書のp80練習7を行 う。NESSの § 2Word-STEP2-確 認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第6回	【情報のアウトプット・レポート等作成技術】《Word》レポート作成に必要な、脚注の挿入、見出し作成、文章校正機能について習得する(§ 2-STEP2のLesson2)。 【情報の分析評価】《Excel》表計算ソフトの概略を理解しExcelのファイル操作を習得する(§ 3-STEP1のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp91～p97, p100～ p106を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。 教科書のp98練習8を行 う。NESSの § 2Word-STEP2-確 認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析評価】《Excel》データの表示設定(文字・表示形式、罫線の設定、行の高さ・列幅の変更)を習得する(§ 3-STEP2のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp107～p121を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp122練習9を行う。NESSの§ 2Word-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析評価】《Excel》印刷手法(改ページプレビュー、基本的な印刷、印刷イメージの確認、印刷タイトル)を習得する(§ 3-STEP2のLesson2)。数式の入力方法・コピー、合計の計算、相対参照と絶対参照の使い分けを習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。§ 2Word-Section2の試験(20問)を実施する。	教科書のp123～p141を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp137練習12を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第9回	【情報の分析評価】《Excel》よく使用する関数の利用法、数学／三角関数を習得する。また、条件に応じて処理を変えるIF関数、ネストを習得する(§ 3-STEP2のLesson3)。あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する(教科書にはない)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp139～p152を読んでおく。VLOOKUP関数について調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp152練習16を行う。NESSの§ 3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			

第10回	【情報の分析評価】《Excel》グラフの要素、縦棒グラフおよび円グラフの作成法、レーダーチャートの作成、グラフの編集、複合グラフの作成、グラフの印刷方法を習得する（§3-STEP3のLesson1,2）。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp153～p176を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp163練習17, p169練習18, p173練習20を行う。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第11回	【データの分析演習】《Excel》ウェブサイトからデータを取得する方法を学ぶ。また、そこで得られたデータを加工しデータを分析する方法を学ぶ。(教科書にはない)。 【データベース】《Excel》データベース機能を理解し、基本的な操作である並べ替え、オートフィルターによる抽出と並べ替えを修得する。データベース機能における数値フィルター、テキストフィルター、トップテン機能を修得する。(教科書にはない)。	データベースについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの§3Excel-STEP3-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第12回	【ピボットテーブル】《Excel》データベースから集計表を作成できるピボットテーブルを修得する。§3 Excel-Section3(STEP2,STEP3合同20問)の試験を実施する。	ピボットテーブルについて調べておく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》プレゼンテーションの基本とPowerPointの画面構成(§ 4-STEP1)、スライドの作成、コピーや移動方法、編集方法を習得する。また、ワードアートの作成法、図解を用いた説明に適したSmartArtの作成法、画像の挿入方法を習得する(§ 4-STEP2のLesson1)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp178, p181, p186～p210を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第14回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》Excelの表やグラフを挿入し編集する方法を習得する。図形の作成方法を習得する。(§ 4-STEP2のLesson1)。スライドショーにおける画面切り替え効果、文字に対するアニメーション効果の設定を習得する。(§ 4-STEP2のLesson2) SmartArtと図形に対するアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作を習得する(§ 4-STEP2のLesson2)。本日習ったSTEPの確認テスト問題を解く。	教科書のp211～p234を読んでおく。(90分)	本日習った操作を復習しておく。教科書のp220練習22, p234練習23を行う。NESSの § 4Powerpoint-STEP2-確認テストの問題を解く。(90分)
担当教員			
第15回	【情報のアウトプット・プレゼンテーション技法】《PowerPoint》発表の準備に関する機能として、ノートの入力、スライド印刷、リハーサル機能の操作方法を習得する(§ 4-STEP3のLesson1)。発表時の服装、態度、話し方について学ぶ(§ 4-STEP3のLesson2)。 § 4 PowerPiont-STEP2の試験(10問)を実施する。	教科書のp235～p248を読んでおく。(90分)	これまでの操作を復習し教科書のp182～p185を読んでおく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	87	授業参加度(授業内で作成したファイルの提出):全15回分で55点(回数に応じて比例配分) 授業内で実施する試験3回:約32点(=225÷7点)
その他	13	セキュリティと情報モラルに関する内容の宿題(第1回目から第3回目)約13点(=90÷7点)
教科書		
イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラルMicrosoft365・Office2021対応／ノア出版		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

教科書は必ず北海道文教大学のキャンパスショップで購入してください(キャンパスショップのネット販売もしくは学内の売場)。やむを得ずネット通販で購入の場合は必ず新品を購入してください。メルカリ等中古品の購入および未購入の場合は試験サイトへのアクセス権を発行できず試験を受験できないため単位は取得できません。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	稲津 正巳						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」、国際教養学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と特に関係がある科目であり、国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。また、看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある。理学療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と特に関係があり、作業療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。							
到達目標							

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。
 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI ((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【データ分析のプロセスとデータ収集】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの可視化・基本統計量】データが得られたら、まず行うべきデータの可視化、基本統計量(代表値、散布度)の確認について概説する。【2つの変数の間の関係】2つの量的変数の間の関係を可視化する散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。また、2つの質的変数の間の関係の把握するクロス集計について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。 【AIの手法1: 教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。また、機械学習の分類性能の評価指標である正答率、適合率、偽陽性率、真陽性率、ROC曲線、AUCについて理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3:教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4:ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。 【過学習】訓練データに対して適合しているが、検証データに対しては適合できていない状態である過学習について理解する。	教師なし機械学習のクラスタリング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を損なう原因となるバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	55	授業参加度:全8回分で55点(回数に応じて比例配分)
その他	45	宿題:全8回分で45点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						

授業の位置づけ

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」、国際教養学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と特に関係がある科目であり、国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。また、看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある。理学療法専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と特に関係があり、作業療法専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI入門」からつながる科目である。

授業の概要

表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。

到達目標

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】二つの質的変数の間の関係を調べるクロス集計表をピボットテーブルを用いて作成する方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Pythonを用いたデータの可視化】Pythonを用いてパソコン上のデータファイルを読み込み、代表値の計算、データの分布やばらつき等のデータの可視化を行うプログラムを生成AIを用いて作成する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。生成AIを用いて機械学習としての重回帰を実行するPythonプログラム作成を体験する。Pythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。アソシエーション分析を体験する。k-means法によるクラスタリングを実データを用いて実行し、その解釈について学習する。	主成分分析、アソシエーション分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【ニューラルネットワークによる分類】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。 【Pythonによるニューラルネットワークの実装】Pythonを用いたニューラルネットワークによる分類を実行プログラムを用いてデータを分析する方法を習得する。	ニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	授業参加度:全8回分で55点(回数に応じて比例配分) 授業内の提出物:全8回分で15点(回数に応じて比例配分)
その他	30	宿題:全8回分で30点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
AI/テラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室のパソコンでGoogle Classroomのログインができるように本学のGoogleのID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		全学共通科目 基礎科目					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						

授業の位置づけ

教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。

授業の概要

主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。

到達目標

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	配布資料及び教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	配布資料及び教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	配布資料及び教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	配布資料、教科書1のp74～p76、p167～p170 及び教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	配布資料、教科書1のp192～p206 及び教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	配布資料、教科書1のp207～p213 及び教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	配布資料を読んでおくこと。また、教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	配布資料、教科書1のp218～p226 及び教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	配布資料、教科書1のp34～p40、p172～p184 及び教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	配布資料及び教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	配布資料及び教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度チェック問題の提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English I (Speaking & Listening)				ナンバリング	1211
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

本講義はディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連があり、1年次の「ことばと心理」と連携している科目である。

授業の概要

この授業は、日常の基本的な場面における英語での口頭による基礎的なコミュニケーション能力の育成を目的とする。授業では、日常場面に即したさまざまなトピックのコミュニケーション活動を提供し、教員と学生の間だけではなく学生同士でのインタラクションを通して、自信をもって英語でのやり取りができるようになることを目標とする。

到達目標

Speaking and listening are important skills in learning English as a second language. Students will develop speaking and listening ability which will prepare them for courses like Basic Oral Communication, English for Study Abroad and English for Tourism Hospitality. Through this course, the students will be able to take part in English conversations and discussions with both native and non-native speakers of English. Extensive speaking training will enhance speaking, listening and vocabulary. They will gain confidence in their speaking ability.

授業の方法

There will be activities in class for students to use vocabulary, expressions, grammar and pronunciation from the lessons. It will enhance listening and speaking skills. This will be an active learning class.

ICT活用

This course comes with resources on the English Portal and the Practice English App. Students must access both to extend their learning.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Teacher will give feedback by commenting on common errors related to vocabulary, pronunciation, grammar, conversation and listening.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduction to the course. Activity to get to know each other.	Familiarize yourself with the textbook. Read page iv to ix. (90 minutes)	Review the pages before Unit 1 (90 minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1: Connections Talk about people you know Ask and answer questions about people in your life	Read Unit 1 section 1.1 and 1.2, and prepare to introduce people you know. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第3回	Unit 1, Connections Talk about things you have in your bag Say “hello” and start a conversation	Read Unit 1 section 1.3 and 1.4, and prepare to talk about things you have in your bag and starting a conversation. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第4回	Unit 1 Quiz; Begin Unit 2: Work and Study Talk about your busy life Talk about what you do everyday	Review the material from Unit 1 Read Unit 2 Section 2.1 and 2.2, and prepare to describe your workspace. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第5回	Unit 2, Work and Study Talk about workspaces Talk on the phone/online	Read Unit 2 Section 2.3 and 2.4, and prepare to describe your work and study. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第6回	Unit 2 Quiz; Begin Unit 3 Let’s move Talk about what you are doing at the moment Talk about sports and exercise	Read Unit 3 Sections 3.1 and 3.2, and prepare to talk about an event. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第7回	Unit 3 Let's move Ask for information Write short messages to a company	Read Unit 3 Sections 3.3 and 3.4, and prepare to ask for information from someone. Go over the vocabulary. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			
第8回	Midterm Test – Units 1, 2 and 3 Have conversations on topic assigned by the teacher	Review materials from Units 1, 2 and 3 in preparation for the test. (90 minutes)	Review problem areas from the test by looking back at sections from the book. (90 minutes)
担当教員			
第9回	Unit 4 Good Times Talk about celebrations in your country Arrange to meet after class	Read Unit 4 Section 4.1 and 4.2 and prepare to talk about your plans and giving and receiving gifts. (90 minutes)	Review "Vocabulary" and "Conversation." (90 minutes)
担当教員			

第10回	Unit 4, Good Times Make and respond to invitations Write an online event announcement and present to class	Read Unit 4 Section 4.3 and 4.4 and prepare to talk about inviting someone to an event and choosing gifts. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第11回	Unit 4 Quiz; Begin Unit 5 Firsts and Lasts Talk about a special picture of you as a child Talk about a special day in your life	Read Unit 5 Section 5.1 and 5.2, Prepare to the past. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第12回	Unit 5 Firsts and lasts Ask and answer questions about last weekend Respond to good and bad news	Read Unit 5 Section 5.3 and 5.4, Prepare to respond to news. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			

第13回	Unit 5 Quiz, Begin Unit 6 Buy now, Pay later Talk about where you shop Plan a shopping trip	Read Unit 6 Section 6.1 and 6.2, Prepare to talk about daily activities. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第14回	Unit 6, Buy now, Pay later Talk about shopping habits Explain what you want	Read Unit 6 Sections 6.3 and 6.4 , Prepare to talk about your weekend and past vacation. Review the previous chapters in preparation for the test. (90 minutes)	Review “Vocabulary” and “Conversation.” (90 minutes)
担当教員			
第15回	Taking the final test and reviewing the answers from the test.	Check your answers from the quiz by reviewing each section in the textbook. (90 minutes)	After Class: Students should do a self-evaluation of how well they have learned the material covered in class. (90minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	There will be no end of term exam.
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	30% Assignments (課題); 30% Quizzes (小テスト), 20%; Tests (テスト), 20% Participation in Class Discussions
その他	0	該当なし
教科書		
Evolve 2a / 2019 / Lindsay Clandfield, Ben Goldstein, Ceri Jones, and Philip Kerr / Cambridge University Press		
参考文献		

None

履修条件・留意事項等

This class will be conducted entirely in English.

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English II (Reading & Writing)				ナンバリング	1212
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本講義はディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連があり、1年次の「ことばと心理」と連携している科目である。

授業の概要

この授業は、基礎的な英文テキストにおける読解能力の育成、および英文ライティングの基礎の習得を目的とする。読解においては、さまざまなジャンルの英文テキストを通して構文把握能力と基本的な読解方略の習得を目指す。そしてライティングにおいては、自身が意図した意味の文の生成をすること、そして文と文のつながり(結束性)を意識して複数の文をつなげ、まとめ(首尾一貫性)のある文章を作ることができ、最終的にパラグラフライティングの基礎を習得することを目指す。

到達目標

The aim of this course is to improve students' reading comprehension skills in basic English texts and to acquire the basics of English writing in an English-only class environment. In addition, students will improve their critical thinking and editing skills.

授業の方法

Text analysis, vocabulary building, group discussions, sentence writing activities, and peer editing will be the main components of this course

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

There will be regular oral feedback during class time. In addition, answers to vocabulary tests will be given after the tests have been completed and individual and class feedback will be provided on the midterm writing assignment.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Explanation of the syllabus and introduction to the course.	Read the syllabus and notedown any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Discuss the themes of population and cell phone usage. Focus on the “A Day on Planet Earth” reading and completing the writing assignment associated with the reading.	Read pages 2 to 7 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第3回	Practice the skimming for gist skill and then complete activities to prepare for the “A Day in a Life” reading. Begin practicing your writing skills by producing sentences using the simple present tense.	Read pages 8 to 15 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第4回	Explore the writing process by thinking about brainstorming, planning, drafting, and revising. Consolidate these skills with writing tasks linked to drafting and revising.	Read pages 15 to 20 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第5回	Discuss the theme of global literacy and focus on key vocabulary related to this theme. Read through and test your understanding of the "The World's Oldest First Grader" reading and practice making inferences from the content.	Read pages 21 to 27 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第6回	Build vocabulary and practice the reading skill of understanding main ideas, and then apply that skill to the "Global Education" reading along with the skills of understanding the gist and inferring.	Read pages 28 to 34 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第7回	Continue developing the ability to go through the writing process of brainstorming, planning, drafting, and revising by focusing on a more challenging, technical topic.	Read pages 35 to 40 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第8回	Review of the first half of the course, midterm test, and midterm writing assignment.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course.90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and the gaps in your knowledge, and work on addressing them.
担当教員			
第9回	Discuss the theme of family history and study the related key vocabulary. Go through the “The Story of Us” and “From Africa to Astoria” readings and test your understanding and of the texts through comprehension and critical thinking writing activities.	Read pages 41 to 47 in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第10回	Practice looking up difficult words and paying attention to context to find the right meaning. Apply this skill to the reading “Our Family Journey” and discuss in your groups your thoughts about the text.	Read pages 48 and 54 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第11回	Continue to develop key writing skills by focusing on how to write factual and speculative statements related to the theme of family members. Practice using peer evaluation to further revise and edit your work.	Read pages 55 and 60 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第12回	Explore the theme of recycling and making money from stuff people throw away. Go through the reading “Garbage Island” and try to come up with solutions for some of the problems raised in the text. In addition, practice finding supporting ideas in the reading.	Read pages 62 and 69 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			

第13回	Study the “Art of Recycling” reading and test your understanding with activities related to the skills of understanding the gist, scanning for key details, and identifying supporting ideas. Practice writing with a focus on giving advice and making suggestions.	Read pages 70 and 75 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第14回	Continue the writing practice with a focus on modals like should and could and the skill of using details to clarify ideas. Go through the “Toaster Project” reading and test your understanding by practicing the skill of scanning and identifying key details.	Read pages 76 and 80 and pages 84 to 87 in the textbook and check any words you don’t understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
第15回	Review of the course, final test, and final writing assignment.	Prepare by studying the vocabulary and writing skills from the first half of the course.90分	Review lesson, readings, and vocabulary 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm and final exams 40 Attendance and participation 30 writing assignments and other classwork 30
その他	0	
教科書		
Pathways 1A, Reading, Writing, and Critical Thinking by Mari Vargo and Laurie Blass. Publisher: National Geographic Learning. 2025		
参考文献		

It may be useful to have a dictionary.

履修条件・留意事項等

Please bring textbook, paper, writing utensil, and dictionary to every class.

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ことばと心理(外国語学習法入門)				ナンバリング	1200
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						

授業の位置づけ

この講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」ことと特に関連している科目である。また、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」こととも関係がある。理論に基づいた外国語学習法を身につけることで、大学での外国語学習計画を設定することを目的とした科目で、英語の専門科目や中国語科目、その他の外国語科目の基礎となる科目である。

授業の概要

この授業は、外国語学習を本格的に始めるにあたり、認知心理学の視点から、効果的な外国語学習法を第二言語習得論の知見を通して学ぶことを目的とする。学生たちは高校までの英語学習を振り返り、本講義で学んだことを通して、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能についてどのように学習に取り組んでいくかを考え、大学での外国語学習の目標を設定することを最終目標とする。

到達目標

・第二言語習得論の知見をもとに、語彙学習や文法、そしてリスニング、リーディング、ライティングそれぞれの技能の効果的な学習法を考えることができる。
 ・講義を通して学習した内容をもとに、大学での外国語学習計画を設定することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用してアクティブラーニング形式で進める。これまでの英語学習の方法を振り返り、自分の不十分であった部分を考える。その上で理論に基づいた外国語学習方法を学んでいき、合計12回の授業後のレポートを通して、理解を深める。そして、最後にまとめとして、4年間の外国語学習計画を立てて、それについてのプレゼンテーションを行う。

ICT活用

WebアプリのPear Deckを用いて意見を出してもらいながら授業を進めていく。

実務経験のある教員の教育内容

小学校・中学校・高等学校・大学と40年以上現場で様々な実践教育を行ってきたことを取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、課題の形式に応じたフィードバックを講義やGoogle classroom等を通じて行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	”オリエンテーション ・高校までの英語学習を評価し、改善が必要な点を考える。”	シラバスを読み、教科書を準備する。(90分)	講義の復習をし、次回の授業の準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	”「第二言語習得」から英語の学び方を考える。 ・世間一般で言われている英語(外国語)学習についての通説について、「第二言語習得理論」の観点から正しいか考える。”	教科書の第1章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第3回	”「第二言語」として目指す英語力とは？ ・英語が世界の共通語として地位を確立している時代に、どのように英語に向き合っていけばいいのか考える。”	教科書の第2章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	“英語を学ぶモチベーションのメカニズム ・英語を学ぶモチベーションはどのように生まれ、どうすれば長期間に渡って維持できるのか考える。”	教科書の第3章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第5回	“英語学習のプリンシプル ・全ての英語(外国語)の学びの基盤となる「6つのプリンシプル(原則)」について学ぶ。”	教科書の第4章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第6回	“効果的なボキャブラリーの学び方について考える。 ・覚えるべき語彙の目安や効果的な語彙の学習方法を学ぶ。”	教科書の第5章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	”効果的な文法の学び方について考える。 ・なぜ英文法を学ぶ必要があるのか、まだどのように学習すれば使える英文法を身につけることができるのかを学ぶ。”	教科書の第6章を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	”効果的なリスニングの学び方について考える。 ・インプットが頭の中でどのように処理されるか学ぶ。 ・リスニングの効果的な学習方法を学ぶ。”	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第9回	”効果的なリーディングの学び方について考える。 ・学習者のリーディングのプロセスについて学び、効果的な学習方法を考える。”	教科書の第7章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第10回	”効果的なスピーキングの学び方について考える。 ・スピーキングがなぜ困難なのか考え、効果的な学習方法について学ぶ。”	教科書の第8章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	”効果的なライティングの学び方について考える。 ・ライティング力の重要性について学ぶ。 ・効果的なライティングの学習方法について学ぶ。”	教科書の第9章の該当箇所を読み、事前に内容を把握しておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	”効果的な海外留学について考える。 ・英語(外国語)の4技能の能力が伸び、かつ学習者の満足・充実度が高くなる留学はどのようなものか学ぶ。”	事前にどのような留学形態があるか調べ、留学をすることでどのような効果があるかを考えてくる。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第13回	”スマホアプリやオンライン教材を用いた効果的な外国語学習について考える。 ・外国語学習に用いることができる、スマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるが学ぶ。 ・アプリやオンライン教材をどのように用いると効果的かを考える。”	外国語学習に用いることができるスマホアプリやオンライン教材にはどのようなものがあるか事前に調べておく。(90分)	講義内容の復習を行い、小レポート課題に取り組む。また、次の授業でのプレゼンテーションの準備を行う。(90分)
担当教員			
第14回	”自分の大学での外国語学習計画についてのプレゼンテーションを行う。 ・1週目から13週目までの学習を基に今後の大学で外国語をどのように学ぶのかについてのプレゼンテーションを行う。”	自分のプレゼンテーションのスライドや発表原稿を準備し、確認を行う。(90分)	他の学生の発表と自分の計画を照らし合わせ、足りない部分をまとめ、自分の計画の見直しを行う。(90分)
担当教員			
第15回	”講義の振り返り ・1週目から14週目の内容を振り返る。”	これまでの講義内容を振り返る。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	”授業後の小レポート課題 60% (5×12) プレゼンテーション 40%”
その他	0	なし
教科書		
「英語の学び方」入門 新多丁著 研究社, 2019		
参考文献		

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

講義には積極的に参加すること。また、課題の提出期限は厳守すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		English for Study Abroad				ナンバリング	1214
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						
授業の位置づけ							
本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」ことと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことと特に関連する科目である。また「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」こととも関連がある。1年次前期科目「グローバルチャレンジ」と連携している。							
授業の概要							
この授業は、語学研修の参加に必要な英語のスキルと同時に空港での手続や現地での生活といったプログラムの参加に必要な関連知識を身に付けることを目的とする。授業では、出発前から帰国までの場面別に遭遇する出来事に関連するトピックでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4技能のうち、複数の技能を統合した言語活動を通して、どの技能もバランスよく習得し、語学研修に必要な英語能力を身に付けることを目標とする。							
到達目標							

To prepare for various situations in language training, students will be able to hone the four skills of speaking, listening, reading, and writing in a well-balanced manner to deal with events in language training.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers to the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments, as applicable.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this lesson, we will discuss the class procedures, assignments and assessments.	Check the LMS, read the syllabus and prepare questions. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this lesson, we will learn how to describe your university major, talk about your club activities as well as express what you like to do in your free-time.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this lesson, we will learn how to express and understand geographical location, talk about climate as well as explain your travel schedule.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, we will learn how to talk about travel experience, understand and fill out arrival cards as well as how to understand instructions and advice.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, we will learn how to express and understand the location of things, discuss house rules as well as understand how to use your room.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, we will learn how to explain and understand explanations, using "if" sentences to talk about your schedule, as well as how to ask about meaning.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this lesson, we will learn how to talk about self study activities, discuss directions and express location.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this lesson, we will learn how to discuss what you want to do, express basic necessities as well as how to express and understand expressions of obligation.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, we will learn how to make requests, ask permissions to do things as well as how to offer help in the home.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, we will learn how to describe food and drink, ask for and offer food as well as how to give your impression of food.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, we will learn how to shop for clothes, compare shopping items as well as talk about size of items you want to buy.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, we will learn how to talk about an incident, including how to provide details about the incident as well as describe lost property.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, we will learn how to talk about your hometown, explain what you can as well as talk about places of interest located there.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this lesson, we will learn how to understand, explain and react to the content of notices and messages.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
第15回	Review and In-class Test During this lesson, we will review the learning in this class and take the in-class test.	Check the LMS, read the textbook and do the exercises. (90 minutes)	Review the class discussion and the textbook, reflect on one's performance. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes: 50 In-class test: 50
その他	0	Not applicable.
教科書		
READY FOR TAKEOFF! English for Study Abroad, Alan Jackson & Hiroko Uchida, Kinseido		
参考文献		

Will be handed out in class

履修条件・留意事項等

Not applicable

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		グローバルチャレンジ(海外留学・ボランティア対策)				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

本授業は、異文化理解を深めるとともに、グローバル時代を生きるためのモチベーションやチャレンジ精神を高め、海外留学、海外インターン、海外ボランティアなど海外体験の多様な選択枝の中で活躍する学生の増加をねらうものである。ディプロマ・ポリシーとの関係では、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」に最も深く関連し、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し、分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」にも繋がるものである。

授業の概要

本講義は3部構成となっている。第一部は異文化理解の解像度を上げる講義、第二部は21世紀型のグローバル化の実情について、第三部はチャレンジ計画の作成、をテーマとすることで、学生自身のグローバル・チャレンジに向けた意欲を高める。

到達目標

- ・異文化コミュニケーターに近づくことができる。
- ・世界や地域の問題に関心を高め、自分なりの役割や目標を発見して、チャレンジするマインドが形成できる。
- ・「グローバルチャレンジ計画」に自分の考えをまとめることで、将来の進路に対する解像度を上げることができる。

授業の方法

- ・PowerPointを使用して講義を行う。講義内容の理解を促進するための動画も多く紹介する。
- ・Google Formを使用した理解度・関心度アンケートを随時実施し、結果をフィードバックする。
- ・受講生には、講義テーマについて事前に調べ、積極的にディスカッションに参加する姿勢が求められる。

ICT活用

- ・Google Classroom を使用し、講義資料および関連情報の共有、課題の指示・フィードバックを行うことで、自主学習を支援する。
- ・Google Formのアンケート機能を用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、海外での業務経験、異文化体験も踏まえて講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google Formを活用したアンケート結果については、講義の中でグラフ化するなどして解説する。
- ・課題については、その性質に応じて、講義の中で傾向を紹介する、若しくは、個別にコメントを返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション グローバルチャレンジのすすめ	自身の海外への関心内容について整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第2回	グローバルチャレンジと異文化理解(1) 現代社会と異文化交流について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第3回	グローバルチャレンジと異文化理解(2) 国籍・民族について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第4回	グローバルチャレンジと異文化理解(3) 職業・ジェンダーについて、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第5回	グローバルチャレンジと異文化理解(4) 言語、宗教について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第6回	21世紀のグローバル化(1) 日本企業のグローバル化について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第7回	21世紀のグローバル化(2) 開発途上国の課題について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第8回	21世紀のグローバル化(3) 先進国の課題について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第9回	21世紀のグローバル化(4) 日本の課題について、実例や動画資料をもとに考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第10回	グローバル・チャレンジへの道(1) 海外留学について、チャレンジのひとつの選択肢として考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第11回	グローバル・チャレンジへの道(2) 海外インターン、海外ボランティアについて、チャレンジのひとつの選択肢として考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			
第12回	グローバル・チャレンジへの道(3) 海外就職、海外赴任について、チャレンジのひとつの選択肢として考える	指示された資料を読んで自分の意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への対応(90分)
担当教員			

第13回	グローバル・チャレンジへの道(4) 自分のチャレンジについて解像度を上げる	指示された資料を読んで自分の 意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への 対応(90分)
担当教員			
第14回	グローバル・チャレンジへの道(5) 計画を具体化するための情報をまとめる	指示された資料を読んで自分の 意見を整理する(90分)	授業の振り返り及び次回課題への 対応(90分)
担当教員			
第15回	グローバル・チャレンジへの道(6) 計画の完成	指示された資料を読んで自分の 意見を整理する(90分)	最終レポートの完成(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題提出状況および内容(40%) ・授業への参加度および出席態度(20%) ・最終レポート「グローバル・チャレンジ計画」(40%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

講義の中で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅰ				ナンバリング	1231
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫 靚						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関係がある科目である。教養科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、後期の「中国語入門Ⅱ」の基礎となるとともに、外国語学習法入門科目の「ことばと心理」とも関連する。							
授業の概要							
この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。							
到達目標							

1. 中国語の学習を継続的に進めていくための、基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法ができる。
2. 単語と会話文を正確に発音することができる。
3. 中国語で簡単な自己紹介をすることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物を用いて、多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは6回目の授業から毎回行う。なお、受講者の学習の状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分 (pp.6-10) を予習する(90分)。	オリエンテーションの内容を復習する(90分)。
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。 単母音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。 単母音をマスターした後に、2重母音、3重母音の複母音について訓練する。	学習予定の部分 (pp.12-14) を予習する(90分)。	母音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、ドリルを完成し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。また、中国語の有気音と無気音の違いについては、徹底して発音訓練を行う。	学習予定の部分 (pp.16-18) を予習する(90分)。	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。 子音(声母)の音の違いを耳で聞いて区別できるようになり、実際に発音できるようになる。	学習予定の部分(pp.20-22)を予習する(90分)。	子音と声調を合わせて、正しく発音できるようになったら、挨拶語を読み、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。 S+“是”+O S+“不是”+O	学習予定部分(pp.24-27)を予習する(90分)。	p.29の振り返りシートを完成する。 p.25の本文をよく読み、録音し、次回授業前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。 S(人)+“叫”+フルネーム S(人)+“姓”+苗字	授業の前に学習予定の部分(pp.30-33)を予習する(90分)。	よく復習し、p.35の振り返りシートを完成する。p.31の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分 (pp.36-39) を予習する(90分)。	よく復習し、p.41の振り返りシートを完成する。p.37の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分 (pp.42-45) を予習する(90分)。	よく復習し、p.47の振り返りシートを完成する。p.43の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。“在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。	学習予定の部分 (pp.48-51) を予習する(90分)。	よく復習し、p.53の振り返りシートを完成する。p.49の本文を朗読し、うまく読めるようになってから、録音し、次回の授業の前日までに提出する(90分)。
担当教員			

第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分 (pp.54-57) を 予習する(90分)。	よく復習し、p.59の振り返りシート を完成する。p.55の本文を朗読 し、うまく読めるようになってから 、録音し、次回の授業で提出す る(90分)。
担当教員			
第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分 (pp.60-63) を 予習する (90分)。	よく復習し、p.65の振り返りシート を完成する。p.61の本文を朗読 し、うまく読めるようになってから 、録音し、次回の授業前日まで に提出する(90分)。
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分 (pp.66-69) を 予習する (90分)。	よく復習し、p.71の振り返りシート を完成する。p.67の本文を朗読 し、うまく読めるようになってから 、録音し、次回の授業の前日ま でに提出する(90分)。
担当教員			

第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分(pp.72-75)を 予習する(90分)。	よく復習し、p.77の振り返りシート を完成する。p.73の本文を朗読 し、うまく読めるようになってから 、録音し、次回の授業の前日ま でに提出する(90分)。
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね(AA A“一”A “一下”)	学習予定部分(pp.78-81)を予 習する(90分)。	よく復習し、p.83の振り返りシート を完成する。p.79の本文を朗読 し、うまく読めるようになってから 、録音し、次回の授業の前日ま でに提出する(90分)。
担当教員			
第15回	小テストおよびまとめ。	学習した部分(第1課～14課)を 復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行いません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の完成度及び授業への参加度、授業態度(30%)＋単語テスト(30%)＋小テスト(40%)
その他	0	
教科書		
『いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語——』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社		
参考文献		

『実用現代漢語語法』、劉月華など著、北京、商務印書館。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること。出席と宿題を重視する。無断欠席は必ず減点要素になる

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ《2022年カリ》				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、「中国語入門Ⅰ」とリンクしている。

授業の概要

この授業は、入門レベルの文法、基本会話と表現に関する基礎的事項を総合的に学習することによって、入門レベルの中国語の外観を把握し、特に、文法事項や発音のポイントを把握できるようにする。中国語の発音の学習で重要なことは、発音符号であるピンインの読み方とその表記の方法を理解することであるため、発音表記であるピンインとその表記の関係を理解することに力を入れ、その関係を把握できるようにする。

到達目標

1. 中国語の基礎的な事項であるピンインの読み方や表記の方法ができる。
2. 単語と会話文を正確に発音することができる。
3. 日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う基礎的な表現が運用できる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物など多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは2回目の授業から毎回行う(全13回)。毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、授業の内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。提出された音声宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。また、単語テスト後にも関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、中国語とは？ 予習・復習に何をすべきか、何に力をいれて授業に臨むべきかなどを具体的に指示する。 発音①、四声、声調符号の付け方を中心にマスターする。	学習予定の部分 (pp.6-10) を予習する(90分)。	オリエンテーションの内容を復習すること(90分)。
担当教員			
第2回	発音② 単母音及び複母音を中心にマスターする。	学習予定の部分 (pp.12-14) を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第3回	発音③ 子音(1)を中心にマスターする。	学習予定の部分 (pp.16~18) を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			

第4回	発音④ 子音(2)を中心にマスターする。	学習予定の部分(pp.20～22)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第5回	判断を表す“是”を使った表現をマスターする。S+“是”+O、S+“不是”+O。	学習予定部分(pp.24～27)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			
第6回	自分の名前や同級生の名前を中国語で表現し、相手の名前を尋ねる表現をマスターする。	学習予定の部分(pp.30～33)を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する(90分)。
担当教員			

第7回	動詞を用いた最も基本的な文型と選択疑問文をマスターする。	学習予定の部分 (pp.36～39) を予習する (90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する (90分)。
担当教員			
第8回	I、二つ以上の動詞からなる文——連動文 II、希望や願望を表す助動詞“想”	学習予定の部分 (pp.42～45) を予習する (90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する (90分)。
担当教員			
第9回	“有”を用いた文型をマスターする。“在”と“有”を用いた文型の相違を確認し、マスターする。	学習予定の部分 (pp.48～51) を予習する (90分)。	学習した内容を復習し、本文と練習部分の音声を繰り返し聞き、音読する (90分)。
担当教員			

第10回	I、年月日、曜日の言い方 II、助動詞“得”と“要”	学習予定の部分 (pp.54～57) を 予習する (90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する (90分)。
担当教員			
第11回	形容詞述語文と時刻の言い方をマスターする。	学習予定の部分 (pp.60～63) を 予習する (90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する (90分)。
担当教員			
第12回	中国語のお金の言い方と量詞について学ぶ。	学習予定の部分 (pp.66～69) を 予習する (90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する (90分)。
担当教員			

第13回	I、年齢の言い方と尋ね方 II、前置詞“在”	学習予定の部分(pp.72～75)を 予習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			
第14回	I、文末助詞の“了” II、動詞の重ね(AA A“一”A “一下”)	学習予定部分(pp.78～81)を予 習する(90分)。	学習した内容を復習し、本文と 練習部分の音声を繰り返し聞き 、音読する(90分)。
担当教員			
第15回	小テストおよび授業のまとめ。	学習した部分(第1課～14課)を 復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題など)30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語——』陳淑梅 張国璐著 朝日出版社		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語入門Ⅱ				ナンバリング	1232
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	巫 靚						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際政治や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と関係がある科目である。学部共通科目に位置づけられた入門レベルの外国語科目であり、「中国語入門Ⅰ」とリンクしている。							
授業の概要							
この授業は、「中国語入門Ⅰ」に連動し、引き続き発音の基礎と初歩的文法事項及び表現方法を学び、基礎的な「語法と表現」を使って日常場面でのコミュニケーションができるようにする。同時に発音習得に欠かせない、発音符号とピンインの読み方とその表記、さらに声調を結びつけ、中国語の発音表記について完全にマスターできるようにする。発音を完全にマスターすることで、中国語の基礎を固める。							
到達目標							

1. ピンインの読み方や表記方法を習得し、正確に発音することができる。
2. 基礎的な日常会話が応用できる。
3. 中国や中国文化に関する理解が深まる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4方面を中心とした総合的な語学能力を育成するために、配布印刷物など多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。単語テストは2回目の授業から毎回行う(全13回)。毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、授業の内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。提出された宿題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	数のいい方、形容詞が述語になる文について学習する。	学習予定の部分 (pp.50-51) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、数のいい方、形容詞が述語になる文の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第10課の本文を学習し、お店でものを購入する場合の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.52-55) を予習する(90分)。	第10課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	年月日、曜日のいい方、年齢のいい方について学習する。	学習予定の部分 (pp.56-57) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、年月日、曜日のいい方、年齢のいい方の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第11課の本文を学習し、年齢や誕生日、家族構成に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.58-61) を予習する (90分)。	第11課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第5回	量詞、動詞の重ね型について学習する。	学習予定の部分 (pp.62-63) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、量詞、動詞の重ね型の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第6回	第12課の本文を学習し、レストランで料理の注文に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.64-67) を予習する (90分)。	第12課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			

第7回	時刻のいい方、状態の変化を表す文末の“了”について学習する。	学習予定の部分 (pp.68-69) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、時刻のいい方、状態の変化を表す文末の“了”の使い方をマスターする。練習の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第8回	第13課の本文を学習し、試合のチケットを購入する際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.70-73) を予習する (90分)。	第13課の本文を何度も発音練習し、次の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第9回	時間の長さのいい方、動作行為の完了を表す助詞“了”について学習する。	学習予定の部分 (pp.74-75) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、時間の長さのいい方、動作行為の完了を表す助詞“了”の使い方をマスターする。練習の録音を次の授業までに提出する (90分)。
担当教員			

第10回	第14課の本文を学習し、お店でサービスを受ける際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.76-79) を予習する (90分)。	第14課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			
第11回	動作の対象を表す前置詞“給”、助動詞“可以”、“能”について学習する。	学習予定の部分 (pp.80-81) を予習する (90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、動作の対象を表す前置詞“給”、助動詞“可以”、“能”の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する (90分)。
担当教員			
第12回	第15課の本文を学習し、ホテルに宿泊する際の表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.82-85) を予習する (90分)。	第15課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する (90分)。
担当教員			

第13回	動作行為の進行を表す表現、助動詞“会”について学習する。	学習予定の部分 (pp.86-87) を予習する(90分)。	学習した内容を何度も発音練習し、動作行為の進行を表す表現、助動詞“会”の使い方をマスターする。練習の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員			
第14回	第16課の本文を学習し、電話に関連する表現を練習する。	学習予定の部分 (pp.88-91) を予習する(90分)。	第16課の本文を何度も発音練習し、次回の授業までに本文の録音を提出する。また新出単語を暗記する(90分)。
担当教員			
第15回	学習した内容を復習、小テストを受ける。	学習した内容(第10課～第16課)を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	予習、復習など授業への参加度 30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『改訂版 しやべっていいとも』陳淑梅・劉光赤、朝日出版社、2024年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語 I				ナンバリング	1251
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						
授業の位置づけ							
本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと関連がある。1年次前期科目「日本語Ⅱ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。							
到達目標							

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。

1)大学で講義や口頭発表を聞くための力をつけることができる。

2)まとまった長さの話を聞いて概要をつかみ、メモをとったり要約したりすることができる。

3)論理的な考え方と、それを表現するための日本語を身につけることができる。

4)様々な場面で必要な会話を聞き取り、話すことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。

グループワークやペアワーク活動を取り入れる。

小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

返却時に解説やコメントをつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習② 動詞の活用と文型	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習⑤ 可能表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	情報積み上げの聞き取り(1) みんなでたこ焼き	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	情報積み上げの聞き取り(2)だぶった！	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	情報積み上げの聞き取り(3)健康にはスミージー	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	予測聞き取り(1)桜の下でランニング	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	予測聞き取り(2)なんかいいことあった？	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	背景情報活用(1)これがおすすめ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	背景情報活用(2)温泉大好き	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	背景情報活用(3)旅行に行ったけど	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	なりきりリスニング(1) はじまりは桜から	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	なりきりリスニング(2) 食べる楽しみ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	なりきりリスニング(3) バイト経験	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	なりきりリスニング(4) 結婚のお祝い	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	なりきりリスニング(5) 買う楽しみ	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅱ				ナンバリング	1252
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						
授業の位置づけ							
本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと関連がある。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅲ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。							
到達目標							

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。

1)大学で講義や口頭発表を聞くための力をつけることができる。

2)まとまった長さの話を聞いて概要をつかみ、メモをとったり要約したりすることができる。

3)論理的な考え方と、それを表現するための日本語を身につけることができる。

4)様々な場面で必要な会話を聞き取り、話すことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

返却時に解説やコメントをつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、レベルチェック	初級文法の基礎知識を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習③ 瞬間動詞・継続動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	文法復習⑥ 授受表現	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	聴解1 富士山	話題について考えておくこと。 (30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	聴解2 信号の話	話題について考えておくこと。 (30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	聴解3 水族館	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	聴解4 札幌のお祭り	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	聴解5 ゴリラの食事	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	聴解6 津軽三味線	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	聴解7 メール書き方	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	聴解8 アクセント	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	聴解9 からくり人形	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	聴解10 四つ葉のクローバー	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	聴解11 長寿の理由	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	聴解12 長崎の猫	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		日本語Ⅲ				ナンバリング	1253
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						
授業の位置づけ							
本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと関連がある。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ」と並行して授業を進め、かつ1年次後期科目「アカデミックジャパニーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の基礎科目となる。							
授業の概要							
この授業は、外国人留学生のための科目で、中級レベルの日本語の4技能を総合的に学ぶ。留学生が学生生活および日本での社会生活を送る上で、日本語で情報が入手でき、対人関係が築けるようにするために、ここでは主に文章表現と口頭表現力を伸ばすためにピアラーニングで教室活動していく。まず受講生がこれまでに学習した初中級レベルの文法項目が定着しているか確認・復習の上、中級から上級レベルへの移行を図る。読み漢字1,500字程度、語彙8,000語程度を習得し、相手や場面に合わせた日本語コミュニケーション能力を修得する。							
到達目標							

日本での学生生活、および社会生活を送る上で、必要な文法・表現・ストラテジーを学び、4つのスキルを身につけることができる。

1)大学で講義や口頭発表を聞くための力をつけることができる。

2)まとまった長さの話を聞いて概要をつかみ、メモをとったり要約したりすることができる。

3)論理的な考え方と、それを表現するための日本語を身につけることができる。

4)様々な場面で必要な会話を聞き取り、話すことができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

返却時に解説やコメントをつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習① 助詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	文法復習④ 他動詞・自動詞	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	自己紹介をしよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	イラストを見て考えよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	文章を読んで図や表にしてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	表・グラフの内容を読み取ってみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	表・グラフ以外のものの内容を読み取ってみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	マッピングをしながら読んでみよう①(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	マッピングをしながら読んでみよう②(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	登場人物になったつもりで読んでみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	どちらがいいか考えながら読んでみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	理由を考えながら読んでみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	意味を考えながら読んでみよう①(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	意味を考えながら読んでみよう②(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	イラストを見て書いてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	このコースで学んだことを復習しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする)。		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のときにプリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズ I				ナンバリング	1255
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						

授業の位置づけ

本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと関連がある。1年次前期科目「日本語 I・II・III」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズ II・III」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。

1) 大学で講義や口頭発表を聞くための力をつけることができる。

2) まとまった長さの話を聞いて概要をつかみ、メモをとったり要約したりすることができる。

3) 論理的な考え方と、それを表現するための日本語を身につけることができる。

4) 文法を整理し、それを使った文章を書き取ったり読んだりすることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。

グループワークやペアワーク活動を取り入れる。

小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

返却時に解説やコメントをつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習③ 敬語	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	L1 文法・読解と聴解(1) 留学生の書いた作文を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	L2 文法・読解と聴解(2) 先生に送ったメールを読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	L3 文法・読解と聴解(3) 日記を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	L4 文法・読解と聴解(4) 留学生の書いた作文を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	L5 文法・読解と聴解(5) 短い小説を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	L6 文法・読解と聴解(6)パンフレットを読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	L7 文法・読解と聴解(7)留学生の書いた作文を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	L8 文法・読解と聴解(8)日記を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	L9 文法・読解と聴解(9) 留学生の書いた作文を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	L10 文法・読解と聴解(10) 留学生の書いた作文を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	L11 文法・読解と聴解(11) 日記を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	L12 文法・読解と聴解(12) 留学生の書いた作文を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	L13 文法・読解と聴解(13) 日記を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	L14 文法・読解と聴解(14) 日記を読む	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅡ				ナンバリング	1256
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						

授業の位置づけ

本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと関連がある。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅲ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。

1) 大学で講義や口頭発表を聞くための力をつけることができる。

2) まとまった長さの話を聞いて概要をつかみ、メモをとったり要約したりすることができる。

3) 論理的な考え方と、それを表現するための日本語を身につけることができる。

4) 文法を整理し、それを使った文章を書き取ったり読んだりすることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。

グループワークやペアワーク活動を取り入れる。

小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

返却時に解説やコメントをつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習① 使役	初級文法の基礎知識を確認しておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	聴解1 東京の温泉	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	聴解2 新幹線のおでこ	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	聴解3 体験プレゼント	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	聴解4 そば屋ののれん	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	聴解5 犬の肥満	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	聴解6 卵かけご飯	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	聴解7 女性専用車両	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	聴解8 剣道	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	聴解9 落語	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	聴解10 そばをすする音	話題について考えておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	聴解11 将棋	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	聴解12 南極	話題について考えておくこと。 (30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	聴解13 明治神宮の森	話題について考えておくこと。 (30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	聴解14 虚偽の自白	小テストの準備をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		アカデミックジャパニーズⅢ				ナンバリング	1257
配当年度	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	今井 史子						

授業の位置づけ

本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと関連がある。1年次前期科目「日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の発展科目であり、1年次後期科目「アカデミック・ジャパニーズⅠ・Ⅱ」と並行して授業を進める。

授業の概要

この授業は、外国人留学生在が大学で講義を受けるために必要な日本語を総合的に学ぶ。講義を聴くための技術として、1,000字程度の日本語文献の精読から始め、比較的長い視聴覚教材でタスクリスニング練習を行い、日本語でレポートが書けるようにするためのアカデミック・ジャパニーズの基礎技能を学ぶ。この授業で、受講者には上級前半レベルの日本語文法を修得し、漢字2,000字と語彙1万語程度が定着することを目指す。また、日本での社会生活を送る上でも、未知の出来事や不明な日本語問題に対して自分で調べたり、日本人に解決方法を相談したりするなどの情報収集活動ができ、問題解決できる自律した日本語学習スタイルを身に付けてもらうためタスク型教材を用いる。

到達目標

大学で講義を受けるために必要な日本語を身につけることができる。
 1) 大学で講義や口頭発表を聞くための力をつけることができる。
 2) まとまった長さの話を聞いて概要をつかみ、メモをとったり要約したりすることができる。
 3) 論理的な考え方と、それを表現するための日本語を身につけることができる。
 4) 文法を整理し、それを使った文章を書き取ったり読んだりすることができる。

授業の方法

配布物などを活用しながら、授業を進める。
 グループワークやペアワーク活動を取り入れる。
 小テストを実施する。

ICT活用

課題提出を電子メール、または指定の提出先サイトにワード／スライドで添付送信する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

返却時に解説やコメントをつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	文法復習② 受身・使役受身	前回の復習をしておくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第2回	場所や順番を考えてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第3回	くらべてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第4回	イラストを見て書いてみよう①(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第5回	例を出してみよう ひと言でまとめてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第6回	理由を考えて書いてみよう①(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第7回	理由を考えて書いてみよう②(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第8回	言葉の意味を説明してみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第9回	タイトルを考えて書いてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第10回	説明してみよう①(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第11回	説明してみよう②(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第12回	イラストを見て書いてみよう②(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			

第13回	順序を考えて書いてみよう①(前半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第14回	順序を考えて書いてみよう②(後半)	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
第15回	論理的に考えて書いてみよう	学習内容の説明を読んでおくこと。(30分)	授業内容を復習すること。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出欠・授業態度)30%、課題50%、小テスト20%
その他	0	
教科書		
なし(必要であれば後日、担当者から指示をする。)		
参考文献		

適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。
授業のとき、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。
出席率70%以上を評価対象とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅰ				ナンバリング	2241
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

この科目はディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関係のある科目である。外国語学習法入門の「ことばと心理」と関連があり、後期の「総合中国語Ⅱ」は継続科目である。

授業の概要

この授業は、1年次に徹底して取り組んだ中国語の発音(ピンイン)をマスターすることを引き続き継続する。これと同時に、中国語の初級レベルの基本的な語彙や、すぐに役に立つ会話句を紹介し、中国語学習に対する興味を養うことも目指す。中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面、生活に根差した場面で使う表現を習得できるようになる。

到達目標

1. 中国語の発音をマスターする。
2. 中国語の初級レベルの基本的な語彙と文法を実践的に運用できる。
3. 中国圏の文化について理解を深めることができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4技能を中心とした総合的な語学能力を育成するために、印刷物の配布や関連動画の視聴など多様な方法を用いて、講義形式で授業を進める。履修者の理解度によって、講義の内容と授業の進捗状況を調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。単語テスト後に関連語彙などの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス、②第0課「発音おさらい編」、③第1課「朝の公園」副詞「这么」「都」、感嘆文について学習する。	学習予定部分(pp.8~13)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第2課「悪い石」:結果補語「倒」、使役動詞について学習する。	学習予定部分(pp.14~21)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第3回	第3課「餃子」:動詞「来」、起こる可能性を表す「会」、形容詞「很少」の使い方を学習する。	学習予定部分(pp.18~21)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第4課「寒くないか」:「不要緊」、文末に置く語気助詞「的」、副詞「还」を学習し、日本語と中国語の表現のしかたの違いについて紹介する。	学習予定部分 (pp.22~25)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第5回	第5課「麻雀をする」:「V了～就V～」、助詞「了」、「快～呀」を学習する。	学習予定部分 (pp.26~29)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第6回	第6課「お見合いコーナー」:「都～了」、副詞「刚」、「又～又～」を学習する。	学習予定部分 (pp.30~33)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第7回	第1課～第6課を復習し、小テストを受ける。小テストについて説明する。	第1課～第6課の単語、表現、文法を復習する(90分)。	小テストで間違った部分を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	第7課「レンタル彼女」:複合方向補語、接頭辞「无可」、副詞「可惜」を学習する。	学習予定部分(pp.34~37)を学習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第9回	第8課「ピアノ、おじょうずね」:様態補語、助動詞「应该」、副詞「道」を学習する。	学習予定部分(pp.38~41)を学習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第10回	第9課「無洗米」:疑問詞抱え型「吗」疑問文、動詞「帮」、量詞を学習する。	学習予定部分(pp.42~45)を予習する(90分)。	本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第11回	第10課「温かいものを食べたい」:感嘆詞「哎呀」、「的」フレーズ、ABB型形容詞を学習する。	学習予定部分(pp.46~49)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			
第12回	第11課「転職する」:「就要～了」、副詞「竟然」、「看样子」の使い方を学習する。	学習予定部分(pp.50~53)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			

第13回	第12課「プライバシー」:副詞「多」、数詞「多」、副詞「就」の使い方について学習する。	学習予定部分 (pp.54~57)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			
第14回	第13課「曖昧な日本語」:「我想」、副詞「明明」、疑問詞「干嘛」の使い方について学習する。	学習予定部分 (pp.60~63)を予習する(90分)。	本文を繰り返し朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する。新出単語を暗記し、単語テストに備える(90分)。
担当教員			
第15回	第7課～第13課を復習し、小テストを受ける。	第7課～第13課の単語、表現、文法を復習する(90分)。	小テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題など)30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『マンガ 日中いぶこみ劇場』相原茂ほか編著、朝日出版社、2020年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅱ				ナンバリング	2242
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

本科目はディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関係のある科目である。「総合中国語Ⅰ」の後継科目である。

授業の概要

この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の語学に必要な4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。1年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」能力の上に、中級レベルにふさわしい、より高度な表現能力を身につけることができるようにする。中国語には生活習慣などに起因する、他文化圏の人々には理解しがたい特殊な表現がある。これらの表現は、日本人が苦手とし、理解しがたいものが多いが、とても大切な表現となる。授業では、これらの理解しがたい中国語の表現についても触れる。

到達目標

1. 正確で自然な発音と基本的な語彙が応用できる。
2. 中国人と簡単な日常的な会話をすることができる。
3. 中国に関する特定のトピックについての簡単な情報を収集することができる。

授業の方法

読む、聞く、話す、書くの4技能を中心とした総合的な語学能力を育成するために、視聴覚資料を用いて、講義形式で授業を進める。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題に対し、解説を行い、受講生にアドバイスをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス、②「総合中国語Ⅰ」の内容を復習する。	前期の「総合中国語Ⅰ」の内容を復習する(90分)。	復習課題を提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第14課「まだお昼も食べていないんだよ」:「还没～呢」、借用動量詞、「到现在」を学習する。	学習予定部分(pp.64～67)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第3回	第15課「呼び方」:「好像」「该」「或者」を学習する。	学習予定部分(pp.68～71)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第4回	第16課「返事のしかた」:「被」「V給」「按照」を学習する。	学習予定部分(pp.72~75)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第5回	第17課「花露水」:「不～了」、「管用」、「給」を学習する。	学習予定部分(pp.76~79)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第6回	小テスト①(第14課～第17課内容)およびその説明。	第14課から第17課までの内容を復習する(90分)。	小テスト①の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	第18課「上下関係」:「派」、「得」、「最」を学習する。	学習予定部分(pp.80~83)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第8回	第19課「他人行儀」:「不好意思」、「还～呀」、「说什么」を学習する。	学習予定部分(pp.84~87)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第9回	第20課「スイカがショッパイ」:「有+名詞+V」、「显得」、「～呀, ～什么的」を学習する。	学習予定部分(pp.88~91)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第10回	第21課「白い花」:「赶快」、「为什么」、「才」を学習する。	学習予定部分 (pp.92~95)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第11回	小テスト②(第18課～第21課内容)およびその説明。	第18課から第21課までの内容を復習する(90分)。	小テスト②の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	第22課「眼にゴミが入った」:存現文、「好～啊」、「真是」を学習する。	学習予定部分 (pp.96~99)を予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文を朗読し、次回の授業までに音声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			

第13回	第23課「見送り」:接続詞「要是」、副詞「起码」、常用挨拶言葉を学習する。	学習予定部分 (pp.100~103)を 予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文 を朗読し、次回の授業までに音 声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第14回	第24課「縁起を担ぐ」:「听说」、「可」、「比如」を学習する。	学習予定部分 (pp.104~107)を 予習する(90分)。	学習した内容を復習する。本文 を朗読し、次回の授業までに音 声ファイルを提出する(90分)。
担当教員			
第15回	小テスト③(第22課～第24内容)およびその説明。	第22課から第24課の内容を復 習する(90分)。	小テスト③の内容を復習する(90 分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(予習、復習、課題など)30% 単語テスト 30% 小テスト 40%
その他	0	
教科書		
『マンガ 日中いぶこみ劇場』相原茂ほか編著、朝日出版社、2020年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語コミュニケーション				ナンバリング	2245
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	楊 志剛						
授業の位置づけ							
この講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ」と連携している。							
授業の概要							
この授業は、中国語の日常会話を修得する。中国の文化・習慣・伝統・流行・中国人の考え方などにも触れ、実生活に即した会話の練習を通して、自分の考えや伝えたいことを話せる能力を身につける。各課のポイントに基づく練習問題をこなすことで、基礎を固め応用力を養う。中国語入門Ⅰ、中国語入門Ⅱの授業に続き、中国語のレベルアップを図る。また、中国語で発想する感覚を身に付け、より踏み込んだレベルの生活会話の習得を目指す。							
到達目標							

- ・正確で自然な発音、中級レベルの語彙および文法を応用できること。
- ・中国人と簡単なコミュニケーションが取れるようになり、聴く、話す、読む能力を総合的に高めること。
- ・中国語検定3級、HSK3級レベルに達すること。
- ・また、講義とDVDなどによる中国文化・風俗、中国事情の紹介など日中の相互理解も深める。

授業の方法

- ・テキストに沿って授業を進める。原則として、1課につき1.5～2回で学ぶ。
- ・単語、本文の発音と説明の後、文法の学習と練習問題。その後、ペアで会話練習を行う。
- ・講義とDVDを通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題についての解説を授業の前または後で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第一课【自我介绍】 1. 状態補語 2. 助動詞「要」(1) 3. 「正～呢」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第2回	4. 二重目的語 5. 「太～了」习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第3回	第二课【兴趣・爱好】 1. 「无论～, 都～」 2. 「除了～, 还/也/都～」 3. 結果補語	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		

第4回	4. 「一～就～」 5. 助動詞「要」(2) 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第5回	第三課【去学校】 1. 助動詞「得」 2. 「一边～一边～」 3. 「只有～就～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第6回	4. 助動詞「还是」 5. 数量補語 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		

第7回	第四課【点菜】 1. 動詞「需要」2. 副詞「马上」 3. 前置詞「跟」4. 「跟/和～一样」v	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第8回	中間テストと復習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第9回	5. 程度補語 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		

第10回	第五課【我的梦想】 1.「越～越～」 2.「连～都/也～」 3.「只有～才～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第11回	4. 動詞+「在」 5.「从来」 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第12回	第六課【春假早点儿来！】 1.「可」 2.「与其～不如～」 3.「也许～也许～」	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		

第13回	4. 「得知」 5. 「不但～还/而且～」 习题 6. 会話練習	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第14回	1. 総復習 2. DVDを使って、中国の文化を紹介します	音声を利用して授業内容を予習すること。(90分)	音声を利用して授業内容を総復習すること。(90分)
担当教員	楊 志剛		
第15回	期末テストと解説	音声を利用して授業全内容を復習すること。(180分)	なし
担当教員	楊 志剛		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内テスト (中間テスト+期末テスト):80%程度 (小テスト・会話・授業参加度):20%程度
その他	0	
教科書		
『話そう！実践中国語』宮本大輔・温琳著 朝日出版社		
参考文献		

『Why? にこたえる初めての中国語の文法書』相原茂・石原田知子・戸沼市子著 同学社

履修条件・留意事項等

- ・出席・授業参観を重視する。
- ・予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		中国語リスニング				ナンバリング	2247
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 耀光						

授業の位置づけ

この講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。1年次科目「中国語入門Ⅰ」と連携している。

授業の概要

この授業は、「話す、聴く、書く、読む」に代表される語学力の中で、「聴く」能力に的を絞り講義を進める。中国語を母語とする人々が話すことばを聞いて分かるようになるためには、色々な人々の語る色々な内容を正しく認識しなければならない。中国語を日本語に直して聴くのではなく、中国語をそのまま中国語で聴く練習を通して、「聴く」力の向上に努める。学習者は、中国人の思考方式に合わせて中国語が聴けるようになり、コミュニケーション能力を向上させることができ、スローなスピードで設定された場面において単純な会話を聞き取れるようになる。

到達目標

1. 聴力の繰り返しの訓練によって、初級段階で学習された中国語を確実に聞き取れ、さらに応用できるようになる。
2. 旅とおもてなし等に役に立つ簡単な日常会話ができるようになる。
3. 中国語検定3級、HSK3レベルに達する。

授業の方法

テキストに沿って授業を進める。単語、本文の発音を学び、軽く文法の学習と練習問題。後は、ペアで発音の練習と応用会話練習を行う。講義を通して、中国の文化や生活習慣などを紹介し、中国への理解と関心を高めていく。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。課題の完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①授業についてのガイダンス ②第1課 你有外国朋友吗？(一) 基礎的な人名、国名、地名、専攻科目名などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.1-4)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習し、次回の授業までに課題を提出する(90分)。
担当教員			
第2回	第1課 你有外国朋友吗？(二) 人物を紹介する簡単な文章の聞き取りをする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.5-8)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第3回	第2課 快乐的家庭(一) 親族の呼び方、職業名などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.9-12)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第4回	第2課 快乐的家庭(二) 家族を紹介する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.13-16)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第5回	第3課 我的一个星期(一) 曜日、日常の主な行動などに関する語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.17-20)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	第3課 我的一个星期(二) 一週間の予定に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.21-24)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	第5課 生日快乐(一) 年月日、季節などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.33-36)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	復習と中間テスト	音声を利用して、第1課～第3課まで学習した内容を復習する	音声を利用して第5課の(pp.37-39)を予習する(90分)。
担当教員			
第9回	第5課 生日快乐(二) 誕生日、年月、年齢に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して第5課の(pp.37-39)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	第8課 一共多少钱(一) 勉強道具、日用品、衣服、お土産、色などに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.57-60)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第11回	第8課 一共多少钱(二) 買物に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.61-63)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	第10課 我喜欢学汉语(一) 勉強、趣味、スポーツなどに関する単語と語句の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.73-76)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	第10課 我喜欢学汉语(二) 趣味や勉強に関する簡単な文章の聞き取り練習をする。	音声を利用して学習予定の部分(pp.77-79)を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	①総復習 ②DVDと利用して、応用練習する(中国文化も紹介する)	音声を利用して学習した内容を予習する(90分)。	音声を利用して学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	期末テストと復習	学習した内容を総復習する(90分)。	テストの内容を確認する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はしません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(出席・態度、課題の完成など)+小テスト:20% 中間テスト+期末テスト:80%
その他	0	
教科書		
『聴力UP!!中国語リスニングトレーニング』胡金定ほか著 朝日出版社、2016年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

- ・出席を重視すること。
- ・必ず予習、復習、積極的に授業に取り込むこと。
- ・質問がある場合、いつでも聞くこと。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅲ				ナンバリング	3243
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	云 肖梅						

授業の位置づけ

本講義はディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。2年次後期の「総合中国語Ⅱ」を承る科目である。

授業の概要

この授業は、より高度な中国語表現能力取得を目指す。中国語には複雑な表現であっても表現する内容によって決まった文型がある。授業ではこれらの文型を学習しながら、練習問題を通して定着を目指す。また、それを確実に伝えられるような口頭練習を多用する。よって、2年間で学んだ学習項目を基礎に、より複雑な表現にふさわしい文型が使えるようになり、学んだ文型を実際のオーラル・コミュニケーションの場で使えるようにする。これらの表現に必要な文型や単語をマスターする。

到達目標

- 1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
- 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
- 3.より自然な中国語を話せるようになる。

授業の方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行う。中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス、初級文法復習	初級文法復習(90分)	初級文法音読復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第2回	第一課 介绍 学習要点: 結果補語/情態補語	第1課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第1課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第3回	第1課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第1課付属のCD本文を度聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第4回	第二課 家庭 学習要点: 兼語文(指令動詞)	第2課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第2課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第5回	第2課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第2課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第6回	第三課 学校 学習要点: 除了～以外/为了～	第3課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第3課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第7回	第3課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第3課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第8回	第四課 兴趣 学習要点: 越～越～/对～感兴趣	第4課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第4課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第9回	第4課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第4課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第10回	第五課 気候 学習要点: 可能補語/方向補語の派正義	第5課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第5課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第11回	第5課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第5課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第12回	第六課 交通 学習要点: 就要～了/是否～	第6課の単語と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)	第6課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		

第13回	第6課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第6課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第14回	第1-6課 総復習と口述テスト	口述テスト作文を作成(90分)	総復習、授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第1～6課)を聞くこと。(90分)
担当教員	云 肖梅		
第15回	まとめおよび期末テスト	総復習(第1～6課)(90分)	期末テストの見直し(90分)
担当教員	云 肖梅		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	
教科書		
『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月		
参考文献		

授業内で適宜指示。

履修条件・留意事項等

授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		総合中国語Ⅳ				ナンバリング	3244
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	胡 慧君						

授業の位置づけ

本講義はディプロマポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と関連がある科目である。3年次前期の「総合中国語Ⅲ」を承る科目である。

授業の概要

この授業は、「聞く、話す、読む、書く」の4要素の中で、「聞く、話す」に主眼をおく。2年間の専門教育で身につけた初級レベルのコミュニケーション能力、「会話と表現」のレベルアップした表現能力を身につけることができるようにする。総合的な中国語コミュニケーション能力をアップすることができるようになる。つまり、ただ単に読んで理解することができるだけでなく、目的や場面に合わせた聴力・会話能力を身に付ける。

到達目標

- 1.より多く単語や文法を習得し、より複雑な内容を表現できるようになる。
- 2.中国に関する特定のトピックについての情報を収集することができる。
- 3.より自然な中国語を話せるようになる。

授業の方法

原則として、教科書に沿って授業を行う。テキストの文章を参加者が各自で解読し、疑問、不明な点があれば授業時に解説する。スピーキング力をつけるために、グループ分けしてたくさんの会話を行い、一課ごとの課題に沿って中国語による発表を行う。リスニング力をつけるために、毎回教科書の内容をピックアップして、リスニングの確認を行い、中国語による表現力を確認するために、中国語で作文し、口述テストを行う。

ICT活用

公式ラインなどを使用して、スピーキング、ライティング練習課題を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

スピーキングやライティング課題を確認し、発音のアドバイスをし、さらに2課ごとに小テストを行い、小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス、前期の復習	前期の復習(90分)。	前期の復習、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第2回	第7課 問路	第7課の単語(P.49)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)文法(P.46)動詞要・有/又～又～/不但…而且)	第7課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第3回	第7課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第7課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第4回	第8課 电话	第8課の単語 (P.56)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)文法 (P.53 怎么)	第8課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第5回	第8課の練習問題、文章内容の確認、発展	学習予定の部分 (pp.40-45)を予習する(90分)。	学習した部分の単語を暗記し、学習した内容を繰り返し音読し、第3課本文1の録音を次回の授業までに提出する(90分)。
担当教員	胡 慧君		
第6回	第9課 购物	第9課の単語 (P.63)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)文法 (P.49有一点/一点儿/只要…就)	第9課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第7回	第9課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第9課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第8回	第10課 飲食	第10課の単語(P.69)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分) 文法(P.66把字句)	第10課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第9回	第10課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第10課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第10回	第11課 健康	第11課の単語(P.75)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)文法(P.72是…的/一～就)	第11課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第11回	第11課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第11課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第12回	第12課 社会	第12課の単語(P.82)と文法を予習すること、付属のCDを聞き、読む練習、内容の翻訳をすること。(90分)文法(P.78被动句/比较句)	第12課本文を音読し、付属のCDの単語を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		

第13回	第12課の練習問題、文章内容の確認、発展	文末の練習問題を完成すること。(90分)	第12課付属のCD本文を聞き、聞いた内容が理解できるようにすること。(90分)
担当教員	胡 慧君		
第14回	第7～12課 総復習と口述テスト	口述テストの作文を完成すること(90分)	期末試験に備えて復習すること(90分)
担当教員	胡 慧君		
第15回	まとめおよび期末テスト	授業内でのリスニング練習に備え、付属のCD(第7～12課)を聞くこと。(合計の所要時間90分程度)	期末試験の見直し(合計の所要時間90分程度)
担当教員	胡 慧君		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト30%、口述テスト20%、期末テスト50%
その他	0	
教科書		
『中文Jump!』人見 豊/李研 金星堂 2019年2月		
参考文献		

授業内で適宜指示。

履修条件・留意事項等

授業中に行う解説をスムーズに進行するため、文法、語彙、本文などの予習をしてくること。無断欠席は必ず減点要素とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語 I				ナンバリング	3271
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	崔 鉉鎮						
授業の位置づけ							
本講義はディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。1年次の「ことばと心理」と連携し、3年次後期科目「朝鮮語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象とし、朝鮮語の初歩を習得する。ハングル文字表記を学び、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文型を使って、簡単な挨拶表現や自己紹介をはじめ、初対面の人との出会いと交流場面での表現の習得を通して、韓国文化を学ぶとともに朝鮮語で話すことの楽しさを体験する。							
到達目標							

1. ハングル文字の読み書きができる。
2. 単語および文レベルで見られる発音変化規則を理解し、適用できる。
3. 基礎文型を用いて、挨拶や自己紹介、簡単な日常会話ができる。

授業の方法

パワーポイントおよび視聴覚資料を用いた講義形式を基本とする。一方で、4技能(聞く・読む・話す・書く)をバランスよく身につけるため、さまざまな練習やペア・グループ学習を適宜取り入れる。ハンドアウト(配布資料)は教材として使用し、授業の進度に応じて配布する。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に解説を行うことを基本とする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. ガイダンス(授業の流れ、履修上の留意事項、成績評価など)を行う。 2. ハングル文字の仕組みおよび韓国語の音の特徴を紹介する。 3. 0課 母音字①(単母音)を学ぶ。	ハングル文字や韓国語について事前に調べ、日本語との類似点と相違点について考えながら、関心を持って授業に臨む(60分)。	学んだ母音字を確認し、書き取りや音読で暗記する(120分)。
担当教員			
第2回	0課 母音字②(二重母音)を学ぶ。	前回学んだ母音字を復習し、読み書きができるか最終確認を行う。不十分な文字についてはさらに暗記する(90分)。	学んだ母音字を確認し、書き取りや音読で暗記する(90分)。
担当教員			
第3回	0課 子音字①(カ、サ、タ、ナ行に類似する子音字)を学ぶ。	全ての母音字を復習し、読み書きができるか最終確認を行う。不十分な文字はさらに暗記する(90分)。	学んだ子音字を確認し、書き取りや音読で暗記する(90分)。
担当教員			

第4回	0課 子音字②(ハ、パ、マ、ラ、チャ行に類似する子音字)を学ぶ。	母音字と前回学んだ子音字を復習し、読み書きができるか最終確認を行う。不十分な文字はさらに暗記する(90分)。	学んだ子音字を確認し、書き取りや音読で暗記する(90分)。
担当教員			
第5回	0課 パッチム(「ン、ル、ッ」に類似する子音字)を学ぶ。	母音字と子音字のすべてを復習し、読み書きができるか最終確認を行う。不十分な文字はさらに暗記する(90分)。	パッチムの種類と特徴を復習し、プリントの語例を繰り返し読みながら、パッチムの読み方に慣れる(90分)。
担当教員			
第6回	1. 文字の総復習を行う。 2. 日本の人名や地名などのハングル表記を学ぶ。	母音字および子音字、パッチムを復習し、読み書きができるか最終確認を行う。不十分な文字はさらに暗記する(90分)。	プリントの語例を繰り返し読み、さまざまな文字の組み合わせが読み書きできるよう練習する。また、駅や看板などに書かれているハングル表記にも注目して読んでみる(90分)。
担当教員			

第7回	視聴覚資料を用いて、さまざまな形のハングル文字と単語を学ぶ。	プリントの語例を読みながら、さまざまな文字の組み合わせの読み書きができるか最終確認を行う。不十分な組み合わせはさらに練習する(90分)。	視聴覚資料で取り上げた文字や単語を復習し、読み書きができるか確認する。必要に応じて書き取りや音読で練習する(90分)。
担当教員			
第8回	1課 名詞+「です(か)」と助詞「は」を学ぶ。	今回より文型学習が中心となるため、授業中に文字の読み書きがスムーズにできるよう、文字の総復習を行う(90分)。	学んだ学習項目を復習し、プリントの問題を繰り返し読みながら発音に慣れる(90分)。
担当教員			
第9回	1課 指示代名詞を学び、会話文を使って1課の学習内容をまとめる。	前回の学習項目を確認し、理解と発音が不十分な部分はさらに復習する(90分)。	学んだ学習項目は復習し、会話文は繰り返し読みながら暗記し、実践で使えるように練習する(90分)。
担当教員			

第10回	2課 助詞「が」と名詞+「ではありません(か)」を学ぶ。	1課の内容を確認し、理解と発音が不十分な部分はさらに復習する(90分)。	学んだ学習項目を復習し、プリントの問題を繰り返し読みながら発音に慣れる(90分)。
担当教員			
第11回	2課 疑問詞を学び、会話文を使って2課の学習内容をまとめる。	前回の学習項目を確認し、理解と発音が不十分な部分はさらに復習する(90分)。	学んだ学習項目は復習し、会話文は繰り返し読みながら暗記し、実践で使えるように練習する(90分)。
担当教員			
第12回	3課 漢数詞と単位名詞(ものの数え方)を学ぶ。	1、2課の内容を確認し、理解と発音が不十分な部分はさらに復習する(90分)。	学んだ学習項目を復習し、プリントの問題を繰り返し読みながら発音に慣れる(90分)。
担当教員			

第13回	3課 助詞「を」と動作の表現(「します(か)」などの形)を学ぶ。	前回の学習項目を確認し、理解と発音が不十分な部分はさらに復習する(90分)。	学んだ学習項目を復習し、プリントの問題を繰り返し読みながら発音に慣れる(90分)。
担当教員			
第14回	3課 状態・感想の表現(「あります(か)」などの形)を学び、会話文を使って3課の学習内容をまとめる。	前回の学習項目を確認し、理解と発音が不十分な部分はさらに復習する(90分)。	学んだ学習項目は復習し、会話文は繰り返し読みながら暗記し、実践で使えるように練習する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめと学期末試験	1～3課の内容の理解度を確認し、不十分な部分を中心に徹底的に復習する(120分)。	文字パートを含め、1～3課の内容をゆっくり読みながら定着させる(60分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(10%)、課題・小テスト(30%)、学期末試験(60%)、授業内試験・15回目に実施)により評価する。
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

必要に応じて紹介する。

履修条件・留意事項等

1. 欠席や遅刻を避け、授業に積極的に参加してください。
2. 授業中のスマートフォン使用は禁止(やむをえない事情がある場合は、相談すること)。
3. 配布資料(プリント)は大切に管理してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		朝鮮語Ⅱ				ナンバリング	3272
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	金 京愛						

授業の位置づけ

本講義はディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。3年次前期科目「朝鮮語Ⅰ」の発展科目である。

授業の概要

この授業は「朝鮮語Ⅰ」に続き、初級レベルの朝鮮語を総合的に学ぶ。ハングル文字表記に慣れ、その音韻体系と基本的な音韻規則を理解し、朝鮮語の基本文法や語句を使って、日常生活における出来事や考えを簡単に表現できるようになる。韓国からの観光客へのおもてなし表現や、韓国旅行で役に立つトラベルフレーズなど、実践的な朝鮮語コミュニケーションを基本文型で表現できるようになることを目指す。

到達目標

1. 初級レベルのハングル検定試験に合格できる程度の単語や文型を身につけて使用できる。
2. 日常的に使われる基本的な韓国語を理解し、それらを場面に応じて適用できる。
3. 基本挨拶以外に、韓国旅行などにおいて簡単な質問や聞き取りができるように、よく使う基本的な表現を完璧にマスターできる。
4. 自己紹介や手紙など簡単な書きことばにおいて、適切な場面で決まり文句を用いると同時に、辞書を用いながら決まり文句以外の表現にも応用できる。
5. 韓国文化に触れる映像などによって、言葉を使う場面の背景や文脈に役立ち、より自然な韓国語を使うことができる。

授業の方法

- ・授業の方法について：
 - a. 教室では主にパワーポイントを用いて説明をする予定です。文法説明の後は必ず配布プリントを用いて練習問題を行います。その時間は自分が理解できなかったところをグループワーク(二人～三人)を通して理解を共有する時間も兼ねます。(15分 程度)
 - b. 韓国語文法の学習では、正解を選ぶ・書くだけでなく日本語など韓国語以外の言語とも比較しながら、何故この発音になるのか、この二つの文法はどのような関係性があるのかなどについても説明できるように、自分が考えたことが発表できるディスカッション形式の授業を取り入れたいと考えています。(月に一回 ～ 二回、15分 程度)
- ・課題について：
 その週に学習した内容については確実に修得した上、また新たな文法にもどんどん生かしていくようにしてください。そのため、毎回練習用のプリントを配り、授業の最後または翌週に提出してもらいます。また、欠席者でも課題の提出を希望する場合は期限内にクラスルームで提出することができます。
- ・テストについて
 - a. 毎回確認テストを時間内に行う(オーラルテストを含む)
 - b. 中間・期末テストの詳細については、事前に配布印刷物(ハンドアウト)を用いて方法を説明したのち、テストを実施する
- ・授業に関する連絡および自主学習について：クラス全体への連絡は、クラスルームを用いて行います。また、複数の文型パターンが新規学習

ICT活用

Google classroomを用いて課題や資料を提示・回収します。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

新規学習項目については家庭学習用のプリントを宿題として配布し、次回授業で宿題をチェックしたあと、理解度確認のための小テストを行います。宿題のチェックについては、回収し間違いをチェックしたり、授業中に学生とともに答え合わせをします。また机間巡視しながら学生に質問をしたりして、学生の理解を確認することがあります。課題は毎回チェックして必ず返却するので、授業中にできなかった質問などがあればプリントに書いて一緒に出してください。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・前期(朝鮮語Ⅰ)の復習 a. 簡単な韓国語の文を読む(読む練習) b. 自己紹介をする(書く、話す練習) c. 簡単な疑問詞などを用い、質疑応答を行う	前期(朝鮮語Ⅰ)の復習(90分) 準備学習は教科書を用いて行ってください。教科書を最初から(できれば)最後までパラパラとめくりながら、これからどのような事を学習していくのか確認してください。目に留まったところや面白そうなところがあれば(声を出して)読む・(真似して)書くなど興味を引かれるままやってみてください。	前期(朝鮮語Ⅰ)の復習(90分) 授業中に行った内容を教科書やノートを見ながら、もう一度内容を整理し、別の紙などにメモしてください。毎回覚えたいフレーズなどをいくつか決めて書き、書いたものがいつでも目に触れるように工夫してください。
担当教員			
第2回	・指定詞を使いこなす「名詞＋です(か)、名詞＋ではありません」 ・疑問詞と固有数詞と漢数詞の練習 a. 年齢、時間(〇〇時)など b. 時間(〇〇分)、日付(〇〇月〇〇日)、値段など	・文法書などを用いて、日本語の動詞・形容詞・指定詞(名詞＋です)などの品詞の違いを明確にしておく(30分) ・それぞれ固有数詞と漢数詞の1～10を暗記し、書ける、言えるようにマスターする(60分)	・辞書や教科書を用いて「名詞＋です」「名詞＋ではありません」の文を7文ずつ作文する(できれば一日二文ずつ、40分) ・固有数詞の21～30、漢数詞11～20、百、千、万を暗記した上、使い分けできるように練習する(50分)
担当教員			
第3回	・格式表現を学ぶ a. 用言の説明 b. 活用の練習	・教科書を用いて韓国語の用言における丁寧(です・ます)形(p.40)の違いを把握しておく(40分) ・教科書第二課(p.38)の本文を、意味を確認した上で(自分の声が正確に聞こえる大きさで)音読する(5回、25分) ・教科書第二課(p.39)の単語と表現を読める・書けるように覚える(25分)	・家庭学習用のプリントを用いて、格式表現の活用練習を行う(60分) ・教科書第二課(p.40)練習1、(p.41)練習2の用言を読める・書けるように覚える(30分)
担当教員			

第4回	・格式表現の否定形を学ぶ a. 前置型の練習 b. 後置型の練習	・事後学習で覚えた用言を用いて、基本形 → 格式表現に活用できるように練習する(40分) ・教科書第四課(p.54)の本文を、意味を確認した上で音読する(5回、25分) ・教科書第四課(p.55)の単語と表現を読める・書けるように覚える(25分)	・家庭学習用のプリントを用いて、格式表現の否定形の活用練習を行う(60分) ・教科書第四課、練習 5(p.58)の用言、p.59の「를/을 좋아하다」「를/을 싫어하다」の文型を読める・書けるように覚える(30分)
担当教員			
第5回	・非格式表現を学ぶ a. 子音語幹の活用練習 b. 母音語幹の活用練習	・教科書を用いて(p.40)、基本形 → 格式表現に活用する際の基準について復習した上、事後学習で覚えた用言を用いて活用練習を行う(40分) ・教科書第五課(p.62)の本文を、意味を確認した上で音読する(5回、25分) ・教科書第五課(p.63)の単語と表現を読める・書けるように覚える(25分)	・家庭学習用のプリントを用いて、非格式表現の活用練習を行う(40分) ・教科書p.65の非格式表現の母音語幹の縮約パターンをメモし、メモしたものがいつでも目に触れるように工夫し覚える(50分)
担当教員			
第6回	・非格式表現の否定形を学ぶ a. 前置型の練習 b. 後置型の練習	・教科書を用いて(p.64)、基本形 → 非格式表現に活用する際の基準について確認した上、覚えた用言を用い活用練習を行う(50分) ・教科書p.65の非格式表現の母音語幹の縮約パターンを覚える(40分)	・教科書p.65の非格式表現の母音語幹の縮約パターンを覚える(40分) ・家庭学習用のプリントを用いて、非格式表現の否定形の活用練習を行う(50分)
担当教員			

第7回	・用言の否定形を使いこなす a. 動詞の否定形 b. 形容詞の否定形 c. 指定詞の否定形 d. 存在詞の否定形	・教科書を用いて、これまで学習した否定表現を動詞、形容詞、指定詞、存在詞に分けてノートに整理して書く(動詞、形容詞の場合は否定形の前置型を中心に違いを整理する、90分)	・家庭学習用のプリントを用いて、非格式表現の否定形の活用練習を行う(40分) ・家庭学習用のプリントを用いて、既習文法のまとめの練習問題を行う(50分)
担当教員			
第8回	・既習文法の整理・まとめを行う ・中間テストを実施する	・事前に指定した用言を覚える(30分) ・教室で配布した既習文法のまとめのプリントを用い、覚えた用言の活用練習をする(70分)	・教室で配布した既習文法のまとめのプリントを参考にしながら、学習内容を教科書でもう一度確認・整理する(90分)
担当教員			
第9回	・過去形を学ぶ その1(動詞、形容詞を中心に) a. 格式表現の練習 b. 非格式表現の練習	・動詞・形容詞の非過去形の表現を復習する(40分) ・教科書第六課(p.72)の本文を、意味を確認した上で音読する(5回、25分) ・教科書第六課(p.73)の単語と表現を読める・書けるように覚える(25分)	・既習文法のまとめのプリントを用い、返却された中間テストの内容をもう一度復習する(50分) ・家庭学習用のプリントを用いて、過去形の活用練習を行う(40分)
担当教員			

第10回	・過去形を学ぶ その2(指定詞、存在詞を中心に) a. 格式表現の練習 b. 非格式表現の練習	・教科書第六課(p.74)の文法の内容を、活用語尾がつく順について非過去形(非格式表現)と比較しながら(特に母音縮約のパターン)整理し、まとめる(90分)	・教科書第六課(p.74)の文法の内容のパターンを覚える(50分) ・家庭学習用のプリントを用いて、過去形の活用練習を行う(40分)
担当教員			
第11回	・尊敬形を学ぶ	・動詞・形容詞の非過去形の表現を復習する(40分) ・教科書第七課(p.80)の本文を、意味を確認した上で音読する(5回、25分) ・教科書第七課(p.81)の単語と表現を読める・書けるように覚える(25分)	・教科書第七課(p.82)の文法の内容のパターンを覚える(40分) ・家庭学習用のプリントを用いて、尊敬形の活用練習を行う(40分)
担当教員			
第12回	・尊敬形の過去形を学ぶ	・教科書第七課(p.82)を用い、尊敬形の表現を復習する(40分) ・教科書第八課(p.88)の本文を、意味を確認した上で音読する(5回、25分) ・教科書第八課(p.89)の単語と表現を読める・書けるように覚える(25分)	・教科書第八課(p.90)の文法の内容のパターンを覚える(40分) ・家庭学習用のプリントを用いて、尊敬形の過去形の活用練習を行う(40分)
担当教員			

第13回	・疑問詞のまとめを行う ・助詞のまとめを行う	・自分の年齢や、時間(〇〇時)が言えるように固有数字の復習をする(45分) ・時間(〇〇分)と今日の日付(〇〇月〇〇日)や自分の誕生日、また百、千、万単位の値段などが言えるように漢数詞の復習をする(45分)	・教科書を用いて(pp.198-199)文脈に合わせて適切な助詞が使えるように作文をする(50分) ・家庭学習用のプリントを用いて、助詞や疑問詞の作文練習を行う(40分)
担当教員			
第14回	・既習文法の整理・まとめを行う ・既習文法の組み合わせを使いこなす a. 過去形 + 否定形 b. 尊敬形 + 否定形 c. 尊敬形 + 過去形 + 否定形	・教科書を用いて、これまで学習した現在形・否定形・過去形・尊敬形の表現を動詞、形容詞、指定詞、存在詞に分けてノートに整理して書く(90分)	・事前に指定した用言を覚える(30分) ・家庭学習用のプリントを用いて、既習文法のまとめの練習問題を行う(60分)
担当教員			
第15回	・既習文法の整理・まとめを行う ・期末テストを実施する	・事前に指定した用言を覚える(30分) ・教室で配布した既習文法のまとめのプリントを用い、覚えた用言の活用練習をする(70分)	・教室で配布した既習文法のまとめのプリントを参考にしながら、学習内容を教科書でもう一度確認・整理する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	期末試験・中間試験(60%)、授業参加度(15%)、課題提出・小テストなど(25%)を基準に評価します。また、期末試験・中間試験は単位修得のためには、必須条件ですので、一つでも受けない場合は「不可」となります。
その他	0	なし
教科書		
『ワンステップ韓国語 ―文字からはじめて中級をめざすあなたへー』／河 正一／朝日出版社		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

・教室での携帯の使用は禁止とします。急用のある場合は教室の外で使ってください。
・興味をもって積極的に取り組む姿勢がもっとも大切だと思います。一度忘れても、何度も何度も覚えなおせばいいのですから、諦めず、焦らないで、楽しく学んでいってください。

備考欄

辞書の購入を考えている場合は、韓日・日韓が両方ひけるような辞書を用意してください。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語 I				ナンバリング	3281
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。1年次の「ことばと心理」と連携して、3年次後期科目「フランス語Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、フランス語の初歩を習得する。まずフランス語のアルファベット、母音字、子音字など発音の規則を習得し理解できるようになる。次に、フランス語の文法の基礎である、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞の活用や形容詞の位置、基本文型、否定文、疑問文などの習得を目指す。世界の広い範囲の国や地域で使用され、国連公用語であるフランス語の表現になれ親しみ、フランス語の簡単な会話ができることでフランス語を使う楽しさを体験する。							
到達目標							

- 1) フランス語で自己紹介ができる。
- 2) 簡単な日常会話ができる。
- 3) フランス語の単語を読めるようになる。
- 4) フランスやフランス語圏の文化に触れる。
- 5) 基礎的な文法を身につける

授業の方法

授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。

ICT活用

Google Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	アルファベットと自己紹介	教科書p.1-4の部分を予習する。 (90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第2回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	「教科書p5-7の部分を予習する。 (90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	簡単な挨拶を習って、練習をする。	教科書p.8の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			

第4回	疑問文を覚えて、相手に質問をする。	教科書p.8-9の部分を予習する。 (90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第5回	数字を覚えて自分の年齢を伝える。	教科書p.10の部分を予習する。 (90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	フランスの地理を習って、大都市の位置と読み方を覚える。	教科書p.13の部分を予習する。 (90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			

第7回	三人称を習って、同級生を紹介する。	教科書p.14-15の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	動詞etre,avoir,habiter,parler。	教科書p.6の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	好きなこと・苦手なことを伝える。動詞aimer,adorer,detester。	教科書p.19-23の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			

第10回	家族に関する表現を習う。	教科書p.25-27の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第11回	家族についてはなす。	教科書p.28-30の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	持ち物に関する表現を習って、鞆や財布の中身を伝える。	教科書p.31-33の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			

第13回	曜日、月、時間に関する表現を覚える。	教科書p.37-39の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	動詞vouloir,pouvoir. 出来ること、してみたいことを伝える。	教科書p.52-54の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	教科書p.42の部分を予習する。(90分)	講義の内容を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。 定期試験は実施しない。
その他	0	
教科書		
場面で学ぶフランス語1〔三訂版〕高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著 三修社		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		フランス語Ⅱ				ナンバリング	3282
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Nicolas Jegonday						
授業の位置づけ							
北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。3年次前期科目「フランス語Ⅰ」の後を承ける科目である。							
授業の概要							
この授業は、「フランス語Ⅰ」に続き、フランス語の発音の規則に慣れ、文法の基礎を学習することを通して、フランス語の理解と表現に欠かせない基礎を習得する。学習した単語や文法知識を用いて、簡単な内容の短い文章や会話を理解できることを目指す。また、フランス語の短い会話や文章を、正しい発音で読んだり話したりを練習し、フランス語の基本文法や語句を使って、簡単な内容を表現できるようになる。また、フランス語の学習を通してフランス語圏の文化や社会への理解を深める。							
到達目標							

1,会話の中でよく使う動詞の活用を習得する。
2,過去、未来時制の表現を理解し応用できる。
3,日常の会話を楽しむことができる。

授業の方法

授業は参加型で行います。言葉は使いながら覚える。ほぼ毎回ペアで練習してから、発表をする。比較的にゆっくり進みますが、復習は欠かせません。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

札幌アリアンス・フランセーズ院長。フランスやフランス語圏について幅広い知識を有している。この経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業が始まる前に直接教員に聞く。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	フランス語 I で習ったことを復習する。	フランス語 I で習ったことを復習する。(90分)	講義の内容を復習する:(90分)
担当教員			
第2回	一日の行動に関する表現を習う。	教科書p.41-42の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第3回	自分の行動を伝える。相手の行動を聞く。	教科書p.41-42の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			

第4回	過去形を習う。複合過去。	教科書p.43-44の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第5回	過去の出来事を伝える。半過去。	教科書p.45-46の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第6回	フランス映画鑑賞。	教科書p.47-48の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			

第7回	未来形を習う。	教科書p.49-50の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第8回	予定を伝える。	教科書p.51-52の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第9回	食に関する単語を習う。部分冠詞。	教科書p.55-56の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			

第10回	食生活について話す。	教科書p.56-57の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第11回	カフェやレストランで使う表現を習う。ロールプレー。	教科書p.58-59の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第12回	天気に関する単語を習う。	教科書p.61-62の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			

第13回	天気についてはなす。	教科書p.63-65の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第14回	街や大学に関する表現を習う。道案内をする。	教科書p.67-68の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
第15回	まとめと振り返り	教科書p.71の部分を予習する。(90分)	講義で習った内容の復習。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題・参加度・出席態度を総合的に評価します。 定期試験は実施しない。
その他	0	
教科書		
場面で学ぶフランス語1〔三訂版〕高橋百代 著/ Nicolas JEGONDAY 著/ 林宏和 著 三修社		
参考文献		

特になし。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語 I				ナンバリング	3291
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						
授業の位置づけ							
本講義はディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。1年次の「ことばと心理」と連携して、3年次後期科目「ロシア語Ⅱ」の基礎となる科目である。							

ロシア語の基礎的学習をふまえて, 1. 基本的な単語や文を聞き取れる, 2. 単純な文を読んで内容が分かる, 3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる, 4. 簡単な文章を書ける。

授業の方法

板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。
配布印刷物および視聴覚メディア(DVD, CDなど)の補足教材も活用し説明を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして, 理解度確認テストを回収後, 解答の解説を行う。
レポート課題は, 提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ロシア語学習への導入	シラバスに目を通して、教科書p8-10「ロシア語ってどんなことば？」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語や文化について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	アルファベット、単語の読み方	教科書p11-14のアルファベットと発音の特徴に目を通しておく(90分)	授業で学習したアルファベットの発音と単語の読み方を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	アルファベット、文字の書き方	教科書p15の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した文字の書き方を復習しておく(90分)
担当教員			

第4回	文字と発音, 発音の規則(母音の弱化)	教科書p21の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第5回	文字と発音, 発音の規則(子音の同化), 挨拶表現	教科書p16-17の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した発音の規則を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	第1課 簡単な平叙文「～は～です」, 疑問文「これは誰ですか」「これは何ですか」	教科書p18-19の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			

第7回	第2課 簡単な否定文「～は～ではない」、疑問文「～は～ですか」、人称代名詞	教科書p22－23の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した単語と表現を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	名詞の性(男性・女性・中性名詞)	教科書p35の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	名詞の複数形	教科書p47の新出単語と説明に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第10回	第3課 所有代名詞「私の, あなたの」など, 指示代名詞「この」	教科書p28－29の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第11回	第4課 形容詞「新しい, 古い」など	教科書p32－33の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第5課 動詞の第1変化「読む, 知る」など	教科書p40－41の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第13回	第6課 動詞の第2変化「話す, 見る」など	教科書p44－45の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p18－49練習問題の新出単語, p38－39「単語力アップ」「表現力アップ」に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p11－49で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題、授業内レポートなど
その他	0	
教科書		
『ニューエクスプレスプラスロシア語』黒田龍之助 著(白水社)		
参考文献		

辞書は、『パスポート初級露和辞典』米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 共通外国語					
科目名		ロシア語Ⅱ				ナンバリング	3292
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 理奈						
授業の位置づけ							
本講義はディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。3年次前期科目「ロシア語Ⅰ」の発展となる科目である。							
授業の概要							
この授業は、「ロシア語Ⅰ」に続き、ロシア語の文字に慣れ、簡単な文章を読み、短い文章が書けるようにロシア語の初級基礎文法を習得する。ロシア語の短い文章を、正しい音声の音読と精読で演習し、そのトピックに関する意見を簡単に表現できる力を身に付ける。ロシア語学習とともにロシアの生活習慣や文化についても学び、北海道とロシアの共通と異なりへの理解を深めていく。							
到達目標							

ロシア語の基礎的学習をふまえて, 1. 基本的な単語や文を聞き取れる, 2. 単純な文を読んで内容が分かる, 3. 簡単な語句や文を使って初歩的な応答ができる, 4. 簡単な文章を書ける。

授業の方法

板書やパワーポイントを用いて講義形式で進める。
配布印刷物および視聴覚メディア(DVD, CDなど)の補足教材も活用し説明を行う。

ICT活用

該当なし。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして, 理解度確認テストを回収後, 解答の解説を行う。
レポート課題は, 提出後にコメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	格変化について	シラバスに目を通して, 教科書p62「格について」を読んでおく(90分)	授業で学習したロシアの言語的特徴について復習しておく(90分)
担当教員			
第2回	第7課 с я 動詞, 前置詞と前置格, 名詞の前置格(場所の表現, ~について), 人称代名詞の前置格	教科書p50-51の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第3回	第8課 所有の表現, 命令形	教科書p54-55の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第4回	第9課 名詞の対格(直接目的), 人称代名詞の対格	教科書p60-61の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第5回	第10課 名詞の対格(行き先の表現), 運動の動詞	教科書p64-65の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第6回	練習問題, 挨拶表現, 文法チェック	教科書p50-69練習問題の新出単語, p70-71「単語力アップ」「表現力アップ」, p72-75の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第7回	第11課 動詞の過去形, 場所の表現, 「勉強する」の表現	教科書p76-77の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第8回	第12課 動詞「б ы т ь」の過去形, 天候の表現	教科書p80-81の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第9回	第13課 動詞「б ы т ь」の未来形, 病気の表現, 動詞の不規則変化	教科書p86-87の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第10回	第14課 名詞の生格(所有, 所属, 否定), 人称代名詞の生格	教科書p90－91の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第11回	第15課 名詞の与格(間接目的), 人称代名詞の格変化, 許可の表現	教科書p98－99の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第12回	第16課 名詞の造格(手段, 前置詞 c), 人称代名詞の造格, 必要の表現	教科書p102－103の新出単語と本文に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			

第13回	第17課 名詞の対格(活動体名詞), 個数詞	教科書p96-97「単語力アップ」「表現力アップ」, p118-119の「単語力アップ」「表現力アップ」の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第14回	授業まとめ, 練習問題	教科書p76-107練習問題の新出単語に目を通しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を復習しておく(90分)
担当教員			
第15回	達成度確認テスト, 解説	教科書p50-110で学習した単語, 表現, 文法事項を復習しておく(90分)	授業で学習した表現や文法事項を確認し復習しておく(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する達成度確認テスト, 授業への参加態度, 出席態度, 授業内の課題、授業内レポートなど
その他	0	
教科書		
『ニューエクスプレスプラスロシア語』黒田龍之助 著(白水社)		
参考文献		

辞書は、『パスポート初級露和辞典』米重文樹編/ウラジーミル・タヴリーノフ協力(白水社)を推奨する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		世界と北海道				ナンバリング	1500/3504
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中山 大将						

授業の位置づけ

地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。

授業の概要

本科目は、私たちが暮らす北海道と世界がどのようにつながっているかの理解を深め、北海道に関する知識を深めていく科目である。北海道の主力産業である第一次産業の産品は今や世界の高級ブランドとして消費され、北海道には世界中から観光客が訪れるようになった。また外国人居住者も増加しており、北海道のグローバル化の現状について、学生は様々な分野の統計や詳細データを収集し、その資料を多角的な視点で分析し、データの裏付けから現状と課題を映し出す手法を身に付ける。

到達目標

- ①北海道と世界の関係性についての最新情報を入手し、それを理解したうえで現状を分析できるようになる。
②北海道と世界の関係性を歴史的視野から理解し、長期的視野で現状認識ができるようになる。

授業の方法

- ①反転授業の形態をとりますので、参加者は事前学習(準備学習)として事前学習資料や教科書を事前にしっかり読んでおくことが求められます。
②毎回、事前課題と事後課題をGoogle のClass room(クラスコード:viiqmrllz)から提出することが求められます。
③授業では、事前学習資料や教科書のほか、参加者の提出した事前課題や事後課題も教材として用います。
④授業は、教員による解説の場と言うよりも、参加者の質問に回答したり、参加者が学習内容を理解できているかを確認する場として使います。
⑤授業では、教員が参加者に発言を求めます。

ICT活用

インターネット上の資料を適宜参照する他、Google Classroomを通じた双方向コミュニケーションで補充します。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

- ①毎回の事前課題・事後課題の内容については授業で教材として使います。
②授業最終回以後に提出期限のある事後課題やレポート試験課題については、成績確定後にClass room上で解説を行なう資料を公開します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	なぜ学ぶのか？ ①人はなぜ学ぶのか？ ②なぜ大学で学ぶのか？ ③なぜ「世界と北海道」を学ぶのか？ ④この科目の学習の仕方 ⑤教科書の読み方	合計150分 ①第01回事前学習資料を読む。 ②第01回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第01回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第2回	「北海道」とは何か？ ①なぜ北海道に人が暮らしているのか？ ②北海道にはどんな人々が住んでいるのか？ ③北海道にはどんな産業があるのか？	合計150分 ①教科書②第1章および第02回事前学習資料を読む。 ②教科書②第1章および第02回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③教科書②第1章および第02回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第02回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第3回	北海道と国際経済 ①北海道はどのような国・地域と貿易しているのか？ ②北海道はどのような商品・サービスの国際取引をしているのか？	合計150分 ①第03回事前学習資料を読む。 ②第03回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第03回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第03回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第4回	北海道と国際交流 ①北海道はどのような国・地域と交流しているのか？ ②北海道ではどのような国際交流を行なわれているのか？	合計150分 ①第04回事前学習資料を読む。 ②第04回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第04回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第04回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第5回	北海道と外国人 ①北海道にはどの国・地域の人々がどれくらい暮らしているのか？ ②北海道に暮らす外国人はなぜ、どのように北海道に暮らしているのか？ ③北海道に暮らす外国人とその他の住民の間にどんな問題が起きているのか？	合計150分 ①第05回事前学習資料を読む。 ②第05回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第05回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第05回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第6回	外国人技能実習生と北海道 ①なぜ外国人技能実習生が北海道に暮らしているのか？ ②外国人技能実習生は北海道でどのように暮らしているのか？ ③外国人技能実習生と地域社会はどのような関係性を築いているのか？	合計150分 ①教科書①および第06回事前学習資料を読む。 ②教科書①および第06回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③教科書①および第06回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 第06回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第7回	先住民と北海道(1):近代日本政府とアイヌ ①なぜ、どのようにアイヌは日本国民になったのか? ②旧土人保護法は何が問題だったのか?	合計150分 ①教科書②のはじめにと第2章を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第8回	先住民と北海道(2):近代日本政府とアイヌ ①近代日本においてアイヌはアイヌであることにどう向き合ったのか? ②現代日本においてアイヌであるとはどういうことか?	合計150分 ①教科書②の第3章を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第9回	アメリカと北海道 ①北海道開拓にアメリカはどうかかわったのか? ②第二次世界大戦で北海道は米軍からどのような被害を受けたのか? ③第二次世界大戦後の米軍による占領は戦後北海道にどのような影響を与えたのか?	合計150分 ①第09回事前学習資料を読む。 ②第09回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識が変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第09回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第10回	中国と北海道 ①なぜ中国人農家が北海道開拓に参加したのか？ ②北海道華僑とはどのような人々だったのか？ ③中国人強制連行とは何か？ ④中国残留邦人帰国者とはどのような人々か？	合計150分 ①第10回事前学習資料を読む。 ②第10回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。 ③第10回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第11回	ロシアと北海道(1) 「北方領土」は何が問題なのか？	合計150分 ①教科書③第1部を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第12回	ロシアと北海道(2) 千島にはどのような人々が暮らしてきたのか？	合計150分 ①教科書③第2部を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第13回	ロシアと北海道(3) ①なぜ国境があるのか？ ②サハリン島は誰のものか？	合計150分 ①教科書④のはじめに、第1～2章を読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第14回	ロシアと北海道(4) ①なぜ日ロ間で何度も国境が変わったのか？ ②国境が変わることで住民の生活はどう変わったのか？	合計150分 ①教科書④の第13～4章、おわりにを読む。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計30分 ①教科書の今回読んだ部分や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第15回	まとめ ①学習内容の総復習 ②学び続けるための準備	合計150分 ①第15回事前学習資料を読む。 ②新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計30分 ①第15回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行ないません(学期末のレポート試験課題はあります)。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①全回の授業への積極的参加、事前課題・事後課題の提出:60点。 *いずれかが1回でも欠ければ0点となり単位認定は行ないません(正当な事由による欠席・未提出の場合は特別な措置を講じます)。 ②期末のレポート試験課題:40点。
その他	0	
教科書		
①「お隣は外国人」編集委員会編『お隣は外国人:北海道で働く暮らす』北海道新聞社、2022年。 ②坂田美奈子『歴史総合パートナーズ⑤ 先住民アイヌはどんな歴史を歩んできたか』清水書院、2018年。 ③石郷岡建、黒岩幸子『北方領土の基礎知識』東洋書店新社、2016年。 ④中山大將『歴史総合パートナーズ⑩ 国境は誰のためにある?:境界地域サハリン・樺太』清水書院、2019年。 *本科目の教科書は大学の教科書販売では扱われません。各自で入手しましょう。		
参考文献		

桑原真人、川上淳『北海道の歴史がわかる本 増補版』珣璃西社、2018(2008)年。
＊高校で「公共」「政治・経済」などの科目や「日本史」などの科目を学んだ場合は、その教科書や参考書、ノートなどを用意しておきましょう。

履修条件・留意事項等

履修条件は特にありませんが、履修を予定している場合は第01回教室学習(授業)までに本科目のClass room(クラスコード:viiqmr1z)を観ておきましょう。

備考欄

この科目の授業では、学生に発言を求めますので、授業中の発話などが困難である事情を抱えている場合は、なるべく第01回授業の前までにClass roomなどから担当教員に連絡をとっておくようにしましょう。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		ニセコ国際研修				ナンバリング	1510
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	青 晴海、渡部 淳、Walzem Allen George、宮本 融、巫 靚、石丸 卓						
授業の位置づけ							
就業体験をとおして、国際的な感覚や社会人として必要な知識やスキルを身につける。その過程で、自己に足りない弱みや強みを自覚し、2年時以降に向けた新たな目標設定を行う機会とする。また、これまで各授業で学んだ知識やスキルを、実践の場で活用していく。 ディプロマ・ポリシーの関連では、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（思考・判断・表現）」に最も深く関係し、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。（思考・判断・表現）」につなげていく科目である。							
授業の概要							
この研修は、国際リゾート地として有名なニセコをはじめ、ルスツ、キロロなど、外国人観光客や外国人居住者が多い北海道の国際化推進地域において、インターンシップと国際交流、そして地域交流などを融合させた、異文化体験や地域社会の多様性の理解を促進するものである。身近な地域にある北海道と世界のつながりや、北海道の新しい社会的多様性に触れながら、体験型の学びを行うことを目的としている科目である。							
到達目標							

訪日外国人観光客の動向や北海道観光の特徴を理解し、日本の観光の中での位置づけを説明できる。
ニセコが国際的な観光地として発展した背景や要因を理解し、地域資源や観光戦略の観点から説明できる。
国や地域による旅行スタイルの違いを理解し、国際観光における文化理解の重要性を説明できる。
観光が地域経済や地域文化に与える影響を理解し、地域社会との関係を多面的に考察できる。
現地研修やフィールドワークを通じて観光地の状況を観察し、観光資源や課題について分析できる。
持続可能な観光や地域振興の視点から、今後の観光の可能性や課題について自分の考えをまとめることができる。

授業の方法

本授業は、講義、事例研究、ディスカッション、および現地研修を組み合わせる。前半では、日本および北海道のインバウンド観光の動向や、ニセコ観光の発展過程について講義形式で学ぶ。観光統計、観光政策、地域観光の事例などを用いながら、北海道における国際観光の特徴を理解する。中盤では、ニセコ地域の観光資源、外国人観光客のニーズ、リゾート開発と地域社会の関係などについて事例分析を行う。また、学生同士の意見交換や簡単なディスカッションを通じて、観光地の課題や可能性について考察する。後半では、現地研修(フィールドワーク)を行い、観光施設、観光資源、観光サービスの実態を観察・調査する。研修後には、観察結果を整理し、ニセコのインバウンド観光の特徴や課題についてまとめる。これらの活動を通じて、観光地の実態を多角的に理解する力を養う。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

海外の観光事業の企画・運営に携わってきた経験ある教員が適宜アドバイスを行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1回 授業ガイダンスとインバウンド観光の基礎 授業の目的や進め方を説明するとともに、日本におけるインバウンド観光の基本概念について学ぶ。訪日外国人観光客の増加の背景や、日本の観光政策の流れを理解する。	日本を訪れる外国人観光客の増加についてニュースや資料を調べておく。90分	授業内容をもとに、日本のインバウンド観光の特徴を整理する。90分
担当教員			
第2回	第2回 北海道観光の特徴 北海道の観光資源(自然、食、文化)を整理し、日本の他地域との違いを理解する。北海道観光が国内外から注目されている理由について考察する。	北海道の主要観光地や観光資源について調べておく。90分	北海道観光の特徴や強みについてまとめる。90分
担当教員			
第3回	第3回 北海道のインバウンド観光の現状 訪日外国人観光客の統計データをもとに、北海道を訪れる外国人観光客の国籍や旅行目的、旅行スタイルの特徴を分析する。	北海道を訪れる外国人観光客の国籍や旅行目的について調べておく。90分	統計資料をもとに北海道のインバウンド観光の特徴を整理する。90分
担当教員			

第4回	第4回 ニセコ観光の歴史 ニセコが国際的なスキーリゾートとして発展してきた背景を学ぶ。外国人観光客が増加した要因や地域の観光発展の経緯を理解する。	ニセコ地域の観光やスキーリゾートについて調べておく。90分	ニセコが国際観光地として発展した要因を整理する。90分
担当教員			
第5回	第5回 ニセコの観光資源 ニセコ地域の自然環境や観光資源について学ぶ。スキー、温泉、自然景観など、地域の観光魅力について整理する。	ニセコの自然環境や観光資源について調べておく。90分	ニセコの観光資源の特徴をまとめる。90分
担当教員			
第6回	第6回 外国人観光客のニーズ 欧米やアジアの観光客の旅行スタイルやニーズの違いを理解する。文化的背景の違いが観光行動にどのように影響するかを考察する。	外国人観光客が日本に求める観光体験について調べておく。90分	欧米・アジアなどの旅行者のニーズの違いを整理する。90分
担当教員			

第7回	第7回 リゾート開発と地域社会 ニセコのリゾート開発の過程を取り上げ、外資系企業の進出や地域社会への影響について学ぶ。	ニセコのリゾート開発についてニュースや記事を調べておく。90分	観光開発が地域社会に与える影響についてまとめる。90分
担当教員			
第8回	第8回 観光と地域経済 観光が地域経済に与える影響について学び、雇用創出や地域産業との連携について考察する。	観光が地域経済に与える影響について調べておく。90分	観光と地域経済の関係について授業内容を整理する。90分
担当教員			
第9回	第9回 観光と地域文化 観光の発展が地域文化や生活にどのような影響を与えるのかを理解する。地域文化の保存と観光利用のバランスについて考える。	観光と地域文化の関係について事例を調べておく。90分	観光による地域文化への影響についてまとめる。90分
担当教員			

第10回	第10回 アウトドアツーリズムとニセコ スキー以外の観光(登山、ラフティング、トレッキングなど)を取り上げ、通年型観光としてのアウトドアツーリズムの可能性について学ぶ。	ニセコのアウトドア体験(スキー、ラフティングなど)について調べておく。90分	通年型観光としてのアウトドアツーリズムの可能性を整理する。90分
担当教員			
第11回	第11回 持続可能な観光とニセコ 環境保護や地域社会との共生を踏まえた持続可能な観光のあり方について考察する。	サステナブルツーリズムについて調べておく。90分	ニセコにおける持続可能な観光の課題を整理する。90分
担当教員			
第12回	第12回 観光サービスとホスピタリティ 外国人観光客を受け入れるためのサービスやホスピタリティについて学ぶ。言語対応や文化理解の重要性を理解する。	外国人観光客向けのサービス事例を調べておく。90分	国際観光におけるホスピタリティの重要性をまとめる。90分
担当教員			

第13回	第13回 観光政策と地域連携 観光政策や自治体、民間企業の役割について学び、観光地の運営における連携の重要性を考える。	日本の観光政策や地域観光政策について調べておく。90分	観光地運営における自治体・民間企業の役割を整理する。90分
担当教員			
第14回	第14回 現地研修(フィールドワーク)準備 ニセコでの研修に向けて、調査テーマの設定や観察ポイントを整理する。現地での調査方法や注意点を確認する。	現地での調査テーマを考え、調査したい内容を整理しておく。90分	研修前に観察ポイントや調査項目を整理する。
担当教員			
第15回	第15回 研修成果の整理とまとめ ニセコ国際研修で得た知見を整理し、北海道のインバウンド観光の特徴や課題について総括する。今後の観光の可能性について議論する。	現地研修で得た情報やメモを整理しておく。	ニセコのインバウンド観光の特徴や課題についてレポートとしてまとめる。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題、参加度、出席態度等を総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

高橋克英『なぜニセコだけが世界リゾートになったのか』
 Patrick Thorne『Powder: The Greatest Ski Resorts in the World』
 山内弘隆『観光立国論』、東洋経済新報社。
 溝尾良隆『観光学入門』、有斐閣。
 日本交通公社『観光読本』、日本交通公社出版。
 山田雄一『インバウンド観光入門』、学芸出版社。
 David Beirman『Restoring Tourism Destinations in Crisis』、Routledge。
 C. Michael Hall『Tourism Planning: Policies, Processes and Relationships』、Pearson。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		アウトドア・ツーリズム研修				ナンバリング	1520
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	青 晴海、小西 正人、宮本 融、Todd Robert Enslen						

授業の位置づけ

本講義は、ディプロマポリシーの「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」ことや、「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている」こと、「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」ことなどに関連のある科目である。また1年次科目「ニセコ国際研修」と連携している。

授業の概要

この授業は、集中講義と研修で北海道の観光産業におけるアウトドアスポーツ観光の開発とその観光プロモーションを考えていく。訪日外国人観光客の旅行目的は多様化しており、体験型テーマ旅行の提供が求められているが、北海道はスキー、スノーボードなど、冬季のスポーツを楽しむ場所としては海外でも知名度が高い。近年は、グリーンシーズンのアウトドア・スポーツはニセコ、富良野、キロロなどでのラフティングやカヌー、ハイキング、登山、ゴルフで外国人観光客誘致が活発化しているが、その英語・中国語のガイドやインストラクターが不足している。ここでは、近い将来、アウトドア観光の担い手となる人材育成として、アウトドア・アクティビティの基礎を学。

到達目標

自然体験型観光、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズムなどの概念と特徴を説明できる。
 地形・気候・生態系などの自然条件が、観光活動や地域の観光形態にどのように影響するかを説明できる。
 地域振興、環境保全、教育的価値など、アウトドアツーリズムが地域社会にもたらす効果を理解する。
 自然環境の中で観光活動を行う際のリスク管理や持続可能な利用の考え方を説明できる。
 具体的な地域(北海道など)の事例を通して、自然資源・観光資源・地域社会の関係を考察できる。
 地域の自然資源を活かした体験プログラムや観光の可能性について、自分の考えをまとめて提案できる。アウトドアスポーツの体験を通し、その魅力を把握する。

授業の方法

本授業は、講義と体験学習を2本の柱とする。前半では、アウトドアツーリズムの基本概念や理論、自然資源と観光の関係、世界および日本の事例について講義形式で学ぶ。後半では、北海道を中心とした具体的な地域事例を取り上げ、アウトドアツーリズムが地域振興や環境保全にどのように関わっているかを体験する。

ICT活用

授業では映像資料やオンラインの地図、観光事例のウェブ資料などを活用し、世界および日本のアウトドアツーリズムの事例を視覚的に理解できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

海外の観光事業計画に参加した教員が指導する。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	アウトドアツーリズムの概要 本授業の目的や進め方を説明するとともに、アウトドアツーリズムの基本概念について学ぶ。自然体験型観光、エコツーリズム、アドベンチャーツーリズムなどの違いや特徴を整理し、現代の観光におけるアウトドアツーリズムの位置づけを理解する。	自然体験型観光やアウトドア活動について、自分が経験したことや知っている事例を整理しておく。90分	授業で学んだアウトドアツーリズムの定義や特徴を整理し、観光の中での位置づけをまとめる。90分
担当教員			
第2回	第2回 アウトドアツーリズムの歴史と発展 欧米を中心としたアウトドア文化の形成や国立公園制度の成立を取り上げ、自然と観光の関係がどのように発展してきたのかを学ぶ。また、日本における登山文化や自然観の変化についても考察する。	海外または日本の国立公園や自然観光地について調べておく。90分	アウトドアツーリズムが発展してきた背景を整理し、自然と観光の関係についてまとめる。90分
担当教員			
第3回	第3回 アウトドアツーリズムの種類 エコツーリズム、ネイチャーツーリズム、アドベンチャーツーリズムなどの分類について学び、それぞれの特徴や目的、活動内容の違いについて理解する。世界各地の事例も紹介する。	エコツーリズムやアドベンチャーツーリズムという言葉の意味を調べておく。90分	それぞれのツーリズムの特徴や違いを整理し、具体的な事例をまとめる。90分
担当教員			

第4回	第4回 自然資源と観光資源 地形、気候、生態系などの自然条件が観光資源としてどのように活用されるのかを学ぶ。自然環境と観光活動の関係を理解し、自然を観光資源として活かすための視点を考える。	自然環境が観光資源となっている地域を一つ調べておく。90分	地形・気候などの自然条件が観光に与える影響について整理する。90分
担当教員			
第5回	第5回 国立公園と自然保護 国立公園制度の仕組みと役割について学び、自然保護と観光利用のバランスについて考察する。海外の国立公園と日本の国立公園の管理の違いについても取り上げる。	日本または海外の国立公園の特徴について調べておく。90分	自然保護と観光利用の関係について授業内容を整理する。
担当教員			
第6回	第6回 アウトドアガイドの役割 アウトドアツーリズムにおけるガイドの役割や専門性について学ぶ。自然解説(インタープリテーション)や観光体験の質を高めるためのガイド技術について理解する。	アウトドアガイドの仕事や役割について調べておく。90分	ガイドに求められる知識や技能について整理する。90分
担当教員			

第7回	第7回 安全管理とリスクマネジメント アウトドア活動における安全管理の重要性を学ぶ。自然災害や事故のリスク、事故防止の方法、危機管理の基本的な考え方について理解する。	自然環境の中で起こり得る事故や危険について調べておく。90分	安全管理の重要性とリスク管理の基本についてまとめる。90分
担当教員			
第8回	第8回 アウトドアツーリズムと地域振興 アウトドアツーリズムが地域経済や地域社会に与える影響について学ぶ。観光を通じた地域活性化や地域ブランドの形成について考察する。	観光によって地域が活性化している事例を調べておく。90分	アウトドアツーリズムが地域社会に与える影響について整理する。90分
担当教員			
第9回	第9回 体験型観光の設計 アウトドア体験プログラムの設計方法について学ぶ。観光体験の価値やストーリー性、観光プログラムの魅力を高める要素について理解する。	体験型観光の事例を一つ調べておく。90分	体験プログラムの魅力を高める要素について整理する。90分
担当教員			

第10回	第10回 北海道のアウトドアツーリズム① 北海道の自然環境の特徴を踏まえ、アウトドアツーリズムの可能性について学ぶ。国立公園や自然観光資源の特徴を理解する。	北海道の自然観光地について調べておく。90分	北海道の自然環境が観光にどのように活用されているかを整理する。90分
担当教員			
第11回	第11回 北海道のアウトドアツーリズム② ニセコ、知床、富良野などの地域を事例として取り上げ、アウトドアツーリズムが地域観光にどのように活用されているかを分析する。	ニセコや知床などの観光地について調べておく。90分	地域事例をもとにアウトドアツーリズムの特徴をまとめる。90分
担当教員			
第12回	第12回 インバウンドとアウトドアツーリズム 外国人観光客の増加とアウトドアツーリズムの関係について学ぶ。欧米を中心とした旅行者のニーズや、日本の自然観光の魅力について考察する。	外国人観光客に人気の自然観光地を調べておく。90分	外国人観光客のニーズと日本の自然観光の特徴について整理する。90分
担当教員			

第13回	第13回 持続可能なアウトドアツーリズム 環境保全と観光の両立について学び、サステナブルツーリズムの考え方を理解する。自然資源の保全や地域社会との共生について考察する。	サステナブルツーリズムという概念について調べておく。90分	環境保全と観光の両立について授業内容をまとめる。90分
担当教員			
第14回	第14回 アウトドアツーリズムのビジネス アウトドアツアー事業、装備産業、観光関連ビジネスなど、アウトドアツーリズムの産業構造について学ぶ。地域産業との連携についても考える。	アウトドア関連産業(ツアー会社、装備メーカーなど)について調べておく。90分	アウトドアツーリズムの産業構造と地域との関係を整理する。90分
担当教員			
第15回	第15回 まとめと今後の展望 授業全体の内容を振り返り、アウトドアツーリズムの将来性や課題について整理する。気候変動や観光需要の変化を踏まえ、これからのアウトドアツーリズムの可能性について考察する。	これまでの授業内容を振り返り、印象に残ったテーマを整理しておく。90分	事後学習:アウトドアツーリズムの将来の可能性や課題について自分の考えをまとめる。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業で出された課題(50%)、参加度(30%)、出席態度(20%)を総合的に判断して成績を出す
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

山下晋司『観光人類学』、新曜社。
 日本エコツーリズム協会『エコツーリズム入門』、学芸出版社。
 J. Swarbrooke et al.『Adventure Tourism: The New Frontier』、Butterworth-Heinemann。
 David Weaver『Ecotourism』、Wiley。
 Hall, C. M. & Page, S.『The Geography of Tourism and Recreation』、Routledge。
 Fredman, P. & Tyrväinen, L.『Frontiers in Nature-Based Tourism』、Routledge。
 環境省『国立公園に関する各種資料・報告書』。
 日本政府観光局『インバウンド観光統計・観光白書』。
 Adventure Travel Trade Association:アドベンチャーツーリズムに関する国際市場調査
 日本エコツーリズム協会:日本のエコツーリズム事例
 観光庁:観光政策・観光統計資料

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の食文化				ナンバリング	2530
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、渡部 俊弘、松田 祐						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにおける「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」、および地域未来学科のディプロマ・ポリシー「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」こととも関係がある。							
授業の概要							
この授業は、北海道の先住民であるアイヌ民族の生活からの食文化について。シャケなどを例に挙げ、生活様式と食文化の関連をアイヌ文化の観点から講述する。一方、明治2年、蝦夷地は北海道に改名され、開拓とともに日本各地から人々が移住してきた。そのような歴史的背景と地域特性から食生活が多様化し、ジンギスカンや石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼きなどの郷土料理が生まれた。その観点からも北海道の食文化を講述する。							
到達目標							

1. (知識) 国際的かつ歴史的な観点から、食が文化の創造や現代社会の基盤形成に果たす役割について説明できる。 2. (思考・判断・表現) 「食文化」が社会の各分野に与える影響を多角的に観察し、様々な事象と関連づけることができる。 3. (思考・判断・表現) 絶えず変化する時代(VUCAの時代)において、獲得した食文化の基礎知識をもとに現代の社会構造を再考し、自身の考えを論じることができる。

授業の方法

教員作成パワーポイント資料、印刷物・動画資料などを用いて講義形式で展開し、社会の実務者による講義も行う。また、学生間での対話(ディスカッション)を含むチーム学習も行う。

ICT活用

授業内容に関連するホームページや動画を用いる。課題などのやり取りにGoogle classroomを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

ディスカッションなどのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	〈はじめに〉「北海道の食文化を理解するために」 北海道の食文化や、食べることは総合的な学問体系の基礎につながると考える。人々の食生活はその国や地域の歴史や地形、気候等を基礎として決定づけられており、例えばそこに派生する「農業」を理解するためには、食文化が総合的な学びであることへの理解が必須である。その他、民族や食生活、産業や海外文化等の要素と関連づけて講述する。	シラバスをよく読み、自らの問題意識を整理すること。また、「北海道の食文化」の自分なりのイメージを持っておくこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第2回	「北海道の食文化とアイヌ～漫画『ゴールデンカムイ』から～」 アイヌ民族と食との関係についての理解深化を目指し、アイヌ関連資料を用いて講述する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第3回	「北海道内各地の食文化を比較する(道北・道南・道東・道央など)」／「食を支える栄養学」 ・道内各地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第4回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関東・東北地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関東・東北地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第5回	「北海道の食と日本各地の食文化を比較する(関西・九州・四国地方など)」／「食を支える栄養学」 ・関西・九州・四国地方の郷土料理 ・食と、食を支える栄養学の関係 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第6回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(ヨーロッパ編)」 ・イタリア:スローフード(Citta Slow)の考え方 ・フランス:食の都パリ、国が食を大事にする精神性・スペイン:食を柱とした地域の活性化の成功例 ・鶴岡新太郎とフランス料理(料理法百たい(1)、料理法百たいに学ぶ) など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第7回	「北海道の食と世界の食文化を比較する(アジア編)」 ・中国、韓国: 日中韓の食事様式について	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な素養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	〈まとめ〉「食糧難の時代 2050年に備えて」 ・人口増大のピークにむかう地球(総人口90億人へ) ・世界情勢と食糧危機 ・国際学部生として大切なこと など	これまでの授業の全体像を見つめ直し、自分にとって必要な素養や知識について整理しておくこと。(90分)	これまでの授業を踏まえ、今後自分にとって何が重要なポイントか、必要に応じて文献などを用いて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第9回	「ガイダンス／その他の学びへと派生する(北海道の)食」 ・「(北海道の)食や食べること×その他の総合的な学問体系」の関係性 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		

第10回	「北海道の食文化の誕生と郷土料理」 ・北海道の食文化と郷土料理(ジンギスカン、石狩鍋、鮭のちゃんちゃん焼き等)、食文化の歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第11回	「北海道の遺跡からわかる食文化(仮)(恵庭市郷土資料館長町 章弘 学芸員)」 北海道及び恵庭市の歴史について展示等を通して学びに繋げる取組を行っている社会教育施設の現場に従事する実務者による実践的な講義を通して、北海道の歴史や民族について考察する。	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第12回	「北海道の食を支える人と産業」 ・北海道の食を支える主な食産業、歴史 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		

第13回	「地理と食産地の関係」 ・実は暗記科目ではない「地理」 ・「地理」から見つめてみる世界の食産地 など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第14回	「海外の食について」 ・日本以外の国や地域で生産されている原材料 ・海外の食文化について	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
第15回	〈まとめ〉「〈食べること〉がなぜ重要なのか？」 ・食糧自給率の仕組み ・学園のルーツである「食」と多様性を認める時代の「食」など	授業内での指示課題や指定課題を行うこと。(90分)	配布プリント、講義内容を復習し、必要に応じて調べること。(90分)
担当教員	松田 祐		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回に行う演習課題で評価する。
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

「食の歴史」(ジャック・アタリ著、プレジデント社)、「ゴールデンカムイ」シリーズ(野田サトル著、集英社)。その他は授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科および国際コミュニケーション学科2年次の選択科目であるが履修することが望ましい。

備考欄

ゲストスピーカー(実務者)の講義内容、講義日程は変更となる場合がある。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		北海道の社会と文化(多文化共生)				ナンバリング	2540
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松田 剛史						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」や「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」とも関係する。							
授業の概要							
この授業は、北海道の歴史を再認識し、アイヌや外国人移住者も含めた多様な人々が安心して暮らせる地域社会の実現には何が必要か、これからの多文化共生社会のありかたを考えていく。ここでいう多文化共生とは、言語や民族、肌の色、背が高いか低い、左利きか、右利きか、男か女か、障がいの有無、宗教、出身、学歴、収入、家族形態、年齢など、皆異なっていることを優劣の価値観や偏見としてみるのではなく、個性としてとらえていく。授業では、ウポボイ(民族共生象徴空間)や北海道の歴史博物館の見学も行う。そこから、地域社会がみなで持続的に共生していくための意識化をはかる。							
到達目標							

1.共生社会とは何かを述べることができるようになる。
 2.自らが積極的に学習を進め、北海道のこれまでの歴史が説明できるようになる。
 3.これからの多文化共生のありかたについて述べるようになる。
 (2年次の配当科目であるため、各授業ごとに、事前・事後の課題を出します。事前・事後課題の提出が守れない場合は、この授業の到達目標に達することができないと判断し、成績を評価していきます)

授業の方法

テキストとスライド等を使用し講義を進める。また、2回の学外フィールドワーク授業やプレゼンテーション活動なども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。また、Google formやGoogleスライドなどの作業ツールも活用する。さらに動画を使ったプレゼンテーション作成にも取り組む。

実務経験のある教員の教育内容

プロジェクトマネジメントやNPO運営、学校教員や自営業での実務経験があり幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、社会活動的な実践的内容の指導も行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間やGoogleクラスルーム、LINEオープンチャット等において随時伝達、共有する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 北海道を概観する① ～古代から近世～	テキストをもとに、北海道の古代から近世の内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	北海道を概観する② ～近代から現代～	テキストをもとに、北海道の近代から現代の内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	調査結果のプレゼン活動の計画	調査結果のプレゼンをどのような形で行うと効果的かについて情報を収集しまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	フィールドワーク①に向けて～北海道博物館(野外博物館含む)での調査企画と準備～	北海道博物館について調べ、内容をまとめること(90分)	授業内容を復習しまとめること(90分)
担当教員			
第5回	フィールドワーク①-1～北海道博物館～	北海道博物館での調査活動計画について情報を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめること(90分)
担当教員			
第6回	フィールドワーク①-2～北海道博物館～	北海道博物館での調査活動内容について情報を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめること(90分)
担当教員			

第7回	フィールドワーク①-3～北海道博物館～	北海道博物館での調査活動をもとにしたプレゼン活動に向け、計画を立てておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容をまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	フィールドワーク②に向けて～ウポポイと二風谷での調査企画と準備～	ウポポイと二風谷について調べ、内容をまとめておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			
第9回	フィールドワーク②-1～ウポポイと二風谷～	ウポポイと二風谷での調査活動計画について情報を整理しておくこと(90分)	授業内容を復習しまとめておくこと(90分)
担当教員			

第10回	フィールドワーク②-2～ウポポイと二風谷～	ウポポイと二風谷での調査活動 内容について情報を整理しておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容を まとめておくこと(90分)
担当教員			
第11回	フィールドワーク②-3～ウポポイと二風谷～	ウポポイと二風谷での調査活動 をもとにしたプレゼン活動に向け 、計画を立てておくこと(90分)	行ったフィールドワークの内容を まとめておくこと(90分)
担当教員			
第12回	プレゼン活動に向けての作業①～企画案の作成～	北海道博物館、ウポポイと二風 谷での調査活動をもとにしたプ レゼン活動に向け、情報を整理 しておく(90分)	プレゼン活動に向けて必要な作 業をしておくこと(90分)
担当教員			

第13回	プレゼン活動に向けての作業②～プレゼンの作成と準備～	プレゼン活動に向けて必要な作業をしておくこと(90分)	プレゼン活動に向けて必要な作業を完成させておくこと(90分)
担当教員			
第14回	調査結果プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと(90分)	プレゼンテーション評価を完成させておくこと(90分)
担当教員			
第15回	北海道の社会と文化をまとめる	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	これまでの内容を整理しまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①学習内容の理解に向けて主体的に取り組むパフォーマンス(認知度)30%:学習者ログノート ②能動的かつ協働的に学習活動へと取り組むパフォーマンス(参加度)30%:学習状況の観察 ③各種学習成果(学修度)40%:考査や提出物等
その他	0	
教科書		
書籍名:ニッポンを解剖する! 北海道図鑑 出版社:ジェイティビィパブリッシング 発売日:2019/4/11 ISBN-13:978-4533133022		
参考文献		

講義内で連絡する

履修条件・留意事項等

- ・本講義の意味をしっかりと意識した者が授業すること。
- ・授業に主体的かつ能動的に参加できる者の受講を基本とする。
- ・授業準備がなされていることを前提とした授業時間であることを十分留意して授業に臨むこと。
- ・授業計画は学習状況や外部講師／機関との調整によって講義回が前後したり変更することがある。
- ・Google formやGoogle スライド、mentimeter、MiroといったICTツールを活用して授業を展開する。また、活動にはzoomなどのオンライン会議ツールを活用する場合がある。
- ・フィールドワークでは講義日時以外(土日休含む)での活動がある。
- ・フィールドワークでは大型バスでの移動が伴うため、履修人数の制限がある。履修人数がオーバーした場合には、これまでの単位取得状況等により判定することがある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		学部共通科目 北海道スタディーズ					
科目名		地域連携プロジェクト				ナンバリング	3550
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

本講義は、地域社会と連携しながら課題解決に取り組む実践的な科目として位置づけられる。大学の近隣地域を対象に、多文化共生の視点を取り入れた防災マップの作成を行い、地域社会が抱える課題を理解するとともに、地域住民や外国人住民の視点を踏まえた防災のあり方について考える。フィールドワークや調査、意見交換を通じて、地域社会の現状を把握し、地域と大学が協働して課題解決に取り組む方法を学ぶ。本講義は、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に適応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断する能力を身につけている。」というディプロマポリシーに関連しているものである。」というディプロマポリシーに関連しているものである。

授業の概要

この授業は、地域連携の基本的な考え方を理解する。一方で、地域連携プロジェクトに参加、体験的な学習を行い、現場での知識も会得する。実際は、本学がある恵庭市と連携し、地域の活性化に貢献すべく、学生が地域の課題について取り組み、活力ある地域の街づくりに参加していくものである。花のまち・恵庭市が推進する「ガーデンシティー」を支援する花いっぱい運動への学生参加、市内小中学校へ留学生を派遣しての国際交流機会の提供(TAの派遣)、地域コミュニティーラジオでの学生番組の企画・制作・運営、ハロウィーン・ナイトの企画・参加(商工会議所との共催)など、本学はこれまで恵庭市と様々な形で連携してきた。今後は周辺地域との連携も視野に、隣接の千歳市との連携、千歳駅前商店街の活性化における事業企画の立案・運営を通してまちづくり活動に参画することで、地元意識の醸成、愛着を持てる地域づくりを図っていく。

到達目標

地域社会の現状や課題について理解し、多文化共生の視点から地域防災の重要性を説明することができる。
フィールドワークや調査を通して地域の防災環境を把握し、外国人住民にも配慮した防災マップの作成に主体的に取り組むことができる。
地域住民や関係者との意見交換やグループ活動を通じて、地域課題の解決に向けた協働的な学習を行うことができる。
調査結果や活動内容を整理し、防災マップや発表資料としてまとめ、地域社会に向けて分かりやすく発信することができる。

授業の方法

本講義は、講義と実習を組み合わせた形で実施する。授業では、多文化共生や地域防災に関する基礎的な知識を学ぶとともに、大学の近隣地域を対象としたフィールドワークや調査活動を行う。学生はグループで地域の防災環境や避難経路、危険箇所などを確認し、地域住民や関係者の意見も参考にしながら、多文化共生の視点を取り入れた防災マップの作成に取り組む。また、調査結果の整理や意見交換、発表を通して、地域課題を多角的に考察し、実践的な問題解決能力を養う。

ICT活用

防災マップ作成にあたっては、地図アプリケーションやオンライン地図、デジタル資料などのICTツールを活用し、地域の危険箇所や避難場所の情報を整理する。さらに、調査結果や作成した防災マップの共有・発表においてもICTを活用し、情報の整理や発信を行う。

実務経験のある教員の教育内容

海外のフィールドで10年程度駐在し、プロジェクトの計画・運営をしてきた教員が指導する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で提出された調査結果や課題レポート、作成した防災マップについては、授業内で講評を行い、改善点や優れた点を具体的に示すことで理解の深化を図る。また、グループ活動の進捗状況に応じて適宜指導や助言を行い、課題の改善につなげる。必

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと地域連携学習の目的 授業の目的、進め方、評価方法を説明する。地域連携型学習の意義を理解するとともに、本演習で取り組む多文化共生型防災マップ作成の概要について学ぶ。	地域防災や多文化共生に関する基本的な内容について、ニュースやウェブ資料を調べておく。90分	授業で説明された演習の目的や地域連携の意義について整理する。90分
担当教員			
第2回	地域防災の基礎理解 日本の防災体制や地域防災の仕組みについて学び、災害時における地域コミュニティの役割について理解する。	日本の主な自然災害や地域防災の仕組みについて基礎的な情報を調べておく。90分	地域社会における防災の重要性について授業内容を整理する。90分
担当教員			
第3回	多文化共生と外国人住民の課題 外国人住民が地域で生活するうえで直面する課題や、災害時の情報格差について学び、多文化共生の視点から防災を考える。	外国人住民が地域で生活する際の課題や、多文化共生の取り組みについて調べておく。90分	災害時に外国人住民が直面する可能性のある問題について整理する。90分
担当教員			

第4回	防災マップの役割と事例研究 各地で作成されている防災マップの事例を紹介し、防災マップの目的や活用方法について理解する。	各自治体で作成している防災マップの事例を一つ調べておく。90分	防災マップに必要な情報や役割について授業内容をまとめる。90分
担当教員			
第5回	地域の現状把握と調査計画 大学周辺地域の特徴や防災環境を確認し、フィールドワークの方法や調査項目を検討する。	大学周辺地域の地理的特徴や防災環境について簡単に調べておく。90分	フィールドワークの調査内容や調査方法について整理する。90分
担当教員			
第6回	フィールドワーク①(地域調査) 地域を歩きながら、避難場所、危険箇所、防災施設などを確認し、防災マップ作成のための基礎情報を収集する。	地域調査の目的や観察ポイントを確認しておく。90分	調査で得られた情報や気づいた点を整理する。90分
担当教員			

第7回	フィールドワーク②(追加調査) 地域の詳細な調査を行い、外国人住民の視点から見た防災上の課題についても確認する。	前回の調査内容を振り返り、追加で確認すべきポイントを整理しておく。90分	地域の危険箇所や防災上の課題についてまとめる。90分
担当教員			
第8回	調査結果の整理 フィールドワークで得られた情報を整理し、地域の防災上の課題や特徴についてグループで分析する。	フィールドワークで収集した情報を整理しておく。90分	地域防災の課題についてグループで共有した内容をまとめる。90分
担当教員			
第9回	防災マップ作成①(構成検討) 収集した情報をもとに、防災マップの構成や掲載する情報の整理を行う。	防災マップに掲載する情報の種類について確認しておく。90分	作成したマップの構成や内容を整理する。90分
担当教員			

第10回	防災マップ作成②(地図作成) 地図上に危険箇所や避難経路などの情報を整理し、多文化共生の視点を取り入れた防災マップ作成を進める。	地図作成に必要な情報やデータを整理しておく。90分	作成したマップの改善点を整理する。90分
担当教員			
第11回	防災マップ作成③(情報整理) 外国人住民にも理解しやすい表現や情報の提示方法を検討し、防災マップの内容を改善する。	外国人住民にも分かりやすい表現や多言語情報の事例を調べておく。90分	多文化共生の視点からマップ内容を見直す。90分
担当教員			
第12回	防災マップの完成と確認 作成した防災マップを見直し、内容や表現について最終調整を行う。	これまで作成した内容を確認し、修正点を整理しておく。90分	完成した防災マップの特徴や工夫した点をまとめる。90分
担当教員			

第13回	第13回 成果発表準備 グループごとに活動内容や作成した防災マップを整理し、発表資料を作成する。	発表内容や資料の構成を整理しておく。90分	発表資料を修正し、内容を整理する。90分
担当教員			
第14回	成果発表 グループごとに防災マップ作成の成果を発表し、他のグループとの意見交換を行う。	発表内容を確認し、説明の流れを整理しておく。90分	他のグループの発表内容を踏まえ、地域防災についての理解を整理する。90分
担当教員			
第15回	まとめと振り返り 授業全体を振り返り、地域連携活動を通じて得られた学びや今後の地域防災のあり方について考察する。	これまでの授業内容を振り返り、印象に残った学びを整理しておく。90分	地域連携活動を通じて得られた学びや今後の課題についてまとめる。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度・出席態度(50%)、多文化共生マップ作りを最終的な成果(50%)として、評価する。
その他	0	
教科書		
教科書はありません。		
参考文献		

東京:外国人向けハザードマップ
 仙台市:多文化防災マップ・支援体制
 京都市:多言語防災マップ
 鶴岡市:外国人向け防災ガイド

履修条件・留意事項等

備考欄

大学周辺でのヒアリング・調査を行います。
 北海道いしかり振興局からの支援を受けて行う授業となります。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Writing				ナンバリング	1601
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本講義は、「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」ことや、「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」こと、「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている」ことなど、すべてのディプロマポリシーと関連がある科目である。

授業の概要

本講義は、英語エッセイ・ライティングの基礎習得を目的とする。導入(Introductory paragraph)、本論(Body paragraphs)、結論(Concluding paragraph)といった標準的な構成方法を学び、多様なジャンルで説得力のあるエッセイを書く技術を養う。さらに、学生同士でエッセイを評価し合う「ピア・レビュー(Peer Review)」を通じ、客観的な視点から文章を推敲できる能力を身に付けることを最終目標とする。

到達目標

- ・英語パラグラフ・ライティングの構成方法を理解することができる。
- ・さまざまなジャンルのパラグラフの構成方法について理解し、効果的なパラグラフを書くことができる。
- ・相手を書いたパラグラフを読んで、改善点を指摘するなど評価することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課されるライティング課題に取り組みながら、英語のパラグラフの構成方法を身につけるとともに、ある程度まとまった文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるようにする。

ICT活用

WebアプリのPear DeckやKahoot!などを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・ライティングにおける目的と読み手意識の重要性について学ぶ。 ・自己紹介のパラグラフを作成する(ライティング課題①)。	シラバスをよく読み、教科書を準備する。(90分)	教科書のChapter 1を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第2回	Chapter 1 Describing People ① ・Pre-writingの手法としての質問、ノートテイキングの仕方について学ぶ。 ・パラグラフの構成について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Chapter 1 Describing People ② ・パラグラフのフォーマットについて学ぶ。 ・物事を描写するために必要な語彙について学ぶ。 ・Andとorを用いたセンテンス・コンバイニングについて学ぶ。 ・描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題②)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ① •Pre-writingの手法としてのClusteringの仕方について学ぶ。 •Listing-Order Paragraphの構成方法について学ぶ。 •Topic sentenceの書き方について学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ② •Supporting sentencesの書き方について学ぶ。 •Listing order transition signalsについて学ぶ。 •ライティングをする上で重要なUnityについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ③ •Concluding sentenceの書き方について学ぶ。 •Listing-Orderのパラグラフを書く準備をする。(ライティング課題③-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	Chapter 2 Listing-Order Paragraphs ④ ・Peer reviewの仕方について学ぶ。 ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題③-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第8回	Chapter 1とChapter 2のまとめを行う。	Chapter 1とChapter 2の復習を行う。(90分)	教科書のChapter 3を参照し、次の授業への準備を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Chapter 3 Giving Instructions ① ・Pre-writingの手法としてのListingの仕方について学ぶ。 ・“How-To”パラグラフの構成方法について学ぶ。 ・Time orderとListing orderのtransition signalsについて学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第10回	Chapter 3 Giving Instructions ② ・Pre-writingで作成したリストからアウトラインを作成する方法について学ぶ。 ・Capitalization、コンマの使用の注意点について学ぶ。 ・“How-To”パラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題④-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第11回	Chapter 3 Giving Instructions ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題④-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第12回	Chapter 4 Describing with Space Order ① ・Space orderの構成方法について学ぶ。 ・Topic sentenceを構成するtopicとcontrolling ideaについて学び、効果的なTopic sentenceの書き方を学ぶ。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Chapter 4 Describing with Space Order ② ・具体的な詳細(Specific details)を加えたSupporting sentencesの書き方について学ぶ。 ・センテンス・コンバイニング(pp.131-132)に取り組む。 ・Spacing orderを用いた描写のパラグラフを書く準備を行う。(ライティング課題⑤-1)	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			
第14回	Chapter 4 Describing with Space Order ③ ・実際に書いてきたパラグラフのPeer reviewを行う。 ・Peer reviewのコメントをもとに最終稿を完成させる。(ライティング課題⑤-2)	自分の書いたライティング課題を見直して、印刷をし、Peer reviewの準備を行う。(90分)	Peer reviewでもらったコメントをもとに最終稿に取り組む。(90分)
担当教員			
第15回	Chapter 3とChapter 4のまとめを行う。	Chapter 3とChapter 4の復習を行う。(90分)	講義全体の振り返りを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	ライティング課題 60% 授業内試験 40%
その他	0	特になし。
教科書		
Ann Hogue Longman Academic Writing Series 2, Paragraphs, Third Edition, Pearson		
参考文献		

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Academic English Reading				ナンバリング	2604
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本講義は、すべてのディプロマポリシーと関係があるが、特に「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」ことと関連がある科目である。

授業の概要

この授業は、さまざまな学術的なトピックの英文テキストにおける読解力を身に付けることを目的とする。授業では、心理学、社会学、政治学などさまざまな分野のアカデミックな題材のテキストを読むための読解ストラテジーを身に付け、題材の主題や概要、詳細を把握できるようになることを最終目標とする。

到達目標

Students will learn to read English texts in various fields such as psychology, sociology, political science, etc., They will learn to use reading comprehension strategies, and learn how to best grasp the subject, outline, and details of the subject matter.

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, group work as well as work individually on various tasks.

ICT活用

This class utilizes Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable.

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	In this class, students will learn how to proceed with the class, assignments, and learn about evaluation methods.	Register for the LMS; read the syllabus, peruse the textbook, and generate questions (90 minutes)	Reflect on the orientation discussion, review notes, send a greeting message to the LMS. (90 minutes)
担当教員			
第2回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of health science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第3回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第4回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of linguistics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第5回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 1-3.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第6回	In this lesson, students will develop skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of zoology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第7回	In this class, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of social psychology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第8回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the field of art.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第9回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Units 4-6.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第10回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of sociology.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第11回	In this lesson, students will learn skills and practical techniques for reading academic literature in the field of political science.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第12回	In this lesson, students will review, expand and deepen the learning they have done in Lessons 7 and 8.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			

第13回	In this lesson, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of economics.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第14回	In this class, students will learn the skills and practical techniques for reading academic literature in the discipline of neuroscience.	Check the LMS, read the textbook and do the assigned exercises. (90 minutes)	Review the textbook and the exercises. (90 minutes)
担当教員			
第15回	In this class, students will review what they have learned in this class and take an in-class exam.	Review previous lessons to reconfirm what you have learned in this class. (90 minutes)	Reflect on your learning so far, and try to plan a way to keep increasing your knowledge and reading ability in the future. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	No such test
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Weekly quizzes 50% In-class exams 50%
その他	0	Not applicable
教科書		
READING SKILLS FOR COLLEGE 1, Elizabeth Bottcher, Pearson		
参考文献		

Will be handed out in class.

履修条件・留意事項等

Not applicable.

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Integrated Academic English I				ナンバリング	3606
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本講義はディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている」こと、「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている」こと、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。2年次科目「Academic English Writing I/II」、「Academic English Reading」と連携している。

授業の概要

この授業は、1年生から学習してきたアカデミック英語科目のまとめと位置付けられ、英語で行われる講義を聴いて、その内容を理解するために必要な講義の構造の理解や、ノート・テイキングの方法を身に付けることを第一目標とする。さらにはその講義から得た情報を口頭で伝えたり、要約を作成できるようになることを最終目標とする。

到達目標

目標は、大学院を含む、より高いレベルの英語学習に備えることです。そのために、4つの領域すべてにおいて生徒の総合的な能力を高める。具体的に 1.より高度な学術的内容が書ける。2.実際のネイティブスピーカーの内容を通常のスPEEDで聞き取れる。3.学術的な文章が読める。4.ギブ・アンド・テイクのディスカッションの場で構造化された議論ができる。

授業の方法

Comprehending academic texts, vocabulary building, group discussions, academic writing activities, and peer editing will be the main components of this course.

ICT活用

The class will make use of Google Classroom to provide access to course material. Video content will also be shown to students at certain points in the course.

実務経験のある教員の教育内容

none

課題に対するフィードバックの方法

Answers to tests will be given after the tests have been completed and graded tests will be shown to the students along with individual and class feedback.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Intro-Pronunciation , orientation- Practice one	Read the syllabus and note down any questions you want to ask. 90分	Review the content of the syllabus and reflect on the themes and goals. 90 分
担当教員			
第2回	Spoken grammar: Phrasal 1…TV 1	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第3回	Spoken grammar: Phrasal 2…TV 1 part 2	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第4回	Spoken grammar: Phrasal 3...Revising and editing review...Abbot and Costello, Grammar Homework 1	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第5回	Spoken grammar: "How often..." Revising and editing Review 2, "Tell Me About", Grammar Homework 2	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第6回	spoken grammar: for since... process essay WRITING ONE	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第7回	Spoken grammar: Using "since" with clauses...TV 2 Vocabulary and reading practice	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第8回	Midterm exam	Prepare by studying the target vocabulary and writing essay styles as practiced in class. 90分	Reflect on the test and writing assignment, try to identify your weaknesses and work on addressing them. 90分
担当教員			
第9回	Spoken grammar "I've driven Trucks?" "I've never eaten"-- Division and Classification essay, Grammar Homework 3	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第10回	Spoken grammar: Have You Ever Seen a Rainbow?/ Have You written report? And: Division and classification cont.	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第11回	Editing practice, Peer editing activity	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第12回	Spoken grammar: "He's already gone bowling this week", Crossword, Grammar Homework 4	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			

第13回	Cause and effect essay, TV 3	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第14回	Compare and Contrast Essay, TV 3 part 2	Read the assigned pages in the textbook and check any words you don't understand. 90分	Review lesson, readings, and vocabulary. 90分
担当教員			
第15回	Final Exam	Prepare by studying the target vocabulary and writing patterns from course 90分	Consolidate the course content. 90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Participation: 30%; midterm assessments: 30%; final assessments: 40%
その他	0	
教科書		
Packet will be provided by Professor Walzem		
参考文献		

Taishukan's Genius English - Japanese Dictionary, 第5 edition, 大修館書店;

履修条件・留意事項等

none

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際教養英語					
科目名		Integrated Academic English II				ナンバリング	3607
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	釣 晴彦						
授業の位置づけ							
この講義は、国際教養学科の全てのディプロマポリシーと関連し、特に「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」と関連している。この授業は、Integrated Academic English I の発展の授業と位置付けられ、国際教養英語のまとめの講義となる。							
授業の概要							
この授業は、Integrated Academic English I の発展の授業と位置付けられる。授業では、Integrated Academic English I で学習した内容をさらに発展させ、英語で行われる講義を聴き取り、そこで得た情報を基に自分の意見を述べるレポートを作成したり、他の学生と意見を口頭で交換できる能力を身に付けることを最終目標とする。学生たちは、授業前にChapterのテーマに関わる文献や記事を探して読み、日本語でテーマに関わる背景知識を得てから参加することが求められる。							
到達目標							

- ・英語パラグラフ・ライティングの構成方法を理解することができる。
- ・さまざまなジャンルのパラグラフの構成方法について理解し、効果的なパラグラフを書くことができる。
- ・相手が書いたパラグラフを読んで、改善点を指摘するなど評価することができる。

授業の方法

基本的には、板書及び、プレゼンテーションソフトや授業支援用のwebアプリ、ハンドアウトを活用して講義形式で進める。講義内で課されるライティング課題に取り組みながら、英語のパラグラフの構成方法を身につけるとともに、ある程度まとまった文章を書くために必要な技法を身につける。また、学生同士の相互評価(Peer review)を通して、読み手意識をもって文章を書けるようにする。

ICT活用

WebアプリのPear DeckやKahoot!などを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

高校教員として長い間実践教育を行ってきた。また、大学でも小学校・中学校・高校と現場を訪問して学生達と知見を広げてきたのでその実践教育を取り入れていく。

課題に対するフィードバックの方法

それぞれのライティング課題において、Google classroomなどを介してフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・講義理解リスニングテスト(Pre-test)を行う。”	Integrated Academic English I の学習を振り返り、講義理解リスニングテストに備える。(90分)	テストの出来を基に、自分に不足している部分を分析する。(90分)
担当教員			
第2回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】① 1. Getting Started (pp. 86-87) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・雑音がある環境下でのリスニングに取り組む。 2. Real-Life Voices (pp. 86-87) ・トピックに関わる語彙の学習とディスカッションを行う。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第3回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】② 2. Real-Life Voices (pp. 90-93) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第4回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.96-101) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、Outlineの形でノートをまとめ、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第5回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 5 Earth's Atmosphere】④ ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、Chartの形でノートをまとめ、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第6回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】① 1. Getting Started (pp. 102-104) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・天気予報のリスニングに取り組む。 2. Real-Life Voices (p.105) ・天気現象に関わる語彙を学び、それらの現象の体験談について学生同士で議論する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義内で行った準備をもとに、ライティング課題に取り組む。(90分)
担当教員			

第7回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】② 2. Real-Life Voices (pp. 106-107) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。 ・トピックについての“humor”を理解する。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第8回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.111-113) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、理解を確認する。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第9回	Unit 3 The Air Around Us 【Chapter 6 Weather and Climate】④ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.114-116) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第10回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】① 1. Getting Started (pp. 125-127) ・トピックに関わるリーディングパッセージを読んで、背景知識を活性化させる。 ・昆虫、動物、植物に関わる必要な情報を聴き取る練習を行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第11回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】② 2. Real-Life Voices (pp. 128-132) ・トピックに関わる3つのインタビューを聴き、内容の理解と語彙の学習を行う。	トピックに関わる内容の事前学習を行う。教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる(90分)。	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第12回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】③ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.135-138) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な内容のディスカッションと語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 1)を聴き、理解を確認する。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			

第13回	Unit 4 Life on Earth 【Chapter 7 Plants and Animals】④ 4. Academic Listening and Note Taking (pp.139-141) ・英語講義を聴く前に、理解に必要な語彙の学習を行う。 ・英語講義(Lecture Part 2)を聴き、理解を確認する。 ・講義を聴いて得た知識をもとに小グループでディスカッションを行う。	教科書の該当箇所を読み、知らない語彙や表現について事前に調べる。(90分)	講義の内容の復習を行う。(90分)
担当教員			
第14回	Oral Presentation ・Oral presentationを行う。	Oral presentationの準備を行う。(90分)	他の学生のOral presentationと自分のものを比較し、足りない部分を分析する。(90分)
担当教員			
第15回	講義理解リスニングテスト(post-test)	14週までの授業の復習を行い、講義理解テストの準備を行う。(90分)	授業を通して、どれほど力がついていた部分と足りない部分を分析し、今後の英語学習の方法を考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題40% 単語テスト20% 講義理解リスニングテスト:20% Oral presentation: 20%
その他	0	特になし。
教科書		
Yoneko Kanaoka Academic Encounters Level 1 Student's Book Listening and Speaking 2nd edition Cambridge		
参考文献		

講義内で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業には真剣に取り組み、課題の締め切りは厳守すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際関係論				ナンバリング	1710
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この授業は「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)」、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」や「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、世界の理解と分析の基礎となる国際関係の諸理論と問題領域を学びながら、国際関係論の基本的な分析枠組みと言語の習得を目指し、国際関係分析の理論的枠組みの骨格をつかむことを狙いとしている。まず、国際関係論の主要理論である現実主義・自由主義や、それらに批判的な見方を紹介し、諸理論の視点から現代世界の諸問題をどのように理解することができるのか、人類が抱える具体的な諸問題を安全保障、経済、国際協力、資本主義などのテーマで具体的に検討していく。

到達目標

国際関係論の世界認識では、アクター(行為主体)間の異なる問題領域での多様な関係性の変化への理解が求められる。この授業では、学生が、安全保障、外交、開発、環境などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得することを到達目標とする。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
する国家や国際機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・導入～「世界とは何か、世界をどう見るのか？」 国際関係論の学問的使命とは、「世界」とは何か、それをどのように認識する(べきな)のか、という認識の枠組みを提供することである。グローバル化のプロセスを、どのように読み解けばいいのか、国際関係論の「理論」はその手がかりを提供する。各学生は自分の関心のある分野や問題についてプレゼンする。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	<第1部 理論> ・理想主義 Idealism～戦間期と国際連盟の挫折 第1次世界大戦の反省から、世界平和は人類の宿願となり、国際連盟のような制度、規範などが整備されたが、人類は再び戦争へと突き進む。E・H・カーなど戦間期の思想をてがかりに、国際制度主義や自由主義などに影響した、理想主義の射程と限界を具体的に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・現実主義 Realism～第2次世界大戦の痛みと記憶 国際関係論の古典的主要理論の1つで、現在も米国など大国の外交の思考様式に隠然とした影響力を持つ現実主義。Realismの射程は、主に米国で展開する。パワーの概念という国際関係論にとって主要な命題の1つをめぐって、モーゲンソーらの論考を中心に検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	・自由主義 Liberalism～多元化・経済化する世界 戦後世界が安定し、国際貿易が増大する中で、多国籍企業や国際機関などのアクターの台頭と、経済・市場分野の重要性の「政治化」は、現実主義より経済化した認識を必要とする。相互依存やトランスナショナリズムなど、自由主義の系譜をコヘインらの認識から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・トランスナショナリズム Transnationalism～越境する現代 トランスナショナリズムは、越境する政治・経済・文化・市民・運動などを見るグローバル化の「見立て」として中心的な認識枠組みを提供する。現象と理論の両方からグローバル化を考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・グローバリズム Globalism～「下から見た世界」の構造 現実主義と自由主義の視点が、力を持った「上からの視座」であるとする、マルクス主義国際関係理論は、開発や経済的支配について「下からの視座」である南北格差の問題意識を強調する。従属論、帝国主義論などのグローバリズムの理論群を、市場と資本主義の観点から整理する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・批判理論とその周辺 Critical Theory グローバリズムの系譜による分析が「経済主義」であるのに対して、批判理論やポスト構造主義以降の議論、特に社会構成主義やネオ・グラムシ国際関係論は、人々が持つ「概念」「常識」などの力が支配、およびその支配への申し立てに果たす役割を強調する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第2部 問題領域～現実の中で理論を考える＞ ・安全保障と外交 Security and Diplomacy 現実主義から見る安全保障は軍事のことであり、自由主義の射程はそこに経済を加える。いずれも国家の安全保障を重視するのに対し、批判的な諸理論は個人や「人間の安全保障」を唱える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・環境問題 Environmental Issue 環境問題や環境汚染には国境がない。二酸化炭素の排出による、オゾン層の破壊や地球温暖化や北極海の氷の現象は、地球規模の気象メカニズムを通じて全世界に深刻な打撃を与える。知的共同体やNGO・国際機関の役割など環境問題の多面性を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・IT技術とコミュニケーション革命 IT Revolution of Communication グローバル化の特徴として情報技術の飛躍的進歩による、世界のシンクロ化が挙げられる。米国の軍事技術から出発したインターネットは、国際NGOのようにこれまで国境で区切られていた市民とその運動をつなぎ、同時に、テロリストの広がりも助けていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	・グローバル市場 Global Market 情報化によって最も恩恵を受けた領域は経済、特に金融を中心としたグローバルな市場である。国家や社会は相当程度市場化され、グローバル市場を経由して瞬時に連結する。現代のガバナンスのメカニズムにおいて、台頭する経済権力や権威に着目する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・南北格差と開発 Division and Development 開発援助の分野ほど、多様なアクターが複雑に絡み合う問題領域もないかもしれない。先進国・途上国・国連・NGO・多国籍企業…異なる利害と立場が交錯する開発の領域を事例に、現代の国際関係のダイナミズムを検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・文化の力 Power of Cultures とかく軍事と経済のいわゆるハードな問題に偏りがちな国際関係論にあつて、文化の問題は比較的新しく魅力的で、同時に悩ましい領域である。アイデンティティーに深く関わりを持つ、言語、民族、宗教などのネットワークは、理論が考えるよりも大きな世界変化の動因となっていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたの国際関係論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 国際関係論において、どの理論が一番大事であるとか、どの問題領域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせ、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「わたしたちの国際関係論と世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形の国際関係論から、私たちが世界をどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

授業テーマに関連する文献や資料を、各授業で適宜指示。

Kauppi, Mark V. and Viotti, Paul R. (2023) International Relations Theory (7th ed), Rowman & Littlefield Pub.

(邦訳: (ウェッセルズ、石井 共訳)『国際関係論: 現実主義・多元主義・グローバリズム』彩流社)

履修条件・留意事項等

本授業は1年次の必修科目である。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		経済と社会				ナンバリング	1722
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は国際政治経済の特に経済学系科目の入門科目であり、ディプロマ・ポリシーでは「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。」(知識・技能)及び「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(関心・意欲・態度)」に最も深く関連するが、「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。」(思考・判断・表現)にも強く関連するものであり、多くの科目で使う経済学の基礎知識を学ぶ科目である。

授業の概要

この授業は、国際教養学科の学生がグローバルな課題や、その課題を分析する社会科学の学習をする上で知っておくべき経済学の基礎知識をわかりやすく解説する講義科目である。資本主義や市場経済のあり方が社会生活の基盤の1つであることから、経済学や経済の基本的概念を習得することにより、経済現象と社会の関係性を自ら理解し考えるのに必要な視点を身につけることを目的にする。本講義では、現実の社会経済の事例や現実についても取り上げる。

到達目標

本講義の到達目標は以下の三つである。

- ・経済活動を行うすべての人間が基礎的教養として備えているべき経済の概要について、正しく理解できる。
- ・新聞やテレビなどのマスメディアで報じられている、多くの人間が共有していることが前提となっている世の中の出来事を「知っている」だけでなく、自分事として「理解している」ことを他の人に説明できる。
- ・報道を自分事として理解できることで、世の中の趨勢や将来の予測を立て、自分なりの意見をもつことができる。

授業の方法

授業形態は、基本的に「PowerPointスライドによるプレゼンテーション」で行うが、一部グラフによる説明はホワイトボードを使う。

ICT活用

ネット上の資料へのアクセスを提示するほか、Google Classroomで課題を課し、レポート等の提出を求める。授業時間外のコミュニケーションにもGoogle Classroomを積極的に活用する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省において経済政策の企画立案及びその実施に10年の勤務経験を持ち、かつアメリカにおいて修士課程及び博士課程の教育を踏まえて、日本で大学教員として活動しており、かかる経済政策における知見や実務上のエピソードを適宜用いる。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解答は自動的に表示されるものをもって、フィードバックとするが、不明な点がある場合は講義の前後に積極的に質問に来ることを歓迎する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. 現代経済の仕組み (1) ガイダンス 高校時代の学習と異なる経済学の学び方 (2) 経済学の枠組み (3) 「国民経済」の概要	シラバスと教科書第1章を読み、内容を理解しておく。(90分)	講義で聞いたことがない語句が出てきたら、記録しておく(90分)
担当教員			
第2回	2. 世界経済発展の軌跡 (1) Pax Britanicaと19世紀の世界経済 (2) 戦間期世界経済 (3) Pax Americanaと現代世界経済	教科書第2章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第3回	3. 現代日本経済の形成 (1) 敗戦と経済復興・民主化 (2) 高度経済成長とその影響 (3) 安定成長からバブル経済へ	教科書第3章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			

第4回	4. 企業と市場 (1) 企業の働き (2) 市場	教科書第4章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第5回	5. 需要と供給 (1) 需要 (2) 供給 (3) 価格	指定する資料を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第6回	6. 国際貿易と外国投資 (1) 国際貿易と国際分業 (2) 国際収支 (3) 外国投資 (4) 地域経済統合と自由貿易体制	教科書第6章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			

第7回	7. 現代経済と金融 (1) 貨幣経済の仕組み (2) 現代の金融政策 (3) 国際通貨制度の仕組み (4) 金融のグローバル化	教科書第6章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第8回	8. 労働市場と労働政策 (1) 労働市場と職場の利害状況 (2) 雇用と失業 (3) 長時間労働と労働時間制度の課題 (4) 日本的雇用慣行と労働市場の階層的構造 (5) 日本的雇用慣行と労働市場の変容	教科書第7章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第9回	9. 少子高齢化と社会政策 (1) 福祉とは何か (2) 日本の社会政策の特徴 (3) 少子高齢化の経済社会への影響 (4) ジェンダーと労働 (5) グローバル化の中での社会政策	教科書第8章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			

第10回	10. 社会と財政 (1) 暮らしと財政 (2) 財政民主主義 (3) 日本の財政の危機的構造	教科書第9章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第11回	11. 財政と政治 (1) 税の構造 (2) 税制意思決定課程 (3) 税と選挙 (4) 保守主義と財政保守主義	指定する資料を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第12回	12. 途上国の経済と社会 (1) 途上国の構造 (2) 途上国における貧困の構造 (3) 新興国の台頭と「中所得国の罠」 (4) 政府開発援助	教科書第10章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			

第13回	13. 環境と経済 (1) 環境経済学 (2) 政府による介入 (3) 持続可能性と経済成長	教科書第11章を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第14回	14. エネルギーと経済 (1) 経済成長とエネルギー (2) エネルギー使用と環境 (3) エネルギーと国際政治 (4) エネルギーと国際経済	指定する資料を読み、内容を理解しておく。(90分)	授業で紹介した文献を参考に復習しておく。(90分)
担当教員			
第15回	15. 経済学と経済政策 (1) 経済学の考え方 (2) 今後の学習の展望	指定する資料及び教科書終章を読み、自らのノートを復習しておく。(90分)	期末課題を作成し提出する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席及び授業参加の態様(40%)、中間課題及び期末課題(60%)とする。
その他	0	なし
教科書		
横浜国立大学経済学部テキスト・プロジェクトチーム編『ゼロからはじめる経済入門 経済学への招待』有斐閣コンパクト 2019		
参考文献		

講義の中で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

経済学の講義は積み上げであるため、1回でも休むとその先の理解は阻害される。そのことを前提に欠席は極力避けること。欠席する際には事前に申し出て、代替策を担当教員と相談することが必要である。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際教養入門				ナンバリング	1700
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は、「国際教養科目」の導入科目として、社会科学や地域研究のアプローチについての概略と基礎的理解を深めるための科目である。ディプロマ・ポリシーでは「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)」に最も深く関連するが、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能にする国際性や共感力」や「生涯にわたって学び続ける意欲」を育てるといった幅広く各項目に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、国際教養を学び培っていくにあたり、今後の学びの全体を俯瞰し学習の見取り図を提供する科目である。具体的には、特に国際教養学科の国際教養科目で扱う社会科学の各分野や各地域論、各国研究の内容を一通り紹介しつつ、それらを学ぶ意義や研究の目的や面白さなどについて、本格的な社会科学や地域研究が初めての学生に講義するものである。この講義により、学生はこれからの国際教養学科での学びをイメージしやすくなり、興味・関心の幅が広がることを目的としている。

到達目標

1. 大学における学びは、これまでの初等・中等教育で受けてきたものとは、質的に異なることを理解する。
2. 国際社会においては、多様な文化や価値観が存在するが、その基礎に共通理解の基盤となる知識や思考方法があり、それが「教養」というものであることを理解する。
3. 知識や情報には、根源的なものと枝葉になるものがありことを学び、ものごとの本質を極めようとする方法論こそが「学問」であり、人類の進歩は方法論的に洗練された知識の体系化がもたらされたのであるということに触れ、自ら学ぶ意欲を高める。
4. 各受講者の今後4年間の学修の方向性について考え、ある程度の指針を持つ。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式を基本とする。
これまでの基礎知識の確認をするための小テストを随時行う。

ICT活用

Google classroomを適宜利用する。ネット上の報道発表資料も随時引用する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)において10年の外交交渉、国内における政策形成、法案準備、政府予算案作成業務経験をもとに、日米の政治の現場経験、欧州における国際会議への多数の出席を踏まえ、事例紹介を行いながら授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じた課題の提示、小論文の提出及びそれに対するフィードバックを随時行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション 大学とは何か、どんなところか 1. 大学とは何か 2. 高校までの学習との違い 3. 危機の中の大学	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	I. 大学の歴史 1. 大学の誕生: 中世大学 (1) 世界最古の大学とそこで教えられていたもの 発祥はボローニャ、1世紀でヨーロッパ全土に (2) 中世大学を支えたもの ① 経済的基盤 ② 都市というネットワークとMediaとしての大学 ③ 権力の狭間の「自由」 - 教皇と皇帝 叙任権闘争 - イスラム世界とレコンキスタ	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分) 高校世界史B教科書の欧州の歴史、中世からルネッサンスまでを読み返しておくこと	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	(補論 1)ヨーロッパとは何か? 「高校世界地理・世界史の復習」 1. ヨーロッパの国をすべて覚えよう 2. ロシアの悩み 3. 欧州古代人の世界認識 (1) EUROPA (2) TO図と旧約聖書の世界認識	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分) 世界地図で欧州の国の名前と国境線を確認しておくこと	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	(3) 中世大学の中身 ① 神学とスコラ哲学 ② University/UniversiteとCollege/Collegium ③ 自由七科 3学4科 (4) 中世大学の衰退: 大学の死 (1回目) ① 中世大学を支えた諸条件の消滅 ② 求められる学修内容の変化 ③ 大学の形骸化と大学以外の学びの場の登場	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	2. 近代大学の誕生: 国民国家と大学の再生 (1) ルネッサンス期の「大学」 印刷技術と出版資本主義の衝撃 (2) 大学の「再発明」とフンボルトの大学改革 ① フンボルトのベルリン大学改革 国民国家建設の手段としての「帝国大学」 フンボルト改革の構造: 講義の開放とゼミという二重構造 プロイセン王国における中等教育課程の整備 (補論 2) 辺境国家としてのプロイセン: 小ドイツ主義と国民国家 東プロイセンとケーニヒスベルグ ドイツナショナリズムの源流	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	② フンボルト型大学の影響: 特に英国における改革 (補論 3) 日本における英語教育の気づかれない歪み なぜシェークスピアがエライのか? 英語教師夏目漱石を悩ませたもの	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	③「大学院」の発明: Johns Hopkins UniversityとHarvard University 郊外自然景観の中の高等教育 挫折した初期改革 Thomas JeffersonのVirginia大学とHarvardのGeorge Ticknor Daniel GilmanのJohns Hopkins大学 Charles ElliotのHarvard大学改革 関東大震災と東大へボン講座	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	3. 学知を移植する日本: 帝国大学という国家機構 (1) 非西欧社会における大学 (2) 日本における大学の誕生 ① 幕末における洋学塾の隆盛: 江戸期における蘭学100年の伝統 ② 幕府における政策研究機関と明治政府による再編 ③ 「東京大学」の成立: 翻訳学問と漢学・国学の挫折 翻訳学問 「宗主国」の選び方: Henry Dyerと日本の工学教育、法学教育と帝国国家の整備 (3) 帝国大学という構造 ① 帝国大学の誕生: 官立と私立 ② 森有礼と「帝国大学」 天皇のまなざしの下での帝国の学知の体系化 元田永孚と教育勅語 天皇と帝国大学	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	(補論 4) 4-1 日本近代教育制度史におけるキリスト教の影響 4-2 日本における英語学習史 4-3 まなざしの権力性	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	③ 専門学校群:高等教育の多様化 ④ 第二帝国大学:京都帝国大学 ⑤ 「開化」から「帝国」へ:三重の帝国大学システム 東北帝国大学と九州帝国大学 札幌農学校佐藤昌介の戦略 「帝国」経営と大学:京城帝国大学、台北帝国大学、満州建国大学 「開化」から「帝国」へ ⑤ 私塾と私学の大学化:アイデンティティの模索 明六社とその遺産 福沢諭吉と慶應義塾	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	(4) 大正デモクラシーと「教養主義」:「民権と出版の学知」の帝国大学への内在化 (5) 教養主義と戦争:平賀肅学と東京帝大の自己否定 (補論 5) 学問におけるプロとアマチュア:南方熊楠に見る近代	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	4. 戦後日本と大学改革 (1) 占領期改革の両義性:高等教育は単線か複線か? ① 占領期改革 ② 南原繁という謎 ③ 日本の教育制度設計にあてえたキリスト教の影響	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	(2) 新制大学の構造とその矛盾 (3) 大学紛争と南原改革の理想の挫折 (4) 新自由主義改革と「近代」の終焉	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	(補論 6)ことばと国家 1. 文字の歴史 2. はなしことばと書き言葉 柄谷行人「文字論」 3. 言文一致と近代日本文学の誕生	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第15回	4. 「はじめにことばありき」:国語と国家形成 (1). 国語と国民国家 (2) 社会主義国家建設と国語 (3) 日本国家と日本語 まとめ	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。 期末課題を作成すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への出席態度及び参加度 40% 中間課題 30% 期末課題 30%
その他	0	なし
教科書		
教科書は特に指定しないが、各回の講義の元となる参考文献を紹介していく。		
参考文献		

現時点で予定しているものは、以下のとおり。授業で随時追加する。

Jean-François Braunstein『グランゼコールの教科書 フランスのエリートが習得する最高峰の知性』プレジデント社 2022

Christophe Charle『大学の歴史』白水社(クセジュ文庫)2009

吉見俊哉『大学とは何か』岩波新書2011

『大学は何处へ』岩波新書2021

竹中亨『大学改革』中公新書2024

土持ゲーリー法一『戦後日本の高等教育改革政策「教養教育」の構築』玉川大学出版部2006

竹内洋『教養主義の没落 変わりゆくエリート学生文化』中公新書2003

福間良明『「勤労青年」の教養文化史』岩波新書2020

志村真幸『在野と独学の近代 ダーウィン、マルクスから南方熊楠、牧野富太郎まで』中公新書2024

天野郁夫『大学の誕生』中公新書 2004

福井憲彦『教養としての「フランス史」の読み方』PHP研究所 2019

Georges Jean『文字の歴史(知の再発見双書 1)』創元社 1990

水村美苗『増補版 日本語が亡びるとき』ちくま文庫 2015

今野元『ドイツ・ナショナリズム「普遍」対「固有」の二千年史』中公新書 2021

Johan Huizinga『中世の秋』中公文庫 1976

山本文彦『神聖ローマ帝国「弱体なる大国」の実像』中公新書2024

桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社2003

重田園江『ミシェル・フーコー 近代を裏から読む』ちくま新書2011

大久保健晴『今を生きる思想 福沢諭吉 最後の蘭学者』講談社現代新書 2023

小笠原政道『福沢諭吉 変貌する肖像』ちくま新書2023

高田里恵子『学歴・階級・軍隊 高学歴兵士たちの憂鬱な日常』中公新書2008

斎藤兆史『英語達人列伝 あっばれ、日本人の英語』中公新書 2000

『英語達人列伝Ⅱ かくも気高き、日本人の英語』中公新書 2023

江利川利雄『受験英語と日本人 入試問題と参考書から見る英語学習史』研究社 2011

履修条件・留意事項等

本授業は国際教養学科1年次の必修科目である。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		日本政治経済論				ナンバリング	1740
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、国際学部国際教養学科のディプロマ・ポリシー「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)」等に関連する。国際教養学科に多く存在する政治系科目の一年生科目として「政治学入門」の役割も担い、ディプロマ・ポリシー「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。(思考・判断・表現)」につながる複眼的な眼差しというものを体感してもらう。この科目は地域未来学科でも開講しており、地域未来学科のディプロマ・ポリシー「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。(思考・判断・表現)」に特に関連している。

授業の概要

本科目は、世界の変化や現象をどのように分析するのかを学んでいくにあたり、その出発点として、現代の日本の政治についての基本的な知識を習得するための科目である。具体的には、日本の現代政治を主題としながら政治学の基本的な理論、観点を修得し、現代日本政治の特徴について、近代から現代に至る歴史的変遷を踏まえ、実証的に考察する力を養う。

到達目標

受講生は、
 ① 自ら関心を持つ政治分野をいくつか特定して現代の動きをフォローすることができる。
 ② その分析について必要な理論的枠組みの概要について、基礎的な知識に基づき、理解できるようになる。
 ③ 自らの見解を持つために必要な情報を、どのような形で(新聞、テレビ・ラジオ、ネット等から)収集し、どのような基準で取捨選択すべきかを判断し、解決策を主体的に提示できるようになる。
 以上を到達目標とする。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講生の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を行う。

ICT活用

Google Classroomにより、授業外においても日々のマスコミ情報の補充等を行うとともに受講生との対話を行う。また関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、地球環境問題をはじめとする条約交渉やWTOを中心とする外交交渉の現場だけでなく、日米における政策決定過程に関与した経験および日本政治の実践に関わった経験を交えたエピソードも適宜紹介しながら、受講生の問題への関心を高める工夫をする。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での積極的なディスカッションを称揚するほか、講義期間中2回程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握し、ケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 1. 政治学とは何か 2. 政治学の学び方 3. 参考文献リストの使い方 4. 受講生の心得	シラバス及び参考文献を読み、自らの関心を明確にしつつ、指定された参考文献を読んでおくこと。(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	配布プリントや参考文献を読了し、講義の内容をノート等で復習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	第1章 権力と支配 0. みんなの知ってる「〇〇」は「ブラック企業」か？ 1. 「権力」 (1) 権力の構成要素 (2) 権力の行使の態様 (3) 権力関係の類型 (4) 権力と権威 (5) 「〇〇」について考える	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 北村・久米・真淵『はじめて出会う政治学』第3版補訂 有斐閣アルマ 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	第2章 「政治」と「国家」 1. 「政治」 (1) 「政治」現象の範囲 (2) 「政治」の定義 2. 「国家」観の歴史 (1) 古代における「国家」 (2) 中世における「国家」 (3) 近世における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ジャック・ル＝ゴフ(菅沼潤訳)『ヨーロッパは中世に誕生したのか？』藤原書店 2014 大澤真幸『社会学史』講談社現代新書 2019 p34~106 I 社会学の誕生ー近代の自己意識として 1. 古代の社会理論 アリストテレス 2. 社会契約の思想	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	第3章 欧州世界における「国家」 1. ヨーロッパとは何か～中世後期の欧州世界 2. ルネッサンスと国民国家形成 3. 絶対主義国家	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 高校世界史(できればB)教科書で、欧州中世から近代に至る過程を復習しておくこと。 高校時代世界史を受講しなかった受講生は、 「世界の歴史」編集委員会編『新 もう一度読む山川世界史』山川出版社 2017の該当箇所を読んでおくこと。	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	第4章「国家観」の近代 1. ドイツ国家論 2. 社会主義への道 3. マルクスとマルクス主義による批判 4. 20世紀アメリカ政治学と実証主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) Roman Szporluk, Communism and Nationalism: Karl Marx versus Friedrich List, Oxford UP, 1993 大澤真幸『社会学史』講談社現代新書 2019 p141~186, p364~431 I 社会学の誕生ー近代の自己意識として 1. 古代の社会理論 アリストテレス 2. 社会契約の思想 III システムと意味 1 パーソنز 機能主義の定式化	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	第5章 現代政治学における「政治」と「国家」 1. 民主主義と権威主義 2. 「発展段階説」と「革命」 3. 「第三世界」と「Global South」における「国家」	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (1) 明治維新の構造 (2) 「密教」としての大日本帝国憲法と「密教」としての教育勅語 (3) 帝国議会と立憲主義	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 藤田省三『天皇制国家の支配原理』みすず書房 2012 または市川弘正編『藤田省三セレクション』平凡社 2010	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 1. 日本の「国体」 (4) 大正デモクラシー (5) 日本型ファシズム 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」杉田敦編『丸山眞男セレクション』平凡社 2010 荏部直『丸山眞男ーリベラリストの肖像』岩波新書 2006	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	第6章 日本政治の最大命題としての「天皇制」 2. 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」を読む 3. 戦後日本の天皇制 (1) 新憲法における象徴天皇制 (2) 戦争責任論 (3) 現代日本における天皇の役割	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 安丸良夫『近代天皇像の形成』岩波現代文庫 2007 山本雅人『天皇陛下の全仕事』講談社現代新書 2009 古川隆久『昭和天皇「理想の君主」の孤独』中公新書 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	第7章 フェミニズムと日本政治 1. 上野千鶴子「東大入学式祝辞」を読む 2. 女性のいない日本政治 3. 政治学とフェミニズム	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 上野千鶴子「平成31年度東京大学入学式祝辞」 前田健太郎『女性のいない民主主義』岩波新書 2019 安藤優子『自民党の女性認識 イエ中心主義の政治志向』明石書店 2022 岡野八代『ケアの倫理ーフェミニズムの政治思想』2024	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	第8章 民主主義の制度 1. Poliarchy 2. 議会	指定された文献を読んでおくこと。(90分) ロバート・A・ダール(高島通敏・前田脩 訳)『ポリアーキー』岩波文庫 2014	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	第8章 民主主義の制度 3. 体制変動における議院内閣制と大統領制 4. 首相公選制	指定された文献を読んでおくこと。(90分)	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	第8章 民主主義の制度 5. 政党 (1) 政党の役割 (2) 政党組織の分類学 (3) 政党システム～選挙区制と政党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子『現代の政党と選挙』有斐閣アルマ 新版 2011	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	第9章 日本における政党政治 1. 大正デモクラシーと憲政の常道 2. 自由民主党	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 井上寿一『政友会と民政党 戦前の二大政党制に何を学ぶか』中公新書 2012	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	第10章 日本における政党政治 3. 「野党」論 まとめ 日本政治における「学び」	指定された文献を読んでおくこと。(90分) 吉田徹『「野党論」何のためにあるのか』ちくま新書 2016	講義の内容をノートで復習するとともに、指定された文献を読了しておくこと。さらに、期末課題を作成すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度・出席態度 40 % 中間課題 30 % 期末課題 30 %
その他	0	
教科書		
北村俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学』有斐閣アルマ		
参考文献		

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『補訂版 政治学』有斐閣 2011
 佐々木毅『政治学講義』第2版 東京大学出版会 2012
 政治学の教科書として前者は標準的なものであり、手元に置いて用語集のように利用してほしい。後者は現時点でも日本語で書かれた最高水準の内容である。購入して手元におき、本講義はもとより日々のマスコミ等に接しての疑問に思ふ事項を検索するようにしてほしい。
 日本については、
 京極純一『日本の政治』東京大学出版会 1983
 かなり古くなったが、日本政治の古層に岩盤のように維持されている構造を現時点においても、最もよく分析している本の一つ。変わらない日本の組織のあり方に絶望すればするほど、深く納得させられる分析が随所に見られる。「オトナ」にならないとこれは理解されないことかもしれない。

履修条件・留意事項等

大学生としての出発点として、政治学・政治過程論の基礎概念の解説を行いながら、受講者の関心を反映することを検討するのであって、扱ってほしい課題のリクエスト等、積極的に参加してほしい。
 なお、2025年の参議院選挙を経て日本の政治の中心課題が大きく変わりうるので、扱う内容を一部変更することはありうるので、日々の政治報道に注目してほしい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国内外事情				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

本講義は、現代の日本および国際社会の動向について理解を深めるための基礎科目として位置づけられる。国内外の社会・経済・政治・文化の現状や課題を幅広く学ぶことで、グローバル化が進展する社会において必要とされる国際的視野と社会理解を養うことを目的とする。また、本講義を通して、国内の課題と国際社会の動向との関係を理解し、地域社会と世界のつながりを多角的に考える基礎的な知識と視点を身につけることを目指す。本事業は、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。」というディプロマポリシーに関連する科目であり、国際教養基礎科目の1年生必修科目となっている。

授業の概要

本講義では、日本および世界の社会・経済・政治・文化の現状について理解を深め、国内外のさまざまな課題や動向について考察する。具体的には、日本社会が抱える課題と国際社会の動向を比較しながら、グローバル化の進展による社会の変化や地域間の関係性について学ぶ。ニュースや統計資料、具体的な事例などを用いて、国内外の社会状況を多角的に理解する。

到達目標

日本および世界の社会・経済・政治・文化の現状について基本的な知識を理解することができる。
国内外で生じている社会課題や国際的な動向について、資料や情報をもとに多角的に考察することができる。
日本社会と国際社会の関係性を理解し、現代社会の課題について主体的に考える姿勢を身につける。

授業の方法

本講義は主として講義形式で行う。授業では、日本および世界の社会・経済・政治・文化に関する最新の動向や課題について、統計資料やニュース、具体的な事例などを用いながら解説する。学生が国内外の社会状況を主体的に理解できるよう、適宜資料の読解や意見交換を取り入れる。また、リアクションペーパーやミニレポートを通じて、授業内容を振り返りながら国内外の社会課題について考察する機会を設ける。

ICT活用

授業では、統計データ、オンライン資料、ニュース映像などのデジタル教材を用いて国内外の社会状況や最新の動向を理解する。必要に応じてオンライン情報検索を活用し、国内外の社会課題について主体的に調べる学習を行う。

実務経験のある教員の教育内容

国際協力k(JICA)で約30年勤務した教員が授業を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で提出されたリアクションペーパーやミニレポートについては、次回の授業において全体的な講評を行い、代表的な意見や優れた視点を紹介することで理解の深化を図る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと現代社会の見方 授業の目的、進め方、評価方法を説明する。あわせて、「国内外事情」を学ぶ意義について確認し、現代社会を理解するために必要な視点として、政治・経済・社会・文化の相互関係を概観する。また、日本社会と国際社会がどのようにつながっているのかを考える。	新聞やニュースなどから、現在の日本または世界で関心のある社会問題を一つ調べておく。90分	授業で扱った現代社会の特徴を整理し、日本社会と国際社会のつながりについてまとめる。90分
担当教員			
第2回	グローバル化と世界の変化 グローバル化の進展によって、人・モノ・資本・情報が国境を越えて移動する現代社会の特徴を学ぶ。経済活動や生活様式、価値観にどのような変化が生じているのかを理解し、日本社会もその影響を受けていることを具体例を通して考察する。	グローバル化という言葉の意味を調べ、具体的な事例を一つ考えておく。90分	グローバル化が社会や経済、日常生活にどのような影響を与えているのかを整理する。90分
担当教員			
第3回	日本社会が抱える課題 人口減少、少子高齢化、地方の過疎化、雇用の変化、社会保障の課題など、日本社会が直面している主要な問題について学ぶ。これらの課題が日本国内だけの問題ではなく、他国の動向や国際環境とも関係していることを理解する。	日本社会の課題(人口減少、少子高齢化、地域問題など)について基本的な情報を調べておく。90分	日本社会の課題について、原因や影響を整理し、今後の社会のあり方について考える。90分
担当教員			

第4回	世界経済の動向と日本 世界経済の基本的な構造を確認し、主要国・地域の経済動向が日本に与える影響について学ぶ。貿易、為替、資源価格、国際分業などの基礎的な仕組みを理解し、日本経済が国際社会と深く結びついていることを考察する。	最近の世界経済に関するニュースを一つ調べ、その内容を簡単に整理しておく。90分	世界経済の動向が日本社会にどのような影響を与えるのかを整理する。90分
担当教員			
第5回	環境問題と持続可能な社会 気候変動、資源問題、環境汚染、エネルギー問題など、地球規模で進行する環境課題について学ぶ。あわせて、持続可能な社会の実現に向けた国際的な取り組みや、日本国内で求められている対応について理解を深める。	気候変動や環境問題に関する最近のニュースや資料を一つ調べておく。90分	環境問題の原因や影響を整理し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについてまとめる。90分
担当教員			
第6回	文化交流と異文化理解 国際化が進む中で、人々が異なる文化や価値観と接する機会が増えている現状を学ぶ。文化交流や人的交流の意義を確認するとともに、異文化理解の重要性、日本社会における多文化共生の課題について考察する。	外国文化や異文化交流に関する事例を一つ調べておく。90分	文化交流の意義や異文化理解の重要性について授業内容を整理する。90分
担当教員			

第7回	日本と世界のつながりを考える 日本の産業、観光、食文化、教育、地域社会などを具体例として、日本と世界がどのように結びついているのかを学ぶ。地域の出来事や日常生活が国際社会の動きと無関係ではないことを理解し、国内外の課題を関連づけて考える視点を養う。	日本の産業、観光、文化などが海外とどのようにつながっているかについて事例を一つ調べておく。90分	日本と世界の関係について整理し、地域社会と国際社会のつながりについてまとめる。90分
担当教員			
第8回	まとめ:国内外事情を多角的に捉える これまでの授業内容を振り返り、日本社会の課題と国際社会の動向を総合的に整理する。政治・経済・社会・文化の各側面がどのように関係しているのかを確認	これまでの授業内容を振り返り、印象に残ったテーマを一つ整理しておく。90分	授業全体を振り返り、日本と世界の社会課題について総合的に整理する。90分
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度、出席態度、リアクションペーパーやミニレポートの提出状況及び内容を考慮
その他	0	
教科書		
教科書はありません。資料は都度配布します。		
参考文献		
池上彰『知らないで恥をかく世界の大問題』(KADOKAWA) 池上彰『世界のニュースを日本人は何も知らない』(ワニブックス)		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際的視野から見るスポーツ医学の発展				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	當瀬 規嗣						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーにある「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や教共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」に関連づいている授業内容である。世界のいてスポーツ医学は知識の集積がすすみ、治療法に大きな転換が起こっていることを指摘し、日本においてその転換に遅れが生じていることを指摘し、改善方策を考えることを目的としている。

授業の概要

スポーツにおいて起こりやすいトラブルである筋肉疲労、筋肉痛、全身疲労の最新の理解を解説し、よりよい対処法を提示する。この知識をもとに、オーバートレーニング症候群を避ける方策も追及する。

到達目標

スポーツ外傷の主なポイントである疼痛に対する対処法を理解する。

授業の方法

講義形式で行う。パワーポイントにより図表など提示し、それを説明を加えていくことで進めていく。パワーポイントのファイルは事前に配布する。出席は授業内で示すキーワードの返信することで確認する。

ICT活用

資料配布や出席確認は、Web上で行われる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

講義終了後、レポートを提出させ、評価する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	スポーツ外傷、とくにオーバーユースについて	スポーツ医学の内容を確認(30分)	オーバーユースを理解する(30分)
担当教員			
第2回	筋肉痛について 筋線維損傷、肉離れ、遅発性筋肉痛について	痛みのしくみを確認(30分)	筋肉痛を説明できる(30分)
担当教員			
第3回	炎症のしくみ 炎症と発痛の関係	炎症を確認する(30分)	発痛機構を説明できる(30分)
担当教員			

第4回	冷却法と温熱法 冷却法の問題点、温熱法の利点	筋肉の冷却法の確認(30分)	温熱法の利点を説明できる(30分)
担当教員			
第5回	筋肉のハリを解説する	筋肉の構造を確認(30分)	筋肉のハリと損傷の違いを説明できる(30分)
担当教員			
第6回	肉体的疲労と精神的疲労 違いを説明する。疲労物質の存在を考える。	乳酸は疲労物質でないことを確認する(30分)	疲労の最新知見を確認する(30分)
担当教員			

第7回	疲労からの回復過程、睡眠の重要性 オーバーユース症候群について	休息の重要性を確認(30分)	オーバーユース症候群を説明 できる(30分)
担当教員			
第8回	プロ野球、MLBとNPB それぞれの問題点	MLBのスポーツ外傷を確認(30 分)	適した損傷への対処法を説明で きる(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	20	出席状況を確認
その他	80	レポートを提出する
教科書		
なし		
参考文献		
図解入門 よくわかる生理学の基本としくみ」 當瀬規嗣 秀和システム刊		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際社会と医療				ナンバリング	1730
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	大森 圭						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「複数の専門分野を総合的に理解し、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い国際教養を身につけている。(思考・判断・表現)」と最も関連する科目 である。日本と諸外国の医療、介護、福祉に焦点をあて様々な社会的背景から各国の特徴や問題点を理解し、国際社会の未来に向けての理想的な医療、介護、福祉のあるべき姿を考察する。							

1. 現代日本の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度の現状を理解し、その諸問題を説明することができる。
2. 日本と諸外国の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度を比較し、その特徴や違いを説明することができる。

授業の方法

各種メディアを利用した座学・講義である。
講義中に提示する課題を実施し、講義毎に提出させる。

ICT活用

必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

講義毎に提出された課題について、必要に応じてフィードバックを行う。また、随時、質問を受けつける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 日本の医療保険制度を理解する。	日本の医療保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	テーマ:医療(医学)の歴史と特徴(講義・GW) 内容:・医療(医学)の歴史 ・医療と医学の特徴と違い 行動目標: ・医療(医学)の歴史が理解できる。 ・医療と医学の比較から各々の特徴が説明できる。 GW:医療現場のイメージ 小レポート:当日、授業で提示する。	医療と医学の言葉の意味を調べてノートに記載する(90分)。	・行動目標の自己評価を行う。・本日の講義まとめをノートにまとめる(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	テーマ:日本の介護保険制度を理解する(講義・GW) 内容:・日本の介護保険制度の歴史 ・医療保健と介護保険 行動目標: ・日本の介護保険制度の歴史が理解できる。 ・医療保険と介護保険の違いから各々の特徴が説明できる。 GW:日本の介護保険制度の特徴 確認レポート:医療保険と介護保険の違い	日本の医療保健と介護保険の言葉の意味を調べてノートに記載する(90分)。	本日の講義まとめをノートにまとめる(90分)
担当教員	大森 圭		

第4回	諸外国の介護保険制度を学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	日本における地域リハビリテーションの現状を理解する。	日本の地域リハビリテーションについて調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	諸外国における地域リハビリテーションについて学習し、日本との違いを理解する。	学生自身が興味を持っている国の地域リハビリテーションについて調べておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	大森 圭		

第7回	テーマ: 日本の社会保障制度と諸外国の比較(講義・GW) 内容: ・諸外国の社会保障制度の特徴 ・日本と諸外国との社会保障制度の違い 行動目標: ・諸外国の社会保障制度が理解できる。 ・日本と諸外国の社会保障制度の違いが説明できる。 GW: 各国の社会保障制度の長所 確認レポート: 日本と諸外国との社会保障の違い	関心をもっている国の社会保障制度についてノート等にまとめる(90分)。	本日の講義まとめをノート等にまとめる(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	まとめ 日本および諸外国の医療保険制度、介護保険制度、福祉制度が未来の社会にどのような影響を与えるのかについて考察する。	本科目の1～7回の講義を総復習しておくこと。(90分)	講義内容をまとめておくこと。(90分)
担当教員	大森 圭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	授業中の課題
その他	20	授業への参加態度や発言の内容を評価する
教科書		
特に指定しない		
参考文献		
特に指定しない		
履修条件・留意事項等		

授業には積極的に参加すること

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		開発援助論				ナンバリング	2726
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						
授業の位置づけ							
この授業は、世界の多様性と共生・協働を理解するために、国際協力や開発援助と呼ばれている分野を中心に、そこで活動する国家、国際機関、NGO、企業などの役割や相互関係を学習するものであり、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」に大きく関係するものである。							

この授業では、以下に掲げる項目への行動変革を目標とする。

- ・開発途上国が抱える基本的な課題を理解、分析し、論理的に説明することができる。
- ・国際社会の一員として、グローバルイシュー（貧困、環境問題等）の議論に参加できる。
- ・将来における自身のキャリア形成において、「社会貢献」「国際協力」の要素を高め、何らかの行動ができる。

授業の方法

- ・PowerPointを使用して講義を行う。講義内容の理解を促進するための動画も多く紹介する。
- ・Google Formを使用した理解度・関心度アンケートを随時実施し、結果をフィードバックする。
- ・開発課題を抽出し、課題解決に向けたプロジェクトを提案する問題解決学習を取り入れる。
- ・条件が整えば、JICAが実施するプログラムとの連携も検討する。
- ・受講生には、講義テーマについて事前に調べ、積極的にディスカッションに参加する姿勢が求められる。

ICT活用

- ・Google Classroom を使用し、講義資料および関連情報の共有、課題の指示・フィードバックを行うことで、自主学習を支援する。
- ・Google Formのアンケート機能を用いた双方向授業を取り入れる。
- ・条件が整えば、オンライン会議機能を活用し、国際協力機構関係者との意見交換を行う。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、国際協力の実務経験に基づく、実践的な内容の講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google Formを活用したアンケート結果については、講義の中でグラフ化するなどして解説する。
- ・課題については、その性質に応じて、講義の中で傾向を紹介する、若しくは、個別にコメントを返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 開発援助とは何か、何を学ぶか(受講の動機、目的、関心分野について積極的な発言を求める)	受講の動機、目的、関心分野を明確にするため、事前に自分の考えを整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第2回	日本の政府開発援助(1) 政府開発援助の全体像・定義、世界における日本の立ち位置	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第3回	日本の政府開発援助(2) 被援助国としての日本、日本の援助哲学、国際協力の必要性、国際機関の役割	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第4回	日本の政府開発援助(3) 国際協力機構(JICA)の概要と取り組み	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第5回	国際協力の多様な担い手(1) NGO/NPO、ボランティア等による取り組み	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第6回	国際協力の多様な担い手(2) 民間企業による取り組み、ソーシャルビジネス、マイクロファイナンス	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第7回	国際協力の多様な担い手(3) 地方自治体・大学・研究機関の取り組み	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第8回	SDGsを考える(1) 開発援助の国際潮流、環境と開発、MDGsからSDGsへ	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第9回	SDGsを考える(2) SDGsの中から受講生のアンケート結果に基づき、関心が高い分野を取り上げる	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第10回	SDGsを考える(3) SDGsの中から受講生のアンケート結果に基づき、関心が高い分野を取り上げる	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第11回	開発課題を考える(1) 貧困とは何か(絶対的貧困と相対的貧困、所得格差とジニ係数、貧困の連鎖)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第12回	開発課題を考える(2) ケーススタディ(開発課題の抽出、開発プログラムの策定)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第13回	開発課題を考える(3) ケーススタディ(開発課題の抽出、開発プログラムの策定)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第14回	開発課題を考える(4) ケーススタディ(開発課題の抽出、開発プログラムの策定)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第15回	これからの国際協力 これまでの学習を踏まえて、自分なりに国際協力の必要性、あり方について考える	最終レポートの作成 (90分)	最終レポートの完成(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題提出状況および内容(40%) ・授業への参加度および出席態度(20%) ・最終レポート(40%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

戸堂康之「開発経済学入門 第2版」新世社 2023
松本勝男「日本型開発協力」ちくま新書 2023
慎泰俊「世界の貧困に挑む マイクロファイナンスの可能性」岩波新書 2025
脇祐三「グローバルサウスの時代」光文社新書 2024

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際経済学(開発と経済成長)				ナンバリング	2722
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	中山 大将						

授業の位置づけ

北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)

授業の概要

この授業は、国と国との経済関係によって生じる問題について考察する学問です。この授業では、グローバル化が進む現代の経済情勢を理解するために必要な国際経済学の知識を身につけることを目標とします。具体的には、マクロ経済学の基礎を学習した後に、戦後の自由貿易、自由経済のいわゆるブレトンウッズ体制における経済の変遷と経済統合EC及びEU、FTA(自由貿易協定)、TPP(環太平洋連携協定)等の協定の意義について考察します。

到達目標

自ら関心を持った課題につき、統計資料等を用い問題の構造を分析し、的確な政策的処方箋をまとめ、国際的共通言語である国際経済学の枠組みにもとづいて発信できる能力を養います。

授業の方法

- ①反転授業の形態をとりますので、参加者は事前学習(準備学習)として事前学習資料や教科書を事前にしっかり読み、自分でノートを作っておくことが求められます。
- ②毎回、事前課題と事後課題をGoogle のClass room(クラスコード:t7vnmy62)から提出することが求められます。
- ③授業では、事前学習資料や教科書のほか、参加者の提出した事前課題や事後課題も教材として用います。
- ④授業は、教員による解説の場と言うよりも、参加者の質問に回答したり、参加者が学習内容を理解できているかを確認する場として使います。
- ⑤授業では、教員が参加者に発言を求めます。

ICT活用

インターネット上の資料を適宜参照する他、Google Classroomを通じた双方向コミュニケーションで補充する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

- ①提出された事前課題・事後課題の内容については授業で教材として使います。
- ②授業最終回以後に提出期限のある事後課題やレポート試験課題については、成績確定後にClass room上で解説を行なう資料を公開します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	なぜ学ぶのか？ ①人はなぜ学ぶのか？ ②なぜ大学で学ぶのか？ ③なぜ国際経済学を学ぶのか？ ④この科目の額種の仕方 ⑤教科書の読み方	合計90分 ①第01回事前学習資料を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②第01回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計90分 ①第01回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第2回	経済学の考え方 ①なぜ人は働くのか？(生産、消費、家計、効用) ②なぜお金でモノが買えるのか？(貨幣) ③なぜ価格は変わるのか？(需要、供給、市場) ④なぜ銀行があるのか？(貯蓄、投資、投機) ⑤なぜ税金を納めなければならないのか？(市場の失敗) ⑥経済成長とは何か？(付加価値、GDP) ⑦お金をたくさん刷ったらみんなお金持ちになれるのか？(インフレ、デフレ) ⑧なぜ不景気が起きるのか？(景気循環)	合計90分 ①第02回事前学習資料を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②第02回事前学習資料を読んで、新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計90分 ①第02回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。 ③第02回事前学習資料に書かれている質問に自分なりの回答を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第3回	なぜ貿易が行われるのか？(教科書第1章) ①世界と日本の貿易 ②貿易が行われる理由 ③比較優位の理論 ④新しい貿易理論	合計90分 ①教科書の第1章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第1章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第4回	なぜ政府は貿易に介入するのか？(教科書第2章) ①貿易政策の実態 ②貿易政策の経済への影響 ③保護貿易政策に関する議論 ④世界貿易体制	合計90分 ①教科書の第2章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第2章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第5回	なぜ地域統合が行われるのか？(教科書第3章) ①地域経済統合の実態 ②地域経済統合の動機および障害 ③地域経済統合の経済分析 ④地域経済統合の経済的影響	合計90分 ①教科書の第3章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第3章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第6回	なぜ海外投資が行われるのか？(教科書第4章) ①急速に拡大する直接投資 ②直接投資の動機 ③直接投資の経済的影響 ④直接投資政策	合計90分 ①教科書の第4章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第4章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第7回	どのように国際的に資金が流れるのか？(教科書第5章) ①活発化する国際資金移動 ②国際金融取引とは ③国際金融取引と経常収支・金融収支 ④国際金融取引と貯蓄・投資ギャップ ⑤国際資金移動の決定要因	合計90分 ①教科書の第5章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第5章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第8回	為替レートはどのように決まるのか？(教科書第6章) ①為替レートの動き ②為替レート決定の基本的な考え方 ③購買力平価 ④金利平価	合計90分 ①教科書の第6章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第6章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第9回	為替レートはどのように決まるのか？(教科書第6章) ①為替レートの動き ②為替レート決定の基本的な考え方 ③購買力平価 ④金利平価	合計90分 ①教科書の第6章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第7章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第10回	どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか？（教科書第8章） ①国際通貨 ②基軸通貨ドル体制 ③為替レート制度 ④通貨統合	合計90分 ①教科書の第8章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第8章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第11回	なぜ豊かな国と貧しい国が存在するのか？（教科書第9章） ①経済発展とは何か？ ②経済発展の源泉は何か？ ③多面的な経済発展の姿 ④市場・政府・コミュニティ	合計90分 ①教科書の第9章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第9章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第12回	どのようにして貧困を削減すればよいのか？（教科書第10章） ①経済発展の質的側面としての貧困 ②貧困をどう捉えるか？ ③貧困削減政策	合計90分 ①教科書の第10章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第10章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識が変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			

第13回	どのようにして開発援助を行えばよいのか？(教科書第11章) ①政府開発援助(ODA)とは何か？ ②ODAが経済発展と貧困削減に果たす役割 ③日本のODA	合計90分 ①教科書の第11章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第11章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第14回	どのようにして環境と開発の共存を達成するのか？(教科書第12章) ①地球環境問題 ②自然災害と貧困 ③持続可能な開発のためのレジリエンス(回復力)の構築 ④政府・国際機関と日本の役割	合計90分 ①教科書の第12章を読を読んで、要点や疑問点をまとめたノートを作る。 ②読んだ部分で重要だと思った用語とその説明をClass roomから提出する。 ③読んだ部分の要点を自分でまとめClass roomから提出する。 ④読んだ部分でわからなかったことをClass roomから提出する。	合計90分 ①教科書第12章や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
第15回	国際経済学から見る日本・北海道の歴史・現在・未来 ①戦前の日本はなぜ領土を拡大し戦争をしたのか？ ②なぜ・どのように北海道は「開拓」されたのか？ ③どうすれば国際経済学を人生に役に立てることができるか？ ④どうすれば国際経済学を学び続けられるか？	合計90分 ①第15回事前学習資料を読む。 ②新しく知ったことのうち特に印象に残ったことや認識の変わったこと、質問、感想を書いてClass roomから提出する。	合計90分 ①第15回事前学習資料や自分のノートを読み返す。 ②授業を通して印象に残った点や認識の変わった点、質問、感想、今回の学習内容を自分の人生に活かす方法を書いてClass roomから提出する。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行ないません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	①全回の授業への積極的参加、事前課題・事後課題の提出:60点。 *いずれかが1回でも欠ければ0点(正当な事由による欠席・未提出の場合は特別な措置を講じます)。 ②期末のレポート試験課題:40点。
その他	0	
教科書		
浦田秀次郎ほか編『はじめて学ぶ国際経済 新版』有斐閣、2022年(*大学の教科書販売では取扱いませんので、各自入手しましょう。類似した書名の本が数多くあるので、著者名・出版社・出版年を確認して入手しましょう。)		
参考文献		

- ①小塩隆士『高校生のための経済学入門 新版』筑摩書房、2024年
②武田晴人『日本経済史』有斐閣、2020年
③桑原真人、川上淳『北海道の歴史がわかる本 増補版』亜璃西社、2018年
④小磯修二、山崎幹根編『戦後北海道開発の軌跡 1945～2006』北海道開発協会、2007年
＊高校で「公共」「政治・経済」などの科目や「日本史」などの科目を学んだ場合は、その教科書や参考書、ノートなどを用意しておきましょう。”

履修条件・留意事項等

履修条件は特にありませんが、「経済と社会」など経済学関連科目を履修しておくとう理解がしやすいです。また、履修を予定している場合は、第01回教室学習(授業)前に必ず本科目のClass room(クラスコード:t7vnmy62)を見ておきましょう。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		比較政治学				ナンバリング	2742
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシーの「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)」等に、特に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、各国の政治の多様性を理解するために、比較政治学の諸理論を活用して、具体的な欧米諸国の政治制度を理解し、説明できるようになることを到達目標とする。比較政治学は、政治的な現象や制度を比較することを通じて、政治の実態についての理解を深めることを目指す学問分野である。本講義では、まず、外国の政治について、その国の政治システム全体を捉えて、他の国と比較する方法を学ぶ。次に、関心のある領域に限定して複数の国を比較する方法を学ぶ。講義では、まず、それぞれの国の政治の特徴を、その国の独自性に注目しながら取り上げる。その上で、様々な制度の連関性を意識して、そうした特徴を形成する要素を分析し、その際には比較政治学の諸理論も活用して、政治過程のメカニズムも検討する。

到達目標

以下の点ができるようになることが目標である。

1. 受講生が、政治において「比較」という視座を持つことで複雑な問題の構造を理解することができる。
2. 「比較」という行為の理論的枠組みの概要を理解し、実践的な分析ができる。
3. 「比較政治学」の歴史的発展過程において、標準的なモデルとされてきた欧米各国の政治史の概要を理解することができる。
4. 「比較政治学」において標準的に扱われている政治文化、政治システム、体制変動といった代表的な課題の分析を通じ、具体的に比較の視座から自分なりの分析を行うことができる。
5. 講義期間中における最も旬な政治問題の構造を取り上げ、歴史軸と地域軸というタテヨコに幅広く眺めることを通じ、総合的、客観的、論理的に理解し、比較の方法論を自分なりの見解の形成に応用することができる。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行うほか、受講生の関心によってはStudy Groupによる自主的な取り組みを歓迎する。

ICT活用

必要に応じインターネット上の資料を紹介するとともに、Google Classroomを用いた双方向対話を行う。

実務経験のある教員の教育内容

日本とアメリカで高等教育を受けた上で、通商産業省(現・経済産業省)職員として、日本の政策形成過程に参加した経験と国際機関での他国との外交交渉実務を踏まえたケースを紹介しながら、特にアメリカにおけるComparative Politicsの方法論を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中小課題を課し提出物に対する講評を行うとともに、Google Classroomを利用した情報提供とフィードバックを適宜行う他、期末課題の提出を求め評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. Introduction: 何を比較するのか? (1) 比較政治学の方法論 (2) 方法論と「学問」	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2. 比較政治学の系譜 (1) アメリカにおける比較政治学 ① 戦勝国アメリカの国際認識: Grand Theory ② Benedict Andersonの特殊性 ③ 合理的選択論・方法論的個人主義とペレストロイカ (2) 日本における「比較政治」の受容 ① 戦後日本の国際政治学の再出発 ② アメリカ留学という壁 ③ 共産圏の政治研究 ④ バブル世代学者の登場 ⑤ 21世紀の比較政治学	指定された文献を読むこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	3. 比較の事例 ① アメリカにおける中絶禁止問題 (1) 課題設定 ① アメリカにおける人工妊娠中絶論争 ② ラテンアメリカ諸国における動き (2) 説明要因 ① カソリック教会 ラテンアメリカのキリスト教 バチカン アメリカ福音派 ② 政治運動の手法 議会と政府 司法 市民運動	指定された文献を読むこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第4回	4. 国家と社会 (1) 国家建設 (2) 市民社会	指定された文献を読んでくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	4. 国家と社会 (3) ナショナリズム 5. 比較の事例 ② ドイツとフランス (1) 戦後ドイツの政治	指定された文献を読んでくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	5. 比較の事例 ② ドイツとフランス (2) フランス20世紀の政治史 (3) 独仏関係とEU	指定された文献を読んでくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第7回	5. 比較の事例 ② ドイツとフランス (4) 共産主義の伝播 (5) ファシズムとイタリア	指定された文献を読んでくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	5. 比較の事例 ② ドイツとフランス (6) 欧州を比較する視座:Path Dependencyと凍結仮説 比較相手としての北欧 欧州における三つの革命における分岐 1920年代凍結仮説とその反論	指定された文献を読んでくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	6. 民主主義と市民社会 (1) 民主主義と啓蒙思想 (2) リベラリズム (3) 市民社会のイメージ	指定された文献を読んでくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	7. 民主主義体制の崩壊と権威主義 (1) 政治体制 (2) 民主主義体制の崩壊	指定された文献を読んでもくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	7. 民主主義体制の崩壊と権威主義 (3) 開発独裁と権威主義 (4) イスラム革命と権威主義	指定された文献を読んでもくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	7. 民主主義体制の崩壊と権威主義 (5) 「開発独裁国家」日本とその解釈としての東南アジア 8. 保守主義 (1) なぜ今、保守主義なのか？	指定された文献を読んでもくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	8. 保守主義 (2) 原点としてのEdmund Burke (3) イギリスにおける保守主義	指定された文献を読んでもくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	8. 保守主義 (4) ドイツにおける保守主義 (5) アメリカにおける保守主義 (6) 保守主義と権威主義	指定された文献を読んでもくること (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	8. 保守主義 (7) 日本における保守主義 9. 多様性と比較	指定された文献を読んでもくること (90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性50%、小課題の提出状況20%、期末課題30%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

以下のものは昨年までのものである、本年はさらに講義の中で紹介していく。
 粕谷祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房 2014
 久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治の考え方』有斐閣ストゥディア 2016
 河野勝・岩崎正洋編『アクセス 比較政治学』日本経済評論社 2002
 田中拓道『リベラルとは何か』中公新書 2020
 池田信夫『戦後リベラルの終焉』PHP新書 2015
 Steven Levitsky & Daniel Ziblatt, How Democracies Die, Penguin Random House, 2018

履修条件・留意事項等

本講座の対象は「比較」の方法論であるので、履修条件とはしないが、「比較」の対象となる政治現象についてはある程度知識が必要であることを覚悟し、それらの補完に努めてほしい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際社会学				ナンバリング	2724
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この授業は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」と特に関係があるものである。

授業の概要

この授業は、様々な側面を有する「国際社会」を捉えるための視点・方法を学ぶことを通じて、ローカルなもの、ナショナルなもの、グローバルなものの相互依存が拡大する現代社会の特質に接近するとともに、グローバル時代にふさわしい社会学的想像力を磨くものである。

到達目標

この授業では、以下に掲げる項目への行動変革を目標とする。

- ・国際社会学で取り上げる国際間の人口移動の基本的な課題を理解、分析し、論理的に説明することができる。
- ・国際社会の一員として、国境を越えた移民問題の議論に参加できる。
- ・将来における自身のキャリア形成において、国際的な人口移動の問題について俯瞰した考えを持ち、何らかの行動ができる。

授業の方法

- ・PowerPointを使用して講義を行う。講義内容の理解を促進するための動画も多く紹介する。
- ・Google Formを使用した理解度・関心度アンケートを随時実施し、結果をフィードバックする。
- ・受講生には、講義テーマについて事前に調べ、積極的にディスカッションに参加する姿勢が求められる。

ICT活用

- ・Google Classroom を使用し、講義資料および関連情報の共有、課題の指示・フィードバックを行うことで、自主学習を支援する。
- ・Google Formのアンケート機能を用いた双方向授業を取り入れる。
- ・条件が整えば、オンライン会議機能を活用し、国際協力機構関係者との意見交換を行う。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、海外における業務経験、生活経験を踏まえた講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google Formを活用したアンケート結果については、講義の中でグラフ化するなどして解説する。
- ・課題については、その性質に応じて、講義の中で傾向を紹介する、若しくは、個別にコメントを返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 国際社会学の射程	授業に出席する目的を明確するため、事前に関心分野を整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第2回	国際社会学の問題と基礎概念(1) 国境を越えた社会現象、近代における人種・国家概念	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第3回	国際社会学の問題と基礎概念(2) 国際人口移動(自発的移動と非自発的移動)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第4回	国際社会学の問題と基礎概念(3) 国際移民とジェンダー課題	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第5回	国際社会学の問題と基礎概念(4) 人種差別の歴史的変遷	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第6回	人口移動の加速化と多様化(1) 国境を越える企業活動、グローバル化による同質性	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第7回	人口移動の加速化と多様化(2) 移民労働者、プッシュ＝プル理論、歴史的構造論、移民システム論、トランスナショナル論	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第8回	多文化社会の発展と反動(1) 米国における移民の歴史、移民規制の強化	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第9回	多文化社会の発展と反動(2) 移民送出国としての日本、日系移民の歴史	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第10回	多文化社会の発展と反動(3) 移民の社会統合、社会階層と社会移動、同化理論	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第11回	多文化社会の発展と反動(4) 日本における統合・共生(在留外国人・在留資格)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第12回	多文化社会の発展と反動(5) 日本における統合・共生(移民第二世代と教育、日本における日系人コミュニティ)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見 ・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第13回	国境を超える集団と制度 非自発的移動(難民・避難民)、国際人権レジーム、難民条約と難民認定	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第14回	グローバル社会の諸相 人の流れをめぐる問い、格差をめぐる問い、統合をめぐる問い	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第15回	国際社会論まとめ 全体の振り返りと最終レポート提出に向けて	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	授業内容を復習し、最終レポートを完成させること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題提出状況および内容(40%) ・授業への参加度および出席態度(20%) ・最終レポート(40%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

宮島喬他「国際社会学 改訂版」有斐閣 2024年
樽本英樹「よくわかる国際社会学 第2版」ミネルヴァ書房 2016年

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		地球環境論				ナンバリング	2770
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」及び「グローバル化社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業では、深刻化する全世界共通の問題である、気候変動による温暖化、海面上昇、砂漠化などの地球環境の諸問題についてその概略を理解することを目的とする科目である。地球環境問題では、世界共通のものと、各国、各地域で深刻度が異なる多様な問題が存在しており、それらが私たちの日常生活とどのように結びつき、どのような影響を及ぼしているかを理解することを目指す。また、環境問題の解決や改善にどのような取り組みがなされ、人々が参画しているのかについても学ぶ。

到達目標

1. 受講生が、「地球環境問題」と言われる問題群の概要を理解し、その中から自ら関心を持つ政策分野の範囲を概ね特定できるようになる。
2. 受講生が、その環境問題の構造を分析するために必要な理論的枠組みを選ぶことができるようになる。
3. 受講生が、理論的枠組みを用いて分析した結果を、現状変更の政策提言をまとめられるようになる。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行うが、必要に応じGoogle Classroomを用いて情報のコミュニケーションを行う。

ICT活用

条約事務局のサイトなどインターネット上の資料を適宜参照するとともに、Google Classroomによる補完的情報提供を行う。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、条約交渉等の外交交渉の現場や国内における法令の作成や国会審議、あるいは政府部内における政策形成過程を踏まえた実践的事例を盛り込む。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に小課題を課し、それに対する講評を行うとともに、適宜Google Classroomを用いた情報提供とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. Introduction (1) 講義のアウトライン (2) 現在日本における「地球環境問題」に関する大学教育の実態 (3) 「地球環境問題」を見る視角	シラバスを読み、自らの関心を明確にしておくこと(90分) 米本昌平『地球環境問題とは何か』岩波新書 1994	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2. 気候変動問題 (1) 科学	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2. 気候変動問題 (2) エネルギー	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第4回	2. 気候変動問題 (3) 政治過程	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	3. 「前史」としてのオゾン層保護問題 (1) 地中海を救う”認識の共同体” (2) オゾン層保護をめぐる科学と政治 (3) 軍産複合体の生成物としての地球環境保護	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	3. 「前史」としてのオゾン層保護問題 (4) 市民と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第7回	4. 地球環境問題を発見するアメリカの政治過程 (1) アメリカ政治の構造 ① 連邦制 ② 議会政治 ③ 官僚制と猟官制 (2) 市民と政治 (3) 政治的運動体: 軍産複合体とNGO (4) 大学と地域	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	5. 国際政治における認識論と社会構築主義 (1) 非国家アクター (2) 国際政治理論の現代的展開	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	6. その他の地球環境問題 (1) 漁業資源の保護と捕鯨 (2) 生態系の破壊と種の保存	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	6. その他の地球環境問題 (3) 森林破壊と地域政治 (4) 海洋汚染と汚染物質の貿易規制	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	6. その他の地球環境問題 (5) 長期残留性有機化学物質の規制とEU	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	7. 技術と政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	8. 国際組織とNGO	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	9. 地球環境問題における国内政治	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	10. まとめ	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義への参加の積極性40%、小課題20%、期末課題40%
その他	0	
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

講義の中で適宜紹介していく。

米本昌平『地球環境問題とは何か』岩波新書 1994

Pamela Chasek, David Downie, Janel Welsh Brown, Global Environmental Politics, 5th ed. Routledge, 2020

Karen T. Litfin, Ozone Discourses: Science and Politics in Global Environmental Cooperation, Columbia U. P. 1994

目加田説子『国境を越える市民ネットワーク Transnational Civil Society』東洋経済新報社 2003

畠山武道『アメリカの環境保護法』北大図書刊行会1992

Natasha A. Jankowski and David W. Marshall, Degrees That Matter: Moving Higher Education to a Learning Systems Paradigm, Routledge 2017

阪口功『地球環境ガバナンスとレジームの発展プロセス:ワシントン条約レジームとNGO・国家』国際書院2006

兄矢野マリ『国際環境法における事前協議制度』有信堂2006

Daphne Josselin and Williams Wallece eds., Non-State Actors in World Politics, Palgrave 2001

履修条件・留意事項等

英語文献を積極的に読みたい学生を歓迎する。

備考欄

本講座では、地球環境問題を取り上げるが、科学的側面についての理解は前提であり、主として国際そして国内における政治過程について扱う。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際政治経済学				ナンバリング	3744
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関連する科目である。また、「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」こととも関連する科目である。1年次後期の「日本政治経済論」と連携している。

授業の概要

この授業は、国際政治経済学の世界認識におけるグローバル化は、異なる問題領域での、多様な経済化・市場化・産業化そして資本主義がもたらす政治・社会・文化への影響と変化への理解が求められる。この授業では、安全保障、外交、市場、知識などの具体的な分野における、国家・国際機関・NGO・多国籍企業そして先進国市民社会の相互関係、また各アクターの役割の変化などを学習することで、刻々と変化する国際情勢を自分の力で考える、認識枠組みと分析方法の基礎を獲得できることを目標とする。

到達目標

これまで学んだ国際関係論の理論的枠組みを復習し、経済化・市場化するグローバル世界における多様な権力とその構造を認識することができる。国際政治経済の現象を自ら分析することができる。世界経済の課題・解決の基礎を自律的に思考することができる。

授業の方法

講義形式で行う。適宜学生に対してレポートなどの課題を課す。

ICT活用

インターネット上の資料や映像を適宜参照するとともに、Google Classroomを用いた双方向的コミュニケーションを保つ。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中に課すレポートや課題についてのコメントや指導を行うとともに、Google Classroomを通じ適宜補充する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 国家vs市場？経済化する世界と市場権力の国際政治	シラバスを読み、自らの関心を明確にし、疑問点などがあれば整理しておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第2回	国際政治の理論(1) 現実主義、安全保障、国家主義	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第3回	国際政治の理論(2) 自由主義、貿易の拡大、相互依存	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第4回	国際政治の理論(3) マルクス主義、グローバリズム、資本主義の行方	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第5回	帝国主義と重商主義 グローバル化における経済的ナショナリズムの出現	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第6回	国家と市場 グローバル化、経済化する世界における新しい権力と権威	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第7回	世界経済における権力の構造(1) 安全保障構造	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第8回	世界経済における権力の構造(2) 生産構造	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第9回	世界経済における権力の構造(3) 金融構造	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第10回	世界経済における権力の構造(4) 知識構造	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第11回	二次的権力構造(1) 空海輸送、貿易 一帯一路、中国の影響、欧州の思惑	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第12回	二次的権力構造(2) エネルギー、環境 「クリーン」な世界の行方と実態	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			

第13回	二次的権力構造(3) 国際福祉または開発 国際金融機関の変遷と援助	指定された文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習し、レポートなどの課題に取り組む(90分)
担当教員			
第14回	小論文試験 これまでの学習内容の理解度と、それをベースとして自律的に思考し応用できるのかを問う。	これまでの授業内容や課題内容の復習(90分)	小論文の設題に対する自分の回答の吟味。関連する不足知識の復習(90分)
担当教員			
第15回	まとめ (1)小論文についての講評 (2)小論文を踏まえてのこれまでの授業の振り返りとまとめ。 現代の諸問題への国際政治経済学のアプローチ。	これまでの授業内容の振り返りと自分の小論文の自己評価の作成(90分)	授業内容を参考に、これまでの授業全体で学んだことをノートにまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行なわない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性20%、レポート・課題の提出状況50%、小論文30%
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

各回の授業内容について関連する文献や資料を適宜指示または配布。

特に以下の書籍を推薦する。

スーザン・ストレンジ『国家と市場: 国際政治経済学入門』ちくま学芸文庫、2020

スーザン・ストレンジ『国家の退場: グローバル経済の新しい主役たち』岩波書店、1998

スーザン・ストレンジ『マッド・マネー: 世紀末のカジノ資本主義』岩波書店、1999

スーザン・ストレンジ『カジノ資本主義』岩波現代文庫(学術 172)、2007

Stephen Gill and David Law (1988) The Global Political Economy: Perspectives, Problems and Policies, Johns Hopkins Univ Press.

履修条件・留意事項等

世界史や現代史の基本的な知識を要する科目である。近現代の経済、貿易、金融などにも関心・知識を持っていることが望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際機構と国際法				ナンバリング	3714
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	片岡 徹						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、グローバル化する世界で重要性を増す、国連などの国際機構と、国家の枠組みを超える共通のルールである国際法について学ぶことを目的とする。20世紀後半の安定した世界の中で、世界政治は国家間の競争や衝突だけでなく、人類に共通する組織やルールでの運営を模索してきた。日本の政治経済や社会とも深く関わる国際機構と国際法について、その理論と事例から総合的な把握を目指す。

到達目標

本科目は「国際機構と国際法」という授業であるが、理論や歴史に関する知識の獲得に努めることはもちろんのこと、まさに現在進行形である地球的問題群(global issues)にも言及することで自ら問いを立て、そして自分なりの根拠をもとに論理的、説得的に主張できることも重要な到達目標となる。

授業の方法

3年次配当科目であることから、使用するテキストの理解に努めるとともに、グループ・ディスカッションを取り入れてグループ内で論点整理を踏まえた意見交換を行うとともに、全体でも共有することで知見の深化を図りたいと考えている。

ICT活用

必要に応じインターネット上の資料を紹介するとともに、Google Classroomを用いた双方向対話を行う。

実務経験のある教員の教育内容

高校での教育経験もあり、それも踏まえた授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義期間中小課題を課し提出物に対する講評を行うとともに、Google Classroomを利用した情報提供とフィードバックを適宜行う他、期末課題の提出を求め評価とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・イントロダクション:いま「国際法」を考える意義とは (キーワード:国際機構、国際法、グローバル化)	シラバスを読み、自らの関心を 明確にしておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第2回	・最上 (2006)「はじめに」 (キーワード:歴史、国連) *【教科書】最上敏樹(2006)『いま平和とは一人権と人道 をめぐる9話-』岩波新書	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第3回	・最上 (2006)「第1話 尽きせぬ武力紛争-「新しい戦争」の 時代に」 (キーワード:武力戦争、新しい戦争)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			

第4回	・最上 (2006)「第2話 未完の理想-国連による平和」 (キーワード: 国際連合、国際連盟)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第5回	・最上 (2006)「第3話 平和のための法-国際人道法と国際 刑事裁判」 (キーワード: 国際人道法、国際刑事裁判)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第6回	・最上 (2006)「第4話 平和を再定義する-人間のための平 和」 (キーワード: 消極的平和、積極的平和)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			

第7回	・最上 (2006)「第5話 人道的介入-正義の武力行使はあるか」 (キーワード:人道的介入、人間の尊厳)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第8回	・最上 (2006)「第6話 平和と人権と市民たち-市民社会の 世界化へ」 (キーワード:人権、市民社会)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第9回	・最上 (2006)「第7章 核と殲滅の思想-人間の忘却としての 平和破壊」 (キーワード:核軍縮、戦争の記憶)	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			

第10回	・最上 (2006)「第8章 絶望から和解へ-人を閉じ込めてはならない」 (キーワード: 和解、歴史の伝承)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第11回	・最上 (2006)「第9話 隣人との平和-自分を閉じ込めてはならない」 (キーワード: 信頼醸成、多文化共生)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			
第12回	・最上 (2006)「おわりに～平和を作り出すための諸条件について共に考える～」 (キーワード: 地球的問題群、国際安全保障)	指定された文献を事前に読み、要点をまとめるとともに疑問点なども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート等で復習すること (90分)
担当教員			

第13回	・国連開発計画 (UNDP) の役割	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第14回	・ユネスコ (UNESCO) の役割	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	配布プリントと講義の内容をノート 等で復習すること (90分)
担当教員			
第15回	・ユニセフ (UNICEF) の役割 ・まとめ・期末課題の提示	指定された文献を事前に読み、 要点をまとめるとともに疑問点な ども整理しておくこと (90分)	期末課題を作成すること (90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義参加への積極性20%、小課題の提出状況30%、期末課題50%
その他	0	
教科書		
最上敏樹(2006)『いま平和とは一人権と人道をめぐる9話-』岩波新書		
参考文献		

- ・浅田正彦・玉田大(編著) (2023)『ウクライナ戦争をめぐる国際法と国際政治経済』東信堂
- ・大沼保昭 (2005)『国際法』東信堂
- ・大沼保昭 (2007)『「慰安婦」問題とは何だったのか』中公新書
- ・大沼保昭(2018)『国際法』ちくま新書
- ・郭舜 (2022)『国際法哲学の復権』弘文堂
- ・篠田 英朗 (2021)『紛争解決ってなんだろう』ちくまプリマー新書
- ・庄司克宏編 (2006)『国際機構』岩波書店
- ・筒井清輝 (2002) 人権と国家ー理念の力と国際政治の現実』岩波新書
- ・鶴岡路人 (2024)『はじめての戦争と平和』ちくまプリマー新書
- ・中村研一 (2010)『地球的問題の政治学』岩波書店
- ・最上敏樹 (2001)『人道的介入』岩波新書
- ・最上敏樹 (2005)『国境なき平和に』みすず書房
- ・最上敏樹 (2006)『国際機構論 第2版』東京大学出版会
- ・最上敏樹 (2007)『国際立憲主義の時代』岩波書店
- ・最上敏樹 (2016)『国際機構論講義』岩波書店
- ・最上敏樹 (2024)『国際法以後』みすず書房
- ・オリバー・ラムズボサム、トム・ウッドハウス、ヒュー・マイアル (著) 宮本 貴世 (翻訳) (2010)『現代世界の紛争解決学』明石書店
- ・ヴォーン・ロウ(著) 庄司克宏(監訳) (2024)『考える国際法』白水社

履修条件・留意事項等

- ・欠席をする場合には必ず事前に連絡をすること
- ・遅刻をしないこと
- ・必ず予習として指定されたテキストを読み、自分なりに考えて授業に臨むこと

備考欄

本科目の担当者の本務校: 北星学園大学 文学部心理・応用コミュニケーション学科
Email: kataoka@hokusei.ac.jp

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際貿易投資論				ナンバリング	3728
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「世界と繋がるために国際社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、なぜ貿易や投資が生じるのか、貿易や投資を行うことの利益は何か、どのような貿易や投資のパターンが国家間で生じるのかについて、国際貿易論や国際投資論における理論・実証をバランスよく学ぶ。また、貿易の利益の分配上の対立についても学ぶ。伝統的な比較優位の概念を正しく理解し、貿易理論をもとに貿易利益や貿易利益を分配する上での対立、伝統的貿易理論から新貿易理論までの歴史的背景を理解することを目的とする。また、国際投資の間接投資と直接投資について、理論と事例から理解できることも目的である。

到達目標

受講生は、本講座を受講することにより、以下のことができるようになることが目標である。

1. 日常報道される世界経済問題において、自ら関心を持った課題につき、通説的理解を認識できるようになる。
2. その上で、自ら統計資料等を用い問題の構造を分析し、そうした通説的理解の適否を論じることができるようになる。
3. さらに、それらが適切でないと判断する場合に、自らの的確な分析を行なった上で、政策的処方箋をまとめ、国際的共通言語である国際経済学の枠組みにもとづいて発信できる。

授業の方法

PowerPointを用いた講義形式で行う。受講者の積極的な議論参加を期待している。思いついた疑問をクラス内で共有し、双方向的な講義を目指す。

ICT活用

関連するインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

通商産業省(現・経済産業省)職員として、国際経済及び国内における産業政策の形成過程と国際的な政策調整に関わった実務経験を踏まえた教育を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での積極的なディスカッションを奨励するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1: イントロダクション (1) 日本の貿易と国際収支 (2) 通商白書とその変遷 (3) 近年の貿易動向の特徴	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第2回	2: 貿易のミクロ経済分析 (1) 貿易市場のメカニズム(需要・供給分析) (2) 比較優位と絶対優位 (3) Heckscher-Olinの定理とその妥当性	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第3回	2: 貿易のミクロ経済分析 (1) 「比較優位」を決定する要因 ① 成長会計 ② Leontief Paradox	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第4回	3:貿易政策 (1)産業内貿易と産業間貿易 (2)規模の経済学、製品差別化とFragmentation	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	3:貿易政策 (3)関税 (4)輸入割り当て	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	3:貿易政策 (5)輸出補助金 (6)Hechsher-Orlinモデルの評価 ①Ricardo-Viner Theorem ②Leontiefの逆説の現代的解釈	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第7回	3:貿易政策 (7) Stolper -Samuelsonの定理 (8) 関税同盟と地域統合	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	4:Case Study① ドイツ建国史 (1) 中世ドイツの経済的基盤 (2) 神聖ローマ帝国を解体した下部構造 (3) ブルボン王朝と重商主義	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	4:Case Study① ドイツ建国史 (4) 重商主義の他国への伝播 ① スペインの自滅 ② オランダの成功 ③ 大英帝国の建設 ④ アメリカの独自政策	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	4:Case Study① ドイツ建国史 (5) プロイセン王国 ① 神聖ローマ帝国における特異な位置付け ② 帝国と領邦 ③ Karl MarxとFriedrich List ④ ドイツ関税同盟	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	5:戦略的貿易政策 (1) 戦略的貿易政策が成り立つ事例 (2) 戦略的貿易政策の擁護論	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	6:Case Study② アメリカの関税政策 (1) アメリカ不況史 (2) 建国期アメリカ経済	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	6:Case Study ② アメリカの関税政策 (3) Andrew Jacksonの金融引き締めと南北戦争 (4) 普仏戦争と欧州経済動乱とアメリカ経済 ① 貨幣鑄造法とマネーサプライ ② 金ピカ時代と西武開拓 ③ McKinley 関税法	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	6:Case Study② アメリカの関税政策 (5) モンロー主義とドーンロー主義 (6) 西半球におけるアメリカ	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	7:まとめ (1) アメリカ経済史から学ぶべきこと (2) 現代日本の半導体政策の評価	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席と講義参加の積極性30%、小課題提出状況30%、期末課題40%
その他	0	
教科書		
伊藤萬里・田中鮎夢『現実から学ぶ国際経済学』有斐閣 2023		
参考文献		

本当は国際的に標準とされる

Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2023) International Economics: Theory and Policy, 12th edition, Pearson.

を理解することがこの分野を理解することではあるが、学部レベルでは現実的ではないのも事実として認めざるを得ない。このため多くの文献を参考に出している、講義の中で適宜説明する。以下のものは現時点で代表的なこの分野の教科書であり、手元に置いて常にレファレンスとして使ってほしい。

石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』第2版 有斐閣 2013

斎藤誠、岩本康志、太田聡一、柴田章久『マクロ経済学』有斐閣 2010, 2016 (新版・Web補充)

程度の内容を理解していないと、大学で経済学を学んだと社会人としては言えないことを肝に銘じる必要がある。

履修条件・留意事項等

経済学は積み上げである。したがって、欠席は許されない。欠席する際には事前に担当教員に申し出て、補修策を相談してほしい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		地方自治論				ナンバリング	4750
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

国際教養学科としては、地方自治体への就職を特に意識した過程とはなっていないが、EU研究における「補完性原理」や日本政治経済論で学んだ日本政治の知識の上に、4年生科目として就職先で知的実践を前に地方、とりわけ北海道にローカルの問題に再度焦点を当てようとするものである。「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」に特に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、地方自治が現代政治や民主主義の中で担っている役割を、中央政府との関係、そして市民との関係を検討することによって学んでいく。本講義では、現代地方自治の特質と課題を、政治学・経済学・社会学・行政学などの概念を用いながら検討していく。現代日本の地方自治の特質と課題を、現実の制度運用の観点から、歴史的観点から、また国際比較の観点から理解できるようにする。

到達目標

1. 中央政府と地方政府という国家の構成について、基本的原理と各国における多様な現実を理解した上で、日本の特徴について理解している。 2. 日本における国政と地方政治の相関関係について理解し、知的教養を持った主権者として一定の見識の上で正しく判断し、正しく行動を行うことができる。 3. 現代日本の地方自治の抱える問題点を理解し、その是正のために自ら主体的に行動を企画することができる。

授業の方法

講義担当者による講義を中心とし、課題について受講生のディスカッションを踏まえて進めていく。 受講者は4年生であることに鑑み、地方自治を学ぶニーズが多様であることを前提に、受講者の関心に最大限応えるよう講義内容の重点を変える。また後半の「政策ケーススタディ」については、毎回担当する受講者がシラバスに指定された参考文献を読んだうえで自ら主体的に45分程度の論点整理と自らの考えを述べるプレゼン1を行うことにより授業を進める。受講希望者は、事前に講義担当者に連絡して自らの関心のありかをつたえることが必要になる。プレゼンテーションは単独でもグループで行っても構わないが行わなかった者は単位を認めない。中間課題及び期末課題は単独で提出されたものを評価する。

ICT活用

Google Classroomによる授業時間以外におけるコミュニケーションをとる。 中間課題及び期末課題については、Google Classroomで課題を課し、提出物を受け取る。 その他、ドキュメンタリー、Web上の資料を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

学問として政治過程論・行政学を日米の大学及び大学院で修めているだけでなく、旧通商産業省職員として中央省庁における政策決定過程に約10年習熟した経験と、実際に各種の選挙にも携わった経験を持つ者が講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroom等でのFeedbacksを頻繁に行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. Introduction 秋吉貴雄『入門 公共政策学』中公新書2017	シラバス及び参考文献を読み、 自らの関心を明確にしておくこと (90分)	配布プリントや参考文献を読了 し講義の内容をノート等で復習 すること(90分)
担当教員			
第2回	2. 制度論 (1) 地方自治制度 ① 自治体と地方自治 ホーンブック地方自治 第1章 ② EUにおける補完性原理 遠藤乾「ポスト主権の政治思想—ヨーロッパ連合における 補完性原理の可能性」『思想』EUの945号 2003 ③ 地方自治の現場 杉浦明平『台風十三号始末記』岩波新書1955	指定された参考文献を読んでお くこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了 し講義の内容をノート等で復習 すること(90分)
担当教員			
第3回	(2) 日本の地方自治制度の歴史 ① 帝国憲法下の国家体制 村松岐夫『日本の行政』中公新書1994 藤田省三「天皇制国家の支配原理」市川弘正編『藤田省 三コレクション』平凡社ライブラリー2010所収 ホーンブック地方自治 第2章 ② 占領改革と戦後地方自治 ホーンブック地方自治 第3章 西尾勝『地方分権改革』東京大学出版会2007	指定された参考文献を読んでお くこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了 し講義の内容をノート等で復習 すること(90分)
担当教員			

第4回	③ 三位一体改革と地方分権 木寺元『地方分権改革の政治学』有斐閣2012 田村秀『暴走する地方自治』筑摩書房2012 ④ 都道府県と市区町村 ホーンブック地方自治 第4章 磯崎初仁「都道府県制度の改革と道州制—府県のアイデンティティとは何か—」磯崎初仁編著『変革の中の地方自治—自治・分権の制度設計』中央大学出版部 2010 久邇良子「フランス第五共和制における地方分権化・地方分散化」東京学芸大学紀要人文社会科学系Ⅱ 61 2010	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第5回	(3) 統治構造 ① 二元代表制 ホーンブック地方自治 第5章 ② 首長と執行機関 ホーンブック地方自治 第6章	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第6回	② 議会と議員 ホーンブック地方自治 第7章 待鳥聡史『代議制民主主義』中公新書2015	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	中間課題(ここまでの講義の内容を踏まえ、第7回以降に掲示された政策課題の中から1つを選び、なぜその課題を選択して今後分析することにしたかまとめて提出すること)を作成すること(90分)
担当教員			

第7回	政策ケーススタディ1 自治基本条例と住民参加のまちづくり 伊藤修一郎「なぜ自治体は規制を避けるのか」レヴアイアサン38号 2006 神原勝『自治・議会基本条例論』公人の友者2008 砂原庸介「住民投票の比較分析―「拒否権」を通じた行政統制の可能性」『公共選択』68 2017	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第8回	政策ケーススタディ2 まちづくりと公共事業 ホーンブック地方自治 第11章 早野透『田中角栄一戦後日本の悲しき自画像』中公新書2012	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第9回	政策ケーススタディ3 環境とリサイクル ホーンブック地方自治 第12章 寄本勝美『リサイクル社会への道』岩波新書2003 『リサイクル政策の形成と市民参加』有斐閣2009	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第10回	政策ケーススタディ4 人口減少と地域社会 ホーンプック地方自治 第14章 増田寛也編『地方消滅』中公新書2014 山下祐介『地方消滅の罫―増田レポート』と人口減少社会の正体』ちくま新書2014 赤川学『子供が減って何が悪い！』ちくま新書2004	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第11回	政策ケーススタディ5 教育と地域格差 荻谷剛彦『教育と平等:大衆教育社会はいかに生成したか』中公新書2006 『学力と階層』朝日文庫2012 辻田真佐憲『文部省の研究』文春新書2017 田村秀『自治体と大学』ちくま新書2022	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第12回	政策ケーススタディ6 産業政策と地域創生 ホーンプック地方自治 第10章 神野直彦『地域再生の経済学』中公新書2002 山下祐介・金井利之『地方創生の正体―なぜ地域政策は失敗するのか』ちくま新書2015	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			

第13回	政策ケーススタディ7 エネルギー政策 大野輝之『自治体のエネルギー戦略ーアメリカと東京』岩波新書2013	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第14回	政策ケーススタディ8 大阪 砂原庸介『大阪一大都市は国家を超えるか』中公新書2012 大嶽秀夫『日本型ポピュリズム』中公新書2003 中央公論 特集「維新の正体」2023年8月	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	配布プリントや参考文献を読了し講義の内容をノート等で復習すること(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 地方自治の夢と現実	指定された参考文献を読んでおくこと(90分)	期末課題を作成すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義への参加度及び参加態度 30% 中間課題 30% 期末課題 40%
その他	0	
教科書		
磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『新版 ホーンプブック地方自治』北樹出版2020		
参考文献		

秋吉貴雄『入門 公共政策学』中公新書2017
 曾我謙悟『日本の地方政府』中公新書2019
 辻陽『日本の地方議会』中公新書2019
 砂原庸介『大阪一大都市は国家を越えるか』中公新書2012
 大野輝之『自治体のエネルギー戦略』岩波新書2013

履修条件・留意事項等

担当教員としては、地方自治体への就職を本気で検討することを推奨している。国際学部国際教養学科としての視野の広さは必ず自治体職員としての強みとなるはずだからである。このため各回でこのシラバスで紹介している参考文献を全力で読み込んでディスカッションに参加することが必要である。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		メディア社会論				ナンバリング	4752
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」とと特に関係があり、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」とと関係がある科目である。メディアと社会との関係を理解することを通して、メディア・リテラシーを向上させるための科目である。

授業の概要

この授業は、世界を駆け巡る情報が、様々な社会的条件のもとで生み出され流通している実態について学ぶ。メディア社会の進展の中で、テレビなどのメディアに媒介された情報を一方的に受容するのではなく、クリティカルに読み解くスキルの獲得が、ますます重要になってきている。本講義では、情報の単なる「受け手」ではなく、よき「読み手」となるための基本的な知識を学ぶ。各種メディアによる表現の鑑賞と分析（腑分け、読み解き）を通して、現代におけるメディアとその環境について理解を深め、情報の「発信者」となるための前段階を整えることを目標とする。

到達目標

メディアの発展の歴史について述べることができる。インターネット時代のメディアと社会の関係について、何が問題となっているかを理解することができる。これから私たちがどのようにメディアと向き合っていけばいいのかについて、自らの意見を述べるとともに議論することができる。

授業の方法

第1～3セッション(第1回～第13回)は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進めるが、うち3回は実践学習として、受講者にニュース生産過程を体験させる。また、各回の講義では担当教員によるコメントを入れながら、全員参加の討論も取り入れる。第14回と第15回の授業は、受講者にグループを分けて、関心を持つテーマについて、プレゼンテーションを行う。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。新聞記事や報道写真、教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

新聞社で勤務する経験があり、ニュース報道について幅広い知識を有している。この経験を活かしてメディアと社会の関係について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントをする。授業全体の理解度、独自の考えが生まれたのかをリアクションペーパーで確かめ、そのフィードバックも行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	第1セッション(第1～6回):メディア・コミュニケーションを知る 第1セッションでは、新聞、ラジオ、テレビ、インターネットといったメディアの発展の歴史を学ぶ。そして、メディアの発達は、現代社会の成り立ちとコミュニケーションの形態にどのような影響を与えてきたのかについて考える。 第1回:メディアの歴史を振り返りながら、「メディア」と「コミュニケーション」「ジャーナリズム」の概念の関連性と相違点を検討する。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	第2回:「新聞」というメディアについて学ぶ。新聞の歴史を学ぶとともに、新聞というメディアが社会に対する影響について考察し、議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	第3回:ラジオ、テレビについて学ぶ。ラジオとテレビの歴史を踏まえながら、特にメディア(技術の発展)と戦争との関連性について考察し、議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	第4回:インターネットメディアについて学ぶ。「フェイクニュース」「ポスト真実」「ディープフェイク」などの概念を勉強し、インターネットメディアやSNSの発展と課題について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	第5回:コミュニケーション理論について学ぶ。マスメディアの効果論に力点を置き、講義をする。魔法の弾丸理論→限定効果理論(オピニオンリーダー)→強力効果論(議題設定、フレーミング効果、沈黙の螺旋仮説)	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	第6回:アクティブラーニング 各自調べたマスメディアの効果論に関する事例について、議論と質疑応答を行う。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第7回	第2セッション(第7～11回):メディア実践 第2セッションは、講義と実践学習を結びつき、ニュースの生産過程について学ぶ。 第7回:取材から報道に至る活動を紹介し、メディアの限界について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	第8回:インタビュー 事実を確認する手段として、情報源を探し出し、インタビューすることが最も重要である。そして、実際のメディアの報道に見られる工夫の一つは、「情報源の明示」という原則である。 情報源の明示は報道の信頼度を高める一方、人権侵害のリスクも孕んでいる。 講義では、記事の内容による情報源の扱い方について議論する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	第9回:調査報道とスクープ 吉田調書をめぐる報道を事例として、新聞記事、研究論文、ノンフィクション作品など多様なテキストを分析し、調査報道とスクープについて学ぶ。 第7回と第8回で議論してきた事実の確認や情報源の扱い方をより一層深く理解する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	第10回:映像メディアについて学ぶ。 実践学習として、受講者にテレビニュース用の原稿を作る作業を体験させる。 課題1:各種のニュースアプリを立ち上げて、トップページから一つの記事を選んで、原稿に仕上げる。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第11回	第11回:グループワークで作成された映像コンテンツを発表する。	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	第3セッション(第12回～第13回):第3セッションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセッションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関する 이슈など	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	第3セッション(第12回～第13回):第3セッションでは、グローバル化とメディアについて議論する。インターネットの発達により、情報も国境を越えて流通できるようになったが、メディアの在り方、ジャーナリズムの位置づけには、国家間の政治体制や宗教・文化、価値観の違いに伴うギャップも存在している。このセッションでは、受講者の関心に合わせたテーマを取り上げ、グローバル化時代における国際ニュース報道の問題点を考える。 ウクライナ情勢、北朝鮮核問題、パレスチナ問題などの国際問題や、ジェンダー、環境問題など公共性に関する 이슈など	配布プリントを熟読し、自分の問題意識を整理すること。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習し、関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	プレゼンテーションⅠ:関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。そして、受講者全員がプレゼンテーションで提示された重要な論点や疑問点について、議論する。担当教員はコメントをし、フィードバックを行う。	関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)	プレゼンテーションと議論の内容を振り返り、フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	プレゼンテーションⅡ:関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。そして、受講者全員がプレゼンテーションで提示された重要な論点や疑問点について、議論する。担当教員はコメントをし、フィードバックを行う。	関心を持つテーマについてのプレゼンの準備をすること。(90分)	プレゼンテーションと議論の内容を振り返り、フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(30%) プレゼンテーション(40%) リアクションペーパーやレポートの提出状況(30%)
その他	0	無断欠席は必ず減点要素とする。
教科書		
プリントを配布または配信する。		
参考文献		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には、参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際政治経済					
科目名		国際関係研究				ナンバリング	4716
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備える(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある科目であり、「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につける(知識・技能)」とともに、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力」を身につけることも関係がある科目である。これまで学んだ国際政治経済科目群の集大成であるとともに、1年後期科目「国際関係論」、3年後期科目「国際機構と国際法」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、1～3年次で学習してきた社会科学の考え方を応用・発展させて、様々な国際問題さらには広く社会問題について、論理的・科学的に分析する能力を身につけることである。その目的を達成するため、まず、現代の様々な国際問題、さらには幅広い社会問題を科学的・理論的に分析する素地を習得する。次に、国際関係やグローバル化に関する基本的理論・概念を確認し、それを実際の問題に応用する力を養う。さらにグローバルな諸課題に関して溢れる情報の中から重要なもの、本質的なものを抽出する批判的思考力・判断力を養うと同時に、異なる意見や立場を尊重しつつ、自らの考えを主張、発展させていく姿勢を確立する。

到達目標

この授業は、自ら発見した世界や地域の課題を、国際政治経済の科目群で養った社会科学の方法論を用いて分析するとともに、課題解決に向けて自律的に思考し、論理的に発信する力をつけることを目標とする。

授業の方法

これまでの国際政治経済を中心とした学びで関心を持った課題やテーマについて各自がリサーチしてきた内容をプレゼンし、参加する学生でディスカッションを行い、教員からアドバイスや補足説明や講義を行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1. オリエンテーション。授業内容、評価、進め方についての説明。 2. 各学生の現時点で関心のあるテーマや課題についての発表。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
第2回	国際関係研究(1) 研究するテーマ・トピック及び関連するニュースを調べる。学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第3回	国際関係研究(2) 研究するテーマ・トピック及び関連するニュースを調べる。学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			

第4回	国際関係研究(3) 研究するテーマ・トピックをリサーチする。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第5回	国際関係研究(4) 研究するテーマ・トピックをリサーチする。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第6回	国際関係研究(5) 研究するテーマ・トピックをリサーチする。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			

第7回	国際関係研究(6) メディア別の情報の特性について。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第8回	国際関係研究(7) 国内メディアの情報の特性について。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第9回	国際関係研究(8) 海外メディアの情報の特性について。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			

第10回	国際関係研究(9) インターネット上の情報収集の取り扱い方について。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第11回	国際関係研究(10) 公式な情報とフェイクニュースについて。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第12回	国際関係研究(11) ニュースと関連する情報や知識の調べ方について。 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			

第13回	国際関係研究(12) 研究のまとめ方について(1) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第14回	国際関係研究(13) 研究のまとめ方について(2) 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてニュースや記事などをリサーチする(90分)。
担当教員			
第15回	国際関係研究(14) まとめ 学生の発表とディスカッション。教員からのアドバイスと補足説明。 教員からの総括的講義。	各自の関心のあるテーマ、課題についてその内容を整理し、話すことができるように準備する(90分)。	あたえられた課題やレポートなどを行う。自分の発表テーマについてリサーチする(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性、課題、発表内容などを総合的に評価する(100%)。
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

野村 康 (2017)『社会科学の考え方:認識論、リサーチ・デザイン、手法』名古屋大学出版会。
各自の発表や授業内容に基づいて、適宜指示。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		国際地域文化論				ナンバリング	1800
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。

授業の概要

この授業は、これから世界の各地域の社会や文化、政治経済について勉強していく国際教養学科の1年生のために開講される科目である。国際教養学科では、日本と密接な関係にある世界の各地域や国々の文化について、その地域の出身であったり、その地域に詳しい教員によって2年次以降学習していくが、この授業では、世界の各地域の文化や社会などについて世界を俯瞰する講義を行い、学生がさまざまな地域の社会や文化について大きな見取り図の中から基礎的な知識を修得し2年次以降の学習に発展する前段階を準備することを目的とする。

到達目標

この授業では、学生が、古代から現代にいたる文化、社会や政治経済のグローバル化を、比較文化や国際交流の視点から考察することができるようになることを到達目標とする。まず、学生自身が、欧米やアジア、イスラーム、アフリカなど世界のいくつかの地域を、言語・思想・社会・芸術などの様式の違いや共通点に着目し俯瞰することで、文化を比較するカテゴリーを習得し、次に、世界の文化や地域を見る中で養った「眼」で、日本列島の歴史的・現代的な社会と文化を、客観的に考察し、グローバル化時代の日本のあり方を、世界的な視点から理解できるようになることを目指す。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
授業内容に関連するホームページや動画など。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・イントロダクション～「地域の特徴って何だろう？自分探しの旅にでかけよう」 何気なく使っている「地域」や「異文化」という言葉。ある胃地域の「文化的特徴とは何か？」という問いに、絶対の答えはないが、文化とは個人や集団の「らしさ」＝identityを形成したり規定する諸々の総体として学ぶ。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	・欧米の社会文化(1)～ヨーロッパとは何か？ 広域地域統合の試みであるEUが注目を集めるヨーロッパ。国家、市民、民主主義など近代や現代の「標準」を生み出したヨーロッパの特性は、「雑種性」hybridityからなる自己革新の力の伝統であることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・欧米の社会文化(2)～アメリカの光と影 自由と民主主義の「聖地」にして、ポップカルチャーの中心地であり、巨大な移民国家。外から見るアメリカと、内から見える深さ・複雑さを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	・イスラームの社会文化(1)～世界文明としてのイスラーム ヨーロッパの次にイスラムを学ぶことには大きな意義がある。 キリスト教とイスラム教という、世界史では対立の図式で語られる二つの文化圏の交流の歴史の大きさを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・イスラームの社会文化(2)～近現代とイスラーム 文化・社会・法・宗教・経済など全てを包括する、巨大システムとしてのイスラームならではの近代化への適応の問題など、政治・経済・文化が分から難いイスラームを考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・アフリカの社会文化～人類発祥の地にして「未知」の大陸 言語・文化・芸術の宝庫にして豊かな歴史を持つアフリカの魅力を、ヨーロッパやイスラームとの国際交流の視点も取り入れて、その奥深さを感じつつ学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・中南米の社会文化～古代文明からクレオールまで 中南米の古代文明は、極めて高度な都市と文化を築きながら、忽然と姿を消した。文明の隆盛と衰退の外部環境との関係は、中南米のみならず他の全ての文化・文明にもあてはまる。同時に、現代の中南米から着と外来の文化・習慣・言語などの多様で豊かな、クレオールの魅力と社会文的融合の可能性についても学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	・インド周辺の社会文化～「文明の母」と世界 古代日本にとって西の端であるインドの文化は、東アジアのみならず、東南アジアや古代ペルシアにとっても重要な文化の発信地であった。サンスクリット語は東へ仏教として流れ、また同時に西方の言語の語源でもある。多言語・多文化社会としての現代インドも深い豊かさを持ち、一言語一国民の均質な近代国家とは異質のモデルを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・東南アジアの社会文化～インドシナの豊穡 現在私たちが東南アジアと呼ぶ地域は、かつて「インドシナ」と呼ばれた。文字通り「インド」と「中国」の両方の文化の影響を受けた地域ということである。また、インドネシアに見られるようにイスラムの影響も大きい。文化の交差点である東南アジアの文化を歴史的に俯瞰しつつ、現代の当該地域の文化のダイナミズムも考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・東アジアの社会文化～日本との交流を中心に 近代以前の東アジア地域の社会と文化は、どこまでが中華で、どこからが朝鮮か日本かわからないぐらい、連綿とした文化圏であった。近世まで日本を大きく形作った「高文化」としての大陸と日本列島の関係を言語と文化から検討する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	・日本の異文化交流史～朝鮮半島・中国大陆から欧米まで 日本列島は「世界の文化の博物館」と呼ばれることがある。世界のたくさんの文化や習慣や技術が日本の中に息づいているからである。日本は閉鎖的な島国ではなく、島国がいかに関心の開放性とそこからくる多様性や豊かさを持っているのか、今一度、国際交流史の視点から「日本らしさ」を検証する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・グローバル化の中の日本文化(1)～世界の中の日本 日本にありがちな自国文化や歴史の謙虚で消極的な評価は、主に欧米のフィルターを通して見る世界観に原因がある。欧米以外の世界の大半で、日本は引き続き魅力的な目標であり、外交から文化にいたるまで独自の貢献と成果をあげていることを学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・グローバル化の中の日本文化(2)～日本の中の世界 一昔前まで国会では「単一民族」発言という「失言」が問題となった。日本列島の歴史は一度として単一の言語、単一の文化のみで構成されたことがない。古くは、アイヌと琉球の先住民の文化と権利の問題があり、現代においてはほぼ世界中全ての文化と言語が日本において確認できる。多言語・多文化社会としての日本を考える。	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第14回	・小論文による理解度と応用力の確認 異文化理解において、どの視点が一番大事であるとか、どの地域が最重要である、ということはありません。何をどう選び、あるいは組み合わせて、世界のどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文で何を学んだかをまとめる。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～異文化間コミュニケーション論再考 異文化間コミュニケーション論の流れの一つとして、アメリカ流の自分の文化の基準性を疑わずに、世界各地の文化を「地域文化」に分割して、「異文化」として矮小化して理解する方法がある。政治や経済ではなく文化へ着目することで、国家・民族・国民などの「境界」を「越境」する人間の国際交流を学ぶ。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

池田温(2002)『東アジアの文化交流史』吉川弘文館
岡田恵美子(2020)『イラン人の心: 詩の国に愛を込めて』人文書館
中沢新一(2006)『森のバロック』講談社学術文庫
マックス ヴェーバー (1989)『デスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫
量義治(2008)『宗教哲学入門』講談社学術文庫
各授業内容に関連する参考文献や資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

異なる複数の文化の相違点に関心を持つ学生の参加を歓迎する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		東アジア地域論				ナンバリング	2812
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	巫 靚						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマポリシーの「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関係がある科目である。日本と関わりの深い東アジア地域の近現代史を踏まえながら、現在地域が抱える諸問題についての理解を深めるための科目であり、「国際地域文化論」、「国際関係論」と関連する科目である。							
授業の概要							
この授業は、日本と歴史のかかわりが深い、中国大陸や朝鮮半島を含む東アジア地域について学ぶ。この授業では、現在の日本の社会や文化を理解するうえでも必要不可欠な東アジア地域の社会や文化、あるいは政治経済について、地域全体の特徴から各国の文化的背景などについて、歴史と地理的広がり二つの軸から立体的に理解することを目指す。							
到達目標							

- ①東アジア地域の多様性を理解し、地域が抱える課題を複眼的に考察することができる。
 ②目的に応じてさまざまな日本語の文献から必要な情報を検索・収集することができる。
 ③文献調査から得られた結果を日本語でまとめ、わかりやすい表現で他者に伝えることができる。

授業の方法

主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進める。なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業全体の理解度、独自の考えが生まれたのかをリアクションペーパーで確かめ、そのフィードバックも行う。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理する(60分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第2回	【セクション1 琉球・沖縄】①琉球から沖縄まで	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第3回	【セクション1 琉球・沖縄】②琉球の人々が「日本人」になるとは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第4回	【セクション1 琉球・沖縄】③戦後の日本復帰	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第5回	【セクション2 台湾】①清国から日本領まで	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第6回	【セクション2 台湾】②台湾の人々が「日本人」になるとは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第7回	【セッション2 台湾】③戦後の日華関係・日台関係	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第8回	【セッション2 台湾】④戦後の中台関係	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第9回	【セッション3 朝鮮半島】①保護国から併合まで	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第10回	【セクション3 朝鮮半島】②朝鮮の人々が「日本人」になるとは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第11回	【セクション3 朝鮮半島】③戦後の日韓関係	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	【セクション4 北方】①先住民とは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	【セクション4 北方】②「北方領土」とは？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	【セクション4 北方】③「サハリン」と「樺太」は違う島？	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	まとめ	指示する文献(プリント)を熟読し、予習課題を完成する(90分)。	配布プリントと講義の内容を復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度30%、予習・復習課題30%、期末レポート40%
その他	0	
教科書		
『あなたとともに知る台湾:近現代の歴史と社会』胎中千鶴、清水書院、2019年。 『国境は誰のためにある?』中山大将、清水書院、2019年。 『先住民アイヌはどんな歴史を歩んできたか』坂田美奈子、清水書院、2018年 『つながる沖縄近現代史:沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』前田勇樹ほか編、ボーダーインク、2021年。 『北方領土のなにが問題?』黒岩幸子、清水書院、2022年。 『歴史からひもとく 竹島／独島領有権問題:その解決への道のり』坂本悠一、清水書院、2021年。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		東南アジア地域論				ナンバリング	2814
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						
授業の位置づけ							
この授業は、我が国にとって歴史的、経済的に関係が深い東南アジア地域について理解を深めることにより、国際感覚を身につけていくものである。ディプロマポリシーとの関連では、「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」こと、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」こと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関連がある科目である。							
授業の概要							
この授業は、国際的にも経済成長センターとしての存在感が高まっており、インバウンドなどで北海道にも多数の人々が訪れるようになった東南アジア地域の国々の多様性と多元性について学習する。また、歴史的、経済的にも日本と深いかわりを持つ地域として、私たちとのつながりについての理解も深めていく。							
到達目標							

- ・東南アジアの地域文化の特徴について、具体的事例を挙げて説明することができる。
- ・東南アジアの政治・経済の現状について、具体的事例を挙げて説明することができる。
- ・東南アジア各国と日本との関係について、具体的事例を挙げて説明することができる。

授業の方法

- ・PowerPointを使用して講義を行う。講義内容の理解を促進するための動画も多く紹介する。
- ・Google Formを使用した理解度・関心度アンケートを随時実施し、結果をフィードバックする。
- ・条件が整えば、JICAが実施するプログラムとの連携も検討する。
- ・受講生には、講義テーマについて事前に調べ、積極的にディスカッションに参加する姿勢が求められる。

ICT活用

- ・Google Classroom を使用し、講義資料および関連情報の共有、課題の指示・フィードバックを行うことで、自主学習を支援する。
- ・Google Formのアンケート機能を用いた双方向授業を取り入れる。
- ・条件が整えば、オンライン会議機能を活用し、国際協力機構関係者との意見交換を行う。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、国際協力の実務経験に基づき講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google Formを活用したアンケート結果については、講義の中でグラフ化するなどして解説する。
- ・課題については、その性質に応じて、講義の中で傾向を紹介する、若しくは、個別にコメントを返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 東南アジア地域とは	受講の動機、目的、関心分野を明確にするため、事前に自分の考えを整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第2回	世界の中の東南アジア(1) 東南アジア地域と日本	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第3回	世界の中の東南アジア(2) 植民地支配と国家建設、地域統合	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第4回	東南アジア国別概観(1) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(ブルネイ)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第5回	東南アジア国別概観(2) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(インドネシア)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第6回	東南アジア国別概観(3) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(フィリピン)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第7回	東南アジア国別概観(4) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(ベトナム)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第8回	東南アジア国別概観(5) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(カンボジア)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第9回	東南アジア国別概観(6) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(タイ)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第10回	東南アジア国別概観(7) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(ラオス)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第11回	東南アジア国別概観(8) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(ミャンマー)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第12回	東南アジア国別概観(9) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(マレーシア)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第13回	東南アジア国別概観(10) 歴史・政治・経済・社会・文化・課題等につき理解を深める(シンガポール)	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第14回	東南アジア地域の未来 これまでの講義を踏まえ、東南アジア地域の未来を展望する	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第15回	東南アジア地域論まとめ 最終レポート作成に向けて	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(90分)	最終レポートの完成(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題提出状況および内容(40%) ・授業への参加度および出席態度(20%) ・最終レポート(40%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

講義の中で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		アフリカ地域論				ナンバリング	2816
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	吉田 勉幸						

授業の位置づけ

本講義は、ディプロマポリシーの「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」ことと特に関連がある科目である。

授業の概要

この授業は、アフリカに関する知識を幅広く学ぶと同時に、アフリカと世界、アフリカと日本との関係性から、アフリカがわたしたちの身近な生活に関係していることを理解することを目的とする。アフリカ大陸には54もの国があり、その文化や社会は多様である。また、経済面では世界最後の成長市場と言われており、近年は日本企業もアフリカに進出している。

この授業では、アフリカが抱える課題がアフリカの歴史、社会、文化、政治、経済にどのように関連しているのか、国際社会や日本はアフリカとどのような関係を築いているのかについて学ぶ。

到達目標

この授業では、以下に掲げる項目を目標とする。

- ・アフリカの言語、政治、経済、社会、文化等の教養を身につけ、論理的に説明できる。
- ・アフリカ諸国が抱える様々な基本的な課題を分析することができる。
- ・アフリカにおける基本的な課題の議論に参加できる。

授業の方法

授業で取り上げるテーマについて事前に調べ、予習すること。
授業後、授業の内容を整理し、自分の考えも交えて内容をまとめる。
授業内容を理解できたのか、授業後レポートの作成を求め、評価する。

ICT活用

PC、タブレット等を使用し、スライド、動画を多く使用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業で説明した直近の内容を確認するために、レポートの作成を求めることがある。各種レポート課題を評価し、コメントを行う。
また、アフリカの基本的な知識(地理等)を確認するため、ミニテストを実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	アフリカをどう学ぶのか～授業のガイダンス～ 授業の心得を始め、授業の概要、アフリカに関わる意義やその重要性について説明する。初回では、授業計画を調整するため、出席者の意見、考えを積極的に求める。	あなたにとって「アフリカ」とは？ 自身の現在と未来におけるアフリカとの繋がりについて考え、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(60分)
担当教員	吉田 勉幸		
第2回	アフリカの魅力～人類発祥の地～ アフリカはかつて「暗黒大陸」と呼ばれていた。しかし、現在は世界中から注目が集まっている。アフリカとは何か？アフリカとアフリカに関わる国家及び人々を概説する。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第3回	歴史～人類誕生から呻吟の時代～ 500年の間にアフリカ大陸から「積み出された」奴隷の数は、1,200万から2,000万人と言われる。奴隷貿易やマアファ、アパルトヘイト、紛争等、アフリカの悲劇の歴史について詳説する。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第4回	アフリカ社会の特徴と政治 植民地支配が終わり、独自に政治体制を築いていった国々は、独立後順風満帆ではない。アフリカ社会の特徴を整理した上で、ディアスポラや、歪な国境線に区切られた政治体制に注目し、学ぶ。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第5回	ビジネスの課題と可能性～援助ではなく投資を～近年、アフリカの経済発展が著しい。「援助」から「投資」へと流れが転換する中で、何が起きているのか？幾つか事例を挙げて説明する。 また、アフリカ人は時間にルーズと言われる。その原因を分析し、日本人の仕事観と比較して、アフリカの経済発展について考える。	アフリカの基本的な地理や歴史等について、復習しておくこと。(60 分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第6回	アフリカにある日本社会 アフリカには数多くの日系組織が活躍している。JICA海外協力隊やWASSHA等を取り上げ、アフリカで働く日本人と日系組織、その日本人社会について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第7回	自然環境 アフリカにおける、自然環境の変化(砂漠化やキリマンジャロの氷河が減る等)や自然破壊、環境汚染(ゴミ問題や土壌汚染など)を学び、様々な要因について理解する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第8回	農業と食品 アフリカの飢餓は、なぜ起こるのか？アフリカの農業における問題点を整理し、解説する。 また、アフリカ北部と東部、南部の食文化を紹介し、アフリカの農作物やユニークな食品(「ウガリ」「スカーティ」「マドラ」「クスクス」など)について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第9回	イスラム社会 アフリカ大陸にもイスラム教徒は多く住んでいる。この授業では、日本ではあまり知られていないイスラム思想に焦点を当て、イスラム社会におけるコーランやジェンダー、シャリーア等について考える。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第10回	観光産業1～北部と東部を中心に～ アフリカの経済にとって観光は、貴重な外貨を得る重要な産業である。 人気の観光地を有するエジプトとタンザニアの事例を参考に、観光資産とその重要性について学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第11回	観光産業2～南部を中心に～ アフリカ南部は、「Africa's adventure playground」称される。欧米資本が流入する南部の観光産業の発展は著しく、今後さらなる成長が期待されている。ジンバブエと南アフリカの事例を中心にその潜在力を学ぶ。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第12回	芸術 現在のアフリカの文化は、欧米の影響を強く受けている。この授業では、「欧米の文化」と「土着の文化」との融合であるアフリカの芸術に着目し、学習する。 なお、エジプトの壁画やタンザニアの絵画「ティンガティンガ」等を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		

第13回	言語 アフリカには、英語やフランス語等の公用語、そして各種部族語があり、1,000以上の言語が存在する。この授業では彼らの多言語社会に焦点を当て、学習する。また、その中で「ショナ語」と「ンデベレ語」に注目し、そのユニークな発音を紹介する。	事前にレポート課題があれば作成し、テーマに沿った内容の資料を自分なりに探し、整理する。(120分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
第14回	音楽とダンス 昔から文字を持たないアフリカの社会において、音楽とダンスは著しく発展してきた。また、アフリカを離れ、アフリカ系の音楽やダンスは、世界中に影響し続けている。アフリカにおける音楽やダンスを概説し、ジンバブエの伝統楽器「ムビラ」や「マリンバ」、またアンゴラのダンス「クドゥロ」やジンバブエのダンス「タンバ」等を紹介する。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(120分)	まとめた内容を吟味し、再考する。(60分)
担当教員	吉田 勉幸		
第15回	アフリカの未来～さらなるコンヴィヴィアリティの発展に向けて～ 今後のアフリカの経済発展は、どこまで拡大するのか？アフリカの未来について展望し、学生達の将来との関わりについて考える。 学生達が自由に意見を述べ、議論をする。	これまでの授業内容をまとめ、最終レポートに備える。(120分)	最終レポートの内容を見直し、最終レポートを完成させる。(120分)
担当教員	吉田 勉幸		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	レポート課題・授業中のミニテスト
その他	10	授業参加の積極性と課題の提出状況
教科書		
新聞等		
参考文献		

大学生のためのレポート・論文術/小笠原 喜康/ 講談社
その他、授業中に適宜提示する。

履修条件・留意事項等

日々、新聞を読むことが望ましい。
レポート課題における「盗用」「AI使用」は厳しくチェックする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		ヨーロッパ地域論				ナンバリング	2818
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている。(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、近代世界において重要な役割を果たしたヨーロッパ地域の社会と文化の特色について学習する。近代の思想や制度の重要な柱であるヨーロッパの社会と文化について学ぶことは、現代の私たちが寄って立つ国家や社会の考え方が、どのような背景から生まれてきたのかを理解することでもある。北海道とも経済的な結びつきを強めているヨーロッパ地域の特徴について、ヨーロッパ全体と各国について具体的に学ぶ。

到達目標

学生が、ヨーロッパの地域文化の特徴についてある程度の具体的事例を挙げて説明することができることを到達目標とする。ヨーロッパの文化の全体的共通性と各国や各地域の違いについて、具体的かつ抽象的に論じることができるようになることを目的とする。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。
ヨーロッパ地域文化に関連する国家や機関、NGOなどのホームページ、動画等。動画等の視聴による自主学習支援。

実務経験のある教員の教育内容

なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・導入～「ヨーロッパとは何か？」 ヨーロッパという概念の強力さと曖昧さに私たちはあまり真正面から向き合ったことがない。明らかに近代世界の意味の中心の一つであるヨーロッパとは通史的にどのような存在であったのか。また経済的に縮小する現在のヨーロッパが文化や国際社会で果たしている役割について外観する。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	＜第1部 古代ギリシア・ローマ＞ ・古代ギリシア～ヨーロッパ思想の起源 古代ローマや中世イスラーム世界にも大きな影響を与えた古代ギリシア世界の思想・哲学は、今日の世界においても知の大きな一角を占めるものである。ソクラテス、プラトン、アリストテレスを始めとした現代の学問にもつながる、古代ギリシア世界の思想と科学の系譜を俯瞰する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	・古代ローマ～「ヨーロッパ」の範囲の原型としてのイギリス産業革命までその文明の水準にヨーロッパが及ぶことがなかった古代ローマは、のちのEUにまでつながる広域ヨーロッパの一つの原型である。その古代ローマの技術、社会、文化、宗教の変遷などから、今日に至るその版図に共通する文化を「古代ローマの跡地としてのヨーロッパ」をキーワードに解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	<第2部 中世ヨーロッパ・ルネサンス> ・中世ヨーロッパ～帝国が減じた後に残る文化圏域としての西ローマ帝国が減亡した後も、ローマ帝国の国教であったキリスト教はこの地域の文化と社会の支柱として、ヨーロッパを覆うものとして残っていく。暗黒時代ともいわれる中世ヨーロッパの世界観について、各分野の特徴から迫っていく。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	・ルネサンス～イスラムとの交流と再発見のプロセス ヨーロッパ文化の一つの特徴として、外部世界の文化の接触や影響を精力的に飲み込み、自分の文化に取り入れて活力とする雑種性が挙げられる。ルネサンスは、十字軍などのイスラムとの交流の中から、異文化の中に自文化の起源を発見する過程として、その後のヨーロッパ文化を花開かせる大きな起点となる。そのダイナミズムを追う。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	・プロテスタンティズムと資本主義の発生 イスラムとの交流とならんで、ヨーロッパにインパクトを与えたものとしてモンゴルの侵攻が挙げられる。ペストの拡大や、神や教会、身分制の失墜は大きな社会変化としての宗教改革を巻き起こす。そして、プロテスタンティズムは今日の資本主義につながる思想と行動を内包していることに、ウェーバーが手がかりに接近する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	・ヨーロッパ芸術に見る南から北への流れ 古代から中世、そしてルネサンスまで長い間アルプス山脈はヨーロッパの文化と文明を分ける大きな地理的境界線であった。ヨーロッパの芸術が、北から南への憧れで生成してきた側面、また南が芸術の発展について大きな原動力になってきた様子を具体的な事例を挙げながら解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分) 配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	＜第3部 現代ヨーロッパの各国文化＞ ・イタリア かつてローマ帝国の中心だったイタリア。その帝国時代から続く人々や文化の交差点としての役割は、古くてそして新しいイタリアの魅力として、今日も変わることなく息づいている。難民や移民にも比較的寛容と言われるイタリア人気質の根本に各分野の事例から迫る。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	・スペイン・ポルトガル かつて世界を二分した海洋大国のポルトガルとスペイン。戦国時代から江戸時代にかけては、この両国の言葉が世界共通語の役割を果たすほどであった。海に囲まれた二つの国と日本との繋がりは多く、食文化や音楽など幅広い分野において共通点も多い。イベリア半島の文化と社会を考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	・フランス～近代化の共通語 近代国家として、官僚制や常備軍などを整え、近代以降のドイツ語や英語などに様々な語を提供したフランス語。最先端のファッションや食が彩るパリから、美しい田舎の数々まで、フランス的なものとは何か、その魅力と特徴について学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)0
担当教員			
第11回	・ドイツ 法律や医学の分野で日本も大きな影響を受けたドイツ。プロイセン、ワイマール、ナチスそして現代ドイツと目まぐるしく変遷する近代以降のドイツ社会の特徴は何か。また、ドイツ的なものを定義するものとは何か。私たちとも、そして英語とも関係が深いドイツ文化について、各分野の事例を引きながら考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	・イギリス 産業革命が始まった地として、日本の近代化に大きな影響を与えたイギリス。連合王国として様々な言葉や文化を融合させながら7つの海を支配した大英帝国を築き上げた、小さな島の文化的な多様性とは何か。世界最古の議会制民主主義の国の知っているようで知らない奥深さを、その伝統と革新から考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	・北欧の文化 教育、福祉など豊かな生活が注目される北欧。その背景にある激しい歴史と厳しい自然環境は、意外と知られることがない。税金が重く、国民が幸せなこの地域に共通する社会哲学や文化とは何か。人間がより人間らしく、人間が幸せになるためのヒントを北欧の人々の思想と実践を学ぶ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	＜第3部 あなたのヨーロッパ地域文化論＞ ・小論文による理解度と応用力の確認 ヨーロッパ地域文化の特定の時代や場所が他より重要ということはありません。ヨーロッパのどこに焦点を合わせ、どう考えるかは一人ひとりの自由です。小論文でヨーロッパ地域文化から何を学んだか、考えたのか書く。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	・まとめ～「ヨーロッパと世界」 学生の皆さんから出された、いろいろな形のヨーロッパ文化論から、私たちがヨーロッパをどう見ているのか、そして世界とのつながりをどのように感じているのか、一緒に考え議論しながら授業のまとめを行う。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% 課題提出状況50% 小論文形式のテスト30%
その他	0	なし
教科書		
特になし。		
参考文献		

各授業で関連する文献や参考資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

ヨーロッパ地域の社会や文化にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		北米地域論				ナンバリング	1810
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本講義は、ディプロマポリシーの「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」ことと特に関連ある科目である。

授業の概要

この授業は、日本と結びつきの強いアメリカ合衆国、北海道と気候風土が似ているカナダのある、北米地域の社会や文化について基礎的な理解を得ることを目標とする。全世界に影響を及ぼすポップカルチャーなどの震源地である北米は、理解しているようで意外と知らないことが多い地域でもある。知っているようで知らない北米地域の特徴について、具体的事例を取り上げながら学ぶ

到達目標

Students will improve listening comprehension skills, learn a lot of daily use vocabulary, and study about 150 natural spoken idioms, as well as learning about changes in the representation of family life in American media over the last 70 years.

授業の方法

There will be weekly handouts with vocabulary and idioms. Students will practice a dialog every week which uses newly studied idioms. Students will be expected to preview for each lesson diligently. The class itself will feature a lot of English only lecture, and watching of short television clips.

ICT活用

There will be regular media examples (TV, movie clips, Youtube, etc). Students can interact digitally while working on projects.

実務経験のある教員の教育内容

N/A

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive daily oral feedback during class time, plus graded quizzes and tests, and written responses to presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduce topic and Syllabus. TV history Background “Speak English Like an American” 1	Prepare “Speak Like an American” unit 2, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第2回	Birth of TV, the 50s—I love Lucy, Donna Reed, Father Knows Best	Prepare “Speak Like an American” unit 3, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第3回	Sixties: from Beaver to Munsters and Adams’ s—The Andy Griffith Show	Prepare “Speak Like an American” unit 5, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第4回	70s Part 1: New Sitcom familys: More clean, white, attractive, and idealized---Bradys, Partridge, Happy Days	Prepare “Speak Like an American” unit 5, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第5回	70s Part 2: Introducing Politics and Race—All in the Family, Good Times	Prepare “Speak Like an American” unit 6, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第6回	80s part 1: New Kinds of Happy Families: The Cosby Show, Full-house, Family Matters	Prepare “Speak Like an American” unit 7, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第7回	80s part 2: Darker side: From political intra family conflict of Family Ties to the first Anti-family family: Married with Children	Review, review, review!! (90 minutes)	Study for midterm!!!
担当教員			
第8回	Midterm	Prepare “Speak Like an American” unit 8, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第9回	90s: Going where other sitcoms couldn't: The Simpsons	Prepare “Speak Like an American” unit 9, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第10回	Prepare “Speak Like an American” unit 10, learn vocabulary and idioms	Prep next lesson. Practice dialog, answer questions, study new vocab (90 Minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第11回	Beyond the Simpsons: 2000s-- Weird Animation and attack on tradition--- South Park and Family Guy	Cumulative review of Speak Like an American 1-10 (90 Minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第12回	Looking at “difference” in sitcoms: Modern Family	Prepare “Speak Like an American” unit 11, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			

第13回	Class in sitcoms: Schitt’s Creek, Beverly Hillbillys	Prepare “Speak Like an American” unit 12, learn vocabulary and idioms (90 minutes)	Review new idioms and vocabulary, prepare for quiz (90 Minutes)
担当教員			
第14回	Review	Cumultave review of idoms. (90 minutes)	prepare for final!! (90 Minutes)
担当教員			
第15回	Final	Make sure all late work is finished! (90 Minutes)	Turn in final work to teacher, review (90 Minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 35 Final 35 Attendance, quizzes, and Participation
その他	0	
教科書		
Receive handouts from teacher. Do not lose them!!!		
参考文献		

A good bilingual dictionary is recommended.

履修条件・留意事項等

Please be ready, with your textbook, notebook, and pen at the beginning of each class!

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		中国研究				ナンバリング	3820
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	魯 諄						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」と特に関係がある科目である。1年次科目「国際地域文化論」、「国際関係論」と連携している国際教養科目である。世界の地域の中で、中国の存在は今日ますます重要性を帯びてきている。国際性を身に着けるうえで、中国の政治、経済や文化などの基礎知識は不可欠のものである。この授業では地域としての中国の諸特性を学ぶ。

授業の概要

この授業は、2年次の東アジア地域論での学びを基礎に、日本にとって政治的、経済的に重要なパートナーである中国についての理解を深める科目である。日本の隣国であり、アメリカと共に世界秩序の形成に重要な役割を果たすようになった中国の国内の政治体制や経済のあり方について、制度や思想の基礎を理解しつつ、現代のダイナミックな中国国内の社会変化や文化についても、最新のトレンドや事例をまじえながら学ぶ。

到達目標

中国の政治、経済、文化、社会などに対する理解を獲得し、講義で取り上げる内容について、自らの意見を述べるとともに議論に貢献することができる。

授業の方法

週2回で行う授業であるため、1回目は主として配布プリントや視聴覚資料を用いて講義形式で進め、2回目は討論を中心とする授業を展開する。受講者は前回の講義内容にコメントし、課題とした文献についての報告も行う。そして、受講者のプレゼンテーションも2回行う(第7回と第14回)。
なお、受講者の関心に沿って、各回のテーマと内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いた双方向授業を取り入れる。教員自らの取材資料、SNS上の動画等を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

通常の授業で、受講生と教員の間で質疑応答を行う中でフィードバックする。プレゼンテーションについては事前に個別指導を行い、講義で適宜コメントする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①オリエンテーション ②第1回 中国に関する基礎的な知識を学ぶ。 中国の行政区分(省と省都、直轄市、自治区)について、それぞれの特徴を学ぶ。特に「少数民族」と各民族の集住地域について学び、「民族区域自治」という少数民族の統治政策を理解する。	シラバスを良く読み、自分の問題意識を整理すること。(60分)	配布資料を熟読し、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第2回	第2回: 中国と諸外国との領土紛争について、歴史的文脈と関連付けてその成因を考える。そして、前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第3回	第3回「南北」と「東西」の差異 中国の北方と南方の地理的な境界線ー「秦嶺・淮河線」と、人口の分布状況を反映する「胡漢庸線」について学び、中国における格差問題を理解する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第4回	第4回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第5回	第5回 中国と周辺国との関係 古代シルクロードと中国主導の「一帯一路」構想と、日中関係の歴史について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第6回	第6回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第7回	第7回 プレゼンテーション1 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	プレゼンテーションと議論の準備をする。(60分)	配布資料を再読して、内容を確認する。(90分)
担当教員	魯 諍		
第8回	第8回 台湾問題について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第9回	第9回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第10回	第10回 香港問題について学ぶ。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第11回	第11回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第12回	第12回 中国の歴史と文化について学ぶ。「中華」、「儒教」などの概念について説明する。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		

第13回	第13回 前回の講義内容に対し、質疑応答と議論を行う。	指示する文献(プリント)を熟読し、授業までにレジュメ(プリントの内容のまとめと自分自身の考えなど)を提出すること。(90分)	配布資料を再読して、内容を確認する。関心を持つテーマについてのプレゼンと議論の準備をすること。(90分)
担当教員	魯 諍		
第14回	第14回 プレゼンテーション2 関心を持つテーマについて、グループワークで口頭発表を行う。	プレゼンテーションと議論の準備をする。(60分)	配布資料を再読して、内容を確認する。最終レポートのテーマを決める。(90分)
担当教員	魯 諍		
第15回	講義のまとめ:講義全体を振り返り、最終レポート課題を提示する。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	フィードバックを参考にレポートの執筆を準備する。(90分)
担当教員	魯 諍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行いません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業・討論への積極的な参加度(30%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(40%)
その他	0	
教科書		
『よくわかる現代中国政治』川島 真／小嶋華津子 編著 ミネルヴァ書房		
参考文献		

参考文献は、講義開始時や、各回の授業で紹介する。

履修条件・留意事項等

1回目の授業に必ず出席すること(やむを得ず出席できない場合、事前に教員に連絡すること)。指定する文献には参加者全員が、前もって必ず目を通しておくこと。無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		アメリカ研究				ナンバリング	3822
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

HBUの方針に従い、北海道や日本、世界各地の問題に対処するために、情報を処理・分析し、論理的・批判的に思考・判断する能力を身につけることを目的としています。(思考力・判断力・表現力))

授業の概要

この授業は、戦後日本にとって最も重要な国であるアメリカ合衆国について、理解を深めることを目的とする科目である。アメリカはその歴史的背景と形成過程からきわめて多様な社会であり、アメリカの多様性を理解することは、世界の今後を考える上でも重要な項目である。アメリカ文化を、人種、ジェンダー、階級、宗教、アイデンティティなどの視点から再考察し、それらが現代のアメリカの政治経済にどのようにつながっているのかを理解する。

到達目標

Course Subtitle: American Culture and English Improvement through "Modern Family"--the TV show
In this class you will watch media in English, usually (but not always) with English subtitles. There will be large amounts of lecture, and reading as well, so listening comprehension and vocabulary growth will be a big part of this class. Students are also expected to speak and discuss various issues in American Media history, and will eventually give presentations on their own topic

授業の方法

There will be in class video watching and discussion, in pairs, small groups, and whole class discussions. Students will also need to do weekly readings.

ICT活用

There will be a lot of multi-media in the class. Students may be able to use their own devices for certain activities, depending on the lesson.

実務経験のある教員の教育内容

Not applicable

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive constant feedback on pronunciation and other oral issues in class activities, as well as written feedback on quizzes, tests, and presentations.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Week 1: Introduction—history of American family sitcom	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第2回	Week 2: Speak Like an American (S.L.A), unit 1, Introduction to “Friends”, VOCAB 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第3回	Week 3: S.L.A. unit 2, Friends 1, part 1 (Jellyfish) Vocab quiz 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第4回	Week 4: S.L.A. unit 3, Friends 1, part 2 VOCAB 2	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第5回	Week 5: S.L.A. unit 4, Vocab quiz 2, Fr. Episode 2 (The Cat), Part 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第6回	Week 6: S.L.A. unit 5, MF, Ep 2, Part 2, Vocab 3	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第7回	Week 7: Vocab quiz 3, Episode 3--All	Prepare for exam!	Review all materials covered in class in first 7 weeks.
担当教員			
第8回	8. MITERM EXAM Also: 1950s Television, Hollywood reaction--Clips from shows (including "I Love Lucy" and "Leave it to Beaver")	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第9回	Week 9: S.L.A. unit 6, Vocab 4, Episode 4, Part 1	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第10回	Week 10: S.L.A. unit 7, Vocab Quiz 4 Episode 5, Part 2	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第11回	Week 11: S.L.A. unit 8, Vocab 5, Episode 6 (all)	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第12回	Week 12: S.L.A. unit 9, Vocab Quiz 5, Episode 7	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			

第13回	Week 13: S.L.A. unit 10, Episode 8	Review concepts and vocabulary introduced in class. Go over main points of readings.	Prepare readings or other handouts required for next week's class.
担当教員			
第14回	Week 14: Presentations	Prepare for final exam	Review, Review, Review!
担当教員			
第15回	Week 15: Presentations	Make sure you have finished all assignments and other work.	Send anything required to Allen within one week of final class.
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance, quizzes, and participation 30 Presentation 10
その他	0	
教科書		
All materials will be provided by teacher.		
参考文献		

There will be weekly handouts and various prints. Please do not lose them!!

履修条件・留意事項等

Please be ready, with your textbook, notebook, and pen at the beginning of each class!

備考欄

Bring handouts to class, with questions prepared (if necessary).

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		イギリス研究				ナンバリング	3824
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」や「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、日本の近代化にも大きな影響を与え、EUからの離脱で注目されるイギリス。英語が誕生した国でもあり、かつて世界の半分以上を支配していたと言われたイギリスの歴史や文化は、日本のみならず世界に大きな影響を与えている。本講義では、イギリスの社会と文化の伝統の持つ豊かさと同時に、多くの分野でいまだに世界の新しいトレンドを作り出している現代イギリスの現状について、その本質を理解することを目的とする。ヨーロッパとの関係性の理解も重要となってくる。

到達目標

イギリスの地理、歴史、政治構造について基本的な知識を得ることができる。ポップカルチャー、社会的安全や特定の宗教的信仰の影響について、知識や考え方を身につけることができる。現代のイギリスの社会文化について自ら思考し分析することができる。

授業の方法

印刷配布物や視聴覚資料を用いて講義形式で進める。
授業で得た知識や自分で調べた情報をもとに、自らの考えをまとめるレポートを書かせる。
いくつかのテーマについて学生のプレゼンテーションを行う。
授業全体の理解度、応用力、独自の考えが生まれたのかを小論文で確かめ、そのフィードバックを行う。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

なし。

課題に対するフィードバックの方法

代表的なレポート課題や小論文などを抽出し、それらについてコメント・講評などを行う。
プレゼンテーションに対するフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション シラバスの説明と授業内容の紹介。 各学生のイギリスのイメージと関心事についての簡単なプレゼン。	シラバスを良く読み自分の問題意識を整理すること。自分の関心事のプレゼンの準備 (90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	イギリスとはどんな国か イギリス(連合王国)の重要な特徴について概観し、学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	イギリスの社会構成 イギリスの社会構成について、人口、社会的・民族的背景、政治的信条、信仰する宗教とそれらの分布について学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	イギリスの食文化 イギリスの特徴的な食べ物や飲み物について概観する。また、グローバル化するイギリスにおいて、近年人気の食べ物についても学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	イギリスの地方・名所 イギリスのいくつかも地方や名所について、その意義について学ぶ。事例としてストーンヘンジの歴史的、宗教的、社会的な意義について解説する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	イギリスの治安 現代のイギリスが直面する治安の課題と諜報機関について学習する。後半では、イギリスの諜報機関のポップカルチャーへの影響を分析する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	学生の間プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。中間テストへの準備。(90分)	プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。中間テストへの準備。(90分)
担当教員			
第8回	中間テストの実施	中間テストへの準備。(90分)	中間テストの振り返りと復習。学習改善の方向性の考察。(90分)
担当教員			
第9回	ウエストミンスター大聖堂 この講義では、ウエストミンスター大聖堂とその歴史、そこに関わる人物たちに焦点を当てて学習する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	イギリスのポップカルチャー ポップカルチャーを代表する人物たちやコンテンツについて考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	イギリスの現代史 20世紀と21世紀におけるイギリスの重要な出来事について学習する。特に、第2次世界大戦、フォークランド紛争、アフガニスタン紛争、ブレグジット、コロナ禍について。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	イギリスの観光産業(1) イギリスの観光について、レイク・ディストリクトやウィリアム・シェイクスピアなどを事例に考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	イギリスの観光産業(2) 前回に引き続きイギリスの観光産業について学習する。この回では、スコットランドのウエスト・ハイランド・ウェイなどに焦点を当てる。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	学生の最終プレゼンテーション 各学生は、イギリス文化に関連するトピックについてプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備。最終テストの準備を始める。(90分)	プレゼンテーションへのフィードバックを振り返り復習する。最終テストへの準備。(90分)
担当教員			
第15回	最終テストの実施	最終テストに向けて準備する。(90分)	これまでの授業全体と最終テストの内容について振り返り、今後の学習改善の方向性について考察すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加への積極性 20% 中間テスト 40% 期末テスト 40%
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

各授業で関連する文献や参考資料を適宜指示または配布。

履修条件・留意事項等

イギリスの社会や文化、歴史にさまざまな形で興味関心を持つ学生を歓迎します。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		中南米研究				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この科目は、我が国にとって日系移民の存在など歴史的な関係が深く、資源や食糧の供給においても重要になっている中南米地域について理解を深めるものである。ディプロマ・ポリシーとの関連では、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことと、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと特に関連がある科目である。

授業の概要

この授業は、大航海時代を経て、近代世界の変化において重要な役割を果たし、我が国にとっても資源・食糧の確保上も重要性が増している中南米地域の経済・社会、文化の特色について多面的に学習する。また、戦前戦後の日系移民が中心となって築き上げてきた信頼関係や、その子弟が出稼ぎとして日本に定住する中で抱える課題についても取り上げる。授業の中では、中南米地域に関連する最新のニュースも随時紹介し、中南米ウオッチャーとしての感覚も磨いていく。

到達目標

- ・中南米地域の歴史・文化の特徴について、具体的事例を挙げて論じることができる。
- ・中南米諸国の共通性と違いについて、具体的事例を挙げて論じることができる。
- ・中南米地域について関心を高め、個別に探求を深める行動を起こすことができる。

授業の方法

- ・PowerPointを使用して講義を行う。講義内容の理解を促進するための動画も多く紹介する。
- ・Google Formを使用した理解度・関心度アンケートを随時実施し、結果をフィードバックする。
- ・条件が整えば、JICAが実施するプログラムとの連携も検討する。
- ・受講生には、講義テーマについて事前に調べ、積極的にディスカッションに参加する姿勢が求められる。

ICT活用

- ・Google Classroom を使用し、講義資料および関連情報の共有、課題の指示・フィードバックを行うことで、自主学習を支援する。
- ・Google Formのアンケート機能を用いた双方向授業を取り入れる。
- ・条件が整えば、オンライン会議機能を活用し、国際協力機構関係者との意見交換を行う。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、中南米地域における在住経験、業務経験を踏まえて講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・Google Formを活用したアンケート結果については、講義の中でグラフ化するなどして解説する。
- ・課題については、その性質に応じて、講義の中で傾向を紹介する、若しくは、個別にコメントを返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 中南米とは何か	中南米研究に関する自分の関 心分野や期待を整理すること。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容 を整理し、自分の意見・考えを 書き下すこと。(90分)
担当教員			
第2回	世界の中の中南米(1) 歴史的概観(大航海時代、植民地支配)	レポート課題など指定された課 題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容 を整理し、自分の意見・考えを 書き下すこと。(90分)
担当教員			
第3回	世界の中の中南米(2) 歴史的概観(自由を巡る闘い)	レポート課題など指定された課 題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容 を整理し、自分の意見・考えを 書き下すこと。(90分)
担当教員			

第4回	世界の中の中南米(3) 歴史的概観(資源を巡る闘い)	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第5回	中南米の魅力(1) 中南米の世界遺産	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第6回	中南米の魅力(2) 中南米の生活・食文化	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第7回	中南米の魅力(3) 中南米の音楽・ダンス	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第8回	中南米の魅力(4) 中南米の祭り	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第9回	中南米の魅力(5) 中南米の先住民文化、宗教	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第10回	中南米の現代的課題(1) 中南米の貧困・開発課題	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第11回	中南米の現代的課題(2) 中南米と日本の協力・連携	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第12回	中南米の現代的課題(3) 米国における中南米出身移民	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			

第13回	中南米の現代的課題(4) 日系移民・日系社会の歴史、日本への出稼ぎ	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第14回	中南米の未来(5) 中南米の未来展望	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	提示資料、配布資料、授業内容を整理し、自分の意見・考えを書き下すこと。(90分)
担当教員			
第15回	中南米研究まとめ これまでの講義を踏まえて、日本が中南米とどのように関わっていくべきかを考える。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	最終レポートの完成(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・課題提出状況および内容(40%) ・授業への参加度および出席態度(20%) ・最終レポート(40%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

清水達也編「ラテンアメリカ経済入門」アジア経済研究所 2024年
ディエゴ・サンチェス＝アンコチェア「不平等のコスト ラテンアメリカから世界への教訓と警告」東京外国語大学出版会 2025年
舩方周一郎/宮地隆廣「世界の中のラテンアメリカ政治」東京外国語大学出版会 2025年

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		国際教養科目 国際地域研究					
科目名		EU研究				ナンバリング	3826
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「グローバル化の中で、世界の人々と共生・協力することを可能とする国際性や共感力を備えている(関心・意欲・態度)」、「世界と繋がるために国際社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、EUを形成している現代ヨーロッパの特徴について学ぶ。EUは現代世界で最も進んだ政治的共同体であり、EUが体現する国境のない政治、経済、社会、文化の空間は、人類の未来のあり方の重要な選択肢の一つである。環境や人権などの普遍的価値に基づこうとするEUと加盟諸国の取り組みについて学ぶとともに、ヨーロッパの生き残りをかけた政治、経済の戦略としてのEUから現代ヨーロッパの思想と実践について考察する。

到達目標

3年次配当科目として、学生自らが主体的に課題を設定し学ぶ方法論を身につけることを到達目標とする。「EU」という幅広いテーマの中で、自ら漠然と持つ「疑問」を「設問」として捉え直し、その「設問」に答えるためには何をどのように学べば良いか考えるActive Learningを、学生自ら、担当教員の指導の下に実践する。自ら設定した課題に役立つ文献を、教員の指導の下ではあるが学生自らが探し、自ら学び、それなりの自分としての解答を獲得し、それを他人との対話を通じてより深い理解へと進化させることができるようになることを目標とする。

授業の方法

まず、理論編として教科書を内容を受講者自らポイントにまとめる。自ら要点整理しないと、自ら設定する問題の解決法として応用できないからである。受講生は1章ずつ担当し、ポイントをプレゼンし、他の受講生からのコメントとディスカッションに応えた後、教員から指導を受ける。EU全体が構造的に外観できるようになったところで、受講生は自ら単独または複数で課題を設定し、その課題を分析してレポートにまとめる。教員は、受講生の関心に合わせて適宜ガイダンスを行う。

ICT活用

EU関連の法的枠組みやEU委員会の発表しているインターネット上の資料や報道動画等を適宜参照する。

実務経験のある教員の教育内容

EUに直接関わるものはなし。ただし、Brexit以前のEUの一部だったイギリスのウォーリック大学大学院に留学経験、ドイツ連邦共和国デュースブルグ大学(現デュースブルグ＝エッセン大学)の研究所にて研究員として勤務経験あり。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中での積極的なディスカッションを慫慂するほか、講義期間中2度程度の小課題を提出させ、理解度や受講者個人の関心の方向性を把握しケーススタディの選択の参考にする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション ウクライナ戦争、トランプ大統領の時代に近現代ヨーロッパ、EUについて日本で学ぶ意義とは。 講義の流れとシラバスの説明 参考文献の紹介	シラバスを読み、自らの問題意識を明確にしておくこと(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	<ヨーロッパ統合史(1)> ヨーロッパとは何か。近代ヨーロッパの成立から、戦間期欧州の政治、第2次世界大戦を経てローマ条約の成立へ。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	<ヨーロッパ統合史(2)> 統合の停滞と再生。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	＜ヨーロッパ統合史(3)＞ 拡大と正統性の危機。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	＜EUの政治制度と政治過程(1)＞ EUの全体像を俯瞰する。欧州議会、欧州委員会、欧州委員長。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	＜EUの政治制度と政治過程(2)＞ EUの諸機構。政策分野別に見るEUの働き。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	<EUの政治制度と政治過程(3)> EUの政策過程。EU独自の政治過程について考察する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	<EUの政策(1)> EUの経済政策。経済・金融、産業・貿易、環境・気候変動、農業・食品などの政策を概観する。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第9回	<EUの政策(2)> EUの雇用・社会政策。移民政策と域内、域外の境界管理の変容。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第10回	<EUの政策(3)> 世界のなかのEU。激変する世界情勢における、EUの存在意義と役割とは。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第11回	<EUの政策(4)> 安全保障政策(CFSP、CSDP)と欧州防衛産業戦略(EDIS)。NATOとのEU。	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第12回	<EUのガバナンス> 各国政治とEU、デモクラシーと正統性	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			

第13回	<EUが直面する現代の問題> ウクライナ戦争の衝撃、ヨーロッパという夢と現実、模倣の罟と東欧の離反	レポート課題など指定された課題を行うこと。(90分)	配布プリントと講義の内容をノートなどで復習すること。(90分)
担当教員			
第14回	<小論文試験> 小論文による理解度と応用力の確認を行う。これまで学習したことと、考えたことを自分なりにまとめる。	これまでの全ての授業の内容とそれに対する考えを自分なりに整理しておくこと。(90分)	小論文の内容について振り返り思ったように書けたのか検証する。(90分)
担当教員			
第15回	<まとめ> 小論文の講評を踏まえて、EUの現在地とこれからについて、特に日本との関係について考察する。	自分の小論文をこれまでの授業内容から自分なりに評価してみること。(90分)	フィードバックを参考に自分なりにこの授業で得た知識を考えをまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加の積極性20% レポート課題40% 小論文試験40%
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

講義各回で適宜紹介していく。
 イマヌエル・カント『永遠平和のために』岩波文庫(青 625-9) 1985
 カール・シュミット『大地のノモス:ヨーロッパ公法という国際法における』慈学社 2007
 カール・シュミット『陸と海と:世界史的一考察』慈学社 2006
 E. H. カール『危機の二十年:理想と現実』岩波文庫(白 22-1) 2011
 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』(増補版)名古屋大学出版会 2014
 山本健『ヨーロッパ冷戦史』ちくま新書 2021
 篠原孝『EUの農業交渉力』農山漁村文化協会 2000
 遠藤乾・鈴木一人 編『EUの規制力』日本評論社 2012
 遠藤乾『統合の終焉—EUの実像と論理』岩波書店 2013
 イワン・クラステフ、スティーヴン・ホームズ『模倣の罠:自由主義の没落』中央公論社 2021

履修条件・留意事項等

トランプ大統領の誕生によって、日本にとって更に重要になった欧州の近現代や、EUの政策理念・実践に強い関心を持つ者を歓迎します。全回出席を基本とし、与えられた課題は期日までに提出すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

本講義は、大学での学びと将来の進路を結びつけて考えるための基礎科目として位置づけられる。学生が自らの興味や関心、能力について理解を深めるとともに、社会や職業に関する基礎的な知識を学び、将来のキャリア形成について主体的に考える力を養うことを目的とする。また、大学生活における学習や活動が将来の進路とどのように関係しているのかを理解し、今後の学びの方向性を考える契機とする。本科目は、初年次教育の一環として、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を身につけ、ディプロマポリシー「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことと関連する科目である。

授業の概要

本講義では、大学での学びと将来の進路との関係について理解を深め、学生が主体的にキャリア形成を考えるための基礎的な知識と視点を身につけることを目的とする。授業では、社会の仕組みや職業の多様性、働くことの意味について学ぶとともに、自身の興味・関心や価値観を振り返りながら将来のキャリアについて考察する。また、大学生活における学習や課外活動が将来の進路とどのように関わるのかを理解し、今後の学びや目標設定に活かすことを目指す。これらの学びを通して、学生が自らの将来像を描き、主体的に大学生活を設計する力を養う。

到達目標

社会の仕組みや職業の多様性について理解し、働くことの意味やキャリア形成の基本的な考え方を説明することができる。
自身の興味・関心、価値観、強みなどを振り返り、将来の進路やキャリアについて主体的に考えることができる。
大学での学びや活動が将来のキャリア形成とどのように関係しているのかを理解し、今後の大学生活における目標を設定することができる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料などを使用し講義を進める。また、授業ごとに編成するチームでのグループワークやプレゼンテーションなども行っていく。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

政府機関の人事部門で採用を担当した教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス:キャリアを考えるとは何か 授業の目的、進め方、評価方法について説明する。キャリアという概念の基本的な意味を理解し、なぜ大学でキャリアを考えることが重要なのかについて考える。	「キャリア」という言葉の意味について調べ、自分なりの考えを整理しておく。90分	授業で学んだキャリアの考え方を整理し、将来について感じたことをまとめる。90分
担当教員			
第2回	大学で学ぶ意味 大学での学習や経験が将来の進路や社会生活にどのように関係しているのかを理解する。大学生活をどのように活用するかについて考える。	大学生活で取り組みたいことをいくつか考えておく。90分	大学での学びが将来にどのようなつながるのかを整理する。90分
担当教員			
第3回	社会の仕組みと産業構造 社会の基本的な仕組みや産業構造について学び、社会の中で企業や組織がどのような役割を果たしているのかを理解する。	日本の主な産業について簡単に調べておく。90分	社会の仕組みと産業の役割について授業内容を整理する。90分
担当教員			

第4回	職業の多様性と働き方 さまざまな職業や働き方(企業、公務員、NPO、起業など)について学び、働き方の多様性を理解する。	関心のある職業を一つ調べておく。90分	さまざまな働き方の特徴について整理する。90分
担当教員			
第5回	自己理解①:興味・関心の把握 自分の興味や関心を振り返り、どのような分野に関心があるのかを整理する。	自分の興味や関心がある分野について考えておく。90分	自分の興味や関心について整理し、将来との関係を考える。90分
担当教員			
第6回	自己理解②:強みと価値観 自分の強みや価値観について考え、将来どのような働き方や生き方を望んでいるのかを整理する。	自分の長所や得意なことを考えておく。90分	自分の強みや価値観について整理する。90分
担当教員			

第7回	社会で求められる能力 コミュニケーション能力、問題解決能力、主体性など、社会で求められる能力について理解する。	社会人に必要な能力について調べておく。90分 事後	大学生活で身につけたい能力について整理する。90分
担当教員			
第8回	キャリア形成の考え方 キャリア形成の基本的な考え方を学び、人生の中でキャリアがどのように形成されていくのかを理解する。	キャリア形成という言葉の意味について調べておく。90分	キャリア形成の考え方を整理する。90分
担当教員			
第9回	キャリア事例の研究 さまざまな分野で働く人のキャリア事例を取り上げ、キャリアの形成過程や選択について学ぶ。	関心のある職業の人のキャリアについて調べておく。90分	キャリア形成の事例から学んだことを整理する。90分
担当教員			

第10回	地域社会と仕事 地域社会の産業や仕事の特徴を理解し、地域と仕事の関係について考える。	自分の住む地域や関心のある地域の産業について調べておく。90分	地域社会と仕事の関係について整理する。90分
担当教員			
第11回	国際社会とキャリア グローバル化が進む社会において、国際的な視点がキャリア形成にどのように関係するのかを理解する。	国際的に活躍する仕事について調べておく。90分	グローバル社会におけるキャリアについて整理する。90分
担当教員			
第12回	大学生活とキャリア形成 授業、資格取得、ボランティア、留学、インターンシップなど、大学生活のさまざまな活動がキャリア形成にどのように役立つのかを考える。	大学生活で挑戦したい活動について考えておく。90分	大学生活の計画を整理する。90分
担当教員			

第13回	キャリアデザイン①:将来像の整理 自分の将来像を考え、目標設定やキャリアプランについて整理する。	自分の将来の目標について考えておく。90分	将来のキャリアプランを整理する。90分
担当教員			
第14回	キャリアデザイン②:発表と共有 将来の目標や大学生活で取り組みたいことについてまとめ、発表を通じて共有する。	発表内容を整理し、説明できるように準備する。90分	他の学生の発表を踏まえて、自分のキャリアプランを見直す。90分
担当教員			
第15回	まとめ:大学生活とキャリア形成 授業全体を振り返り、これからの大学生活をどのように過ごすかについて整理する。最終レポート	これまでの授業内容を振り返り、印象に残ったことを整理しておく。90分	授業全体を振り返り、今後の大学生活で取り組むことをまとめる。90分
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します)(20%) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します)(30%) ○提出資料の内容(50%) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認をするため)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

大久保幸夫『キャリアデザイン入門』(日本経済新聞出版社、2016年)

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		キャリアデザイン				ナンバリング	3402
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」と定義される。私たちが社会生活や職業生活をしていく上では、生涯を通した「キャリア形成」や「キャリア発達」が重要となる。本講義は、自身のキャリア形成を設計し就業に向けての方策を主体的にプランニングし(関心・意欲・態度)、その基盤となる家庭生活や社会生活といった人生設計を意識化する。本科目は、ディプロマポリシー「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」等に関連する科目である。また、1年次科目「キャリア入門」と連携している。

授業の概要

この授業は、就活真っ只中の3年生以上を対象とする就職活動準備講座である。職業を通じて社会に貢献し、生計を立てていけるよう、これからの1年間は最大限の準備をすることが求められる。その就職活動の手順やルールについて学びながら、豊かに自己を表現できることを目指す。就職活動に必要な基本的知識や実践を身につけることを課する。自分の進路についての考え方や、採用する企業の視点について理解し、就職活動において必須となる基本的なルール、企業情報の検索や活用、エントリーシートや履歴書の書き方、面接の傾向と対策など就職活動に直結する具体的かつ実践的な能力を身につけることを目標としている。

到達目標

この講義では、キャリアプランニングの方法論を学んだ上で、自身の希望する職業について調べ、職業と家庭生活や社会生活のバランスを図りながら、生涯を通して自己実現と多様な人々との共生をどのようにしていくのかについての人生設計・プランニングを行うことを目的とする。

授業の方法

アクティブラーニング(AL)のために、発表、討論、ゲーミング、調べ学習、グループ学習等、様々な授業方法を活用する。

ICT活用

スマートフォン、パソコンなどのICT機器やインターネットやWebコンテンツなどを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

政府機関の人事部門での採用を担当した教員による指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回に、全体での振り返り、グループでの振り返り、グーグルクラスルームなどでの振り返りなどを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション＋ 業界研究	自分のキャリアについて考えてみる(90分)	業界研究で説明あった分野について調べてみる(90分)
担当教員			
第2回	“業界研究＋就職活動の流れを知る”	IT企業に関する業界について調べる(90分)	業界研究で説明あった分野について調べてみる(90分)
担当教員			
第3回	業界研究③(マスコミ関係企業について)	マスコミに関する業界について調べる(90分)	業界研究で説明あった分野について調べてみる(90分)
担当教員			

第4回	"R-CAP(自己分析)職調書アンケート実施	自分が関心ある業界について情報収集する(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	"企業の採用担当者・OBOGによる講話 企業説明会①"	事前に企業名を示すので、当該企業について事前に調べておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	業界研究④(近年の各業界の人材募集の傾向について)	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	R-CAPの解説(自分を知る)	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	履歴書に挑戦①(自己分析をもとに自分の関心分野を掘り下げる)	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	履歴書に挑戦②(前回の自己分析の掘り下げをベースとして、各業界との親和性について理解する)	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	筆記試験対策 SPI3を体験	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	面接に挑戦 & 模擬グループディスカッション	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	“企業の採用担当者・OBOGによる講話 企業説明会②”	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	就職に先立って、お金(税金・社会保険・福利厚生など)を知ろう	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	就職活動におけるメンタルトレーニング	事前に配布する資料を読み、内容を把握しておくこと(90分)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	インターンシップに行ってみよう(日程は別途調整)	これまで行ってきたことを整理しておくこと(90分)	これまで取り組んできたことを整理しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	○授業意欲(事前・事後課題の取り組み、授業内個人ワーク、グループワーク具合を評価します)(30%) ○授業態度(無断欠席、着帽、授業態度が悪い場合は減点します)(20%) ○最終レポート(これまでの授業の取り組みを確認するため、レポートの作成を行っていただきます。レポートの内容については、当日伝えます)(50%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		経営マネジメント				ナンバリング	3432
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感性」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚」を身につけること「関心・意欲・態度」に関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化に対応するためのマネジメントについて学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、経営とはなにか、ドラッカーの『マネジメント:基本と原則』をベースに、現代社会と組織・企業におけるマネジメントの課題・責任・実践および事業の成果を上げるためのマネジメントについて、その基礎的な考え方を学ぶ。経営学としてのマネジメントは「ひとりではできないことをやり遂げるために、人の協働と分業の仕組みを作り、その経営資源(モノ・カネ・情報)を含めて、適切に育て活用していくこと」である。マネジメントは、経営学、会計学、商学、生産システム等、複合的な視点から経営問題を考えていく必要があるが、ここでは、組織の社会性と個人、組織における人間行動、人的資源管理に焦点を当て、企業のヒトを活用した経営戦略「人材マネジメント」事例から学ぶ。

到達目標

本授業の到達目標は、以下の3点である。

- 1)授業やテキストで取り上げたレベルの経営学の基本的な考え方を説明できる。
- 2)企業の活動を経営学の視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
- 3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、前半は事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。後半はフィードバックとして理解度を確保するためパワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進める。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

学習支援システムを用いて資料配布および課題提出を行う。また、情報収集やアイデア整理の補助ツールとして生成AIを活用し、その有効な活用方法と留意点について学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営、人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクションとして、経営マネジメントの授業概要と進め方を説明する。また、組織・企業におけるマネジメントに関する研究がなぜ必要となったのかについて、階層構造の組織の理解を通じ組織とは何かについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	組織のマネジメントに必要な5つの能力 マネジメントには「目標設定」「組織づくり」「コミュニケーション」「評価測定」「人材開発」の5つ能力が必要とされる。この5つについての能力がなぜ組織のマネジメントに必要なのかについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	伝統的組織管理論とモチベーション 伝統的な組織管理の経営学説から現代のマネジメントに至るまで人のやる気を上げるためにどのように取り組んできたのかを学ぶことで、モチベーション向上させることと働きがいとは何かについてを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第4回	経営組織の構造と形態 マネジメントは権力ではなく人を活かす責任であるとされる。 組織において目標達成のためには適切な権限を持つものが適切な範囲で権力を行使しなければならないことを組織の構造と形態を学ぶことで理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第5回	目標設定とKPI 組織が成果を上げるためには組織のメンバー全員が共通認識を持つことができる明確な目標を立てその方向性を確立することが求められる。どのような目標を設定すれば良いのかKPI(重要業績指標)について学ぶことで目標設定の重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第6回	経営者やマネージャーに必要なリーダーシップ 組織が成果をあげるためには経営者やマネージャーといった組織のリーダーによる動機付けと適切なコミュニケーションが必要であることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第7回	外部環境の変化と組織戦略 グローバル化の進展、パンデミック、社会課題の変化などにより、企業や組織を取り巻く外部環境は大きく変化する。変化する環境のなかで優れた解決手法があったとしてもその手法を活かせる組織になっていなければならないことから、どのように組織をデザインすれば変化に対応できる組織となるのかを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	経営戦略とは 戦略の歴史から現代の組織がどのようにして経営戦略に取り組んできたのかということを学ぶことで、経営戦略の基本的な考え方を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	ポジショニングアプローチ ポーターが提唱したポジショニングアプローチによる基本戦略について学ぶことで競合がいる環境下での競争に対応するための考え方について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第10回	コトラの市場地位別戦略 企業が保持している経営資源の質と量により、業界内の各企業を、リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワーの4つに分類し、それぞれの地位に基づいた戦略があることを理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第11回	内部環境分析(BCGとVRIO分析) 企業や組織が保有するリソース(経営資源)に着目し、資源の獲得が競合企業との競争で優位に立てるというリソース・ベースド・ビュー”(Resource-based view)という考え方と分析するフレームワークとしてBCGとVRIO分析を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第12回	顧客価値とイノベーション 企業の存在価値を決めるのは顧客であり、企業はイノベーションによって顧客価値の創出を目指さなければならないことをさまざまなイノベーションのケーススタディを学ぶことでその重要性を理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第13回	財務分析の基礎(財務3表) 企業分析に必要な財務諸表による企業活動の理解のため、財務3表の構造と意味について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第14回	財務分析の基礎(収益性、安全性、活動性、成長性) 財務諸表分析とも呼ばれる経営分析として、財務諸表の定量的なデータを用いて会社の財務状況の分析手法を学ぶことで、客観的に経営状況を把握し就職活動に役立てる方法について理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第15回	戦略と組織の融合としてのビジネスモデル 経営資源(ヒト、モノ・カネ・情報)を含めたすべてを俯瞰的にみる事が可能なビジネスモデルキャンパスのフレームワークを学ぶことで、ビジネスを成功に導くためのアプローチについて理解する。	該当回のテーマに関連した課題に取り組む。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性を総合的に評価する。
その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。
教科書		
必要に応じて配布資料を提示する。		
参考文献		

授業内で資料を提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		マーケティング論				ナンバリング	3434/3676
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	芝 香						

授業の位置づけ

グローバル経済が進展した現代において、経済環境や競争環境、雇用や働き方なども急激に変化している。このような激しく環境が変化する状況化では柔軟にその変化に対応できることが企業や個人にも求められており、戦略志向やマーケティング志向を身につけた人材が社会全体のなかで必要とされている。本科目は、ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力」を身につけることや「世界と繋がるために地域社会を理解」することに関係する科目であり、世界や地域社会を理解し、外部環境の変化を分析するマーケティング志向を学ぶことで、社会人としての基礎力を身につける科目である。

授業の概要

この授業は、マーケティングの基本を学んだ上で、「21世紀型マーケティング」の概念を学ぶ。マーケティングの歴史とコンシューマリズムを踏まえ、マーケティングの神様と称されるフィリップ・コトラーの手法をベースに、実践的なマーケティング戦略を理解し、私たちの実際の生活の中でマーケティングがどのように生活に関わっているのかを学ぶ。

到達目標

本授業の到達目標は、以下の3点である。

- 1)授業やテキストで取り上げたレベルのマーケティングの基本的な考え方を説明できる。
- 2)企業の活動をマーケティングの視点で考え就職活動やグローバル社会で活躍するために応用できる。
- 3)興味がある企業や業界について掘り下げて考え、自分なりに分析・説明できる。

授業の方法

授業では、パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いて、講義形式でマーケティングに関わる理論やケースに対する講義という順序で授業を進め事前課題の内容をテーマにしたケース・ディスカッション、グループ単位でのプレゼンテーションを行う。事後課題は、授業の内容についての振り返りなどを確認するGoogle Formsを用いた小テスト形式のクイズを提出を行い、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いて、フィードバックを行う。

ICT活用

授業資料の配布や課題提出に学習支援システムを活用する。また、マーケティングに関する情報収集や分析の補助としてICTツールや生成AIの活用方法を紹介する。

実務経験のある教員の教育内容

経営コンサルタント業を自らが起業し、恵庭市での起業塾講師を行うなど十数年にわたりサービス産業を中心とした創業支援を行ってきた。また長らく大手旅行代理店の業務効率化支援(DX業務)を実務として支援した経験や企業経営幹部や創業希望者を対象としたビジネスゲームやケーススタディを用いたセミナー運営や人事採用担当であった経験を活かし、理論的な学びをベースとしながらも就職活動などで役立つ実践的な授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後課題へのフィードバックとして、授業にて課題の解説を行う反転授業型のアクティブラーニングスタイルによるフィードバックで授業を実施する。また、授業への要望や疑問点、質問やメッセージには、GoogleClassRoomのコメント機能を用いてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクションとして、マーケティング論の授業の概要と進め方を説明する。 マーケティングとは何か。マーケティングの発想と市場戦略としてのマーケティングの役割と課題について学ぶ。	「マーケティングとは」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第2回	環境分析(PEST、SWOT) 競合他社の動向や、政治や経済の変化など、自社の事業運営に影響をもたらす要因を分析する「外部環境分析」をPEST分析やSWOT分析のフレームワークを学ぶ。	「PEST分析、SWOT分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第3回	環境分析(3C→SWOT) 「Customer(市場・顧客)、Competitor(競合)、Company(自社)」の3つの視点から自社と競合他社、市場環境の関係を明らかにしたうえでSWOT分析を行う一連のフレームワークの使い方を学ぶ。	「3C分析」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第4回	事業戦略(STP) Segmentation(セグメンテーション)、Targeting(ターゲティング)、Positioning(ポジショニング)という3つの視点で市場における顧客やニーズを整理し、ターゲット市場を明らかにするSTP分析のフレームワークを学ぶ。	「事業戦略(STP)」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第5回	第2回～第4回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第2回～第4回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第6回	マーケティング戦略(製品と価格) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「製品(Product)」「価格(Price)」の戦略について学ぶ。	「製品戦略、価格戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第7回	マーケティング戦略(広告) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「プロモーション(Promotion)」の戦略として広告戦略、パブリシティ戦略について学ぶ。	「広告戦略、パブリシティ戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第8回	マーケティング戦略(チャネル) マーケティング戦略におけるマーケティングミックスの考え方である4P(「製品(Product)」「価格(Price)」「流通(Place)」「プロモーション(Promotion)」のうち、「プロモーション(Promotion)」戦略としてのチャネル戦略を学ぶ。	「チャネル戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第9回	マーケティング戦略(プロセス) これまでに学んだマーケティング分析のフレームワークをより効率的に分析するための一連の流れとしての手順や考え方を学ぶ。	「マーケティングプロセス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第10回	第6回～第9回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第6回～第9回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第11回	顧客関係の構築(リレーションシップ) 顧客と良い関係を築いて距離を縮め、結果的に商品やサービスの成約率を向上させるリレーションシップ・マーケティングについて学ぶ。	「顧客関係の構築」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第12回	消費者行動 企業が提供する製品やサービスを購入・利用する人々(=消費者)が、一つの商品の購入に至るまでの行動について、購買行動モデルの考え方について学ぶ。	「消費者行動」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		

第13回	ブランド戦略 企業の製品やサービス、あるいは企業そのもののコンセプトを明確にして、「誰にどんな場面で使ってほしい製品なのか」「自分たちはどんな企業なのか」をユーザーにわかりやすく提示するブランディングの考え方を学ぶ。	「ブランド戦略」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第14回	リーンキャンパス 9つの項目からビジネスモデルをまとめるフレームワークである「リーンキャンパス」の考え方を応用することで、誰に対して、どのような価値を提供しているのか、そして、その価値をどのようなチャネルを通じて顧客に届けるのかというこれまでに学んだマーケティング戦略を活用した実践的なマーケティング戦略の立案手法について学ぶ。	「リーンキャンパス」とインターネットなどで検索して自分なりに基本的な事項を調べて学習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
第15回	第14回で学んだフレームワークを用いたケース・ディスカッションを行う。	第14回で学んだフレームワークを復習しておく。(90分)	講義で学習した内容を確認し、キーコンセプトとなる用語やフレームワークについての意味と使い方を説明できるようにする。(90分)
担当教員	芝 香		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	85	事前・事後課題の内容とグループワークなどの授業参加の積極性やプレゼンテーションを総合的に評価する。 したがって、課題を提出しない場合には出席日数が規定を充たしていても不合格となる場合があることに留意すること。
その他	15	特に授業参加の積極性を評価する。
教科書		
必要に応じて配布資料を提示する。		
参考文献		

授業内で資料を提示する。

履修条件・留意事項等

本科目は社会人として就業する力を身につけるための科目として位置づけられている。したがって、授業では事前課題をテーマにしたケースディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う予定もあり、授業開始前までに理解を深めるために事前課題に必ず取り組み期限までに提出すること、欠席する予定の場合は事前に、急遽欠席した場合は事後にメールやGoogleClassRoomを通じて連絡や報告を必ず行うことを履修条件とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		インターンシップ				ナンバリング	2420/1144
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	青 晴海、小西 正人、宮本 融						

授業の位置づけ

卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組みや規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。また、学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。そのことで、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚も身につけていく。本科目は、ディプロマポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている(知識・技能)」等に関連する科目である。

授業の概要

この授業は、卒業後に殆どの皆さんが身を置くことになる企業・各種団体で実際の業務を研修し、企業・団体組織の仕組みや規律、社会人としての心構えを学ぶ為の授業である。学生同士の同質組織と様々な背景を持つ人々による異質組織がどのように運営され機能しているかをこの研修で学び、来るべき職業人としての生活に飛び込む為の準備の授業でもある。

到達目標

- ・就業の現場を知り、働くとはどういうことなのかが討議できるようになる。
- ・社会人として必要な責任感やビジネスマナーを実践をとおして身につける。
- ・自身に足りない力や強みを自覚し、今後の大学生活で身につける力や伸ばすべき力を把握し、目標を明確化する。
- ・プレゼンテーション能力を身につける。

授業の方法

「オリエン・面談(審査)」「事前研修」「インターンシップ」「事後研修」の4つの方式で行う。
「事後研修」では、行ってきたことのプレゼンテーションと、複数のチームに分かれて、得てきた学びやスキルを共有するためのグループディスカッションを行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、事前事後の報告・連絡や、課題の出題・回収等を行う。

実務経験のある教員の教育内容

国際協力機関の人事部門でインターン対応をしてきた教員が担当する。

課題に対するフィードバックの方法

観光や広告業界で約20年間の実務経験があり、ビジネス実務についての幅広い知識を有している。この経験を活かして、学術的な視点だけでなく、ビジネスの場における実践的内容の指導も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	○オリエンテーションⅠ／科目としての「インターンシップ」について 科目説明、スケジュール、予定インターンシップ先などについて ※春季休暇等を利用して集中的に実施する実習が主になることから、ガイダンス等で配布する資料や掲示等にご注意を払うこと。なお、コロナ禍であるため、各内容については、間際で変更される場合もある。 注:このオリエンテーションの説明を聞いて、履修を決めること。	インターンシップとは、何を学ぶために行うのかを各自が考え調べておくこと(90分)	これまでの大学生活で取り組んだことをまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	オリエンテーションⅡ／受け入れ企業等の紹介と今後について 1. インターンシップ参加手続き、ビジネスマナー等について 2. インターンシップ先企業等の企業研究について	働くことが考えられる職種(業種)や仕事についてまとめ、その内容を整理しておくこと(90分)	絞り込んだ職種(業種)には、どのような会社があるのか、世界・日本・道内の視点で調べ整理しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	オリエンテーションⅢ／面談とレポートの作成 ・面接方式で教員との面談を行う。 ・希望するインターン先についての企業分析等を行い、与えられるレポートが書けるようにしておくこと。	面接でのルールやマナーについて各自が調べ、先生との面談に準備しておくこと(90分)	面談の振り返り(反省と改善)をレポートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	○事前研修 履歴書の作成、企業分析、個人の強み・弱みの把握(研修日誌の作成①)	履歴書を作成し、就職課の添削を受け修正したものを、準備しておくこと。また、顔写真についても忘れず貼ること。(90分)	自己分析、企業分析から、インターンシップをとおして、学びたいことを書き出しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第6回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			

第7回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第8回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第9回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			

第10回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第11回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第12回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、 できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			

第13回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第14回	○インターンシップ 企業、NPO等での就業体験修実習	これまでの振り返り(できたこと、できなかったことの整理)と小さな達成目標の設定(90分)	就業後に、研修日誌の作成を行うこと(90分)
担当教員			
第15回	○事後研修 ・研修日誌(振り返りと反省など)の作成 ・プレゼンテーションの準備 ・インターンシップ報告(プレゼンテーション) ・最終レポート(課題は当日発表)の作成	インターンシップを終えての振り返りと事後研修報告会プレゼンテーションの準備(90分)	これまで取り組んできたことを就職活動に活かせるようにまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席(学内:オリエンテーション・事前研修・事後研修)、実習態度(インターンシップ先での就業内容)＋受け入れ先からの評価、研修日誌、プレゼンテーション発表、最終レポートの各点数の合計で総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし(資料は随時配布します)		
参考文献		

履修条件・留意事項等

〈履修条件〉各科目の単位が修得できている学生、インターンシップ参加企業の希望条件にあう学生など。〈留意事項等〉履修登録者へ、インターンシップ参加企業の希望を伺う。その後、面談を行った後、インターンシップ先企業と協議して派遣する学生を決定する。＊詳細は、後期オリエンテーションでお伝えする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		ファイナンシャルプランニング				ナンバリング	3436/1142
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人、宮本 融						

授業の位置づけ

社会人として必須の金融管理の知識を身に付ける。授業内容は日本FP協会認定資格の取得を目指した授業となる。主として同資格を取得したい学生向けの授業であるが、授業内容の性質上、幅広く金融に関する知識を修得したいという学生であれば資格取得を目的としない学生についても歓迎する。「経営財務分析」の基礎となる。北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)。問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる(思考・判断・表現)。

授業の概要

本講は金融に関する知識と経済の仕組みを包括的に学ぶことを目的とする講座である。具体的にはファイナンシャル・プランニングの資格取得を目標とする。個人をとりまく経済・金融環境が急速に変化し、生活者としての個人にも自己責任が求められる場面が増え、「生きる力」の養成が急務となっている。このような環境の下で、ファイナンシャル・プランニングの資格検定学習を通じて、金融の包括的かつ実践的な知識を身につけ、今後の人生に資する力を身につけることを目指す。

到達目標

1. 自分のライフスタイルや価値観、経済環境を確認できる。
2. 自分の家族状況、収入と支出の内容、資産、負債、保険などのデータから、現状を分析できるようになる。
3. 様々な領域にわたる包括的なアプローチによって、必要なファイナンシャル・プランナーとして最小限必要な知識を学び、少なくとも国家資格(FP技能士)3級取得へ意識化できる。

授業の方法

配布教材とプリントを配布して講義形式ですすめる。夏季期間における集中講義であるので履修登録の際に注意すること。事前ガイダンスを実施するので必ず参加すること。
フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

外部講師より(詳細はオリエンテーション時にお伝えします)

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度を確認するための質問と解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、指定教科書、勉強方法などを説明し、FP3級資格に求められる基本知識を概説する。	FP資格の活かし方を考えてレポート形式でまとめておくこと（90分）	FP資格取得に向けたスケジュールの作成（90分）
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第2回	ライフプランニングと資金計画(1) FPの倫理、関連法規、FPの考え方・手法について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集で確認し、まとめておくこと（90分）
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第3回	ライフプランニングと資金計画(2) 社会保険、年金、年金と税金、資金計画、ローンとカードについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと（90分）	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第4回	リスク管理(1) リスクマネジメント、保険制度全般、生命保険の基礎・商品について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第5回	リスク管理(2) 損害保険の基礎・商品、第三分野の保険、保険と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第6回	金融資産運用(1) マーケット環境、預貯金・金融類似商品、投資信託、債券投資について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第7回	金融資産運用(2) 株式投資、外貨建商品、金融派生商品、ポートフォリオについて学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第8回	金融資産運用(3) 金融商品と税金、セーフティネット、関連法規について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第9回	タックスプランニング(1) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第10回	タックスプランニング(2) 日本の税制、所得税の仕組み、各種所得、損益通算について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第11回	不動産(1) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第12回	不動産(2) 不動産の見方、取引、法令上の規則、取得・保有に伴う税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめておくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		

第13回	相続・事業承継(1) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第14回	相続・事業承継(2) 贈与と法律、贈与と税金について学ぶ。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
第15回	重要ポイントのまとめ 試験出題頻度の高い項目の再学習を行う。	参考書の該当箇所をノートにまとめおくこと(90分)	授業で学んだ内容を問題集を通じて確認しておくこと(90分)
担当教員	小西 正人、宮本 融		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(授業内タスクシート作成含む)70%、課題30%。
その他	0	
教科書		
事前説明会にて説明を行うので、事前説明会には必ず出席すること。		
参考文献		

FP技能士資格取得に推奨できるテキスト、問題集を適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

事前説明会および初回ガイダンスには必ず出席する。
また全ての回の講義への積極的参加を必須とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		公務員講座 I				ナンバリング	3441/1146
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						

授業の位置づけ

この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」と特に関係のある科目であり、「公務員講座Ⅱ」と連動する。

授業の概要

本科目は、主に大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための講座である。公務員試験に合格するためには、広い一般常識と高度の専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。「合格する」という強い精神力を持ち、すべての時間に出席する積極的な参加姿勢を持った学生の受講を歓迎する。

到達目標

- ・公務員をいう仕事に対する理解を深め、公務員を志す理由が明確にすることができる。
- ・合格するにはどのような努力が必要なのか明確にすることができる。
- ・大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして質問を授業後受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	判断推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	判断推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	判断推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	判断推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「判断推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	日本史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	日本史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「日本史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	図形(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	図形(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	図形(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	図形(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「図形」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	世界史(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	世界史(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「世界史」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度90% チャレンジテスト等10%
その他	0	
教科書		
東京アカデミー 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、1日休んでしまうと3～4回の欠席になってしまう。
開講時期・場所等について事前の告知に注意を払うこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 社会人基礎力					
科目名		公務員講座Ⅱ				ナンバリング	3442/1147
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高橋 保夫						
授業の位置づけ							
この科目は、ディプロマ・ポリシーより、公務員を目指す学生への対策講座である。集中講義形式であるので、自然・社会・人文科学を広く網羅的に勉強する強い意志を有する学生の履修を希望する。「公務員受験講座Ⅰ」の履修学生が対象である。世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけるための科目である。また、地域未来学科のディプロマポリシー「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。(知識・技能)」と特に関係のある科目であり、「公務員講座Ⅰ」と連動する。							
授業の概要							
本科目は、主に大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することを目指した公務員試験対策のための講座である。公務員試験に合格するためには、広い一般常識と高度の専門知識が求められ、相当の学習時間が要求される。「合格する」という強い精神力を持ち、すべての時間に出席する積極的な参加姿勢を持った学生の受講を歓迎する。							
到達目標							

- ・公務員をいう仕事に対する理解を深め、公務員を志す理由が明確にすることができる。
- ・合格するにはどのような努力が必要なのか明確にすることができる。
- ・大学卒業レベルの公務員採用試験に合格することができる。

授業の方法

配布教材と配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業後質問を受ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	公僕たる公務員を目指すにあたって、その気概と初志を明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	地理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「地理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	数的推理(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について予め問題集を使い、どこが最もわからない領域かを明らかにしておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集をつかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	数的推理(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	数的推理(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	数的推理(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「数的推理」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	政治経済(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	政治経済(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	政治経済(3) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	政治経済(4) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	政治経済(5) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	政治経済(6) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「政治経済」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	時事(1) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	時事(2) 国家公務員Ⅱ種、地方公務員上級、その他の大学卒業レベルの公務員採用一次試験の「時事」分野を対象とする。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	チャレンジテスト いままで受講してきた内容を理解できているかどうかの確認を公務員模擬試験によって行う。	講義で学習する領域について 予め問題集を使い、どこが最も わからない領域かを明らかにし ておくこと(90分)	講義で学習した領域を問題集を つかって復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への参加度90% チャレンジテスト等10%
その他	0	
教科書		
東京アカデミー 公務員講座テキストを使用する。		
参考文献		

講座中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

全ての回の講義への積極的参加を必須とする。集中講義方式で履修するので、1日休むと3～4回の欠席となる。開講時期・場所等について事前の告知に注意を払うこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法 I (プレゼンテーション)				ナンバリング	1301/2264
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松本 文治						

授業の位置づけ

「話すことによって伝える」コミュニケーション能力を学修するための科目である。
 ディプロマ・ポリシーの「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)」と最も深く関係するが、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)」とも関係がある。

授業の概要

この授業は、効果的なプレゼンテーションの方法を演習を中心に学ぶ。「話したいこと」だけを話す自分勝手に伝わらないプレゼンテーションを排し、聞く人が聞いてよかった・楽しかったと思えるような(そしてそれゆえにしっかりと内容が伝わるような)win-winのプレゼンテーションの考え方の基礎を完全に固め、実践的運用が可能となるレベルを到達目標とする。そのため授業は「構想・計画→入念な準備→実演→自己反省・相互批評」のループを通じて着実に技術を修得することのできるよう展開される。

到達目標

・聴衆を前に自分の主張を何も見ずに伝えることができる。 ・正しい服装・態度、豊かな声量・表情で聴衆に訴えることができる。 ・グループワーク(ディベート・グループプレゼンテーション)に積極的に取り組み、協働・協調的行動を取ることができる。 ・パワーポイントを駆使して聴衆に自分の主張を訴え、共感を引き出すことができる。 ・大衆の共感を得られる内容の動画などをグループで作成し、SNS上に公開することができる。

授業の方法

・板書、視聴覚メディア、ICT、印刷物を使用して講義形式で説明を行う。 ・説明に基づき、個人で発表(スピーチ・パワーポイント)の準備を行い、発表する。 ・説明に基づき、グループで討論(ディベート)の準備を行い、討論・審判を行う。 ・説明に基づき、グループで大衆の共感を得られる内容の動画などを作成し、SNS上に公開する ・発表・討論の相互評価と自己評価を行う。評価結果は個人・グループにフィードバックする。

ICT活用

・Web上でのアプリケーション(アンケートフォームを用いたプレゼンテーション相互評価の入力・送信・閲覧によるフィードバックに基づく自己評価入力・送信)を用いた双方向授業を取り入れる。 ・プレゼンテーションのスライド作成や発表によるPCやプロジェクターの操作を用いた双方向授業を取り入れ、ICT技術の修得を促す。 ・SNS投稿などを通じて、ネット上における配慮事項の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

公立高等学校の国語科教師としての勤務経験が約37年あり、国語科教育の「話す・聞く」指導に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・ディベートに対する相互評価・自己評価のシェアリングによって履修の成果と課題・解決方法を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション コミュニケーション能力の大切さを認識する。 教材提示(配信)、授業の進め方を説明する。 社会で高評価を得ているプレゼンテーションや日本の伝統 話芸を鑑賞して自身の今後に資する。 上記の学修内容を確認しておく。(90分)	上記の学修内容を事前に確認 しておく。(90分)	配信教材を印刷し一読する。 (90分)
担当教員			
第2回	スピーチ(自己紹介) 配信教材等に基づいて説明する。説明の後、各自原稿作成 や口頭発表の準備を行う。	配信教材等を参考にして原稿 作成や服装・姿勢・声量・声調 等発表準備をしておく。(90分)	上記の学修内容を確認する。 (90分)
担当教員			
第3回	スピーチ(自己紹介)実演1 前回の準備に基づいて履修者の半数について行う。1人3 分以内。 発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行 えるよう、評価方法を理解して臨 む。(90分)	次回発表者は原稿作成や発表 準備をしておく。発表終了者は 相互評価を熟読し自らの課題を 明確化する。(90分)
担当教員			

第4回	スピーチ(自己紹介)実演2 前回の準備に基づいて履修者の残り半数について行う。1人3分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第5回	PPTを用いた発表1(私のオススメ) 上記について説明する。説明の後、各自発表項目決定、スライド作成や発表の準備を行う。(1人5分以内)発表後、相互評価と自己評価を行う。	PPTの操作方法を確認しておく。 他人にその素晴らしさを一番知ってほしい物(事・場所・人)について考えておく。(90分)	PPTを用いた発表の準備を進める。(90分)
担当教員			
第6回	PPTを用いた発表2(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	自身の「お勧め」を明確化しておく。(90分)	スライド作成などの準備を進める。 次回発表者は準備を完了させる。(90分)
担当教員			

第7回	PPTを用いた発表3(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	次回発表者は発表準備を完了させる。発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第8回	PPTを用いた発表4(私のオススメ) 前回の準備に基づいて履修者の残り1/3について行う。1人5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第9回	「ミニ・ディベートの実践」(1) 「ディベートの方法」に関する発表を振り返り、履修者全員でディベートに取り組む。 ・論題を決定する。 ・肯定側・否定側・審判・聴衆に分かれる。 ・各役割の確認を行う。 ・論題に基づき、立論・反駁を計画立案する。	配信教材等を熟読し、ディベートについて理解しておく。(90分)	自身が分担した役割が果たせるよう準備しておく。(90分)
担当教員			

第10回	「ミニ・ディベートの実践」(2) 前回分担した役割に沿って実際にディベートを行い、審判する。聴衆役は、肯定側・否定側・審判のうち、どの役割が一番優れているか審判する。	授業で示したテーマについて意見文を作成する(90分)	次週の課題発表の準備(90分)
担当教員			
第11回	グループプレゼンテーション1(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) 上記の内容でグループプレゼンテーションを準備する。具体的には履修者間でグループを組み、各自担当とテーマを決定し、発表・投稿等の準備に取り組む。	教材の該当記述を確認する等して、各自の役割を十分に果たせるよう準備準備をした上で授業に臨む。(90分)	グループで決定した内容と役割が順調に実施できるよう準備する。(90分)
担当教員			
第12回	グループプレゼンテーション2(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	教材の該当記述を確認する等して、各自の役割を十分に果たせるよう準備をした上で授業に臨む。(90分)	自己評価・相互評価を通して、今回自分の果たした役割を総括する。(90分)
担当教員			

第13回	グループプレゼンテーション3(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	次回発表者は発表準備を完了させる。発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第14回	グループプレゼンテーション4(観光プラン提案・恵庭発着道内日帰り) グループで協力して発表する。(1グループ5分以内。発表後、相互評価と自己評価を行う。)	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し、自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
第15回	グループプレゼンテーション5 全グループ発表済みの場合は、プレゼンテーションのWeb上配信方法技術等を講義する。	発表者は発表準備をして臨む。 観察者は適切な相互評価が行えるよう、評価方法を理解して臨む。(90分)	発表終了者は相互評価を熟読し自らの課題を明確化する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	スピーチ(20)、PPTやSNSを用いた発表(50)ディベート(30) 合計100点 出席率66%以上を評価対象とする。
その他	0	なし
教科書		
使用しない。		
参考文献		

授業内で適宜指示する。

履修条件・留意事項等

状況如何で講義内容変更の場合あり。
 教材配信システム使用。
 出席率66%以上で全対象課題提出・発表の場合評定対象とする。
 連絡はGoogle classroom で行う。
 メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。
 メールや授業での言葉遣いが不適切な場合は、単位認定しない場合もある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		世界の言語と日本語				ナンバリング	1320
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この科目は、国際教養学科ディプロマポリシーの「専門分野における基本的な知識を系統立てて修得し、そこから得られた知見をもとに世界の諸課題を分析し、研究成果としてまとめる方法論を身につけている」ことと特に関連する科目である。また「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」ことや、「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている」ことなどとも関係がある。また国際コミュニケーション学科ディプロマポリシーの「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につける」こと、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける」こと、また「世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、および世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける」ことを達成する科目であり、他の言語系科目と関連する。また国際教養学科1年次科目「日本語表現技法Ⅰ」と連携する。

授業の概要

この授業は、できるだけ多くの世界の言語に触れることにより、英語などの大言語だけが「外国語」でないことを知ること、そして日本語を外国語として見るができるようになることにより、世界の言語の中における日本語を発見していく。受講生は、これまでどんな言語を学んだことがあるか、どんな言語に興味があるか調査し、世界の言語、言語学の歴史(世界の言語はどのようにして分かれたのか、どれが兄弟・親子関係にあるのか)について学んでいく。授業では 簡単な諸外国語の会話練習を通して、外国語学習の壁を取りはらい、世界の言語社会への視座を広げていく。

到達目標

この授業では、できるだけ多くの世界の言語にふれることにより、

- 1) 英語だけが「外国語」でないことを知り、一般化することができる。
- 2) 日本語を外国語として見るできるようになり、日本語を本当に知り使用・活用することができる。
- 3) 英語が得意でも苦手でも、他の言語を学ぶことにより他の言語話者への配慮ができる。
- 4) 他の言語を複数学ぶことにより、初見の言語でも予測し学習を容易にすることができる。

また授業では会話練習を徹底的に重ねることにより、

- 1) 英語以外の外国語での挨拶ができるようになる。
- 2) 街で外国人に会ってもどきどきせずに挨拶できるようになる。
- 3) 世界中を旅するコスモポリタンな気分になれる。

※ 以下のシラバスで「学修する」と書かれている場合は、すべて「学び修する」の意である。

授業の方法

板書・配布資料・パワーポイント・視聴覚メディアを活用しながら、講義形式で進める。ただし毎回の課題および発音、会話の各受講者の理解度を毎時間確認し、徹底的に身につけてもらう。

ICT活用

Google Workspaceに付属している機能（Google Formなど）によって練習問題等を提供し、課題および自主学習を促す。またGoogle Classroomにて参考資料や参考HPを紹介したり、補足資料などを随時提供する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的にはコピーを提出してもらい、授業内で問題点を共有しつつ自己チェックで各自の問題点を自発的に見つけてもらう。小テストは可能な限り翌週に返却し、課題提出と併せて詳細な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・イントロダクション 授業の進め方、評価方法、心がまえなどについて説明。 世界の言語:世界の言語はどのようにして分かれたのか、 どれが兄弟・親子関係にあるのかについて。 フランス語(1):アルファベットと発音、名詞と冠詞について 学修する。 韓国語:ハングルの形成法、基本母音字10個を学修する。	世界の言語に興味をもち、いろいろ調べてみておいてください(30分)	フランス語の名詞と冠詞について、およびハングルの基本母音字について復習(180分)
担当教員			
第2回	※以下、各言語について会話文を覚えるほど発音練習してもらいます。 フランス語(2):人称と動詞変化(活用)について学修する。 韓国語:基本母音字の復習、子音字(가・나・다・라・마・바・사)を学修する。 アイヌ語:言語背景、文字と発音、およびあいさつ言葉などの紹介。	フランス語の人称変化に関する資料を配布あるいは周知するので読んでおく(60分)	フランス語の人称変化に関する練習問題、および韓国語の基本母音字・子音字(가・나・다・라・마・바・사)の練習問題(120分)
担当教員			
第3回	フランス語(3):所有形容詞、指示詞について学修する。 韓国語:その他の基本子音字を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦! 第1課「これはギョウジャニンニク?」	韓国語の子音字(平音)を復習してすぐに読めるようにしておく(30分)	フランス語の所有形容詞および指示詞に関する問題、韓国語の基本子音字に関する課題(150分)
担当教員			

第4回	フランス語(4):人称代名詞(対格・与格)、形容詞について学修する。 韓国語:激音、濃音を学修する。そろそろ韓国語会話にも挑戦する。 アイス語:会話に挑戦!第1課復習。	韓国語の基本子音字について復習(30分)	フランス語の試験準備、および韓国語の会話暗誦(180分)
担当教員			
第5回	フランス語筆記・会話テスト 韓国語:合成母音字を学修する。引き続き韓国語会話に挑戦。	フランス語筆記テストの準備(120分):事前に昨年のテストを配布します。	フランス語のテスト問題を解く(150分)
担当教員			
第6回	ドイツ語(1):発音および名詞(性および主格)について学修する。 韓国語:パッチムを学修する。 アイス語:会話に挑戦!第2課「カラスはトウモロコシを食べる」前半	韓国語会話練習(30分)	ドイツ語会話を覚える。これまで学んだハングルを確実に覚える(150分)
担当教員			

第7回	ドイツ語(2):人称および動詞変化について学修する。 韓国語:ハングル発音テストプリントの説明、解説。 アイヌ語:会話に挑戦!第2課「カラスはトウモロコシを食べる」後半	ハングルの復習(30分)	ドイツ語の人称変化に関する課題、およびハングル発音テストプリントの復習(150分)
担当教員			
第8回	ドイツ語(3):冠詞と格について学修する。 韓国語:指定詞이다, 助詞는/은について学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第2課復習。	ハングル発音テストの準備(60分)	ドイツ語の冠詞・格・人称代名詞に関する練習問題(150分)
担当教員			
第9回	ドイツ語:総復習時間(主に人称代名詞について) 印欧語について(文字・分布・特徴など)学修する。 韓国語:아니다, 助詞가/이を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第3課「どこから来たの?」前半	ドイツ語筆記テストの準備(150分)	ドイツ語のテスト準備、および韓国語指定詞の練習問題(120分)
担当教員			

第10回	ドイツ語筆記・会話試験 韓国語:存在詞있다、助詞에を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！第3課「どこから来たの？」後半	ドイツの試験準備(150分)	ドイツ語試験問題を持ち帰って改めて解く(150分)
担当教員			
第11回	アラビア語(主に文字)について簡単に紹介。 韓国語:練習問題をやりながら総合復習。 アイヌ語:会話に挑戦！第3課復習。	韓国語の復習(30分)	アラビア語の文字練習・会話練習、韓国語の復習・会話練習(150分)
担当教員			
第12回	スワヒリ語(1):文字と発音、人称・時制・アスペクトについて学修する。 韓国語:합니다体、関連助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦！これまでの総復習。	スワヒリ語について事前調査(30分)	スワヒリ語練習問題、韓国語練習問題(150分)
担当教員			

第13回	スワヒリ語(2):名詞クラスについて学修する。 韓国語:数字、およびさまざまな助詞を学修する。 アイヌ語:会話に挑戦!第4課「あなたのお名前は?」前半	スワヒリ語について事前学習(30分)	スワヒリ語および韓国語練習問題(150分)
担当教員			
第14回	スワヒリ語(3):総合復習、会話練習 韓国語:総復習 アイヌ語:会話に挑戦!4課「あなたのお名前は?」後半	韓国語の数字を暗誦(30分)	スワヒリ語テストの準備(180分)
担当教員			
第15回	スワヒリ語テスト、および解説等	テスト準備(180分)	テスト問題解答(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の小テスト(筆記および会話暗誦)70%、授業内の課題(ハングルテスト含む)20%、授業参加度10%による総合評価を行う。
その他	0	
教科書		
適宜、講義プリントを配布します。		
参考文献		

ビジュアル版世界言語百科／ピーター・K・オースティン編／終風社
事典 世界のことば141／梶茂樹他編／大修館書店
The Languages of the World／Kenneth Katzner／Routledge
ニューエクスプレスプラス アイヌ語／中川裕／白水社
その他、授業中およびGoogle classroomにて適宜紹介します。

履修条件・留意事項等

くれぐれも横着しないようにしてください！
そして授業中は大きな声で発音してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語表現技法Ⅱ（文章表現）				ナンバリング	1302/2265
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松本 文治						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、実用日本語の文章作成能力を習得する科目である。ディプロマ・ポリシーの「学術目的の言語使用に主眼を置いた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている。（知識・技能）」という点に最も関係がある科目である。高等教育の基礎となる文章作成能力を身につけることで、今後の論文作成能力の基礎をかたちづくる。

授業の概要

この授業は、大学生活の基本となる日本語の文章表現能力を養成する。日本語そのものの基本を押さえた上で、思考法を鍛え、レポート・論文の作成力を修得し、日本語の基礎的な法則を確実に定着させながら、日本語の文章表現の能力を高める。大学生のラーニング・スキルとしての基本になる文章表現能力の学修は、このあとに続く全ての科目の基礎能力となる。また、社会で必要となるスキルのひとつでもある文章作成能力は、外国語学習の基礎力であり、様々な文章の「型」を文章作成と添削および相互批評を組み合わせた実作学習によって習得する。

到達目標

- ・社会に存在する様々な文章の「型」について分類することができるようになる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実地的な文章作成ができるようになる。
- ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。

授業の方法

- 1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成・添削・相互評価を、毎時間行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.全授業で数回文章作成能力到達度チェックを行う。
- 5.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の添削を受け、指定されたものをすべて提出する。

ICT活用

必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

公立高等学校の国語科教師としての勤務経験が37年あり、学校教育、中でも国語科教育に幅広い知識と経験を有する。左記を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	手紙文の型 手紙文の形式を理解し、心情を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.6-11の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第2回	ビジネス文書の型 ビジネス文書の形式を理解し、用件を伝える書式による文章作成を学ぶ。	PP.12-15の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	三段構成の型 「三段構成で書く」、「常体文で書く」、「一文を40字以内で書く」ことを理解し、これらの書式による文章作成を学ぶ。	PP.16-19の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	原稿用紙を用いた文章作成の型 意見文視写を通して、原稿用紙を用いた日本語表記法に沿った文章作成を学ぶ。	PP.20-23の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	新聞読者投稿欄の文章の型 新聞投書欄の文章作成を通して、客観的な視点で事実を書くことを学ぶ。	PP.24-25の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	見ることと書くことの関係(1) 報道文 身近な事件に関するメモをもとに、報道文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことを学ぶ。	PP.26-27の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	見ることと書くこととの関係(2)観察文 身近な対象に関する観察メモをもとに、観察文を書くことを通して、主観を交えずに客観的な視点で文章を書くことに習熟することを学ぶ。	PP.28-29の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	インタビュー書き起こし文の型 履修者同士のインタビューと紹介文の作成を通して、聞き書きの手法による文章作成を学ぶ。	PP.30-33の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	聞き書きの型(1) 前回の「インタビュー」を発展させ、「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を聞き書きし、記録する方法を学ぶ。	PP.34-35の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	聞き書きの型(2) 「経験の伝承と継承」をテーマに、特定の人物を対象に、その人物が経験した貴重な内容を本人に代わって記録させてもらい、聞き書きとして完成させることを学ぶ。	PP.36-37の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	論説文の型 論説文の型に沿って文章を作成することを通して、事実と意見を適切に書き分ける方法を学ぶ。	PP.38-41の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	論文に挑戦！(1) 「はじめに」、「各章」、「考察」、「おわりに」等論文の形式や、書くための資料を入手する(ドキュメンテーション)の手法について学ぶ。	PP.42-45の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	論文に挑戦！(2) 前回までの学習を生かし、形式に沿って論文作成に取り組む。	PP.46-47の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	論文に挑戦！(3) 前回までの学習を生かし、論文形式の文章を作成し、完成させる。	PP.48-49の熟読・理解・課題作成。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	添削と推敲—まとめ— これまで学んだ文章表現にかかわる知見に基づき、習得した文章表現能力について、添削と推敲を通して自己評価することを学ぶ。	PP.50-51の熟読・理解・課題作成。指定された提出課題の完成。(90分)	指定された提出課題の完成・提出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたものを提出する。 指示された課題をすべて提出した場合、評価の対象とする。
その他	0	出席率66%以上を評価対象とする。
教科書		
「型」で身につける文章作成技術／矢部玲子／大学図書出版		
参考文献		

必要に応じて提示する。
必要に応じて教材配信システム等ICTを活用する。

履修条件・留意事項等

状況如何で講義内容変更の場合あり。
教材配信システム使用。
出席率66%以上で全対象課題提出の場合評定対象とする。
連絡はGoogle classroom で行う。
メールでの問合せ等には必要に応じて対応する。
メールでの言葉遣いが不適切な場合は、単位認定しない場合もある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語の表記と語彙				ナンバリング	1322/2262
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この授業は、国際教養学科ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」とことと特に関連がある科目である。また「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことや、「生涯にわたって主体的に学び続ける意欲、および世界と地域の進歩・発展に寄与するための価値観を身につけている」ことなどとも関係がある。また国際コミュニケーション学科のディプロマポリシーと関連して、社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた日本語の高度な運用能力を中心に、世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力、グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力、世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけることを目的とする科目であり、他の日本語系の科目と関連する。また国際教養学科1年次科目「日本語表現技法Ⅱ」と連携している。

授業の概要

この授業は、社会人基礎力に欠かせない正しい日本語表記を身に付け、場面や目的に合わせた語彙を増やしていく。講義と演習を組み合わせ、漢字検定あるいは日本語検定2級程度の漢字・表記・語彙・言葉の意味および公務員試験等で一般常識とされる日本語運用に関する漢字語彙の定着度を測る。本授業の漢字リテラシー基準には、常用漢字、人名・地名漢字、時事用語などの現代日本語漢字の正しい読み方と、四字熟語および諺・故事成語などの意味理解も含め、公的な場面で使える語彙を増やしことばの使い分けを身に付けていく。

到達目標

1. 社会人基礎力となる一般常識とされる常用漢字が定着し、一般的な四字熟語を使用・運用できるようになる。
2. 漢字のしくみを理解し、未知の漢字でも読み方を関連づけ、一般化・推測できるようになる。
3. 日本語の語彙を増やし、いろいろな表現で自己や出来事を知的に描写し操作できるようになる。

授業の方法

板書およびパワーポイントを通じた講義、グループワーク、プレゼンテーションを通じて15回の授業を行う。

ICT活用

Google classroomを活用し、授業補完情報(インターネットサイトなど)を報告・紹介したり、課題を出題・回収したりする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト等の提出物は全て採点して返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業のやりかた、発表のしかた、評価方法、この授業の意義などを丁寧に講義する。	シラバスを読んでおく(30分)	配布プリントを読み課題に取り組む、発表グループを決める(150分)
担当教員			
第2回	漢検教科書 ステップ1～3:書き取り練習と講義 漢字のしくみ、音訓概講(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:語彙・言葉の意味の各例題)	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第3回	漢検教科書 ステップ4～6:書き取り練習と講義 日本語史について:歴史的変遷、南方・北方説について(講義) 故事成語「矛盾」について(『韓非子』該当箇所の講読を含む)	教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第4回	漢検教科書 ステップ7～9:書き取り練習と講義 常用漢字について(講義) 中国史概観(講義)(『漢辞海』第四版附録頁を共有して概観)	教科書該当部分の問題を解く、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			
第5回	漢検教科書 ステップ10～12:書き取り練習と講義 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(前半)(講読) 漢字の成り立ちについて(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」語彙練習4～3級)	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第6回	第1回漢字復習確認テスト(ステップ1～12)・語彙テスト 漢検教科書 ステップ13～15:書き取り練習と講義 『史記』廉頗藺相如列伝を読む(後半)(講読) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」語彙練習2級前半)	確認テストの準備、および教科書該当部分の問題を解く(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第7回	漢検教科書 ステップ16～18:書き取り練習と講義 ひらがな・カタカナの歴史について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」語彙練習2級後半) グループ発表(第1回)	教科書該当部分の問題を解く、 グループ発表者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および確認テスト・教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第8回	漢検教科書 ステップ19～21:書き取り練習と講義 表記・送りがないについて(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第2回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			
第9回	漢検教科書 ステップ22～24:書き取り練習と講義 漢字の字体について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第3回)	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備、担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			

第10回	第2回漢字復習確認テスト(ステップ13～24)・語彙テスト 漢検教科書 ステップ25～27:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第4回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第11回	漢検教科書 ステップ28～30:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(語彙教科書:「日本語検定」言葉の意味) グループ発表(第5回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第12回	漢検教科書 ステップ31～33:書き取り練習と講義 ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(現代において頻用されるもの) グループ発表(第6回)	教科書該当部分の問題を解く、 発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			

第13回	漢検教科書 ステップ34～36:書き取り練習と講義 カタカナ語について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(新聞・雑誌などで目にするもの) グループ発表(第7回)	教科書該当部分の問題を解き、 担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解く(90分)
担当教員			
第14回	漢検教科書 ステップ37～39:書き取り練習と講義 人名・地名漢字について(講義) ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語(現代の一般教養として) グループ発表(予備)	人名・地名漢字について事前調査、教科書該当部分の問題を解く、発表担当者は発表の準備(90分)	講義内容・配布プリント復習、および教科書該当部分の問題を解き、復習確認テストの準備(90分)
担当教員			
第15回	第3回漢字復習確認テスト(ステップ25～39)・語彙テストおよび復習	教科書該当部分の問題を解き、 復習確認テストの準備(90分)	漢検教科書の総復習および最終提出課題の準備(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	漢字復習確認テスト(毎回の小テストを含む)40%、グループ発表40%、各種課題10%、授業参加度10%の総合評価
その他	0	
教科書		
『漢検準2級 漢字学習ステップ 改訂三版』／日本漢字能力検定協会 『日本語検定公式領域別問題集 改訂版 語彙・言葉の意味』／畑 恵里子(編集), 日本語検定委員会(編集)／東京書籍		
参考文献		

常用漢字表(文化庁)
『全訳 漢辞海 第四版』／戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編／三省堂

履修条件・留意事項等

とにかくいろいろな手を動かす作業をしてもらおうと思っています。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語コミュニケーション技法				ナンバリング	2304/2360
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

この科目は国際教養学科ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」ことや、「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことなどに関連がある科目であり、また国際コミュニケーション学科ディプロマポリシーである「世界各地の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける」とともに、「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につける」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備える」、「世界とつながるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につける」ための「日本語表現技法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目である。また国際教養学科では1年次科目「日本語表現技法Ⅱ」と連携する。

授業の概要

この授業は、情報端末を介した交流が日常的になった現代、さまざまなコミュニケーションのチャンネルが広がっているが、人と対面して「話す」ことがコミュニケーションの基本であることの重要性が再確認されている。この授業では、信頼関係を築くための非言語メッセージはもとより、良質の「スピーチ」を客観的に観察することなどを通じ、「きく」ための技術やアサーティブなコミュニケーション技術を身に付けていく。授業では、各自の日本語能力を向上させると同時に、目的に合わせて自分をどうアピールしていくのか、自己PR動画や就活面接用ウェブ動画の制作と振り返りで、目的に合ったパフォーマンスができるようになることを目指す。

到達目標

1. 4つの「きく」姿勢を意識して、相手の話の意図に配慮し協調できる。
2. 話の内容を簡潔にわかりやすく伝える手法を応用できる。
3. 対人コミュニケーションにおける第一印象や態度として、スマイルを意識的に表出・操作できる。
4. 目的や相手、場に合わせた話し方を適用できる。
5. 自己のコミュニケーション行動の問題点をモニター・測定できる。

授業の方法

プレゼンテーションやスピーチについて、毎授業時での少人数ごとのグループ活動を通じて互いに気づき・修正しあい・フィードバックにつながる形で大きな発表形式にもっていく。また毎回コメントシートを記述してもらい、ポイントを絞った「確認用ペーパー」とする。

ICT活用

Google classroomを通じた課題提出のほか、パワーポイントその他を用いたプレゼンテーションを行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

自己評価や振り返りを含めた各課題はコメントを記して個別返却し、優秀な課題には、その学ぶべきところを全体の講評で紹介し共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・「伝える」ことについて、「話しかた」「構成」「内容」など4技能を中心とした解説を行う。	事前にシラバスを読んでおく。(30分)	次回の「自己紹介」について、話す内容を整理しておく。(150分)
担当教員			
第2回	自己紹介(グループ活動) ・グループを組んで他人に自己紹介をしてみる。 ・その際によくはたらくよい「自己紹介」を考える。	事前に自己紹介の内容を考えておく。(30分)	よい「自己紹介」について考え、次回への糧とする。(150分)
担当教員			
第3回	伝えるためには「目を見て話す」(グループ学習):対人関係を構築するための方法 ・目を見て話す練習をする。 ・目線を配る練習をする。	今回のテーマについて、他の人の話している姿を観察しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			

第4回	「聞く練習」と「話す形」(グループ活動) ・引き続き「目を見て話す」「目線を配る」練習をする。 ・表情に気をつけてみよう。 ・傾いて聞く練習、および話し手の気持ちを考慮する。 ・好きなもののことを考えて言葉にする練習をする。	前回学んだことを思い出して確認しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			
第5回	朗読とスピーチ・プレゼンテーションの違いについて(グループ活動) ・両者に決定的な違いがあることを体験する。 ・「調べ発表」風の節末上げ・文末上げを知り、完全撲滅を試みる。 「好きなこと」発表練習(グループ活動) ・自分の「好きなこと」についてよく考え、それを売り込むにはどうすればよいか見つけ出す。 ・好きなもののことについて発表リハーサル・ピアレビューをする。	前回学んだことを思い出して確認しておく。(30分)	課題となるスピーチ動画を視聴し、今回のテーマで気づいたことを確認するとともに、自分でも練習しておく。(150分)
担当教員			
第6回	語用論的規範についての基礎レクチャー ・語用論と意味論 ・関節発話行為 (by Austin) ・会話の公理 (by Grice)	今回のテーマ(「好きなこと」)について、話す内容をある程度考えておく。(30分)	今回のグループ活動を通じて気づいたこと・指摘を受けたことについて、しっかりと受け止めて発表の準備をする。(150分)
担当教員			

第7回	公の場に立ってみよう ・過去の「演説」動画を視聴し、観察・分析する。 ・公の場で話してみる。	「演説」について考えておく。(30分)	次回の発表についてしっかりと準備をする。(150分)
担当教員			
第8回	「好きなこと」発表(前半) ・自分の好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省、あるいは準備をする。(150分)
担当教員			
第9回	「好きなこと」発表(後半) ・自分の好きなことについて発表する。 ・自分の発表を見ながら自己解説。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省をする。(150分)
担当教員			

第10回	「自己ブランディング」について(グループ活動) ・自分のいいところ、売り込めるところは何か、考える。 ・グループでお互いのいいところを提案し合う。	自己ブランディングについて調べておく。(90分)	自己ブランディングについて調べる。(90分)
担当教員			
第11回	「自己紹介・自己アピール」 ・状況を設定し(就職面接など)、売り込みポイントを探る。 ・自己紹介・自己アピールを構成する。	新しい「自己紹介」のことを考える。(30分)	新しい「自己紹介」を準備する。(150分)
担当教員			
第12回	「自己紹介・自己アピール」 ・グループに分かれてお互いに「自己紹介」および解説。	新しい「自己紹介」を準備する。(150分)	今回学んだ内容を加味しつつ新しい「自己紹介」を準備する。(150分)
担当教員			

第13回	「自己紹介・自己アピール」発表(前半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省、あるいは準備をする。(150分)
担当教員			
第14回	「自己紹介・自己アピール」発表(後半) ・前回までにつくりあげた「自己紹介・自己アピール」発表。	発表の準備をする。(150分)	発表の反省をする。(150分)
担当教員			
第15回	発表(予備時間)、および総まとめ。	これまでの授業で学んだことを振り返る。(60分)	これまでの授業で学んだことを振り返る。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内発表(2回)、小課題、授業参加度などの総合評価。
その他	0	
教科書		
使用しません。		
参考文献		

『自分をどう表現するか パフォーマンス学入門』／佐藤愛子／講談社現代新書
ほか、書籍やサイトなどを授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語学				ナンバリング	2324/2274
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小西 正人						

授業の位置づけ

日本語について、ことばの専門家として必要不可欠な知識を修得し、正しい考え方を導く科目である。この科目は、国際教養学科のディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」ことや、「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことなどに関連がある科目であり、国際コミュニケーション学科の「社会性・実用性・キャリアを意識した言語使用に主眼をおいた英語、日本語および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じた高度な運用能力および情報分析・発信力を身につける」「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける」「世界各地の活性化という課題につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につける」などに関連する科目であり、他の言語・語学系科目と関連する。また1年次後期科目「日本語の表記と語彙」と連携している。

授業の概要

この授業は、言語学的な考え方を基本として、現代日本語の文法に関するさまざまなトピックについて講義する。日本語についての知識を深め、英語・中国語・日本語、およびその他の言語について実践に応用可能な知識及び技能を身につけること、および問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができること、および学びの成果を社会人生活の中で活かすことを達成する科目である。なぜわざわざ日本語の文法構造を学ぶ必要があるのか、そもそも文法は必要なのかなどの疑問や批判に答え、日本語をはじめとする言語の精妙さを、現代日本語を通じて講義する。

到達目標

1. 日本語について正しい視点を持ち、応用することができる。
2. 日本語について正しいデータ収集を行い、一般化することができる。
3. ことばに対して正しい分析を行うことができる。
4. 日本語(あるいはことば)に対する謬見を指摘できる。

授業の方法

板書・パワーポイントおよび視聴覚メディアを活用しながら、講義形式ですすめる。また毎回コメントシートおよび小課題の解答を提出してもらい、理解度を確認する。

ICT活用

Google workspaceを活用する(Google Formでの設問・コメント収集、Google classroomを通じた情報提供など)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出してもらった授業に対するコメントなどを授業内でとりあげ、それぞれについて回答および示唆、参考資料の紹介などを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「タブラ・ラサからはじめよう！」～ 日本語学とは 「生物学」は生物を、「法学」は法律を研究する。では「日本語学」が研究対象とする「日本語」はどこにあるか？という問いを皮切りに、15回の講義で学ぶことのしっかりとした基礎を確認する。	日本語について考えてくる(90分)	リアクションペーパーに「そのあと考えたこと」および「その日の課題」に対する解答を書き込む練習(90分)
担当教員			
第2回	「ぜーいん、起立！」～ 日本語の「音」を探してみよう 自分の口はどんな音を出しているのか、発音しながら確認する。補足資料としてIPAのチャートを用いる。これにより日本語(あるいは言語)の音声についての基礎感覚を身につけることができる。	日本語のサ行とハ行について考えてくる(90分)	課題として与えられたIPAを発音できるようにしてくる(90分)
担当教員			
第3回	「トマトの反対はトマト？」～ 日本語のアクセント・イントネーション 2音節語を中心に、日本語のアクセントの概要について自覚的になることができる。データとして2音節語のリストを用い、学生自らの内省をもとに分類を行ってもらい。おまけとして方言および歴史的なアクセントについての話を行う。	「～ちゃん」のアクセントについて考えてくる(90分)	「〇〇県」と「〇〇」のアクセントについてまとめる(90分)
担当教員			

第4回	「尾鰭」は「おびれ？おひれ？」 いわゆる連濁と呼ばれる現象について、音声から語構成に至る制約が存在することを、窪園晴夫氏の研究成果を用いてやさしく解説する。	そもそもなぜ連濁するのかということについて考えてくる(90分)	授業の内容を整理して完全に理解する(90分)
担当教員			
第5回	「塗り薬、粉薬、咳止め薬、便秘薬」～日本語の形態論・形態素・語構成 無意識に用いている「語より小さい単位」が組み合わさることにより、生産的にいろいろなことを表すことができるようになることを実感／確認できる。また世界の言語について「長い語」の紹介を行う。	長い語を見つけてくる(90分)	日本語における蔓苔桃形態素を自力でみつける(90分)
担当教員			
第6回	「動詞は動作を表す語？」～日本語の品詞について そもそも名詞や動詞という分け方は誰のためのものか、という視点を徹底することによって、自分が母語話者として使っている無意識の「品詞分類」を実感することができる。第1回の授業をさらに進めた内容。	品詞はあったほうがいいのか、ないほうがいいのか、主張およびその理由を考えてくる(90分)	品詞分類におさまりきらない語をみつける(90分)
担当教員			

第7回	「壊したんじゃない、壊れたんだよ！」～ 日本語の自他対応動詞 日本語にみられる自他対応動詞について、その認知的意味、および外国語との関係をみることにより、言葉の認知的基盤を確認する。	日本語以外の自他対応について考えたり調べたりしてくる(90分)	授業の内容を整理して完全に理解する(90分)
担当教員			
第8回	「食べさせられはじめていたらしいわよね」～ 述語の階層長い用言複合体述語を生産することのできる日本語の特徴をみるとともに、言語がどのような階層をもっており、それに基づいて設計されているかを繙く。キーワードとして「主観的／客観的描写」「命題的／モダリティ的表現」を導入する。	用言の前と後ろにつくことができるものをできるだけ多く見つけてくる(90分)	用言に後接する要素がそれぞれの階層までを許容するか、丁寧に調べてくる(90分)
担当教員			
第9回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について・その1 我々は全くの白紙状態から言語を修得していくのではなく、ほとんど完成した状態で生まれてくるという論を紹介し、議論する。第1回は言語修得の直感的説明の誤りを正し、赤ちゃんが母語の音声を獲得していく様子について段階を追って見ていく。	赤ちゃんがことば(特に文法)を修得するときどのように修得するか、一生懸命考えてみる(90分)	「そのあと考えたこと」をがんばって書く(90分)
担当教員			

第10回	「赤ちゃんはどうやって話せるようになるの？」～ 言語修得について・その2 音声修得した赤ちゃん(我々)はその後、どうやって言語を修得していくのか。「物の名前を覚える」というのがいかに難しいことであるかを実験結果から繙き、その後の修得過程を見る。また臨界期についてもふれる。	赤ちゃんがことば(特に文法)を修得するときどのように修得するか、前回の授業を基礎として一生懸命考えてみる(90分)	「そのあと考えたこと」をがんばって書く(90分)
担当教員			
第11回	「ええっ、あれで『そば』って読むの!？」～ 日本語の表記ひらがなとカタカナの歴史を講じるとともに、数種の文字を使い分ける表記体系をもつ日本語について改めて考え、漢字の音訓や万葉仮名、キラキラネームのしくみについての見方を変える。また日本語史についても簡単に論じる。	ひらがなとカタカナの歴史について調べる(90分)	万葉仮名と変体仮名について説明できるようにする(90分)
担当教員			
第12回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～ 日本語の方言・その1 身近にみられる北海道の方言、および関西の方言について考える。また方言について、その「役割」について各自が自分のこととして考える。	日本になぜ方言があるのか、考えてくる(90分)	配布課題プリントに基づいて、方言を練習してくる(90分)
担当教員			

第13回	「日本語ってひとつじゃないんですか？」～日本語の方言・その2 東西方言・方言圏論などを紹介し、またあわせて琉球諸語を取り上げるにより、上代・中古日本語との関連について思いを巡らせる。	自分の故郷の方言について考えてくる(90分)	自分の故郷の方言について考え続ける(90分)
担当教員			
第14回	「日本語はウラル・アルタイ言語です…か？」～日本語のなかま 印欧語における系統樹の考えを基本に説きながら、日本語の系統について、中国語や韓国語との対比を考えながら、一定の結論を出す。	日本語のなかまにはどんな言語があるか、理由つきで考えてくる(90分)	しっかりと言語リテラシー能力がついたか、チェックする(90分)
担当教員			
第15回	1. 全然OKって全然OKですか？」～正しい日本語論 巷間でよく話題にされる「ら抜き言葉」や「全然＋肯定」表現を取り上げ、正しい日本語について一定の妥当な意見をもつことができるようになる。 2. 「はい、確かに約束します」～発話行為・語用論的機能について 言語行為論の考え方を概観し、「行為としての発話」という面について考える。 「コロソってしたらコロコロしたからパーって行ってギョッてしたの」～オノマトペの世界 日本語のオノマトペ(の構造・体系)を中心に、いろいろなオノマトペについて考える。 3. 「イヌイットの人には雪が見えないって本当ですか」～いわゆる俗説の検討 ほかに「が」と「は」は主語である、「ありがとう」と声をかけると桃が腐らない、などのトンデモ言説を取り上げ、言語リテラシー能力をつける。 4. 「道がどんどん狭くなります」「車だと近いです」～認知言語学緒論 「体験を基にした言語表現」を見つけながら認知的な考え方を概説する。	1. 「正しい日本語」があるかどうか、理由つきで考えてくる。 2. 印象的なオノマトペを調べてくる。(合計90分)	1. 結局「正しい日本語」はどこにあるのか、自分で整理する。 2. 他言語のオノマトペについて調べてみる。 3. 微妙な日本語・楽しい日本語を見つけてくる。(合計90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期テストは実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題(他言語レポート20%、追求レポート20%、小課題20%)および授業参加度(40%)の総合評価とする。
その他	0	
教科書		
授業中にハンドアウトを配布する。		
参考文献		

『よくわかる言語学』／窪菌晴夫[編著]／ミネルヴァ書房
『基礎日本語学』／衣畑智秀編／ひつじ書房
『はじめて学ぶ言語学』／大津由紀雄編著／ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

教室の中だけでなく、ふだんからいろいろな言葉に興味をもつようにしてください。
第1回の授業で評価方法と課題について丁寧に説明するので、受講予定者は必ず出席してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語と日本文化				ナンバリング	2326
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、日本語の高度な運用能力を身につけ、日本語文化を身に付ける(知識・技能)ための、発展科目となる。世界の日本語話者となつながらために日本語文化を理解し、その日本語文化を発信できる国際感覚を身につける(関心・意欲・態度)ことを目指している。英語や中国語などの外国語コミュニケーション能力養成には、母語である日本語の視点から、異言語・異文化の表現の共通点と差異を学び、言語と文化を分析する視点を養う必要がある。実用日本語科目群のひとつであり、言語プロフェッショナル科目、異文化コミュニケーション科目に関連し、日本語教員養成課程の必修科目のひとつである。

授業の概要

この授業は、外国人が日本語を学ぶ視点、つまり「ソト」から日本語を眺めてみることを意識化していく。外国語としての日本語にはどのような言語文化があるのか考察していく。外国語としての日本語を眺める方法として、ことばと文化を分析する手法を学ぶ。日本語母語話者はどのように物事を見立てているのか、日本人の思考方法や価値観、世界観等を知る。また、日本語の副詞や受け身表現など、外国語に対訳しづらい日本的な表現に焦点を当て、日本語の背景にある日本文化を探究する。

到達目標

1. どのような人々が日本語を学んでいるかを説明できる。
2. ことばと文化をメタファーから分析する手法で生産語源の仮説を立てることができる。
3. 日本語と英語における基本的なメタファーが比較できる。
4. 日本語と英語・中国語の外国語の諺や慣用句表現の差異と共通点を説明できる。

授業の方法

各授業の前半は、パワーポイントと講義プリントを用いて講義形式で進めるが、後半はグループまたはペアワークで各課題に関して調査発表したり、ディスカッションしたりしていく。プレゼンテーションは2回行い、復習の確認テストを1回行う。

ICT活用

課題や資料提示等はGoogle Classroomを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時までコメントを添えて個別に返却し、授業で全体の講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ことばと文化の関係から日本語文化について考えてみよう。 外国語母語話者はなぜ日本語を学んできたのか、どのように日本文化を理解したのか、日本語教育の歴史を概観する。	国内外の日本語学習者数と学習動機等の学習動向を調べておく。(90分)	日本語教育史の概略を確認しておく(90分)
担当教員			
第2回	ソトから眺める日本語 日本語学習者にとって、日本語は難しい言語か	外国人が日本語を学ぶ際、どんなことが難しいかを調べておく。(90分)	日本語学習者にとって難しいとされる日本語の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語のコミュニケーション 話し相手をどう呼ぶか、謝罪や判断留保など日本語コミュニケーションのマジックワードを考える。	日本語における呼称(英語のyouに対応する)表現のいろいろを10以上考えておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			

第4回	日本語のレトリック 謝罪や勧誘、依頼表現の文化視点	外国人日本語学習者にとって難しい表現はなにかを調べておく。(90分)	日本語における書きことばと話しことばの呼称を、コンテキスト別にまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	日本語における日本語母語話者の発想Ⅰ 日本文化のウチとソトを確認し、自己の視点中心の日本語と自己を対象化する英語を比べて見よう。	ウチとソトの言語切り換え基準を確認しておく。(90分)	ウチ、ソト、ヨソの構造をまとめておく。(90分)
担当教員			
第6回	日本語における日本語母語話者の発想Ⅱ 副詞の日本的感性が現れた歌を発表する。 能動態と受動態: 日本語の受身表現の視点を考える。	日本語の副詞を効果的に使用した歌を1曲、探しておく。(90分)	日本語副詞の感覚表現、受身表現と能動表現の使い方をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	確認テスト 日本語における副詞、動詞の特徴を中心に確認する。	これまでの専門用語とその例を 復習しておく(120分)	日本語における日本的言語感 覚を復習しておく(60分)
担当教員			
第8回	メタファーのいろいろⅠ 日本語文化を比喻表現から分析してみよう。 上下空間のメタファーを考える	メタファーとは何か、定義とその 具体例を調べておく(90分)	日英対照メタファーで「上下」に 関する語句や慣用表現をまとめ ておく(90分)
担当教員			
第9回	メタファーのいろいろⅡ 大小・高低のメタファーを考える。	英語における大小を表わす語 句や慣用表現を調べておく(90 分)	日本語のメタファーにおける高 低・大小と英語の共通点をまと めておく(90分)
担当教員			

第10回	メタファーのいろいろⅢ 英語を中心とした外国語の動物メタファーについて、グループでプレゼンテーションする。	プレゼンテーション準備をしておく(120分)	日本語と外国語の動物のメタファーの共通点と相違をまとめておく(90分)
担当教員			
第11回	メタファーのいろいろⅣ 外国語と日本語の喩えはどこが、どう違うのかをプレゼンテーションする。	特定の国・言語圏の比喩プレゼンテーションの準備をしておく(120分)	プレゼンテーションの修正をしておく(60分)
担当教員			
第12回	日本語のユーフェミズム ことばの代替と実体の変化の関係を眺める。	婉曲語法にはどのような表現があるかを調べておく(90分)	日本語における外国語使用や外来語のユーフェミズムをまとめておく(90分)
担当教員			

第13回	日本語のメトニミー 空間的隣接と時間的隣接から誇張法を分析する。	商品や北海道の観光案内など、 そのキャッチフレーズやコピーか ら誇張と思われる表現を調べて おく(90分)	メトニミーについてまとめておく(90分)
担当教員			
第14回	日本語文化の擬人法 物語や昔話を題材に、擬人法についてプレゼンテーション する。	プレゼンテーションの準備をして おく(120分)	プレゼンテーションで用いた資 料やスライドを修正しておく(60 分)
担当教員			
第15回	まとめ 比喩やレトリックに関する専門用語とその運用例の確認テ ストを行う。 日本語母語話者が、外国語を使用するとき、どのような表 現が誤解されやすいかを確認する。	メタファー、メトニミー、シネクドキ 等の比喩の用語と用例を確認し ておく(120分)	確認テストの間違いを訂正して おく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題とプレゼンテーション50%、ディスカッションや教室作業を含む授業参加度20%、確認テスト30%。
その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		

『日本語文法の発想』／森田良行／ひつじ書房
『レトリックと人生』／G. レイコフ他／大修館書店
『認識のレトリック』／瀬戸賢一／海鳴社。このほか授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語ビジネスライティング				ナンバリング	3306
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの、「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている【知識・技能】」と関連があり、ビジネスシーンに羽ばたく上での文章作成能力を習得する科目である。
「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる。【知識・技能】」ことと関係する科目である。

授業の概要

本科目は、日本語でビジネスをする上で欠かせない文書作成の基本を学ぶ。電子媒体が主流の今日であっても、仕事でやりとりする文書には一定の様式とマナーがある。情報技術の進展とともに、ビジネス文書の書き方は少しずつ簡略化され、言葉遣いも変化してきているとはいえ、相手に失礼な表現や言い回し、敬語の誤った使い方では、仕事への信頼を失うことがある。そこで、ここでは、敬語について理論的に学ぶとともに、日常業務における依頼・謝罪・お礼・断り・問い合わせ等の社外文書と、要請や報告、連絡等仕事をスムーズにするための社内文書の基本的な書き方を身に付けていく。

到達目標

・社会に存在する様々なビジネスライティングについて理解できるようになる。 ・各講義の目標とするライティング技術を習得し、実際的な文書作成ができるようになる。 ・文の正誤・適否・美醜等が区別でき、適切な言葉選びが出来るようになる。

授業の方法

1.講義形式で、作成する文章の形式を中心に説明を行う。 2.説明に基づいて実際に各自で文章作成・添削・相互評価を行う。 3.完成させた文章は毎時間提出して担当教員の指導を受け、指定されたものを締め切りまでに提出する。

ICT活用

・必要に応じて遠隔授業システム等を用いた授業を実施し、ICT技術の修得を促す。

実務経験のある教員の教育内容

・公立小学校の担任としての国語教育、また校長としての学校経営や対外的な渉外の知識と経験を有する。これを生かし、実践的な指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・作成した課題は原則マンツーマンのセッションを経て添削し受理する。 ・作成した課題の相互評価・自己評価結果のシェアリングによって、成果と課題を可視化する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ビジネス文書とは】 個人的な文書、社用文書、公用文書など、文書の種類について、その内容や性格を学ぶ。 【就職課と連絡が取れるようになろう】 就職課へのメールアドレス(携帯電話)登録を通して依頼文のメールを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第2回	社会人の先輩に聞いてみよう。 大学内外の社会人に、職場や業界などの状況を聞き取り、「働くこと」のイメージを学ぶ。 事前の依頼状、事後の礼状など、手紙やメールにおける正しい言葉遣いを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第3回	【ビジネス文書の作成1】テキストp10-41 ・取引に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第4回	【ビジネス文書の作成2】 テキストp42-61 ・社内に関わる文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第5回	【ビジネス文書の作成3】 テキストp62-93 ・社交文書や電子的な文書について、その種類や形式、構成について学ぶ。 ・文書作成演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第6回	【文書の受発信業務1】 テキストp94-108 ・受発信に際する取り扱い方、郵便の知識などについて学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第7回	【管理職に聞く】 採用側、会社はどんな人材を期待しているのか。 説明会申込から始まる一連の流れの中で必要とされる文書の作成を体験し、その体裁を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第8回	【文書管理の基本】 テキストp109-115 ・ファイリングの知識、効果、効率的な用具等について学ぶ。 ・演習	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第9回	【就職関連文書1】 テキストp122-126 ・履歴書を書いてみよう。 ・就職における文書の役割を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第10回	【就職関連文書2】 テキストp127-132 ・エントリーシートや送付状を書いてみよう。 ・就職活動の過程で必要な文書を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第11回	【就職に必要な文章読解と表記1】 ・基本的な文章読解法を学ぶ。 ・簡潔な表記を学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第12回	【就職に必要な文章読解と表記2】 ・難易度が高い文章読解法を学ぶ。 ・複雑な表記について学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			

第13回	【手書き文字を美しく1】 ・自分の手書き文字を客観的にみつめる。 ・美しさとは	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第14回	【手書き文字を美しく2】 ・美しさと丁寧さ ・「美文字」に見せるコツ	テキストの事前通読(90分)	講義の振り返りと課題提出(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 作成課題の最終チェックとまとめ問題への取り組みを行い 自己評価することを学ぶ。	テキストの事前通読(90分)	全課題の提出(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題の提出:70%(70点) 出席率、参加態度30%(30点)
その他	0	
教科書		
ビジネス文書ーオフィスワーカーの実務ー(横山秀世 編著／建帛社)		
参考文献		

必要に応じて提示する。

履修条件・留意事項等

「自分の書いた文章に責任を持つ」ことを目的とする。
外部講師の都合等により、授業の順番が変わることがある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		現代日本語論				ナンバリング	3328
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

現代日本語使用における社会人としてのことば遣いを身に付けるため、言語変化にアンテナを張り、実際の日本語使用に主眼を置いた高度な日本語の運用能力を身につける(知識・技能)ための科目である。社会人基礎力としての日本語表現の向上を目指し、目的や場に合わせた適切な日本語運用を身につけ(知識・技能)、日本語を用いた日常生活で適切な道徳観、倫理観を持ち、主体的に他者との共生・協働することを可能とする柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えて(関心・意欲・態度)いく。「日本語表現技法」「コミュニケーション学概論」「日本語と日本文化」「日本語学」等の日本語のコミュニケーション関連科目の発展科目で、キャリア養成、日本語教員養成課程科目でもある。

授業の概要

この授業は、現代日本語の変化を社会言語学的視点で分析し、ことばと社会の関係、つまり、ことばは社会を映し出す鏡であることを確認していく。日本社会における独特な「役割語」を糸口に、社会的立場による言語使用のパラエティールから、対人関係の親疎やポリティカルコレクトネスと差別語、女ことば等から、社会変化とともに変化することばと変わらないことばの核を眺めていく。受講生は指定テーマごとに調査・発表をし、ディスカッションしていく。たとえば、新語流行語と言語消費、若者ことばの造語法、言語景観やピクトグラムから多言語社会における言語サービスのあり方、アイヌ語や手話など少数派とされる人々の言語権を考えていく。

到達目標

- 1 敬語も含めた「正しい」日本語運用を意識化できる。
- 2 現代日本語の変化に敏感に気づけるようになる。
- 3 若者ことばとフォーマルな表現等、目的や相手に合わせた使い分けができる。
- 4 方言も含めた「役割語」の機能が説明できる。

授業の方法

各授業の前半はスライドや配布プリントを使って講義形式で行い、後半はその項目に関連したワークショップと振り返り作業を中心に行う。受講生にはパワーポイントによる課題発表やグループでのプレゼンテーション(2回)と確認テスト(1回)を予定している。

ICT活用

課題や資料配付、質問等はGoogle Classroom を活用する。AIを懐疑的に使用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は次回の授業時までにコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション: 社会言語学の視点とは 現代日本語の変化を考える。 自分の日本語運用での問題点はなにかをグループごとに 意見交換していく。	近年の日本語のことば遣いの変化に関する問題を具体的に3つ 以上考えてくる(90分)	スマホにおける各自の日本語文 の使用パターンをメモしておく (90分)
担当教員			
第2回	日本語表現の変化 I 「正しい日本語」・「美しい日本語」とは 現代の日本語をめぐる諸問題について概説する。	正しい日本語とはどのようなこと か、事例を3つ以上あげ、説明で きるようにしておく(90分)	ゆれている日本語表現を5つ以 上探して、使用事例を書いてお くこと(90分)
担当教員			
第3回	日本語表現の変 II II 「気になる言い方」について、自身の言語表現と照らし合わ せ、その運用傾向を分析する。	「すごっ」「ヤバっ」といった話し 言葉における形容詞の感情表 現の文法規則を調べておく(90 分)	世代差や職種によって異なる日 本語表現を10つ選び、その特徴 を考えておくこと(90分)
担当教員			

第4回	役割語と現代の若者ことば 役割語から、ことばとアイデンティティーについてを講義する。受講者はグループごとに、近年の若者ことばの特徴とその使い方を発表し、世代別の言語運用の特徴を確認していく。	現代の若者語はどのようにして作られ、どのような場で用いるのか、自身の言語使用経験から分析しておく(90分)	現代の若者ことばの語構成と平安期の語構成の共通点をまとめておく(90分)
担当教員			
第5回	日本語における方言の役割 方言とはどのような役割をになっているのか、災害時の避難所コミュニティや医療用語から概説する。	北海道方言の特徴を具体例を10以上あげて説明できるように整理しておくこと(90分)	北海道方言の特徴とその用例(会話場面)を20作成し、使い方が容易にわかるように整理しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	方言コミュニケーション 受講生は各自が選択した方言の特徴とその使い方をプレゼンテーションし、日本の代表的な方言の使い方を共用する。	指定の各方言の特徴を、その具体的使用例をあげ、プレゼンの準備をしておく(90分)	方言の格差について、ネットではどのような地位が与えられているかを調べておくこと(90分)
担当教員			

第7回	ことば遣いの効果的な活用とは 「やさしい日本語」の定着度 「女ことば」をはじめ日本語の多様な役割語を通して、心理的に結び付けられたスピーチスタイルとその効果を分析していく。	ある表現が特定の人物像を造る キャラ語を8つ以上収集しておく こと(90分)	多様な表現を分類し、その分類基準を説明できるようにしておく こと(90分)
担当教員			
第8回	適切な表現とは ことばによる差別や不適切な表現とは何か、日本語と英語を比較しながらディスカッションしていく。	差別語や放送禁止用語を10以上リストアップし、なぜそれが該当するのか、そしてその言い換え表現を2種類以上、考えておくこと(90分)	不適切とされる表現について、日本語と英語辞書の記述を確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	日本の言語景観Ⅰ 学生は収集した言語景観を発表する。 それらの日本語表現または外国語表現から日本社会の変化や日本語文化を分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備(スライド作成等)をしておく (90分)	公共施設における掲示文や説明文の書き換えをしておく(90分)
担当教員			

第10回	日本の言語景観Ⅱ 学生は商品や商品説明に記された「問題な」日本語文をプレゼンする。 そこから、日本語のレトリックを分析していく。	各自の言語景観のプレゼン準備をしておくこと(90分)	日本語のレトリックを雑誌やネットニュース等から5つ収集しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	日本語の言語政策 英語と経済から:リンガフランカとしての日本語の可能性 日本語教育拡大の可能性を考える	英語非母語話者国で、英語能力の高い国とその教育制度を調べておくこと(90分)	国内外の日本語教育・学習目的・学習背景の現状を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	ネットの日本語 短文のチャット・コミュニケーションを会話分析をし、その特徴を考える。	指定課題について、AIをどのように使えば有益となるか、効果的な活用を考えてくる(90分)	自身の情報機器使用における対人コミュニケーションの問題点を確認する(90分)
担当教員			

第13回	日本の言語政策と少数話者言語 「やさしい日本語」の定着度 アイヌ語再考	日本語の中のアイヌ語またはアイヌ語をルーツする借用語を30以上記しておく(90分)	アイヌ語で簡単な挨拶や感情表現ができるようにしておく(90分)
担当教員			
第14回	ポライトネスとは 日本語コミュニケーションにおける敬語、敬意表現と丁寧さを考える。	敬語体系を書籍やサイトで読んで復習しておくこと(90分)	タスクシートを完成しておく(90分)
担当教員			
第15回	確認テストとまとめ	用語とその具体例をあげられるように復習しておくこと(120分)	確認テストの誤答を訂正し、補足説明を記しておくこと(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	プレゼンテーション(グループ発表含む)50%、課題20%、確認テスト30%。
その他	0	
教科書		
プリントを配布する。		
参考文献		

『国語に関する世論調査』各年版／文化庁国語課サイト
『日本語教育能力試験に合格するための社会言語学10』／岡本佐智子／アルク
『ことばが変われば社会が変わる』／中村桃子／筑摩書房
『コミュニケーションの社会言語学』／吉岡泰恭夫／大修館書店。ほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

Google Classroomに課題投稿するスライドはパワーポイントとし、締め切り日時を厳守する。

備考欄

言語景観の採取については、著作権や個人情報等に十分配慮すること。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法 I				ナンバリング	3351
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	岡本 佐智子						

授業の位置づけ

この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成科目で、「日本語教育法Ⅱ」「日本語教育演習」科目に発展する基礎科目である。日本語教員志望者が国内外の日本語教育機関や組織団体等で、日本語非母語話者への効果的な日本語コミュニケーション能力育成を支援するために、日本語教育方法の知識を活かして、日本国内だけでなく世界の日本語話者と協働していけるコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)ために、ここでは代表的な外国語教授法を中心に学ぶ。

授業の概要

この授業は、外国人に日本語を教えるための方法を学ぶ日本語教授法入門である。日本語母語話者であれば、誰でも効果的に日本語を教えられるわけではない。今まで無意識に使っていた日本語を外国語として分析する視点が必要である。たとえば、助詞の「へ」と「に」の違いや、基本的な「は」と「が」の使い分けなど、外国人に日本語を効率的に教えるには、日本語に関する言語学的専門知識と、それをどのように教えていけば学習者に理解・習得しやすいのか、日本語教授法の知識も求められる。この講義で、日本語の特徴とその教え方の「これだけは」知っておきたい基礎知識を身につけていく。

到達目標

1. 代表的な外国語教授法および日本語教授法の特徴が説明できる。
2. 日本語学習者数の多い日本語非母語話者の主な母語干渉が指摘できる。
3. 初級日本語学習者に難しいとされる日本語音声の手当ができる。

授業の方法

授業では、プリントやスライドを使用した講義とその応用演習を行う。また、代表的な日本語教授法を各回で一つずつ紹介するので、その教授法体験から学習効果を考えていく。ペアやグループで各教授法のメリット・デメリットをディスカッションして発表する。復習として専門用語等授業内容の確認テストを2回行う。

ICT活用

Google Classroomを活用し、課題や資料提供を行う。課題も含めて授業では、動画サイトで日本語学習者に対する種々の日本語教授法例を閲覧して学んだり、オンラインで海外の日本語教育機関の日本語学習者と日本語交流したりして、学習目的に合わせた日本語教育の方法を考える。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

課題には評価やコメントを添えて個別返却し、授業内で全体の講評をする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 日本語教育に求められる資質 海外における日本語教育の現状と日本語教育政策	国際交流基金サイトで海外の日本語教育事情を閲覧しておく。(90分)	配布プリントを読んでおくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日本語の音声Ⅰ 日本語の母音と子音、音素、無声化(日本語の子音と調音位置・調音法) [教授法1:文法翻訳法]	外国語の教授法の種類をネットで読んでおく。(90分)	日本語の音声記号の復習と、文法訳読法の特徴を確認しておく。(90分)
担当教員			
第3回	日本語の音声Ⅱ 日本語の音節、リズム、アクセント、イントネーション [教授法2:直説法]	日本語の音節やアクセントについて調べておく。(90分)	直説法の長所と短所を整理しておく。(90分)
担当教員			

第4回	日本語初級学習者の音声 発音クリニックの方法:母語話者別の日本語音声特徴と指導	外国人の日本語音声の特徴を 復習しておく。(90分)	中国語や英語の母語干渉を受けた日本語音声の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第5回	確認テスト1:日本語学習者と日本語音声の特徴 [教授法3:オーディオリンガルアプローチ]	使用している外国語の教科書を読み、その学習項目の練習方法を確認しておく。(90分)	オーディオリンガルアプローチの特徴を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	コミュニケーションのための創造的会話練習 初級レベルのロールプレーからタスク練習まで [教授法4:コミュニカティブアプローチ]	広義のコミュニカティブ・アプローチとは何か、調べておく。(90分)	広義のコミュニカティブ・アプローチの特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			

第7回	初級レベルの文字・表記 仮名と漢字の教え方 [教授法5:TPR][教授法6:サイレントウェイ]	日本語教育の漢字教材で非漢字圏学習者はどのように漢字を学んでいるか、読んでおく。(90分)	TPRとサイレントウェイの特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第8回	日本語の文法的特徴Ⅰ 文法的特徴:動詞、主語と主題 [教授法7:CLL]	日本語の動詞分類を調べておく。(90分)	日本語初級レベル指導での助詞「は」と「が」の使い分けをまとめておく。(90分)
担当教員			
第9回	日本語の文法的特徴Ⅱ 形容詞、指示詞 [教授法8:ナチュラルアプローチ]	日本語教育の形容詞の分類を調べておく。(90分)	ナチュラルアプローチの教授法を復習しておく。(90分)
担当教員			

第10回	日本語の文法的特徴Ⅲ 存在文と所在文 [教授法9:サジェストペディア]	助詞「に」と「で」の用法を調べておく。(90分)	ここまでの各外国語教授法の特徴をまとめておく。(90分)
担当教員			
第11回	日本語の文法的特徴Ⅳ 受身の視点 [教授法10:内容重視の教授法]	日本語表現の受身用法の分類を調べておく。(90分)	学習目的・学習者別の学習ニーズに合わせた教授法を考えておく。(90分)
担当教員			
第12回	日本語の文法的特徴Ⅴ 助詞の使い分け [教授法11:学習者中心の教授法]	助詞「は」「が」「を」の使い分けを調べておく。(90分)	学習者中心の教授法のいろいろを整理しておく。(90分)
担当教員			

第13回	確認テスト2:学習項目別の指導方法	各教授法の特徴を復習しておくこと。(90分)	市販の日本語教育教材を1冊読み、その教授法を分析する。(90分)
担当教員			
第14回	日本語の語彙体系 語種と語構成	日本語の4つの語種を調べておく。(90分)	理解語彙と使用語彙をまとめておく。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 指定する学習項目別の教え方を考え、ペアまたはグループで発表する。	課題発表準備。(120分)	各教授法とその応用をまとめておく(60分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題提出10%、課題発表40%、確認テスト50%。
その他	0	
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		

『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』／高見澤孟他／アスク出版
『増補改訂版 新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』／高見澤孟／アスク出版。
このほか授業で適宜、紹介する。

履修条件・留意事項等

この授業は、日本語教員志望者や外国語教員志望者を対象に行う。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育法Ⅱ				ナンバリング	3352
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	伊藤 寛						
授業の位置づけ							
本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」こと、「世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている」ことと関連がある科目である。 この授業は、国内外で外国人に日本語を教えるための日本語教育の専門的知識を身につける(知識・技能)ことを目的とした日本語教員養成の科目で、「日本語教育法Ⅰ」に続く発展科目であり、実践的な「日本語教育演習」科目への基礎となる。日本語教員志望者だけでなく、国内外の企業で日本語非母語話者と日本語でコミュニケーションするために、日本語教育方法の知識を活かして、世界の日本語話者と協働していきけるコミュニケーション能力を養成していく(思考・判断・態度)。							

1. 日本語初級レベルの指導ができる。
2. 日本語学習目的別に適した教材が選択できる。
3. 日本語学習レベルに対応した練習教材が選択(作成)できる。
4. 学習項目に合わせた練習方法に種々の教授法を工夫・応用することができる。

授業の方法

この授業では、配布資料とPowerPointによる講義を中心とし、併せて講義内容毎のポイントについて質疑応答を行う。さらに講義内容に則した課題項目を設定し、ペアやグループによる授業内での発表も取り入れる。
また、適宜小テストやミニレポート(授業内レポート)を実施するほか、第8回目と第15回目に、学習内容の理解度を確認するための「確認テスト」を実施する。

ICT活用

Google Classroomを活用して、授業内容の質問のほか、課題および講義資料等を配信する。
学習項目に沿って、動画サイトなどを利用しつつ指導方法(モデル授業)を視聴し、授業実践の理解を行う。
必要に応じて、日本語学習におけるAIの活用にも言及する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

事前課題等については授業時に解説を行い、提出された課題は次回の授業時にコメントを添えて解説・返却を行う。
授業時での発表の場合は、発表終了後に授業内で講評する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション: 日本語学習者について知るため、学習者の立場で外国語学習を捉えなおす。	「日本語教育法Ⅰ」で学んだ事項について、自らの理解を整理しておく。(90分)	自らの外国語学習の経験を通して、外国語(日本語)学習者の理解のあり方を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	日本語教育におけるコースデザインⅠ: 学習者の学習目的に沿ったコースデザインについての基本を理解する。	コースデザインに関する配布資料を読み、事前課題に回答する。(90分)	コースデザインと学習者についての理解の関連性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	日本語教育におけるコースデザインⅡ: 学習レベルごとに求められる目標について、文化庁「日本語教育の参照枠」などを通して理解する。	文化庁「日本語教育の参照枠」及び国際交流基金「JFスタンダード」を調べておく。(90分)	「日本語教育の参照枠」をもとに、日本語能力試験のN4、N3、N2レベルに求められる内容をまとめる(90分)
担当教員			

第4回	日本語教育とシラバスⅠ： 学習目的に即したさまざまなタイプのシラバスについて理解する。 また、シラバスと関連のある教授法について再確認する。	外国語教育シラバスに関する配布資料を読み、事前課題に回答する。(90分)	タイプ別シラバスについて、それぞれの特徴と具体例を整理する(90分)
担当教員			
第5回	日本語教育とシラバスⅡ： 構造シラバスと機能シラバスを取り上げ、代表的な教材の構成について、その内容と特徴を理解する。	初級段階で学ぶことが望まれる日本語文型を30程度調べておく。(90分)	学習項目を踏まえて、構造シラバス、機能シラバスと教授法との関連を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	日本語教育とシラバスⅢ： タスクシラバスを取り上げ、can-doとの関係や教育方法について考える。	文化庁「日本語教育の参照枠」で示された、A1、A2レベルのcan-doを調べておく。(90分)	タスクシラバスによる授業を想定し、学習レベルにあわせてcan-doを作成する(90分)
担当教員			

第7回	日本語教科書の学習項目とシラバス: 具体的に代表的な教科書の学習項目を取り上げて、シラバスのあり方を検討する。	配布された教科書に関する資料をもとに、事前課題に回答しておく。(90分)	講義で取り上げた教科書の学習内容とシラバスとの関係をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	学習レベルごとの学習項目の要点: 初級、初中級、中級といった各段階の学習項目について整理し、そこで生じた疑問点や課題について検討する。 また、前半のまとめとして、ここまでの学習内容について「確認テスト」を実施する。	学習レベル(初級、初中級、中級)と日本語能力試験レベルとの対応を調べておく。(90分)	それぞれの学習レベルで必要とされる語彙と文型を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	初級の教え方Ⅰ: 日本語教育における動詞・形容詞の分類と活用のタイプを理解し、その運用を考える。	初級の動詞に関する配布資料を読んで、事前課題に回答しておく(90分)	「動詞の活用とテ形」に関する課題および自他の対応のある動詞の例文作成を行う。(90分)
担当教員			

第10回	初級の教え方Ⅱ: 初級で扱う具体的な学習項目を設定し、その導入と基本練習について検討し、具体的な教育方法を考える。	パターン・プラクティスについて調べておく。(90分)	講義で取り上げた文型について、異なるタイプのドリル練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第11回	初級の教え方Ⅲ: コミュニケーション能力育成のための応用練習の方法を考える。	コミュニケーション能力について、これまでどのように定義されているかを調べておく。(90分)	具体的な場面を設定して、コミュニケーション活動を行う練習課題を考える。(90分)
担当教員			
第12回	初中級の学習内容: 初級と初中級とはどのようなレベルの違いがあるかを考え、中級段階への架け橋としての学習内容を検討する。	第8回目の学習内容から、初中級レベルとはどのような能力が求められるかとまとめておく。(90分)	語彙や文法項目を検討し、初中級レベルの読み物教材(400字程度)を作成する。(90分)
担当教員			

第13回	中級の教え方Ⅰ： 中級レベルの学習項目について基本的な考え方を理解し、その上でグループまたはペアで学習活動を考え、発表する。	中級レベルで取り上げるべき日本語文型を20程度、調べておく。(90分)	中級レベルの日本語文型の練習問題を作成する。(90分)
担当教員			
第14回	中級の教え方Ⅱ： 中級レベルにおけるコミュニケーション活動のための学習内容を踏まえ、聴解教材について検討する。	市販の中級レベルの聴解教材を参考に、語彙と文型をチェックしておく。(90分)	WEBニュースなどを参考に、1～2分程度の聴解教材を作成する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 本授業の学習内容を振り返り、全体のまとめとして、第1回目からの学習内容に関して「確認テスト」を実施し、併せて解説を行う。	この授業で扱った内容に関する資料や課題を振り返り、内容の理解度を確認しておく。(90分)	具体的な日本語学習者を想定し、その立場から、日本語教授法についての考えをまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	第8回目および第15回目に実施する授業内容に関する確認テスト[20%+30%=50%] 学習内容ごとの課題(事前課題・授業時課題など)に対する取り組み[30%] 積極的発言、考え方など授業への参加姿勢[20%]
その他	0	
教科書		
プレゼンテーション資料の提示と講義プリントの配布 授業時に使用したプレゼンテーション資料、講義プリント等は、Google Classroomで配信する。		
参考文献		

WEB資料:文化庁「日本語教育の参照枠 報告」。国際交流基金「JF日本語教育スタンダード」。ほか。
 文献資料:『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子、スリーエーネットワーク。『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』庵功雄
 他、スリーエーネットワーク。『日本語教育のミカタ』荒川洋平、凡人社。『国際交流基金日本語教授法シリーズ』国際交流基金。その他、日本語
 教科書(『できる日本語』『大地』ほか)なども含め、授業時に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

この科目は、前期科目の「日本語教育法Ⅰ」の単位を修得した上で履修すること。
 科目の内容として、日本語教育を主とした言語教育の考え方や方法について扱うため、将来的に、日本語教育や外国語教育に携わる意志の
 ある者の履修が望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		キャリア形成 実用日本語					
科目名		日本語教育演習				ナンバリング	3360
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	阿部 仁美						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける」ための科目である。この授業は、課外に行われる日本語教育実習(教壇実習)で自律的な学びができるようにするために、日本語教育の実際を模擬授業を通して学ぶ。模擬授業準備は指定された学習項目についてペアで行うことを基本とする。授業では現職日本語教師も参加して、受講者の模擬授業に対して講評してもらう予定だが、学生同士が互いの模擬授業に対して、アドバイスができるようになることを目指す。

授業の概要

この授業は、「日本語教育法Ⅰ・Ⅱ」の発展科目で、日本語教員養成課程を修了希望する学生を対象とし、日本語教育実習を行うための準備科目である。実習前に教案の書き方や副教材の作り方、学習者管理の基礎を演習を通して学びながら、初級レベル学習項目で定着度が低い文法等の模擬授業を行い、その振り返りを行う。実習は課外に日本語教育機関で行うため、別途事前指導と事後報告会を開く。

到達目標

1. 日本語初級レベルの授業計画が立てられる。
2. 模擬授業の振り返りから改善方法を見つけることができる。
3. 授業デザインとクラス運営に必要な基礎知識を身に付け、その専門性を理解できる。

授業の方法

日本語教育見学・教育実習の前に、最小限の日本語教育方法・日本語教育支援者としての態度を身に付けてもらうため、模擬授業を中心に、できるだけ実践的なクラスワークの基本を学ぶ。

ICT活用

模擬授業はスライドを作成し、副教材作成・各自の振り返りはGoogle Classroomの課題提示に投稿する。

実務経験のある教員の教育内容

該当しない。

課題に対するフィードバックの方法

模擬授業後に講評するだけでなく、履修者が作成するルーブリックキューブで相互評価する。課題のフィードバックは、コメントを添えて個別に返却するだけでなく、よいものはクラスで共有していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 日本語教師とはどんな仕事か 日本語教育の概要 日本語教育実習とは	文化庁サイト『日本語教育の参 照枠』を読んでおく(60分)	国内の『日本語教育の概要』お よび、国際交流基金サイトで『海 外における日本語教育の現状』 をまとめておく(60分)
担当教員			
第2回	教授法 直接法について、練習から定着へ、発話を徐々に長くする 第二言語習得理論 「やさしい日本語」とは 外国人から見た日本語	指定の授業動画を観察して、タ スクシートを記入しておく(90分)	学習者管理について、教師のテ クニックをまとめておく(60分)
担当教員			
第3回	動詞のグループ分けを考える 動詞の活用を教える	指定の授業動画を観察して、タ スクシートを記入しておく(90分)	初級クラスの教室用語とティー チャートクの特徴をまとめてお く(90分)
担当教員			

第4回	可能形の教え方実践編 ドリルの種類と特徴 練習問題を考える	指定の授業動画を観察して、タ スクシートを記入しておく(90分)	実際のドリルにはどのようなもの があるかまとめておく(90分)
担当教員			
第5回	教案の書き方(全体の流れを考える)	授業案の参考になるものを調べ ておく(120 分)	授業の流れと教案を考える(60 分)
担当教員			
第6回	教案はどうして書くのか ①「できる日本語」分担して教案を書く(3人ひと組)	授業案の参考になるものを調べ ておく(120 分)	教案を修正・改善し、45分授業 に調整しておく(60分)
担当教員			

第7回	①教案を書く 「できる日本語」一課分の教案をまとめる	授業案の参考になるものを調べておく(120 分)	教案を修正・改善しておく(90分)
担当教員			
第8回	①教案を書く 「できる日本語」教案をクラス内で検討する	模擬授業準備をする(120分)	教案を修正・改善しておく(90分)
担当教員			
第9回	①教案の模擬授業	模擬授業準備をする(120分)	お互いの教案を検討する(90分)
担当教員			

第10回	①教案の模擬授業	模擬授業準備をする(120分)	お互いの教案を検討する(90分)
担当教員			
第11回	②教案を書く 「できる日本語」分担して教案を書く(3人ひと組)	授業案の参考になるものを調べておく(120 分)	教案を修正・改善しておく。(90分)
担当教員			
第12回	②教案を書く 「できる日本語」一課分の教案をまとめる	模擬授業準備をする。(120分)	教案を修正・改善しておく。(90分)
担当教員			

第13回	②教案を書く 「できる日本語」教案をクラス内で検討する	模擬授業準備をする。(120分)	教案を修正・改善しておく。(90分)
担当教員			
第14回	②教案の模擬授業	模擬授業準備をする。(120分)	お互いの教案を検討する(90分)
担当教員			
第15回	②教案の模擬授業	模擬授業準備をする。(120分)	お互いの教案を検討する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(授業態度) 50% 課題 50%
その他	0	出席率70%以上を評価対象とする。
教科書		
なし(必要であれば、後日講師から指示をする)		
参考文献		

アルク『できる日本語初級・初中級』

松岡弘監修、庵功雄・高梨信乃『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク、グループ・ジャマシィ編『日本語文法辞典』くろしお出版、国際交流基金『いろどり』、文化審議会国語文科会『日本語教育の参照枠 報告』ほか、授業で適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

授業の進捗状況によっては一部内容に変更の可能性がある。

備考欄

授業の時、プリントを配布するので、各自ファイルを用意すること。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		語学研修 語学研修					
科目名		短期語学研修				ナンバリング	2900
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	2
担当教員	青 晴海、渡部 淳、Walzem Allen George、宮本 融、巫 靚、石丸 卓						
授業の位置づけ							
本講義は、ディプロマポリシーの「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語、日本語、および中国語の使用を前提とする複言語教育を通じ、学術目的の言語使用を可能とする能力を身につけている」こと、「北海道、日本および世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」こと、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている」ことと特に関連がある科目である。また、1年次科目「ニセコ国際研修」「グローバルチャレンジ」と連携している。							
授業の概要							
この研修は、本学の英語圏および中国語圏の提携校において語学学習と異文化体験を行う。語学力だけでなく、コミュニケーション能力やチャレンジ精神、積極性、行動力を身につけること、大学の授業で身につけた専門性を基に、それまでの学習成果を確認し、課題を見つけることを目標とする。現地研修をより充実させ、目標を達成するために、出発前には学内で実施する研修に参加し、異文化適応力や危機管理について学ぶ。							
到達目標							

研修先の歴史、文化、社会制度などについて学び、日本との違いや共通点を理解できる。
異なる文化的背景を持つ人々との交流を通じて、相互理解の姿勢や基本的なコミュニケーション能力を養う。
現地の生活や社会を体験することにより、日本を外から見つめ直し、国際社会における日本の位置づけを考えることができる。
現地での見学、体験、交流活動を通して、自ら課題を見つけ、観察・記録・整理する力を身につける。
研修を通して得た知識や経験をレポートや発表としてまとめ、他者に伝えることができる。

授業の方法

研修前のオリエンテーションや事前研修、海外の大学等での講義・ワークショップ・インターン等、あるいは海外の大学が提供するオンラインプログラム、研修後の報告プレゼンテーションや課題などを通して、語学力やコミュニケーション能力、積極性を身につけさせる。

ICT活用

オンラインを活用した講義。Zoomなどオンラインを活用したコミュニケーション活動。

実務経験のある教員の教育内容

海外の大学に留学・勤務した経験のある日本人教員。英語圏や中国語圏などで教育・研究を経験したことがある外国人教員。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修や研修の報告、語学研修、事後の課題等に対して担当教員よりコメントを評価をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 短期語学研修の概要や、今後の事前・事後に必要な心構えや基本的な知識などについて、講義する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第2回	【事前研修】 海外提携校での研修に備えて、英語圏や中国語圏の生活習慣・危機管理や街の様子などを学び理解する。現地で役立つ言葉や交流に不可欠な自己紹介などを練習する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第3回	【海外提携校の提供するプログラム】 リスニング(聴解)Ⅰ。 英語や中国語などのリスニング能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第4回	スピーキング(会話)I。 自分の考えを表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第5回	リーディング(読解)I。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第6回	ライティング(文章表現)I。 自分の考えを文章で表現する力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第7回	リスニング(聴解)Ⅱ。 英語や中国語などのリスニング能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第8回	スピーキング(会話)Ⅱ。 自分の考えを表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第9回	リーディング(読解)Ⅱ。 一定量の文章を的確に理解する能力をのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第10回	リーディング(読解)Ⅱ。 一定量の文章を的確に理解する能力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第11回	ライティング(文章表現)Ⅱ。 自分の考えを文章で表現する力をさらにのばす。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第12回	グループ・ディスカッション。 多様な人々と意見を出し合い、対話や議論の中から新しい発見をすることを英語や中国語で挑戦する。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			

第13回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第14回	プレゼンテーションI。 個人またはグループで与えられたテーマについて、英語や中国語などの外国語で的確に表現し相手に伝えることを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
第15回	【研修報告のプレゼンテーションと課題】 研修成果とふりかえり、自分自身の変化や成長をうながすために、研修についての報告プレゼンテーションを行い、研修全体を振り返った課題を提出する。自分自身の学びについて客観的に捉え、他者と共有することを学ぶ。	事前に指示された課題等をこなして授業に備える。(90分)	授業中に指示された課題などをこなして次の授業に備える。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	オリエンテーションへの参加態度(10%)、事前事後研修・課題(40%)、海外提携校で成績や評価、研修後プレゼンテーション・課題(50%)の総合評価。
その他	0	
教科書		
研修先で指定された場合には、それにしがいます。		
参考文献		

Hofstede, G.『Cultures and Organizations: Software of the Mind』、McGraw-Hill。
 Edward T. Hall『The Silent Language』、Anchor Books。
 異文化コミュニケーション研究会『異文化コミュニケーション入門』、三修社。
 池上彰『知らないで恥をかく世界の大問題』、KADOKAWA。
 山内昌之『世界の歴史がわかる本』、筑摩書房。
 横田雅弘『海外留学の社会学』、学文社。
 阿部美哉『異文化理解』、岩波新書。

履修条件・留意事項等

新しいことや知らないことに積極的に挑戦し、異なる考え方や生活習慣に柔軟に考えて対応できるしなやかな感性を持って研修に臨むこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（青 晴海）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学习を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

国際経協力の現場での経験を有する職員の経験を活かし、現地とオンラインでつないで関係者からの情報収集などを行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス1 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第2回	ガイダンス2 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第3回	自分自身を知る1 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第4回	自分自身を知る2 自分自身の個性や関心を知るため、担当教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第5回	「問題関心」の明確化1 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			
第6回	「問題関心」の明確化2 自分の「問題関心」をより明確にするため、教師や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			

第7回	論文タイトルの設定1 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第8回	論文タイトルの設定2 「問題関心」から設定した論文のタイトルを発表し、教師や他の学生とコミュニケーションをとる。	論文のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、論文のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第9回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第10回	「研究の目的」の明確化(2) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第11回	「研究の目的」の明確化(3) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第12回	「研究の目的」の明確化(4) 具体化した「研究の目的」を、教師や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第13回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第14回	「先行研究」の検討(2) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分(の研究)の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第15回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			

第16回	「先行研究」の検討(4) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			
第17回	「先行研究」の検討(5) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			
第18回	「先行研究」の検討(6) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教師や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			

第19回	「先行研究」の検討(7) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第20回	「先行研究」の検討(8) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教師や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第21回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第22回	「研究方法」の設定(2) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第23回	「研究方法」の設定(3) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			
第24回	「研究方法」の設定(4) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			

第25回	「研究方法」の設定(5) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第26回	「研究方法」の設定(6) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第27回	「研究計画書」の作成1 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			

第28回	「研究計画書」の作成2 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究の すすめ方について、教師や他の学生からアドバイスをもらう 。	「問題関心」「研究の目的」「先 行研究」「研究の方法」をまとめ た「研究計画書」の下書きを作 成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画 書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			
第29回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏 休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受 ける。	修正版「研究計画書」をWordで 仕上げ、提出準備をする。(90 分)	アドバイスを参考に、夏休みに すすめるフィールドワークや各 種調査等の予定を立てる。(90 分)
担当教員			
第30回	修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方や夏 休みのフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受 ける。	修正版「研究計画書」をWordで 仕上げ、提出準備をする。(90 分)	アドバイスを参考に、夏休みに すすめるフィールドワークや各 種調査等の予定を立てる。(90 分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業や活動における対話への参加(40%)、「研究計画書」(Word データ)の提出(60%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK出版(旧・日本放送出版協会)、2002年)
 佐藤郁哉『リサーチ・クエスチョンとは何か?』(筑摩書房(ちくま新書)、2024年)
 石井洋二郎『大学生のためのレポート・論文術』(講談社(講談社現代新書)、2002年)
 野村康『社会科学の考え方』(名古屋大学出版会、出版年:2017年)
 佐藤寛『開発協力の世界』(日本評論社、2005年)

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（石丸 卓）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この授業は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。（思考・判断・表現）」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（思考・判断・表現）」に大きく関係するものであり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながるものである。

授業の概要

この授業は、学生が関心があるテーマを定めた上で、自らが主体的に研究するものである。
 学生は、担当教員の専門領域である「開発援助（開発協力、国際協力）」ないし「ラテンアメリカ研究」に関連した具体的な研究テーマを自ら決定した上で、担当教員の助言・支援を得ながら、情報収集や体験を積み重ねて、研究成果を論文、レポート、プレゼンテーション、イベント等により発表する。他の学生とのグループワークやプレゼンテーション演習なども通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。

到達目標

- ・自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
- ・少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
- ・自らが研究を深めたテーマについて、わかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ・多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作等に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ・学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう支援する。(思考・判断・表現)
- ・研究成果の発表に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを効果的に活用し、学生自身が自分の研究や制作の進捗状況について把握できるよう自主学習支援を行う。また、論文や制作物について、参加者間で共有できるよう双方向型の授業によって進める。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、中南米地域における在住経験、日本の政府開発援助(ODA)の業務経験を踏まえて支援を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google classroom等を活用し、学生自身のレポートや発表内容について、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者に紹介することによって、学生同士が相互に学びを深め合えるよう、教員がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(1) 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第2回	ガイダンス(2) 「卒業研究計画書」を作成するための全体的な見通し及び、自分の問題関心、研究の目的、方法とはどのようなものかを理解する。	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)	自分自身の「問題関心」を考える。(90分)
担当教員			
第3回	自分自身を知る(1) 自分自身の個性や関心を知るため、担当教員や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第4回	自分自身を知る(2) 自分自身の個性や関心を知るため、担当教員や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」を他者に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、「問題関心」を更に具体的に表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第5回	「問題関心」の明確化(1) 自分の「問題関心」をより明確にするため、教員や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			
第6回	「問題関心」の明確化(2) 自分の「問題関心」をより明確にするため、教員や他の学生と対話し、アドバイスを受ける。	自分の「問題関心」をより明確に説明できるよう準備する。(90分)	アドバイスを参考に、自分の「問題関心」について、更に具体化する。(90分)
担当教員			

第7回	研究タイトルの設定(1) 「問題関心」から設定した研究のタイトルを発表し、教員や他の学生とコミュニケーションをとる。	研究のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、研究のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第8回	研究タイトルの設定(2) 「問題関心」から設定した研究のタイトルを発表し、教員や他の学生とコミュニケーションをとる。	研究のタイトルを具体的に表現してみる。(90分)	他者のアドバイスを参考に、研究のタイトルを具体的に書いてみる。(90分)
担当教員			
第9回	「研究の目的」の明確化(1) 自分は研究や制作等で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第10回	「研究の目的」の明確化(2) 自分は卒業論文や卒業制作で何を明らかにしたいのか、何を表現したいのか、「研究の目的」について、教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	自分の研究や制作は何を明らかにし、どのように表現するものなのか、「研究の目的」を考える。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「研究の目的」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第11回	「研究の目的」の明確化(3) 具体化した「研究の目的」を、教員や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			
第12回	「研究の目的」の明確化(4) 具体化した「研究の目的」を、教員や他の学生に説明し、不十分な点を明確にする。	自分の「研究の目的」を具体化し、他者に説明、表現できるように準備をする。(90分)	授業を受けて、「研究の目的」をより分かりやすく説明、表現できるようにする。(90分)
担当教員			

第13回	「先行研究」の検討(1) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分の研究の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第14回	「先行研究」の検討(2) 先人がなしとげた研究(先行研究)の成果に学び、それと自分の研究の違いを明らかにする。そして自分の研究の個性やオリジナリティがどこにあるかを明らかにする。	あらためて自分の「問題関心」と「研究の目的」がつながっているかを確認する。(90分)	図書館等を活用し、「先行研究」の文献収集を行う。(90分)
担当教員			
第15回	「先行研究」の検討(3) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			

第16回	「先行研究」の検討(4) 「先行研究」を探し、自分の研究目的と関わる部分を整理・把握する	自分の研究の目的と関わる「先行研究」をリストアップする。(90分)	「先行研究」を読み、自分の研究と一致する点と、そうではない点を考える。(90分)
担当教員			
第17回	「先行研究」の検討(5) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			
第18回	「先行研究」の検討(6) 「先行研究」を読み込み、その主張と自分の研究とがどのように関わるのか、その関係を明らかにするため、教員や他の学生と対話・討論し、アドバイスを受ける。	「先行研究」が主張している点を整理し、教師や他の学生に説明、表現できるようにしておく。(90分)	他者のアドバイスを参考に、さらに「先行研究」(文献)を探し、自分の研究との接点や差異を考える。(90分)
担当教員			

第19回	「先行研究」の検討(7) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教員や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第20回	「先行研究」の検討(8) これまでに集めた「先行研究」が明らかにした内容に対して、自分の研究がどのように関係するかを明らかにするため、教員や他の学生とよくコミュニケーションを交わす。	これまでに集めた「先行研究」の主張をひとつひとつ整理する。(90分)	他者のアドバイスを参考に、「先行研究」の主張と、自分の研究が明らかにしようとしている点を整理する。(90分)
担当教員			
第21回	「研究方法」の設定(1) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教員や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			

第22回	「研究方法」の設定(2) 自分の「研究の目的」を遂行するためにふさわしい「研究の方法」について説明し、教員や他の学生からアドバイスを受ける。	自分の「研究の方法」について説明できるようにしておく。(90分)	授業を受け、「研究の方法」をさらに具体化する。(90分)
担当教員			
第23回	「研究方法」の設定(3) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教員や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			
第24回	「研究方法」の設定(4) 研究データを集めるためのフィールドワークやアンケート調査などの計画を立て、教員や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」を具体化し、説明する準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、実行可能な「研究方法」(フィールドワークや調査)の具体的な計画を立てる。(90分)
担当教員			

第25回	「研究方法」の設定(5) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教員や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第26回	「研究方法」の設定(6) 「研究の方法」を具体化し、実行できる準備計画(フィールドワークや調査対象者への依頼等)について、教員や他の学生からアドバイスを受ける。	フィールドワークや調査のため、実行可能な行動計画を立案する。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや調査のための具体化(「アポ取り」等)を行う。(90分)
担当教員			
第27回	「研究計画書」の作成(1) 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究のすすめ方について、教員や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			

第28回	「研究計画書」の作成(2) 「研究計画書」(下書き)を口頭で発表する。今後の研究の進め方について、教員や他の学生からアドバイスをもらう。	「問題関心」「研究の目的」「先行研究」「研究の方法」をまとめた「研究計画書」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究計画書」(下書き)を修正する。(90分)
担当教員			
第29回	「研究計画書」の作成(3) 修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方やフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」を仕上げ、提出準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(90分)
担当教員			
第30回	「研究計画書」の作成(4) 修正版「研究計画書」を提出し、今後の研究の進め方やフィールドワーク等の計画についてアドバイスを受ける。	修正版「研究計画書」を仕上げ、提出準備をする。(90分)	アドバイスを参考に、フィールドワークや各種調査等の予定を立てる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業の参加度・出席態度(40%) ・「研究計画書」(60%)
その他	0	
教科書		
学生の関心テーマに応じて適宜指定する。		
参考文献		

学生の関心テーマに応じて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（渡部 淳）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学习を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

基本的授業は対面で行い、板書および諸メディア・パワーポイント・配布物を利用して講義を進める。また学生自身の活動が中心となる科目であるので、授業各回において学生が調査したこと・学んだこと・問題解決の方法についてそれぞれ発表を行い、それについて教員および他の受講者がコメント・学習・ディスカッション等を行うというスタイルで授業を進める。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 今後の授業の進め方についての説明。各学生から研究プロジェクトのテーマや分野、関心の範囲についての発表。	シラバスをよく読み、疑問点を明らかにしておく。自分の研究関心について発表できるように整理して準備する。(90分)	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第2回	研究の考え方についてのレクチャー 問題意識、研究対象、研究方法など研究を進めるにあたっての心構えを講義し、各学生の研究テーマを習った方法で整理する。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第3回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(1) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第4回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(2) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第5回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(3) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第6回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(4) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第7回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(5) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第8回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(6) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第9回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(7) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第10回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(8) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第11回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(9) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第12回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(10) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第13回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(11) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第14回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(12) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第15回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(13) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第16回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(14) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第17回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(15) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第18回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(16) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第19回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(17) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第20回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(18) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第21回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(19) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第22回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(20) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第23回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(21) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第24回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(22) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第25回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(23) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第26回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(24) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第27回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(25) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第28回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(26) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第29回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(27) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第30回	まとめ 学生による前期の研究のまとめの発表と、それに対する他の学生や教員によるディスカッションやアドバイス。 夏休み中のリサーチについての指導。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	
教科書		
特になし。		
参考文献		

各回で出てきた課題や論点に関連する参考文献や資料を適宜指示。

履修条件・留意事項等

自らの設定した課題について、研究の論理に基づいてアプローチし探求する好奇心とやる気が旺盛な学生を歓迎します。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（宮本 融）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学习を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

テーマを推敲するために関連する書物を読み、演習形式で進めていく。

ICT活用

Google Classroomによる事務的連絡及び課題付与及び提出物の管理はもちろん、受講者の関心に基づき関連するWeb上の素材を適宜紹介していく。

実務経験のある教員の教育内容

旧通商産業省(現経済産業省)職員としての実務経験に加え、現実の政治過程における実践活動尾経験も踏まえて、理論と実践の両方の側面から指導する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomによるコミュニケーションはもちろん、週2回以上の対面での議論を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	大塚久雄『社会科学の方法』岩波新書1966を読む(1) (新刷が発売されている。)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	経済学と政治学の方法論に関する講義を受けノートを整理し、学習を深める。(90分)
担当教員			
第2回	大塚久雄『社会科学の方法』を読む(2)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	マックス・ウェーバーについて、学習を深める。(90分)
担当教員			
第3回	大塚久雄『社会科学の方法』を読む(3)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	カール・マルクスの与えた影響について学習を深める。(90分)
担当教員			

第4回	大塚久雄『社会科学の方法』を読む。(4)	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	大塚久雄が日本の社会科学に与えた影響についてまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	政治学における方法論1(1) 加藤淳子『政治学の方法』有斐閣アルマ 2014を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	政治学における方法論1(2) 加藤淳子『政治学の方法』有斐閣アルマ 2014を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	政治学における方法論1(3) 加藤淳子『政治学の方法』有斐閣アルマ 2014を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	政治学における方法論2(1) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	政治学における方法論2(2) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第10回	政治学における方法論2(3) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第11回	政治学における方法論2(4) 久米郁男『原因を推論する』有斐閣 20013を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第12回	政治学における方法論3(1) 松林哲也『政治学と因果推論 比較から見える政治と社会』岩波書店 2021を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第13回	政治学における方法論3(2) 松林哲也『政治学と因果推論 比較から見える政治と社会』岩波書店 2021を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第14回	政治学における方法論3(3) 松林哲也『政治学と因果推論 比較から見える政治と社会』岩波書店 2021を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	実践分析論1(1) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第16回	実践分析論1(2) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第17回	実践分析論1(3) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第18回	実践分析論1(4) 水口憲人・北原鉄也・久米郁男編著『変化をどう説明するか 政治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第19回	実践分析編2(1) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。 (90分)
担当教員			
第20回	実践分析編2(2) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。 (90分)
担当教員			
第21回	実践分析編2(3) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。 (90分)
担当教員			

第22回	実践分析編2(4) 水口憲人・北原鉄也・真淵勝編著『変化をどう説明するか 行政編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第23回	実践分析編3(1) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第24回	実践分析編3(2) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第25回	実践分析編3(3) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第26回	実践分析編3(4) 水口憲人・北原鉄也・秋月謙吾編著『変化をどう説明するか 地方自治編』木鐸社 2000 を読む。	課題図書を読み、論点をまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			
第27回	自己分析編	これまで学んだCase Studiesの中で感銘を受けた分析を一つあげて、その特徴を説明できるようにまとめる。(90分)	講義における論点をまとめる。(90分)
担当教員			

第28回	自分で分析してみる	テーマを一つ選び、これまで学んだ分析手法を使い、原因を分析してみる。(90分)	授業での議論を踏まえ中間課題としてまとめる。(90分)
担当教員			
第29回	ケースを書いてみる(上)	具体的事例を1つ選び、情報を収集して分析する。(90分)	期末課題としてケースをまとめる。(90分)
担当教員			
第30回	ケースを書いてみる(下)	前回の指摘を受け、追加で分析を進める。(90分)	期末課題としてケースをまとめる。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度 30% 中間課題 20% 期末課題 50%
その他	0	
教科書		
随時紹介する。		
参考文献		

Gary King, Robert Keohane and Sidney Verba, Designing Social Inquiry, new edition Princeton UP 2021
Steve van Evera, Guide to Methods for Students of Political Science, Cornell UP 1997
石原千秋『教養としての大学受験国語』ちくま新書 2000

履修条件・留意事項等

与えられた課題文献は、何があっても読了し、きちんと論点をまとめて説明できるように毎回準備しておくこと。卒業研究は自ら主体的に研究報告を書くことを目的としているため、受け身の態度の者には単位を認めない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅠ（巫 靚）				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

情報活用能力や論理的・批判的な思考能力、分析能力、判断能力を育成するために、グループプレゼンテーションやディスカッションの形式で授業を進める。なお、履修者の学習状況に合わせて、各回の講義内容を調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業内容の調整を行う。プレゼンテーションの完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①ガイダンス②研究倫理について学習する。	卒業研究について自身の関心などを整理する(90分)。	授業の内容を整理し、復習する(90分)。
担当教員			
第2回	外山滋比古『思考の整理学』(1):卒論とは何か。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	外山滋比古『思考の整理学』(2):いかに卒論のテーマを見つけるか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	外山滋比古『思考の整理学』(3):いかに情報を“メタ”化するか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	外山滋比古『思考の整理学』(4):資料をいかに整理するか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	外山滋比古『思考の整理学』(5):垣根を越えて	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	外山滋比古『思考の整理学』(6):コンピュータと人間	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	カー『歴史とは何か』(1):歴史家と事実(はしがき、第1章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	カー『歴史とは何か』(2):社会と個人(第2章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	カー『歴史とは何か』(3):歴史と科学と道徳(第3章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第11回	カー『歴史とは何か』(4):歴史における因果関係(第4章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第12回	カー『歴史とは何か』(5):進歩としての歴史(第5章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第13回	カー『歴史とは何か』(6): 広がる地平線(第6章)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第14回	若林正丈『台湾の歴史』(1): 東アジア史の「気圧の谷」と台湾	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第15回	若林正丈『台湾の歴史』(2): 清末開港と日本の植民地統治	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第16回	若林正丈『台湾の歴史』(3):二・二八事件と中国内戦	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第17回	若林正丈『台湾の歴史』(4):「中華民国」の統治	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第18回	若林正丈『台湾の歴史』(5):「中華民国」の対外危機と台湾社会の自己主張	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第19回	若林正丈『台湾の歴史』(6): 李登輝の登場	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第20回	若林正丈『台湾の歴史』(7): 台湾ナショナリズムとエスノポリティクス	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第21回	若林正丈『台湾の歴史』(8): 中華人民共和国と台湾	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第22回	方法論① 総論	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第23回	実践論① 総論	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第24回	方法論② 文献史学	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第25回	実践論② 文献史学	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第26回	方法論③ 口述史	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第27回	実践論③ 口述史	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			

第28回	方法論④ 考古学・文献史学(前近代)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第29回	郷土史研究論	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
第30回	結び:歴史は誰のためにあるのか。	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を整理し、まとめる(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の参加度(予習、復習、プレゼンテーション、ディスカッション)100%
その他	0	
教科書		
『思考の整理学』外山滋比古、筑摩書房、1986年。 『歴史とは何か』E.H.カー著、清水幾太郎訳、岩波書店、1961年。 『台湾の歴史』若林正丈、講談社、2023年。		
参考文献		

なし。
履修条件・留意事項等
無断欠席は必ず減点要素になる。
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクト I (Walzem Allen George)				ナンバリング	4951
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

Glass will have lecture, group work, discussion, and individual meetings with teacher. There will be a large writing component to the class.

ICT活用

We will use computer for media and reports, internet research, and so on.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

There will be prompt written and oral feedback on all work. The teacher will write on student papers, but there will also be regular one-on-one conferences.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Introduction: Report vs. Research--the nature of academic writing Begin grammar	Try to think of area you would like to study. (90 minutes)	Do grammar units 5 and 6. (90 minutes)
担当教員			
第2回	1. Choosing topic area 2. Paragraph review 3. Grammar 2	Review lesson, think about topic area. (90 minutes)	Do Grammar homework (2 units). (90 minutes)
担当教員			
第3回	1. Narrowing topic 2. Revising and editing 1 3. Grammar 3	Review (90 minutes)	Do grammar homework (2 units). (90 minutes)
担当教員			

第4回	1. Research question formation 2. Revising and editing 2 3. Grammar 4	Review (90 minutes)	Grammar 5 homework (90 minutes)
担当教員			
第5回	1. Finding "good" articles, books, web sources for research 2. Revising and editing 3 3. Grammar 5	Review (90 minutes)	Grammar 6 (90 minutes)
担当教員			
第6回	1. Essay Structures 2. Grammar 6	Review (90 minutes)	Grammar 7 homework (90 minutes)
担当教員			

第7回	1. Writing an introduction 2. Grammar 7 check	Homework: Essay prep (90 minutes)	Write essay. (90 minutes)
担当教員			
第8回	Midterm writing and grammar exercise	Review (90 minutes)	Grammar 8 (90 minutes)
担当教員			
第9回	1. Good and bad research sources 2. Pre-writing and structure, II 3, Grammar 8	Review (90 minutes)	Grammar 9 (90 minutes)
担当教員			

第10回	1. Citing sources in text 2. Process essay 3. Grammar 9	Review (90 minutes)	Grammar 10 (90 minutes)
担当教員			
第11回	Division and classification essay Grammar 10	Review (90 minutes)	Write essay (90 minutes)
担当教員			
第12回	Peer work: Essay checking	Review (90 minutes)	Grammar 11 (90 minutes)
担当教員			

第13回	Cause and Effect structure Grammar 11	Review (90 minutes)	Grammar 12 (90 minutes)
担当教員			
第14回	Comparison and contrast structure In class writing Grammar 13	Review (90 minutes)	Write essay (90 minutes)
担当教員			
第15回	Final project: Writing and grammar component	Review test ideas. (90 minutes)	Decide final research topic!! (90 minutes)
担当教員			

第16回	Research ideas--read sample 1	Review (90 minutes)	Grammar 14 (90 minutes)
担当教員			
第17回	Citation practice activity Grammar 14 check	Review (90 minutes)	Grammar 15 (90 minutes)
担当教員			
第18回	Sample thesis analysis II	Determine tentative research questions. (90 minutes)	Write up research questions, possible sources. (90 minutes)
担当教員			

第19回	Students will present research ideas to class, class discussion of each.	Review and focus. (90 minutes)	Grammar 16 (90 minutes)
担当教員			
第20回	Research form Part 1 Grammar 16 check	Review (90 minutes)	Grammar 17 (90 minutes)
担当教員			
第21回	Research form Part II Grammar 17	Review (90 minutes)	Work on project! Find sources. (90 minutes)
担当教員			

第22回	Research form Part III Student reports on sources	Review (90 minutes)	Summarize data from indepenent research. (90 minutes)
担当教員			
第23回	Teacher meetings: 1-on-1 Part 1	Review and research (90 minutes)	Grammar 18 (90 minutes)
担当教員			
第24回	Grammar 18 Check, study citation guidelines and make examples for each form. (90 minutes)	Review (90 minutes)	Grammar 19 (90 minutes)
担当教員			

第25回	Grammar 19 check Writing practice	Prepare first draft of introduction, typed, 12 point font, double spaced. (90 minutes)	Read sample essay. (90 minutes)
担当教員			
第26回	Essay discussion	Continue researching and preparation, literature review preparation.(90 minutes)	Grammar 20 (90 minutes)
担当教員			
第27回	Grammar check, one-on-one work on literature review, methodology preparation	Review, final methodology outline. (90 minutes)	Grammar 21 (90 minutes)
担当教員			

第28回	Teacher meetings: 1-on-1 Part 2	Begin serious research, with notation, continue methodology work. (90 minutes)	Grammar 22 (90 minutes)
担当教員			
第29回	Study of analysis and conclusion sections	Review (90 minutes)	Continue writing. (90 minutes)
担当教員			
第30回	Final in-class writing assignment	Revise based on feedback (90 minutes)	Think about how to continue research over break time. (90 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	Participation, regular homework, meeting writing deadlines
その他	40	Final paper
教科書		
Prints will be provided by teacher.		
参考文献		

Provided by teacher. Students will also need to do own research and acquire relevant materials.

履修条件・留意事項等

This will require large amounts of skills work, writing, grammar improvement, and logical thinking skills.

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ（青 晴海）				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	青 晴海						

授業の位置づけ

・授業の位置づけ(両学科共通)

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ①多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ②学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう丁寧に支援する。(思考・判断・表現)
- ③卒業論文、卒業制作に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、論文や制作の社会的意義について豊かなコミュニケーションが身につくよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

国際経協力の現場での経験を有する職員の経験を活かし、現地とオンラインでつないで関係者からの情報収集などを行う。

課題に対するフィードバックの方法

-google Classroomのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正1 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワークの計画を確認する。	論文作成に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アボ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第2回	研究計画の確認・修正2 「卒研Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワークの計画を確認する。	論文作成に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワークをはじめ、データ収集のための「アボ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第3回	論文の執筆(1) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(90分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(90分)
担当教員			

第4回	論文の執筆(2) 「研究計画書」にもとづき、論文執筆の根本的な動機(問題関心「はじめに」)を執筆・加筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	論文執筆の動機や問題関心を「はじめに」として下書きしておく。(90分)	アドバイスを参考に、「はじめに」を修正する。(90分)
担当教員			
第5回	論文の執筆(3) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(90分)
担当教員			
第6回	論文の執筆(4) 「先行研究の論点整理」を執筆し、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「先行研究の論点整理」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「先行研究の論点整理」を修正する。(90分)
担当教員			

第7回	論文の執筆(5) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第8回	論文の執筆(6) 執筆した「先行研究の論点整理」をもとに、自分の研究や作品制作で明らかにする内容として「研究の課題」を執筆し、教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第9回	論文の執筆(7) 執筆した「研究の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(90分)
担当教員			

第10回	論文の執筆(8) 執筆した「研究の方法」について、教師や他の学生からアドバイスを受ける。	「研究の方法」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の方法」を修正する。(90分)
担当教員			
第11回	論文の執筆(9) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(90分)
担当教員			
第12回	論文の執筆(10) 執筆した「研究の対象」を教師や他の学生に読んでもらいアドバイスを受ける。	「研究の対象」について、下書きを作成する。(90分)	アドバイスを参考に、「研究の対象」をさらに修正する。(90分)
担当教員			

第13回	中間発表会(1) これまでの執筆内容(「はじめに」～「研究の対象」まで)を通して読んでもらい、教師や他の学生のアドバイスを受ける	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(90分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(90分)
担当教員			
第14回	中間発表会(1)フォローアップ 前回のコメントをベースに修正する	これまでの執筆内容をつなげてみる。自分で音読し、文意がきちんとつながるか、その論理のつながりを確認する。(90分)	アドバイスを参考に、中間検討会用のレジュメ作成にとりかかる。(90分)
担当教員			
第15回	中間発表会(2) これまでの執筆内容、制作内容をレジュメにまとめ、発表し、教師や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表会で発表する文章を下書きする。(90分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を読み、修正する。(90分)
担当教員			

第16回	中間発表会(2)フォローアップ 前回のコメントを踏まえ修正する。	中間発表会で発表する文章を 下書きする。(90分)	あらためて、これまでの文章(「はじめに」～「研究の対象」)を 読み、修正する。(90分)
担当教員			
第17回	卒業論文の構成1 卒業論文の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける	論文構成を考え、読者にわかり やすく伝わるようリハーサルして みる。(90分)	アドバイスを参考に、論文構成、 作品構成を再度修正する。(90 分)
担当教員			
第18回	卒業論文の構成2 卒業論文の全体構成について、教師や他の学生とコミュニケーションを重ね、アドバイスを受ける	論文構成を考え、読者にわかり やすく伝わるようリハーサルして みる。(90分)	アドバイスを参考に、論文構成、 作品構成を再度修正する。(90 分)
担当教員			

第19回	卒業論文の「結果」1 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(90分)
担当教員			
第20回	卒業論文の「結果」2 執筆した「研究結果」、卒業制作を教師や他の学生に説明し、アドバイスを受ける。	「研究結果」をまとめ、その下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「研究結果」を修正する。(90分)
担当教員			
第21回	卒業論文の「考察」1 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(90分)
担当教員			

第22回	卒業論文の「考察」2 執筆した「考察」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「考察」の下書きを作成する。 (90分)	アドバイスを受けて、「考察」を修正する。(90分)
担当教員			
第23回	卒業論文の「今後の課題」1 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(90分)
担当教員			
第24回	卒業論文「今後の課題」2 執筆した「今後の課題」を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「今後の課題」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「今後の課題」を修正する。(90分)
担当教員			

第25回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション1 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(90分)
担当教員			
第26回	「卒業研究要旨」の執筆と対話・コミュニケーション2 執筆した「卒業研究要旨」(下書き)を、教師や他の学生に読んでもらい、アドバイスを受ける。	「参考文献一覧」を作成し、論文全体をまとめるとともに、「卒業研究要旨」の下書きを作成する。(90分)	アドバイスを受けて、「参考文献一覧」及び「卒業研究要旨」を修正し、提出する。(90分)
担当教員			
第27回	卒業論文の完成1 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			

第28回	卒業論文の完成2 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			
第29回	卒業論文の完成3 これまでの研究活動を総括し、卒業論文を完成させ、最終チェックを行う。	教師や仲間から受けた最終アドバイスをもとに、論文の最終チェックを行う。(90分)	発表会の質疑応答を見通して、自分の研究のポイントや弱点について再考しておく。(90分)
担当教員			
第30回	卒業論文の発表 卒業論文について発表する。質疑に対して丁寧に応答する。	発表原稿を作成し、卒業研究発表会での発表の準備をする。(90分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究要旨(PDFファイルデータ)(40%)、卒業論文(40%)、卒業研究発表会での発表・参加の姿勢(20%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

戸田山和久『論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK出版(旧・日本放送出版協会)、2002年)
 佐藤郁哉『リサーチ・クエスチョンとは何か?』(筑摩書房(ちくま新書)、2024年)
 石井洋二郎『大学生のためのレポート・論文術』(講談社(講談社現代新書)、2002年)
 野村康『社会科学の考え方』(名古屋大学出版会、出版年:2017年)
 佐藤寛『開発協力の世界』(日本評論社、2005年)

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(石丸 卓)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	石丸 卓						

授業の位置づけ

この授業は、本学科ディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける。(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(思考・判断・表現)」に大きく関係するものであり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を基礎とするものである。

授業の概要

この授業は、学生が関心があるテーマを定めた上で、自らが主体的に研究するものである。
 学生は、担当教員の専門領域である「開発援助(開発協力、国際協力)」ないし「ラテンアメリカ研究」に関連した具体的な研究テーマを自ら決定した上で、担当教員の助言・支援を得ながら、情報収集や体験を積み重ねて、研究成果を論文、レポート、プレゼンテーション、イベント等により発表する。他の学生とのグループワークやプレゼンテーション演習なども通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。

到達目標

- ・自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
- ・少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
- ・自らが研究を深めたテーマについて、わかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

すべての授業はアクティブラーニングを軸に展開する。具体的には以下のような教授および学習方法により構成される。

- ・多様な文献や作品を紹介し、卒業論文、卒業制作等に向けた「研究計画書」をまとめるための知識と技能を身につけるよう具体的にアドバイスする。(知識・技能)
- ・学生自身の「問題関心」や「研究の目的」など、対話を通して表現できるよう支援する。(思考・判断・表現)
- ・研究成果の発表に向け、学生が豊かな学びを得ることができるよう、アクティブ・ラーニングによってすすめる。(関心・意欲・態度)

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォーム等を活用し、学生自身の文章表現、論理構成を確認し、自主学習支援を行う。また学生の学習過程を参加者間で共有し、双方向型の授業方法によって進めるようICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

独立行政法人国際協力機構(JICA)に35年勤務する現役職員が、中南米地域における在住経験、日本の政府開発援助(ODA)の業務経験を踏まえて支援を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomのプラットフォーム等を活用し、学生自身のレポートや作品制作過程に寄り添い、アドバイスやコメントを加える。と同時に、学生の学習過程やその成果を参加者と共有することによって、学生同士が互いに学びを深め合えるよう、教師がファシリテーターとしての役割を担い、フィードバックをより豊かなものとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究計画の確認・修正(1) 「卒業研究Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワーク等の計画を確認する。	研究成果のとりまとめ、発表に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワーク等をはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第2回	研究計画の確認・修正(2) 「卒業研究Ⅰ」で提出した「研究計画書」にもとづき、フィールドワーク等の計画を確認する。	研究成果のとりまとめ、発表に向けて、より具体的なスケジュールを作成しておく。(90分)	フィールドワーク等をはじめ、データ収集のための「アポ取り」や行動予定を確認する。(90分)
担当教員			
第3回	研究成果のとりまとめ(1) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			

第4回	研究成果のとりまとめ(2) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行う。	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			
第5回	研究成果のとりまとめ(3) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			
第6回	研究成果のとりまとめ(4) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			

第7回	研究成果のとりまとめ(5) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた 情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを 参考に、研究成果の発表形態 に応じた情報収集、とりまとめ作 業を行う。(90分)
担当教員			
第8回	研究成果のとりまとめ(6) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた 情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを 参考に、研究成果の発表形態 に応じた情報収集、とりまとめ作 業を行う。(90分)
担当教員			
第9回	研究成果のとりまとめ(7) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた 情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを 参考に、研究成果の発表形態 に応じた情報収集、とりまとめ作 業を行う。(90分)
担当教員			

第10回	研究成果のとりまとめ(8) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			
第11回	研究成果のとりまとめ(9) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			
第12回	研究成果のとりまとめ(10) 「研究計画書」に基づき、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめを行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスを参考に、研究成果の発表形態に応じた情報収集、とりまとめ作業を行う。(90分)
担当教員			

第13回	研究成果の中間発表(1) 「研究計画書」に基づく、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業について中間発表案を準備し、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業について中間発表案を準備する(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の発表形態に応じた中間発表案を準備する(90分)
担当教員			
第14回	研究成果の中間発表(2) 「研究計画書」に基づく、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業について中間発表案を準備し、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業について中間発表案を準備する(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の発表形態に応じた中間発表案を準備する(90分)
担当教員			
第15回	研究成果の中間発表(3) 「研究計画書」に基づく、研究成果の発表形態に応じた調査、とりまとめ作業について中間発表を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の発表形態に応じた中間発表案を準備する(90分)	中間発表における教員や他の学生のアドバイスに基づき、最終的な研究成果とりまとめの方向性を定める。(90分)
担当教員			

第16回	研究成果の中間発表(4) 中間発表における、教員や他の学生のアドバイスに基づき、最終的な研究成果とりまとめの方向性を定め、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	中間発表における教員や他の学生のアドバイスに基づき、最終的な研究成果とりまとめの方向性を定める。(90分)	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第17回	研究成果の最終化(1) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第18回	研究成果の最終化(2) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			

第19回	研究成果の最終化(3) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第20回	研究成果の最終化(4) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第21回	研究成果の最終化(5) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			

第22回	研究成果の最終化(6) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第23回	研究成果の最終化(7) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第24回	研究成果の最終化(8) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			

第25回	研究成果の最終化(9) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第26回	研究成果の最終化(10) 最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、必要な調査、とりまとめ作業を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	最終的な研究成果とりまとめの方向性に基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を行う。(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、研究成果の最終化に必要な調査、とりまとめ作業を整理する。(90分)
担当教員			
第27回	研究成果発表(1) これまでの研究活動を総括し、発表形態に応じた研究成果発表の準備を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表の準備に必要な作業を整理する(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表に必要な準備を行う(90分)
担当教員			

第28回	研究成果発表(2) これまでの研究活動を総括し、発表形態に応じた研究成果発表の準備を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表の準備に必要な作業を整理する(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表に必要な準備を行う(90分)
担当教員			
第29回	研究成果発表(3) これまでの研究活動を総括し、発表形態に応じた研究成果発表の準備を行い、教員や他の学生のアドバイスを受ける。	これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表の準備に必要な作業を整理する(90分)	教員や他の学生のアドバイスに基づき、これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表に必要な準備を行う(90分)
担当教員			
第30回	研究成果発表(4) これまでの研究活動を総括し、発表形態に応じた研究成果の発表を行う。	教員や他の学生のアドバイスに基づき、これまでの研究活動の総括、発表形態に応じた研究成果発表に必要な準備を行う(90分)	卒業研究の活動全体を振り返り、自分の学びを総括する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業の参加度・出席態度(20%) ・研究成果中間発表(20%) ・研究成果最終発表(60%)
その他	0	
教科書		
学生の関心に応じて適宜指定する。		
参考文献		

学生の関心に応じて適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(渡部 淳)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	渡部 淳						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

基本的授業は対面で行い、板書および諸メディア・パワーポイント・配布物を利用して講義を進める。また学生自身の活動が中心となる科目であるので、授業各回において学生が調査したこと・学んだこと・問題解決の方法についてそれぞれ発表を行い、それについて教員および他の受講者がコメント・学習・ディスカッション等を行うというスタイルで授業を進める。

ICT活用

Google classroomを活用して発表資料等を提出してもらいつつ、教員による指示・参考文献やサイトの提示、他の受講生からのフィードバックなどを適宜行うことのできるツールとして活用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

発表時および課題提出時にそれぞれ細かい指示や指導を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明と、各学生の夏季休暇中のリサーチの進捗状況についての報告。	シラバスをよく読み、疑問点を明らかにしておく。自分の研究の進捗状況について発表できるように整理して準備する。(90分)	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第2回	研究成果物の作成へのガイド 各自の研究の進捗状況や、これまでの研究成果をもとに、最終的な研究成果物の構成について発表し、アドバイスや指導を受ける。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第3回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(1) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第4回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(2) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第5回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(3) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第6回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(4) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第7回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(5) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第8回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(6) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第9回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(7) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第10回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(8) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第11回	研究プロジェクトの成果物の構成の中間検討 その1 学生による成果物の現時点での構成の発表。構成へのアドバイスと指導。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第12回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(9) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第13回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(10) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第14回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(11) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第15回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(12) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第16回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(13) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第17回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(14) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第18回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(15) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第19回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(16) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第20回	研究プロジェクトの成果物の構成の中間検討 その2 学生による成果物の現時点での構成の発表。構成へのアドバイスと指導。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第21回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(17) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第22回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(18) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第23回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(19) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第24回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(20) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第25回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(21) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第26回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(22) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第27回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(23) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			

第28回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論(24) 学生によるプレゼンテーション、ディスカッションと教員によるアドバイスと補足説明。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第29回	研究成果物の提出 学生による成果物の提出と内容の説明。教員からの最終チェックとアドバイス。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
第30回	研究成果の発表会 1年間、一緒に勉強してきた各研究プロジェクトの成果を仲間の前で発表し、成果を共有するとともに、学生や教員からのフィードバックを行う。	自分の研究テーマについてリサーチしたことを整理して発表できるように準備する(90分)。	授業で課された課題を行い、自分の研究についてのリサーチを行う(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加度等の総合的評価(100%)。
その他	0	
教科書		
教科書は特にない。		
参考文献		

各学生の研究分野、研究関心に関連する文献、資料などを各授業で適宜指示します。

履修条件・留意事項等

自分の研究成果を、公共の評価に耐えうるものとして、仕上げていく作業に関心と意欲をもつ学生を歓迎します。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(宮本 融)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	宮本 融						

授業の位置づけ

この科目は、前期科目「卒業論文プロジェクトⅠ」を承ける科目として、本学科ディプロマ・ポリシー「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を見につけている」ことを、自ら選択した研究課題において、系統立てて習得した専門分野における基本的な知識を基に「研究成果としてまとめる方法論」を通じて分析し、課題解決への提言をまとめることで実証するカリキュラムの集大成の科目科目である。その際、生涯にわたり自ら主体的に学び続ける価値観を身につけていることを十分に証明することが求められる。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、受講者が収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見出された課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等を提案し参加者とも議論しながら進める。必要であれば、外部の専門家を招いての学習や、学外での学び・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に受講者自身が設定したテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成の見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめかたなど技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループでの調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

この科目は、卒業論文をまとめるためのものであるため、そのテーマは受講者それぞれによって異なる。そのため、それぞれのテーマを具体的に絞っていくために関連する書物を読み、演習形式で進め、論文執筆を進めながら議論を深める。

ICT活用

Google Classroomでのフィードバックとともに、テーマの理解に必要なWeb上の資料を適宜紹介する。

実務経験のある教員の教育内容

旧通商産業省(現経済産業省)において、行政実務を10年経験し、米国大学院において政治学の研究教育を5年経験した上で、選挙を中心とする現実政治の実践にも携わった経験を基に、理論と実践の両面で指導する。

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを用いるだけでなく、週2回、研究室に集合して頻繁に対話を行う形式で進める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	研究課題の選定 ① 卒業研究プロジェクトⅠ で学んだことを基礎に、自らの研究課題について議論しながら問題を設定する。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			
第2回	研究課題の選定 ② 卒業研究プロジェクトⅠ で学んだことを基礎に、自らの研究課題について議論しながら問題を設定する。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			
第3回	研究のアウトラインの提示 ① 自らの研究の目的を簡単にまとめる。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			

第4回	研究のアウトラインの提示 ② 自らの研究の目的を簡単にまとめる。	学習予定の部分を予習する。 (90分)	学習した内容を復習し、まとめる。 (90分)
担当教員			
第5回	基本文献の収集 ① 研究課題の基本文献を指定する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			
第6回	基本文献の収集 ② 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			

第7回	基本文献の収集 ③ 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			
第8回	基本文献の収集 ④ 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			
第9回	基本文献の収集 ⑤ 研究課題の基本文献を読み、さらに関連する文献を収集する。	論文等を検索収集しながら、読み込むべき文献リストを作成する。(90分)	収集した論文等を読み、さらなる調査研究の資料をリストアップする。(90分)
担当教員			

第10回	Reading Listの提示 ① 後期、卒業論文作成のために必要な情報を網羅することができそうなReading Listを自ら作成する。	収集した論文等を読み、教員との議論を踏まえReading Listを作成する。(90分)	
担当教員			
第11回	書評論文を書いてみる ①	収集した論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第12回	書評論文を書いてみる ②	収集した論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第13回	書評論文を書いてみる ③	①で取り上げた論文とは異なる論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第14回	書評論文を書いてみる ④	①で取り上げた論文とは異なる論文の一つを取り上げ、書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第15回	Review Articleを書いてみる ①ー1 研究のテーマとなる論点を設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。	収集した論文のうち、1つのテーマを設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第16回	Review Articleを書いてみる ①ー2	整理された論点を見ながら、論文同士の意見の対立を鮮明にする形で書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第17回	Review Articleを書いてみる ②ー1	①とは異なる論点についてテーマを設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第18回	Review Articleを書いてみる ②ー2	整理された論点を見ながら、論文同士の意見の対立を鮮明にする形で書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第19回	Review Articleを書いてみる ③ー1	①および②とは異なる論点についてテーマを設定し、それに関する論文を5つ程度選び、それらの論点をまとめる。	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第20回	Review Articleを書いてみる ③ー2	整理された論点を見ながら、論文同士の意見の対立を鮮明にする形で書評論文を書く。(90分)	教員との議論および指摘事項を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第21回	研究のアウトラインの提示 ①	これまでの研究をまとめ、論文のアウトラインをまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			

第22回	研究のアウトラインの提示 ②	①における指摘を踏まえ、修正したアウトラインをまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第23回	Reading Listの提示	これまでの研究の深まりをもとにReading Listを修正する。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第24回	補充文献やデータの収集 ①	補充すべき論点をまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			

第25回	補充文献やデータの収集 ②	補充すべき論点をまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第26回	補充文献やデータの収集 ③	補充すべき論点をまとめる。(90分)	教員の指摘を踏まえ、修正点を考察する。(90分)
担当教員			
第27回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論 ①	論文を執筆する。(90分)	教員の指摘を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			

第28回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論 ②	論文を執筆する。(90分)	教員の指摘を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第29回	研究プロジェクトの進捗状況の報告と議論 ③	論文を執筆する。(90分)	教員の指摘を踏まえて修正する。(90分)
担当教員			
第30回	卒業論文の提出	卒業論文を執筆する。(90分)	教員の指摘事項を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	発表・課題・授業参加等の評価 20% 卒業研究論文 80%
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		

受講生の研究課題に合わせて適宜提示する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ(巫 靚)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	巫 靚						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、前期科目「卒業研究プロジェクトⅠ」を承ける科目である。

授業の概要

この授業は、「卒業研究プロジェクトⅠ」に続き、各グループが収集した卒業研究のテーマとリンクした参考文献や資料等をまとめ、経過報告を作成していく。見いだされた課題については、その背景についての分析ならびに問題解決に必要な方法等をグループ単位で報告する。グループ単位での調査・研究などに加えて、外部の専門家を招いてのグループ学習や、学外での学び・活動・フィールドワークなども取り入れ、総合的なプロジェクトとしてその成果の発表会や成果物の出版なども行なっていく。授業は主に、各グループが選んだテーマの経過報告的なレポートを軸に展開され、適宜プレゼンテーションを行う。教員はプロジェクトの構成見直しのほか、データ処理の仕方、図表へのまとめ方など技術的な補足指導も行う。

到達目標

1. 少人数グループ内等での調査・研究、および学外での活動に協調しながら参加し、その成果について討議することができる。
2. 問題解決に至る適切な方法を自ら発見し、仮説を立てたり一般化したりしながら研究を進めることができる。
3. 総合的なプロジェクトとしての成果を発表することができる。

授業の方法

情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を育成するために、グループプレゼンテーションやディスカッションの形式で授業を進める。なお、受講者の学習状況に合わせて、各回の講義内容を微調整する場合がある。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業目標に掲げた内容の達成度に応じて、次回の授業で微調整を行う。プレゼンテーションの完成度・問題点について、学生にアドバイスする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス	自身の研究計画書を作成する(90分)。	授業のガイダンスの内容を理解し、研究計画書を修正する(90分)。
担当教員			
第2回	研究書を読む①(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』はじめに)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第3回	研究書を読む②(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第1章 戸籍とは何か)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			

第4回	研究書を読む③(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第2章 国籍という「国民」の資格)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第5回	研究書を読む④(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第3章 近代日本と戸籍)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第6回	研究書を読む⑤(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第4章 植民地と「日本人」)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			

第7回	研究書を読む⑥(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第5章 戦後「日本人の再編」)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第8回	研究書を読む⑦(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』第6章 戸籍と現実のねじれ)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			
第9回	研究書を読む⑧(遠藤正敬『戸籍と国籍の近現代史』おわりに)	学習予定の部分を予習する(90分)。	学習した内容を復習し、まとめる(90分)。
担当教員			

第10回	書評を書く。	予習としてまず自分なりに書評を書いてみる(90分)。	学習した内容を復習し、書評を修正し、提出する(90分)。
担当教員			
第11回	卒業研究制作の基本的事項。	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第12回	卒業研究を基にした紀要論文①	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			

第13回	卒業研究を基にした紀要論文②	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第14回	卒業研究を基にした紀要論文③	学習予定の内容を予習する(90分)。	学習した内容を復習する(90分)。
担当教員			
第15回	卒業研究に向けての検討	自分の研究関心について整理する(90分)。	検討した内容をまとめる(90分)。
担当教員			

第16回	(卒業研究)に関する説明、卒業研究テーマの相談	自分の研究テーマを整理する(90分)。	検討した内容をまとめる(90分)。
担当教員			
第17回	研究論文の探し方、読み方、論文の書き方に関する説明	自分の関心のある研究テーマについて資料を探してみる(90分)。	学習した内容を復習し、それに基づき、自分の研究テーマに関連する資料を収集する(90分)。
担当教員			
第18回	卒業研究構想の報告①(卒業研究テーマ、先行研究、資料の見通し)。	研究テーマ、先行研究、資料について収集し、準備する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			

第19回	卒業研究構想の報告②(卒論テーマ、先行研究、資料の見通し)。	前回に続き、研究テーマ、先行研究、資料について収集し、準備する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第20回	先行研究整理の報告①(先行研究の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	先行研究を収集し、目録、概要をまとめる(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第21回	先行研究整理の報告②(先行研究の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	前回に続き、先行研究を収集し、目録、概要をまとめる(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			

第22回	収集した資料の報告①(資料の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	資料を収集し、目録、概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第23回	収集した資料の報告②(資料の目録、概要、卒業研究内の位置づけ)。	前回に続き、資料を収集し、目録、概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第24回	執筆構想の報告①(章立て、各章の概要)。	卒業研究の章立て、各章の概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			

第25回	執筆構想の報告②(章立て、各章の概要)。	前回に続き、卒業研究の章立て、各章の概要を作成する(90分)。	検討した内容に基づき、内容を整理する(90分)。
担当教員			
第26回	進捗状況報告①	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			
第27回	進捗状況報告②	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			

第28回	進捗状況報告③	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			
第29回	原稿修正(1)	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正する(90分)。
担当教員			
第30回	原稿修正(2)	卒業研究の執筆(90分)。	検討した内容に基づき、内容を修正し、完成する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の参加度(予習、復習、プレゼンテーション、ディスカッション、卒業研究の執筆)100%
その他	0	
教科書		
『戸籍と国籍の近現代史:民族・血統・日本人』遠藤正敬、明石書店、2013年。 その他、授業中に適宜配布する。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

無断欠席は必ず減点要素になる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		国際学部 国際教養学科					
区分		卒業研究 卒業研究					
科目名		卒業研究プロジェクトⅡ (Walzem Allen George)				ナンバリング	4952
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	2
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

この科目は、本学科ディプロマ・ポリシー「学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につける(知識・技能)」ことを基本とし、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につける(思考・判断・表現)」とともに、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性」を身につけることと特に関係がある科目であり、その他すべてのディプロマ・ポリシーとも関係している。これまで学んだカリキュラムの集大成であるとともに、後期科目「卒業研究プロジェクトⅡ」につながる科目である。

授業の概要

この授業は、各自が専門的に研究する分野を定めたうえで参加する少人数のプロジェクト形式の授業である。学生は、各教員それぞれの専門分野に即して設けられたクラスから、自らの関心領域・テーマで選択する。授業は演習形式で行われ、少人数グループを形成し、グループワークやプレゼンテーション演習を通じて、コミュニケーション力や人間関係形成力を養成することも目的とする。まず、卒業研究プロジェクトにつながる文献を読み進め、あるいは体験を積み重ねて、各グループが選んだ研究テーマに関する知見を増やしていく。同時に、各自の仮の研究テーマについての資料等を収集し、課題の発見に努め、その問題解決に必要な方法等をゼミナール内でレポートやプレゼンテーションで報告する。

到達目標

1. 自ら選んだテーマに沿って研究的学習を進め、仮説を立てたり一般化したりすることができる。
2. 少人数グループ活動等で互いに意見を交換し、知見と考察を深めながら討議することができる。
3. 問題解決に必要な方法等をわかりやすく報告・発表できる。

授業の方法

Glass will have lecture, group work, discussion, and individual meetings with teacher. There will be a large writing component to the class.

ICT活用

We will use computer for media and reports, internet research, and so on.

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

There will be prompt written and oral feedback on all work. The teacher will write on student papers, but there will also be regular one-on-one conferences.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Intro Lesson 1: the nature of liberal arts research	Review. 90 minutes	Grammar 1. 90 Minutes
担当教員			
第2回	Grammar 1 check Article 1: Research in the media	Review. 90 Minutes	Grammar 2. 90 Minutes
担当教員			
第3回	Grammar 2 check Article continued	Review. 90 Minutes	Grammar 3. 90 Minutes
担当教員			

第4回	Grammar 3 check Practice analysis: TV 1	Review. 90 Minutes	Grammar 4. 90 Minutes
担当教員			
第5回	Grammar 4 check TV 1 analyiss continued	Review. 90 Minutes	Grammar 5. 90 Minutes
担当教員			
第6回	The shape of YOUR reseach Students begin outlining final thesis	Consider outline. 90 minutes	Continue working on outline and form. 90 Minutes
担当教員			

第7回	One-on-one meetings with Allen 1	Review, prepare. 90 Minutes	Continue reading and writing. 90 minutes
担当教員			
第8回	One-on-one meetings with Allen 2	Review, prepare. 90 Minutes	Continue reading and writing. 90 minutes
担当教員			
第9回	Focus on Intro writing Lit review, finding sources, analyzing sources	Find sources for your topic. 90 Minutes	Read and summarize. 90 Minutes
担当教員			

第10回	Writing the introduction part II Students work on intros	Review. 90 Minutes	Write your introductions (First draft). 90 Minutes
担当教員			
第11回	The literature review--writing about what has already been covered in your area Writing summaries: from "Ready to Write More" p141-144	Review. 90 Minutes	Collect sources-- 3-7, write summaries. 90 Minutes
担当教員			
第12回	Summaries continued: p144-147 of RtWM	Review. 90 minutes	Continue reading in your field. 90 Minutes
担当教員			

第13回	p 148-152 of RtWM-- Summaries continued	Review. 90 minutes	Continue studying sources--as much as possible! 90 minutes MINIMUM
担当教員			
第14回	Expressing your Opinions part 1	Review. 90 Minutes	Read in your research field. 90 Minutes
担当教員			
第15回	Expressing your opinions Part 2	Review. 90 Minutes	Continue studying in your field, prepare for test. 90 Minutes
担当教員			

第16回	Test	Review test ideas. 90 Minutes	Finish paper introduction, final draft, for Allen. 90 Minutes or MORE
担当教員			
第17回	One-on-one with Allen about your writing progress	Continue working and researching. 90 Minutes	Write "body" of your paper, as much as possible. 90 Minutes
担当教員			
第18回	One-on-one with Allen. 90 Minutes	Read in field. 90 Minutes	Continue writing on your topic. 90 Minutes
担当教員			

第19回	Problem/Solution lecture on perceived problems and difficulties, grammar issues, etc. On writing conclusions	Review. 90 Minutes	Continue writing. 90 Minutes
担当教員			
第20回	One-on-one with Allen	Read in your field. 90 Minutes	Write! 90 Minutes
担当教員			
第21回	One-on-one with Allen	Read in your Field. 90 Minutes	Write. 90 Minutes
担当教員			

第22回	Lecture: Citations in your text, and Bibliography	Read in your field. 90 Minutes	Write. 90 Minutes
担当教員			
第23回	Citation and Bibliography exercise and practice Paper Form/format	Read in your field. 90 Minutes	Continue writing.90 Minutes
担当教員			
第24回	One-on-one with Allen --Progress report	Research in your field. 90 Minutes	Write! Finish first draft of paper. 90 Minutes
担当教員			

第25回	One-on-one with Allen ---wrapping up your papers!!	Review/research 90 Minutes	Editing your paper--have final drafts ready. 90 Minutes
担当教員			
第26回	Peer editing ONE.	Continue revising and preparing. 90 Minutes	Fix errors in your paper, have revised copy ready. 90 Minutes
担当教員			
第27回	Peer editing 2	Continue working and revising. 90 Minutes	Absolutely finish paper-- Send to Allen as Word file. 90 Minutes
担当教員			

第28回	One-on-one with Allen	Review notes! 90 Minutes	Finish writing. 90 Minutes
担当教員			
第29回	One-on-one with Allen	Final revisions 90 Minutes	Write and print out final. 90 Minutes
担当教員			
第30回	Turn in final paper, final discussion	Review year's learning! 90 Minutes	Make sure I have everything. 90 Minutes
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	Attendance, preparation, meeting deadlines, having materials for meetings with Allen
その他	40	Final Paper
教科書		
Provided by teacher		
参考文献		

Provided by teacher, certain web-sites (for format and writing styles, for example)

履修条件・留意事項等

It is imperative that students work steadily throughout the semester, and make regular progress on their research papers. Do not be lazy, do not procrastinate! Making deadlines and attending one-on-one meetings are crucial for success and passing.

備考欄